RM MODELS ARCHIVE

NEKO MOOK 1609

ジオコレ

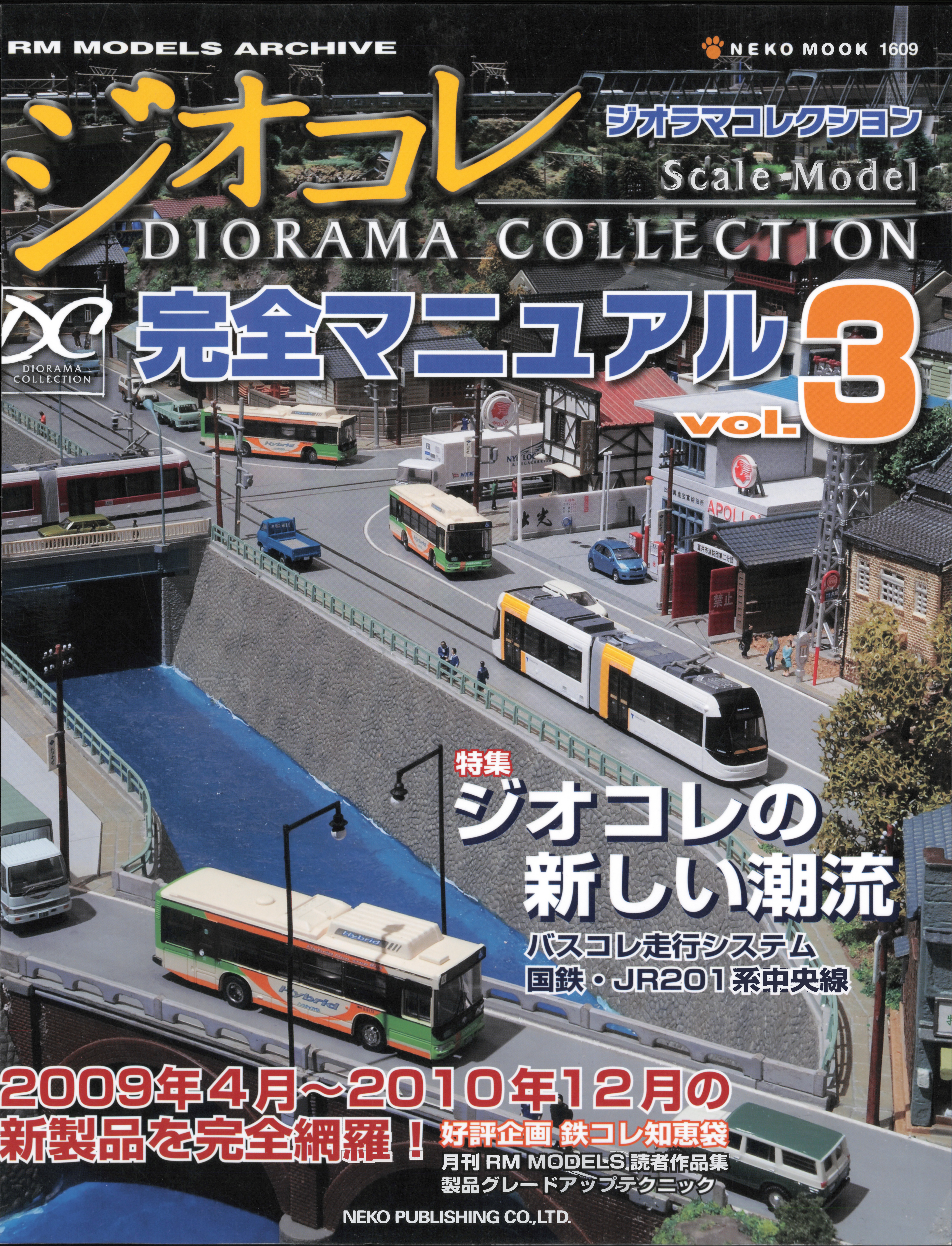
ジオラマコレクション

Scale-Model

DIORAMA COLLECTION

DIORAMA COLLECTION

完全マニュアル vol.3



特集

ジオコレの新しい潮流

バスコレ走行システム

国鉄・JR201系中央線

2009年4月～2010年12月の新製品を完全網羅！

好評企画 鉄コレ知恵袋

月刊RM MODELS読者作品集

製品グレードアップテクニック

NEKO PUBLISHING CO.,LTD.

N GAUGE　1/150 SCALE　バスコレクション

■バスコレ走行システム基本セットA

TOMYTEC

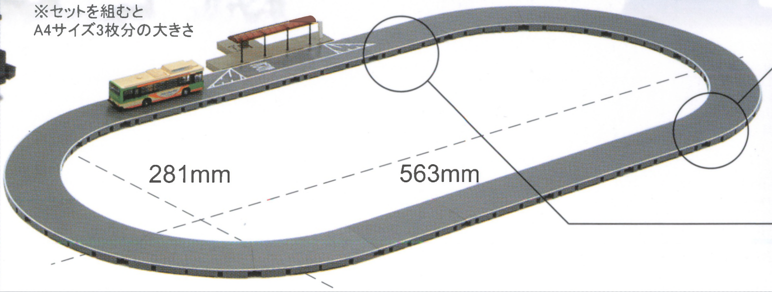
[redacted]3月発売予定　¥8,190(本体価格¥7,800)

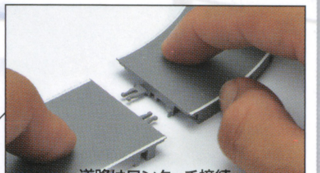
“バスが走る”というNゲージ世界(ワールド)へ

Nゲージ(1/150スケール)のバス模型が、専用道路をリアルに自走する新製品登場

ジョイント式道路で組み立て簡単&コンパクト

※セットを組むと
A4サイズ3枚分の大きさ



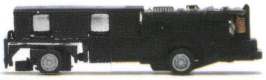


道路はワンタッチ接続

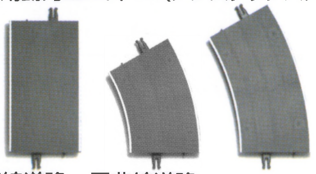
道路裏面のセンサー(マグネット)で
速度が高速・低速の2段階に変化

セット内容

■日野ブルーリボン シティハイブリットバス
東京都交通局仕様×1 ※無塗装バスも一台付属

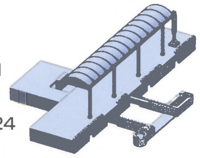


■専用動力ユニット×1(ノンステップバス対応)



■直線道路　■曲線道路
S-70(8本)　C-103/140(30°×各6本)

■ステアリングストッパー×1
■マグネットホルダー×2
■レールサイドジョイント×24



■バス停ユニット×1
※パーツはユーザー取り付けとなります(バス停標識は選択可能)

ザ・バスコレクションシリーズに新しい遊び方をご提案。付属のバスに動力ユニット、道路を組み立てて、ボタン型電池をセットすれば、スイッチひとつでバスが自動運転を開始。カーブでは前輪をちゃんと曲げて走り、なんとバス停ではきちんと幅寄せして停止までします(通過の選択も可能)。

バスの前輪に装着されたマグネットが道路裏面に組み込まれた金属線をなぞるように走るのがこのシステムの仕組み。ホンモノのクルマと同じで前輪は操舵に、後輪は駆動として機能していますので、リアル度も抜群。

さらに道路の裏側にセンサー(マグネットホルダー)を設置することで、バスの速度を好きな場所で切り替えることができるんです。よりハイレベルな楽しみ方にも対応できるよう、TOMIXから発売している路面電車専用レール「ワイドトラムレール」との接続も可能としました。併用軌道をバスとトラムが駆ける姿は圧巻です。

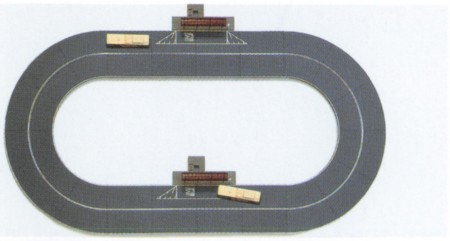
A4サイズ3枚分とコンパクトな基本セットから、今後単品発売が予定されている各種道路や動力ユニットなど、更に楽しみが広がってゆく走行バスシステムに是非ご期待ください。

【専用動力ユニットの対応車種について】

本製品に付属する専用動力ユニットには、以下のノンステップバスが対応します(一部バス本体の加工が必要となります)。西工96MC(第5弾)、いすゞエルガ(第7弾)、富士重工業7E(第9弾)。

ステアリング機能を搭載。前輪で操舵、後輪で駆動。カーブに合わせて前輪を振って通過する様は、まさにホンモノ。

バス停に近づくと幅寄せして停車。数秒後に再発車。自動で動く様子は圧巻。切替スイッチで通過させることもOK。



半径の違うカーブをセットしているので、同じ製品を2つ用意すればこの通り2車線道路にすることも可能。

トラムとバスを同時に走らせよう!

トミックスの路面レール(ワイドトラムレール)と道路パーツはジョイント可能

電池はボタン型電池LR44を2個使用(別売)

東京都交通局商品化許諾申請中

ジオコレ 完全マニュアル vol.3

ジオラマコレクション Scale Model DIORAMA COLLECTION

CONTENTS

■巻頭特集・ジオコレの新しい潮流 5
○バスコレ走行システム 6
○鉄道コレクション 201 系 12
○鉄コレ式制御器 101 系運転台 18
○ジオラマベース A 温泉街の情景 22

■鉄コレ知恵袋 25
○富士急行 26
○銚子電気鉄道デハ 700・800 形 30
○鹿島鉄道キハ 430 形／高松琴平電鉄 35
○叡山電鉄 600 形 38
○新潟交通クハ 37・蒲原鉄道クハ 10 39

■ジオコレカタログ 2009.4-2010.12 40
01. 鉄道コレクション 41
○部品模型 61
○ジオラマセット 62
02. 建物コレクション 63
03. 情景コレクション 73
04. ザ・バスコレクション 83
05. ザ・トラックコレクション 88
06. ザ・トレーラーコレクション 91
07. ザ・カーコレクション 96
08. 建設機械コレクション 102
09. ザ・バスコレクション 80／ザ・カーコレクション 80 104
10. 鉄道むすめコンテナ 107

■工作！改造！ Enjoy Craft 109
○簡単に作ろう！京王 5000 系譲渡車バリエーション 110
○ジオコレで作る バスが主役のジオラマ 114
○競作！日野ブルーリボンシティ ハイブリッドバス 改造ガイド 122
○実車にこだわったバスコレ改造作品！ 125
○われらジオコレ派！ 読者投稿作品集 131

■プロトタイプガイド（バス編） 139
■検証！ 既存バスコレに動力ユニットを組み込む 145
■ジオコレ追加リスト 2009.4-2010.12 150
■読者プレゼント＆アンケート 160

●本書に掲載している製品写真のうち、一部には試作品を使用している場合があります。またジオラマ上の演出として、ジオラマコレクションシリーズ以外の他社製品を使用している場合がありますので、あらかじめご了承願います。
●本書に掲載しているアイテムの中には、既に完売となり入手困難なアイテムもあります。悪しからずご了承ください。各アイテムの発売・在庫状況については、月刊『RM MODELS』掲載の記事・広告やトミーテック公式ホームページ http://www.tomytec.co.jp/ などをご参照願います。特に、イベント会場限定品および事業者特注品に関しては、本誌発売時点で一部を除きほとんどのアイテムが完売となっています。事業者およびメーカーへの直接のお問い合わせはご遠慮ください。
●本書にはメーカーの想定した使用方法とは異なる、製品の分解、塗り替え、加工・工作といった保証範囲外の内容の記事が含まれています。こういったメーカー想定外の使用法につきましては、各自の自己責任において行なわれるようお願いします。

RM MODELS ARCHIVE

鉄道模型・鉄道古書 ポポンデッタ

ジオコレのことなら ポポンデッタにおまかせ!!

バスコレ、鉄コレ、ジオコレ、トラコレ、カーコレ、建コレ、サボコレ、ザ・樹木、ザ・人間、情景小物、寺、漁港、部品模型etc!!
TOMYTECのコレクションシリーズならポポンデッタ全店ほぼコンプリート!!

各店ともジオコレの在庫量に自信あり!!

通販本店 秋葉原店の在庫から、即日発送承ります!

ポポンデッタの通信販売は、秋葉原店の在庫と完全連動。全国から、ポポンデッタ秋葉原店の膨大な商品を確認、ご購入いただけます。発送もスピーディー。即日発送承ります。新製品は、通常よりお得な先行予約も受付中です!

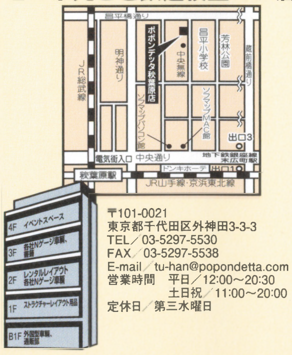
・中古も新品もまとめて10000円以上で送料無料です。
・中古品の状態表示により品質を保証
・16:00より前のご注文はほぼ即日発送!!

新URL:http://www.popondetta.jp/

ご来店お待ちしております。

秋葉原店

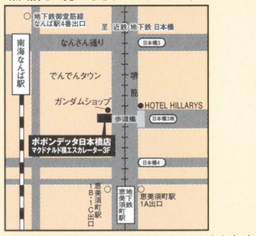
ビルが丸ごと鉄道模型のお店!!



〒101-0021
東京都千代田区外神田3-3-3
TEL/03-5297-5530
FAX/03-5297-5538
E-mail/tu-han@popondetta.com
営業時間 平日/12:00～20:30
土日祝/11:00～20:00
定休日/第三水曜日

大阪日本橋店

4Fに関西最大規模の
鉄道関連書籍コーナーが登場しました!!
NHK趣味悠々講師でおなじみの諸星昭弘氏が
DVDブックで作製したレイアウトを、期間限定で展示中!!
職人技をご覧いただけるチャンスです!!



〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋4丁目10-3 雅光産ビル3F
TEL/06-4396-5010 FAX/06-4396-5110
E-mail/osaka@popondetta.com
営業時間 平日/12:00～20:00 土日祝/11:00～19:00
定休日/毎月第3水曜日

川口グリーンシティ店

〒333-0834 埼玉県川口市安行領根岸3180 川口グリーンシティ別棟1階
TEL/048-285-7888 FAX/048-285-7898 E-mail kawaguti@popondetta.com
営業時間/10:00～21:00(年中無休)

木曽川キリオ店

〒493-0001 愛知県一宮市木曽川町黒田字南八ツヶ池25-1
イオンモール木曽川キリオ内1階
TEL/0586-84-3622 FAX/0586-84-3633
営業時間/10:00～22:00(年中無休)

イオンモール東浦店

〒470-2102 愛知県知多郡東浦町大字緒川字申新田二区67-8 イオンモール東浦1階
TEL/0562-82-2917 FAX/0562-57-2551
営業時間/10:00～22:00(年中無休)

GLOBO蘇我店

〒260-0835 千葉市中央区川崎町1-34 GLOBO 1階
TEL/043-209-7601 FAX/043-209-7602
営業時間/10:00～20:00(年中無休)

横浜ビブレ店

〒220-0005 横浜市西区南幸2-15-13 横浜ビブレ8F
TEL/045-328-3601 FAX/045-328-3602
営業時間/11:00～21:00(年中無休)

ペルチ土浦店

〒300-0035 茨城県土浦市有明町1-30-510 ペルチ土浦5F
TEL/029-875-7643 FAX/029-875-7646
営業時間/10:00～21:00(年中無休)

トレッサ横浜店

〒222-0002 横浜市港北区師岡町700番地
トレッサ横浜南棟1F
TEL/045-330-2973 FAX/045-834-7209
営業時間/10:00～21:00(年中無休)

鶴見リーファ店

〒538-0053 大阪府大阪市鶴見区鶴見4丁目17-1 4F
TEL/06-6914-2550 FAX/06-6914-2560
営業時間/10:00～22:00(年中無休)

モリシア津田沼店

〒275-0026 千葉県習志野市谷津1丁目16番1号
モリシア津田沼レストラン棟7F
TEL/047-409-4320 FAX/047-409-4830
営業時間/10:00～21:30(年中無休)

越谷レイクタウン店

〒343-0826 埼玉県越谷市東町4-21-1イオンレイクタウンkaze3F
TEL/048-999-6590 FAX/048-999-6591
営業時間 10:00～22:00(年中無休)

イオンモールKYOTO店

〒601-8417 京都府京都市南区西九条鳥居口町1番地4F
TEL/075-644-9220 FAX/075-644-9221
営業時間 10:00～21:00(年中無休)

2店オープン決定!!

2011年3月3日 アミュプラザ博多店
2011年3月18日 ポポンデッタ with 小田急トレインギャラリー(海老名)

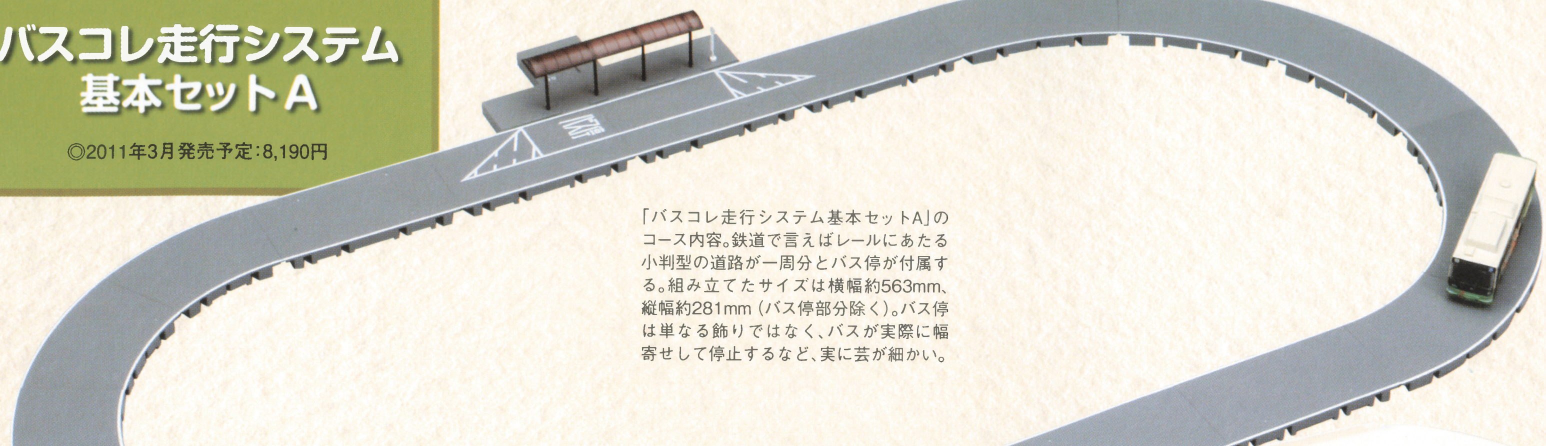
巻頭特集

ジオコレの新しい潮流

Nゲージの車輌の脇にちょっと並べてみたくなるような、街で売っている小粋なバスのアクセサリー。そんなアイテムから始まったジオコレが、今までになく大きく世界を広げています。

バスコレ走行システム 基本セットA

◎2011年3月発売予定：8,190円



「バスコレ走行システム基本セットA」のコース内容。鉄道で言えばレールにあたる小判型の道路が一周分とバス停が付属する。組み立てたサイズは横幅約563mm、縦幅約281mm（バス停部分除く）。バス停は単なる飾りではなく、バスが実際に幅寄せして停止するなど、実に芸が細かい。

▲セット内に含まれる「日野ブルーリボンシティハイブリッド」都営バス。その他に未塗装のバスが1台含まれるため、自分の好きな塗装にする楽しみもある。

ジオコレの新しい潮流 1

街を創る 電車が走る バスも走る！

バスコレ走行システム

鉄道模型の街の中では、電車は走っているのが当たり前にも関わらず、バスは止まっているのが当たり前でした。いわば鉄道だけが"動"で、それ以外のすべて…自然や建物はもちろんのこと、クルマや人も"静"というのが大前提とでも言うのか、それで疑問を感じることもなく、レイアウトやジオラマを見入っていたように思います。しかし、ここにきてついにバスが走り出しました。レイアウトは、ジオラマは、今後どう変わっていくのか…。今までにない新しい世界が始まろうとしています。（編集部）

TEXT：ATB MODELS　PHOTO（特記以外）：青柳　明（RMM）　協力：トミーテック

今回、話題のバスコレ走行システムがどのようなものなのか、システムの基本的な機構や使用方法、ポテンシャルなどを、開発者インタビューも含めいち早く見ていくことにしよう。

「ラジコン」にあらず！ モデルカー走行「システム」

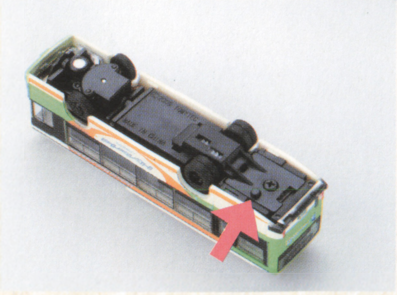
今回のバスコレ走行システムは、プロポ（送信機）はなく、ラジコンではない方法でバスを走行させる。バスに装着する動力ユニットの床下にスイッチがあり、電源スイッチを入れると走行を開始。小型モーターとゴムタイヤの粘着力で駆動し、道路下に設置した磁石で停止、走行、加減速の信号を送り、動力ユニットがこれを感知し制御する、という基本構成となる。

また、走る方向については同じく道路下に連続して埋め込まれた鉄線（ワイヤー）を、動力ユニットに装着されたマグネットがなぞることでコントロールするというもの。走り出せば外部からの操作が不要という手軽なシステムで、鉄道模型の楽しみ方のひとつ、「走る車輛を様々な角度から眺める楽しみ」を知り尽くした、トミーテックならではの発想と言えるかもしれない。

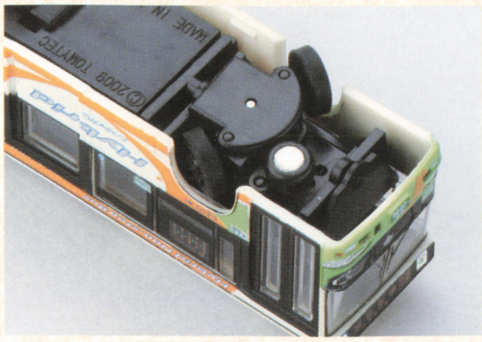
操舵と駆動は全くの別系統

鉄道模型に近い、と記したが、決定的に異なる点、それは「操舵」と「駆動」が完全に切り離されていることである。今回のシステムでは、駆動については地上側の道路は何ら関係なく、ゴムタイヤの粘着力だけで駆動、かなりの勾配もスムーズに通過する。

線路から電気の供給を受ける鉄道模型とは異なり、電源供給と駆動が動力ユニットで完結しているので、道路がなくとも、机の上で動力を走らせるとまっすぐ進んでいくほか、セット付属の「ステアリングストッパー」を使えば、同じところをクルクルと回転し続けることになる。



▲動力ユニットを装着した状態のバス。後部床面に走行／停止のスイッチがある（矢印参照）。



▲道路下の鉄線を追うマグネットは、バス前輪を連動させる位置に収められ、カーブを曲がるたびに前輪が右へ左へとステアし、実感的な表情を見せる。

そして、方向のコントロールは、操舵軸であるフロントタイヤにマグネットが付いており、磁力で道路下に埋設されたワイヤーをなぞることで方向を変える。この操舵が完全に非接触式で行なわれるのが大きな特徴で、鉄道模型と異なり多少の段差も余裕で通過するうえ、一時的に誘導するワイヤーが途切れていても、駆動は別系統なのでバスはそのまま直進することができる。さらに前輪には前進方向の操舵機能だけでなく、上下方向のサスペンション機能もあり、非常にスムーズな走行を実現している。

速度を変更する信号は、道路下に取り付けた磁石を動力ユニット中央部進行右側に組み込まれたセンサーが感知し、モーターの動作を変えるシステムだ。このセンサーも精度が高く、誘導用のワイヤーの右側に設置された磁石のみを確実に検知している。逆に説明書通りにセンサーを設置した道路を逆回りで走行させた場合、バスはセンサーを検知せず停止、加速などはせず走行を続けてしまう。

操舵機能の基本を理解すれば

少々発展的な話にはなるが、この基本原理を理

▲線路から給電する鉄道模型と違い、バスに独立した電源(市販のボタン電池使用)を搭載しているため、スイッチさえ入れれば、バスは道路から外れたところでもそのまままっすぐ走っていってしまう。ただしもちろん操舵は働かない。

▲ゴムタイヤで路面に対し粘着するため、一般の鉄道模型より勾配には強い(イメージ)。

解すれば、今回の走行システムの専用道路でなくても、道路下に操舵用の誘導ワイヤーが敷設されていれば、どこでも決められたルートを走行することが可能、ということが分かるはずだ。「道路の上を走るバスのためのシステム」に限定されたシステムではなく、例えば空港内を動くランプバスなどと言う風景も再現することも可能だろう。また、鉄道模型と違い動力用の電力供給もユニット内で完結しているので、走行経路の自由度は非常に高く、リバースなどのルートでも、電気配線に悩むことは全くなく、自由度が非常に高いシステムであると言えるだろう。

今回のセットの道路には、路面の下にφ0.5程度のワイヤーが敷設されているが、試しに同じ径のピアノ線を紙の下に置いてバスを走らせたところ、

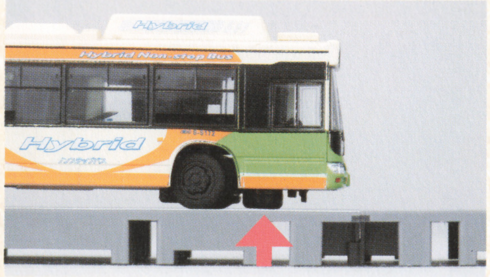
▲トミーテックが鉄道模型イベントなどで「バス走行システム」をアピールするレイアウト。バスレーンが3系統と、折返し式の路面電車の線路が敷かれていて、時折電車とバスが並行する光景も見られる。何よりバスが走る光景は観客にアピール度抜群。　P:羽田　洋

※写真では演出のため、道路上にバス以外の車を置いて撮影しています(実際には走行できません)。

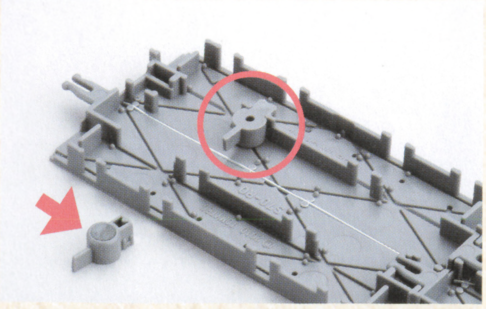
▲路面電車を挟んでその両側車線をバスが行き交うトミーテックのサンプルレイアウト内の光景(道路上の自動車は写真撮影のための演出用)。P:羽田　洋

きちんと動力ユニットはこれに追従したものの、この紙が薄すぎると走行はしなかった。これは鉄線と動力ユニットの間がある程度シールドされていないと、鉄線がマグネットにくっついてしまうためで、非接触で確実にワイヤーに追従するよう、動力ユニットの操舵用磁石は強力なものが使用されており、道路上に置こうとすると道路に引き寄せられる感覚があるほどであった。

このことから、例えばスチール製の机の上などでは、操舵機能が正常に動作しなくなってしまうこともわかる。あわせて動力ユニットの近くには、磁気を帯びたものは近づけないようにしなくてはならない。



▲前輪の前部に位置する、鉄線を追尾するためのマグネットは、道路と付くか付かないかのスレスレの位置にあり、接触しているわけではない。



▲道路下の中央にはバスの進行方向を導くための鉄線が埋め込まれる。写真のマグネットを道路裏に脱着することにより、加減速を調整することができる。

速度調節センサーの仕組み

走行速度は低速と高速の2種類があるが、この信号は1種類で、低速走行時に信号を検知すると高速になり、逆に高速走行時に検知すると低速になる、という仕組み。説明書どおり磁石センサーを2箇所設置すると、「停車→低速→高速→低速→停車→低速・・・」と動作する。停車時から発車する際はまず低速で動き出すので、例えば説明書と異なり、速度変更用の磁石センサーを1箇所のみ設置すると、「停車→低速→高速→停車→低速・・・」という動作をすることになる。

原則としてひとつの道路にバス1台

ラジコンや鉄道模型と違い、走行速度を自由に変えることはできないシステムと言うことはご理解いただけただろう。したがって、例えばエンドレスの道路に2台の動力ユニットを置いて走行させた場合、動力ユニットの僅かな個体差や、電池残量の違いにより、速度に差が出て追いつき、しまいには追突してしまうことになる。実際に走行させてみてもそのような結果になるので、現段階では複数の動力ユニットを組み込んだ車輌が同一道路上で走行「し続ける」ことはできない、と言えるだろう。

動力はマイコン搭載、扱いは慎重に

動力ユニットというと、鉄道模型の動力車を思い浮かべる方も多いだろう。しかしこのバスコレ走行システムに含まれるユニットは、それよりはるかに精密な機構を多数持っている。この小さいユニットにマイコンが組み込まれ、センサーが信号感知し速度、動作をコントロールし、さらに鉄道模型より繊細な操舵システムも付いているため、作りはより繊細である。鉄道模型以上に取り扱いは慎重にする必要がある。

動力ユニットをバスコレに組み込む

今回の基本セットには、東京都交通局仕様の日野ブルーリボンシティハイブリッドが付属するが、これも「バスコレ」の1アイテムということで、これまで同様にディスプレイ用のシャーシが組み込まれた状態で出荷される。したがってこのバスを走らせるためには、ディスプレイ用のシャーシと室内板を外し、動力ユニットを組み込むわけだが、これは至って簡単で、車体裾を膨らませ、シャーシを抜き取り、動力ユニットをはめ込むだけで完了する。

逆に、これまでも長くバスコレを購入しているファンであれば気になるのが、これまで製品化されたバスコレ各種製品に、この動力が組み込めるのか？という点だ。結論から言うと組み込むことは可能だ。通常バスコレのような製品であれば、かつて発売され在庫がなくなった商品に対し、ケアをするということはまずあり得ないのだが、今回の走行システムでは、上級者向けとしながらも、既存製品に動力を組み込むことを前提にした説明も付属する。トミーテックのユーザーに対する姿勢が強く感じられる部分だ。

今回の動力ユニットは「ノンステップバス用」とされ、タイヤの径が小さく、ホイールベース4800mmの車輌に組み込めるタイプである。したがって第5弾の西工96MC、第7弾のいすゞエルガ、第9弾の富士重工7Eノンステップ、西工96MC×5台セットや同等の事業者特注品には組み込むことができそうだ。

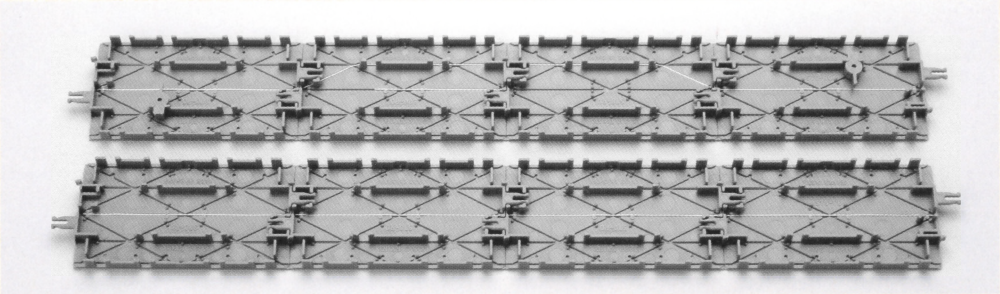
ホイールベースの異なる動力ユニットの発売も検討されているようなので、今後次第に走行できるバスの種類も増えていくことだろう。なお、今回の動力ユニットに対応する車種や、組み込み方法など詳しくは本誌145頁以降の別稿で紹介する。

路面電車と並べよう！ワイドトラムレールと共通規格

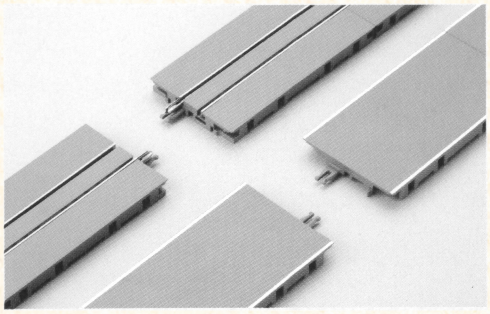
道路の長さ、幅などは、実はTOMIXから発売さ

▲バス停に近付くと、鉄線に誘導されてバスは幅寄せを開始する。その動作はたとえその仕組みを分かっていても愛嬌たっぷりで、見ていて飽きない。

▲道路半径はTOMIXのワイドトラムレール(路面軌道)と同じ幅・曲線半径であることから、両者を並べて敷設し走らせることももちろん可能だ。将来的には路面軌道を挟んだ車線造りが可能なよう、曲線半径の異なる道路の追加が予定されている。



▲道路裏面に見る幅寄せのカラクリ。下の道路は鉄線が直線なのに対し、上のバス停部分は鉄線が大きく外側に曲げられている。この道路の成型品を見ると、様々なコースを組めそうに見えて興味深い。



▲TOMIXのワイドトラムレールとは、道(道床)の幅も基準長さも、そして接続方法も共通化され、付属のジョイントで線路と道路の固定も可能だ。

れている「ワイドトラムレール」と同一の規格で、このレールと並べて敷設し、路面電車とバスの並走シーンなどが簡単に再現できるようになっている。

組立も鉄道模型の線路と同じ方法で、道路同士を水平な場所に置き、プラスティックのジョイントを相互に差し込むだけで完成する。

バス停部分の道路については、裏面を見れば分かる通り、バス停にバスを寄せるためにワイヤーが左方向にオフセットされている(上写真)。表面にはリアルなバス停の道路標記が印刷されているので、これを参考に接続する順序を間違えないようにし、バス停ユニットをセットすれば、バスは非常にリアルにバス停に寄ってくる。

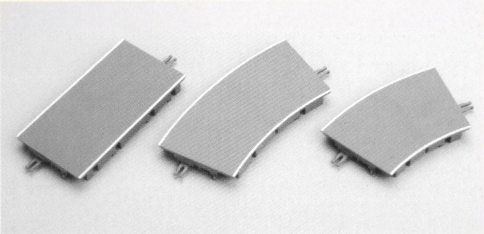
道路の裏面を見ると様々な位置にワイヤー敷設用などのモールドがあり、今後の拡張に備えているかのようだ。今回のセットでは楕円形のエンドレスしか組むことができないが、道路パーツの分売や、これより小さな曲線半径の道路も予定されているようなので、いずれは交差点やバスターミナルなどもラインナップに加わってくるものと予想される。

ファン心理をくすぐる付属品

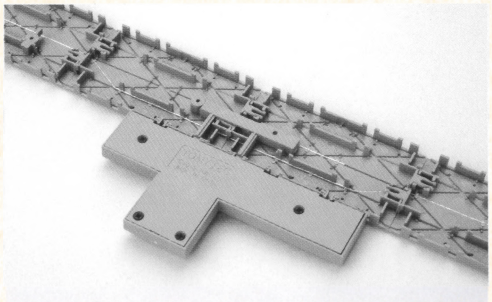
バスコレファンの心理を実に把握しているな〜と思うのが、今回新規製作された日野ブルーリボンシティハイブリッドの「未塗装バス」が付属している点。いち早くお気に入りの、地元のバスを「走らせたい」というファンのニーズに応えたもので、車輌工作派のファンにとってもありがたい付属品と言える。

とはいうものの、この日野ブルーリボンシティハイブリッド、走行システム用として作られたとは思えないほど繊細なディテールを持っており、「お気に入りの、地元のバスに塗り替えて」というのは難しくはないが、実際に工作するときにはちょっとしたコツも必要となる。

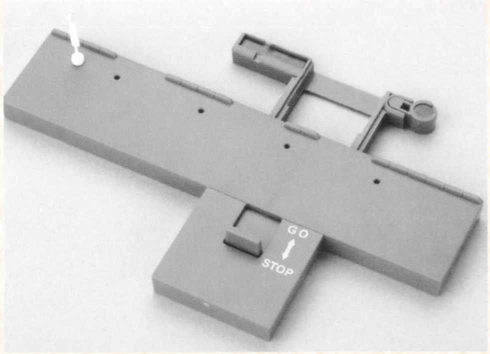
本書では、読者の皆さんがこのセットを「フルに楽しむ」ことができるように、この未塗装バスの塗装工作も122頁からご紹介するので、参考にして「自分だけの走るバスコレ」を手にしていただきたい。



▲基本セットにはR103とR140という2種類の曲線半径(道路中心基準)の道路が同梱、角度はいずれも30°。直線は70mmが基準となる。



▲バス停を裏側にする。スイッチに連動してマグネット部分がスライドし、バスのセンサーに感知されるかされないかで停車・通過が決まる。



▲バス停部分を道路から分離した状態。手前のスイッチはバス停への停車と通過を選択するスイッチで、手前に引くとバスは一定時間停車し、奥にすると幅寄せはするものの、そのまま通過してしまう。

▲「バス停」のモデルとしてのこだわりも見せる。ノンステップ車にピッタリの、近年の段差がないタイプの停留所を再現。

ジオコレ担当者に聞く…!

バスコレ 走行システム編

聞き手:ATB MODELS、葉賀敏明、川瀬修一、RMM
まとめ:鈴木重幸　取材日:2011.1.27

2003年の第1弾発売以来歴史を重ね、今や押しも押されもせぬメジャーアイテムとなった感のあるバスコレクション。今回画期的な走行システムの発表で「集める」「飾る」「改造する」といった従来の楽しみ方に「走らせる」要素が加わることになりました。ここでは開発にまつわるエピソードや今後の展開などについて、株式会社トミーテック・ニューホビー企画課の島貫英紀さん、古賀太一さんと営業企画課の最上雅博さんに語っていただきました。

実物のバスの「動きの面白さ」を再現

RMM：今回のバス走行システムですが、TOMIXレールというインフラが最初から存在する鉄道コレクション（鉄コレ）に比べて、全てイチから造らなければならないのは大変なご苦労があったと思います。企画が立ち上がったのはいつ頃でしたか?

TOMYTEC:試作開発が始まったのが4年くらい前ですね。

RMM：そうすると鉄コレがスタートした直後ですね。やはり「電車が走るんだから、バスも走らせよう」ということでしょうか。

TOMYTEC：そうですね。

葉賀：早速このシステムを実際に走らせてみたのですが、その時点では取扱説明書もなかったので試行錯誤しながらの部分がありました。電源を入れてもしばらく動かないので「あれ、故障かな?」と思ったり…。

TOMYTEC:はい、電源を入れて数秒は動かないですね。

葉賀：やはり仕様だったんですね。

TOMYTEC：走行に関してはマイコンで細かく制御していますから。

ATB MODELS（以下ATB）：具体的な走行に関してですが、やはり道路下のマグネットを通る回数で加減速を制御しているわけですか?

TOMYTEC：回数と、それから極性ですね。

葉賀：極性もですか…なるほど、それでバス停で止まるんですね。

TOMYTEC：車体側の磁気センサーは、真中より右側に寄った位置に取り付けています。反対側にもスペースを空けて、将来的な拡張の余地を持たせてあります。

葉賀：減速→バスベイに入って停止→発進→加速といった一連の動きがとにかく面白いですよね。

TOMYTEC：元々、強制停止信号を受けて停止、解除で発進という機能が基本で、加速・減速までは再現したいというところまでは盛り込んでいたのです。しかしイベントでデモ走行させるに当たってそれだけではつまらないということで、バス停で止まって自動発進するようにプログラムを変えてみたら、これは面白いということで付加しました。

ATB：実際、この自動停止→自動発進というのが一番面白い部分ですよね。

TOMYTEC：一番バスらしい動きですからね。ただ、この機能だけだと将来的に交差点をやった時に止まらなくなってしまうので、当初考えていた強制停止の機能も盛り込んでいます。

葉賀：ユーザーというのは欲深いもので、その交差点やバスの続行運転なんていうのも楽しんでみたくなりますね、こうなると。

TOMYTEC：続行運転については、例えば後続のバスが前のバスに近づいたら停車するといった近接する動きも含めて検討中です。

ATB：サウンドを入れるのも面白いのでは?　バス停に到着すると車外スピーカーから合成音声で「お待たせ致しましたー」と流れるのを再現するとか（笑）。

TOMYTEC：サウンドに関しては、国鉄101系運転台型コントローラーのバス版みたいなものをいずれはやってみたいですね。

▲曲線道路をグネグネに敷設すると、バスも忠実に鉄線を追い掛けて首を振る。そのひたむきさに皆のほおが思わずゆるむ。

自動運転でバスの動きを「眺めて楽しむ」システム

TOMYTEC：開発の動機ですが、先程の「バスコレを走らせたい」というのはもちろんですが、より具体的には「眺めて楽しむ」というコンセプトがあります。私見ですが、鉄道模型は運転そのものも楽しいですが、その動いている列車を眺めていられるのが飽きのこない要因の一つであると思うんですよ。

RMM：一般的にレイアウトで情景を作り込む方ほど、そういう傾向がありますよね。

ATB：例えばこれがRCだったら走行中ずっと操縦に専念しなければならないわけで、こうしてお話を伺っている余裕なんかありませんよね（編註：インタビュー中、サンプルは傍らでデモ走行を続けている）。

川瀬：鉄道模型バーではありませんが、お酒をのみながら動く模型を眺めるというような楽しみ方もありますからね。

ATB：RCだとなかなか再現できない、ゆったりした加減速を含めた「遅い」走りが再現されているのも凄いですよね。この「遅さ」がバス好きにはたまらないんですよ（笑）。

TOMYTEC：電池の消耗を勘案しながら、可能な限りスケールスピードに近づけていますね。

RMM：電源はボタン電池ですが、これでどのくらい走りますか?

TOMYTEC：LR44を2個使用で、製品にもよりますが3時間前後ですね。ただ、電池がなくなる度に入れ替えるというのは億劫なので、充電式のシステムを研究中です。

ATB：非接触式ですか?

TOMYTEC：ええ、非接触式を研究中ですが、早い時期に製品化が出来ればと思っています。

ATB:それは凄いですね、実物でも試験中だというのに。実用化されればバスとしては世界初なのでは?

TOMYTEC：(笑)

▲バス停に近付くと幅寄せする機能を使って遊んでみた。路上駐車の車を置くと、あたかもその車を避けて走っているかのように見える。当たり前だとわかっていてもこういうイタズラは楽しい。

実は新交通システムが当初の企画！？

ATB：（デモ走行するサンプルを見ながら）当たり前といえば当たり前なのですが、操舵（前輪）と走行（後輪）が完全に切り離されたシステムという点で、従来の鉄道模型とは全く違う概念ですよね。鉄道模型は線路の状態が悪いと走りませんが、このシステムだと例えば道路パーツがタイヤ1個分離れていても「脱線」しませんものね。

TOMYTEC：直進性能はある程度確保されていますので、道路パーツ裏のワイヤーが多少途切れていても大丈夫ですね。

ATB：登坂力も相当なものがありますよね。

TOMYTEC：実は走行性能上、タイヤが一番苦労した部分なんです。色々なメーカーさんの原材料を試しました。

ATB：（曲線道路を左右交互に組み替えて）これくらいギザギザなカーブでもこのように（走行させる）ちゃんとトレースするんですよね。これなら、自作のジオラマで道路下にワイヤーを仕込めば、多少悪路でも走行可能なのでは？

TOMYTEC：前輪のマグネットと道路下のワイヤー、磁性体の金属線である必要がありますが、これが適正な距離を保っていれば走ります。この距離が近過ぎると「くっついて」しまうので、その点注意が必要になりますね。

ATB：バス以外の、例えば新交通システムやモノレールにも簡単に応用できそうですが。

TOMYTEC：実は企画の初期段階では、新交通システムやガイドウェイバスを先に製品化しようという構想もありました。

葉賀：確かに、バスに比べて操舵の問題を考えなくて済みますものね。

TOMYTEC：しかし開発を進めていくうちに操舵がうまくいきそうだということになり、バス走行システムという形になりました。

ATB：このシステムはバスに限らず、色んな模型に応用できる高いポテンシャルを持っているということですね。

TOMIXとの連携

RMM：第一弾として発売される「基本セットA」について具体的なところをお聞かせ願えれば。

TOMYTEC：基本セットということで道路は単純な周回ですが、曲線はC-103とC-140の2種類入れてあって、2セット組み合わせると2車線のコースが作れるようになっています。

インタビューを受けていただいたトミーテックのスタッフのうち島貫さん(奥)と、今回のインタビューに合わせて集まっていただいたバスモデラーの面々。「バスで遊び尽くした」彼らならではの視点は鋭い。 P:RMM

RMM：道路パーツの規格がTOMIXのワイドトラムレールと共通化されているのも特徴ですね。

TOMYTEC：開発途中でTOMIX事業部からワイドトラムレールを出すことになったので、規格を合わせようということになりました。このあたりはTOMIX事業部とニューホビー事業部で協調して、お互いを補完しあっている部分ですね。

RMM：TOMIXからは路面電車の車輌は出ていませんものね。

TOMYTEC：今後、曲線道路でC-66という小カーブの曲線道路を予定していますが、これで路面軌道（C-103）を挟んで両側にバスを走らせることができるようになります。

ATB：半径66mmというと殆ど交差点のカーブに近いですが、システム上はこれが最小半径ということになりますか？

TOMYTEC：機構的にはもう少し急でも曲がりますね。

RMM：将来的に路面軌道とバスが平面交差するようなパターンもあると思いますが、その際に問題は？

TOMYTEC：TOMIXレールは非磁性体の金属を使っていますので、バスが線路を跨いでも大丈夫です。先程申し上げたように直進性を確保しているので、踏切程度であれば下にワイヤーが無くても渡って行きますよ。

工作派のために「白バス」も付属

RMM：付属のバスは今回、日野ブルーリボンシティハイブリッドバス(東京都交通局)ですが、未塗装の「白バス」も1台付属していますね。

TOMYTEC：今回はバスが1種類ということもあり、工作派のお客様からの要望も多かったので付属させました。

葉賀：今回の本には我々も白バスの改造作例を載せるので（122頁以降）、皆さんにもぜひチャレンジして有効活用していただきたいですね。

ATB：動力ユニットで気になるのが、付属のスペーサーですよね。

TOMYTEC：今回の動力ユニットはノンステップバス用ですが、このスペーサーを使って前後方向と高さ方向を調節することで、バスコレ第5弾西工96MC、第7弾いすゞエルガ、それに第9弾富士重工業7Eのボディを取付可能です。それ以外の車種には対応しておりませんので、現状では自己責任でお願いしますということになりますね。

川瀬:動力ユニットと言えば、モード切換え時にパイロットランプが点灯しますよね？これは将来的に点灯化への布石かと我々は考えてしまうのですが。

TOMYTEC:これは基本的には工場出荷時の動作チェック用のものなんです。これも自己責任でお願いしますという部分ですが、好きな方は導光して灯具類の点灯用に、という含みはあります。ただ、製品仕様にするとなると電池の消耗が早くなりますので、実現させるとすれば先程の充電システムとの兼ね合いですね。

▲今回、メインとなる日野ブルーリボンシティハイブリッドバスの都営バスとともに、洞形態の未塗装バスが付属する。通常のバスコレにはない車種だけに、改造派には楽しみが増えることだろう。なお、本製品の改造作例を、本書122頁以降に掲載している。

バス停や路面のディテールも抜かりなく再現

ATB：付属のバス停ですが、これがまたよくできていますね。

TOMYTEC：バス停のポールや上屋は1：150スケールピッタリです。あと、路面の停車ゾーンの白線も、会社の近くのバス停に採寸に行きました（笑）。

ATB：かなり怪しい人ですね（笑）。

TOMYTEC：こういうラインには何かしら基準寸法があるはずだと思ったもので。その結果、停車部分の四角い枠の長さは12mピッタリだとか、いろいろと確認できました。

ATB：確かに基準寸法がないと、道路業者さんが線を引けませんものね。

今後の発展性にも期待

ATB：今回の基本セットの価格ですが、定価で4桁に収まっているというのは、内容を考えたら相当お買い得ですよね。

TOMYTEC：今回のセットだけで考えたら、開発費は完全に採算度外視ですね（笑）。まあ今後色々と発展させて、末永く楽しんでいただこうというシステムですので。

ATB：繰り返しになりますが、動きの楽しさは誌面で伝えきれない部分もあるので、ユーザーの皆さんには機会があれば店頭等で是非見ていただきたいですね。

RMM：今後の構想についても色々お話を伺えましたし、今後の展開には大いに期待ですね。本日はどうもありがとうございました。

桜満開のお濠端を行き交う201系。過去のものとなってしまった中央線の名シーンも鉄コレで手軽に再現可能となった。　P:羽田　洋

ジオコレの新しい潮流 2

鉄コレ始まって以来の大物アイテム登場！

鉄道コレクション

201系中央線

●900番代試作編成　●H7最終編成

TEXT：鈴木重幸
PHOTO（特記以外）：青柳　明（RMM）

当初のブラインドパッケージからオープンパッケージや事業者限定発売品といった販売形態のみならず、小型・中型車から20m級の編成モノまでラインナップも多様化を見せる鉄道コレクション。2011年のトップを飾った201系は、プロトタイプ選定からセット構成、そしてこれまでとは違った造りでファン注目の的となった。

まず目につくのは、ボリュームの大きさやセット構成。今回は昨年中央線からの引退で話題となった最終のH7編成だけでなく、最初の201系である900番代試作編成も登場時の姿で模型化された。両者合わせると、30年に及ぶ中央線201系を俯瞰するモデルともなっているわけである。また、セット構成もそれぞれの編成をA、Bの5輌ずつに分け、両方で実車の10輌フル編成を再現できるというかつてないもの。この錚々たるラインナップを見ていると、今後のバリエーション展開にも期待したくなってしまう。

製品内容だが、各部の印象把握もさることながら、試作編成とH7編成の差異については車体形状からクーラー、パンタ廻り、台車、床下機器に至るまで、これまで以上に追究して作り分けられている点が注目される。また、パンタグラフが菱型タイプとしては初めて可動式になったのも目新しいところ。別売の動力ユニットは今回、新規にTM-14（20m級A2）が起こされている。

このほか、妻面の検査標記まで入れられていたりH7編成で4箇所のスカートが専用パーツとされていたりするなどNゲージ製品と何ら遜色ない作り込みも見られ、製品規模の大きさと共に鉄コレが一つの新しい段階に進んだことが実感される。

今回はこの鉄コレはじまって以来の意欲的アイテムについて、開発の経緯や製品の見どころ、今後の展開を株式会社トミーテック・ニューホビー企画課の島貫英紀さんに語っていただく機会を得たのでご覧いただきたい。

▲試作編成（左2輌）H7最終編成共、各先頭車の違いを細かく作り分けている。

◀パッケージデザインも魅力的。よく見るとセット別に背景画を変えている。

ジオコレ担当者に聞く…!

201系中央線編

聞き手:RMM まとめ:鈴木重幸 取材日:2011.1.27

企画は900番代が先でした

RMM:今回の201系はこれまでにないボリュームの大きいラインナップですね。

島貫:今回プロトタイプを2種類出しましたが、企画段階で最初に挙がったのは900番代の方なんですよ。

RMM:てっきりH7編成が発端で、どうせやるなら最初の900番代も、という流れかと思っていたのですが逆だったんですね。

島貫:900番代については、当時反響が大きかった車輌でNゲージではキットも含めて3社から発売されていましたが、いずれも絶版になってしまいました。それと量産車も含めて当面TOMIXで模型化する予定がなく整合性もクリアーできたので、これは鉄コレでやる意義があるだろうということで企画が進みました。そうこうするうちに中央線の実車がとうとう引退するというタイミングになってきまして、当社でも電動方向幕や車番コレクションなどの201系グッズを展開することになり、それならば鉄コレでもということで最終編成もラインナップに加わることになりました。

RMM:900番代と最終編成で異なる購買層にアピールするという狙いもあったのでは?

島貫:900番代は主に30代以上、最終編成はそれより若い世代にも、という具合に広い層に楽しんでいただきたいというのは当然ありましたね。

「鉄道」の「コレクション」なので プロトタイプの制約はありません

RMM:ボリュームもさることながらJRのついこの間まで現役だった車輌というのは、鉄コレでは初めてですよね。

島貫:確かに、鉄コレでJR東日本というのも初めてですね。しかし鉄コレというのは読んで字の如く「鉄道」の「コレクション」ですから、プロトタイプの選定は鉄道車輌であれば制約はないということですね。第1弾では電機や貨車もやりましたし。

RMM:確かに第3弾で初期高性能車が出て、その後第5弾で20m級車輌や中間車と展開するたびに「鉄コレってこういう車種もアリなんだ!」と驚かされましたが、ここでまたプロトタイプの可能性が広がったわけですね。

可動式パンタグラフの意外な理由

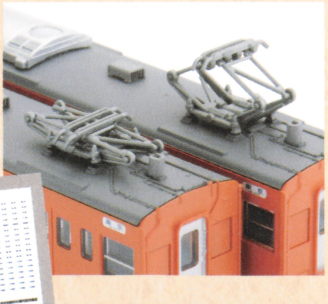
RMM:具体的な製品仕様の話に移りますが、一見して目新しいのはパンタグラフが可動式になった点ですよね。

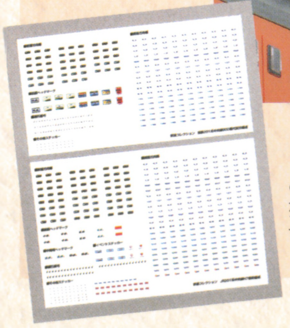
島貫:実はパッケージの問題が大きいんです。5輌セットで従来通り固定式のパンタだと天地方向に長くなってしまうので、それならばコスト的にNゲージのパーツほど精密にはできなくても可動式にしようと。展示用線路が付属しなくなったのも同じ理由です。その代わりに付属のシールを豪華にしました。

RMM:パッケージの話が出ましたが、どちらかというと素っ気ないNゲージの車輌セットに比べて非常にキャッチーでセンスも良いですね。

島貫:一般のNゲージより広い層にアピールしたいというコンセプトの現れですね。箱の表も実車の写真だと堅苦しくなるので裏に回ってもらい、イラストを入れてあります。

▶鉄コレとしては一連のライトレールに続いて可動式となったパンタグラフ。





◀豊富な収録内容の付属シール(上が試作編成、下が最終編成付属のもの)。各種種別表示や臨時快速列車ヘッドマークのほか、号車札や女性専用車の表示も含まれる。

床下は可能な限り再現

RMM:900番代を製品化するにあたって資料集めに苦労されたのでは?

島貫:企画がスタートした時点で実車が解体済だったのは惜しかったですが、国鉄の詳細図面と量産車の実測ができたので苦労は軽減されました。それと付属品の「省エネ201」ヘッドマークですが、実物を所有する方に取材させていただけたので、色や形状も完全再現することができました(笑)。

RMM:これは30代後半から上の、営業運転開始時を知る世代には嬉しいパーツですよね。床下機器ですが、鉄コレ式の左右分割ながら今回はその900番代のフィルタリアクトルや、最終編成も含めてMGが左右でちゃんと繋がっているのが感心しました。

島貫:床下機器は、900番代と量産車の違いも予算の許す限り再現に努めました。例えば900番代独特のフィルタリアクトルの形状や、最終編成は後期量産車なのでチョッパ装置はCH1Bになっている点ですね。それから900番代は、連結器胴受下のATS-B型受電器も表現しています。

RMM:そういえば床板や台車が集電対応らしき構造をしていますが。

島貫:製品の仕様として前照灯や室内灯の取付に対応しているわけではないのですが、工作派の方に楽しんでいただけるよう配慮はしています。ヘッドライトのクリアーパーツも、導光しやすい構造になっています。

RMM:別売の動力ユニットは今回、新規にTM-14(20m級A2)が設定されましたが、従来の20m級との違いは?

島貫:201系用純正ということで、台車間距離を14000mm(模型換算で約93mm)にしてあるほか、ギアボックスの構成を見直してTNカプラーを取り付けた際に動力台車と干渉しないようになっています。

従来のNゲージとは異なるアプローチも

RMM:車体に目を移すと、細かい標記がことごとく再現されていて驚きますね。検査標記まで入っているのはNゲージの平均的水準を超えていると思いました。

島貫:検査標記はちゃんと1輌ずつ変えてあるんですよ(笑)。ただ、号車札については実車が両編成とも一度組み替えを行なっているので印刷済とはせず、先程のステッカーに収録して対応という形にさせていただきました。

RMM:側面の方向幕がTOMIX製品一般とは違って車体側にモールドされていますが。

島貫:方向幕をガラス側にモールドすると、はめ込みの関係でどうしても開口部より一回り小さくなってしまうので、今回は車体側に凹モールドとしてその上に表示を印刷しています。

RMM:前面の運転台パネルや仕切板がとりわけリアルで、特に運転台パネルを車体側にモールドして塗り分けるというのは従来のNゲージではあまり見られない発想ですよね。

島貫:ライトが点灯しない代わりにこだわった部分ですね。運転室の仕切板は、今まで室内パーツに簡単なものを表現するに留まっていたのですが、今回は別パーツを差し込む方式でリアルになりました。

RMM:900番代では先頭車の長さが実車で200mm長いのもキチンと再現されていますね。

今回お話を伺ったトミーテックの島貫氏。鉄コレの屋台骨を支える存在だ。

島貫:これは大きな特徴のひとつですからね、こだわりました。

RMM:東急製のA編成は乗務員室が暖色系、日車製のB編成は運行表示の地色がグレーになっているのも再現されていてニヤリとさせられます。

島貫:逆に言うと、900番代は両者でそれくらいしか違いがないんですよ(笑)。なので、これは製品的にも外せない部分ですね。運行番号ですが、最終編成は営業運転最終日の15Tになっているんですよ。

RMM:話が前後しますが、朱色1号の車体色は900番代と最終編成で変えられていますか?

島貫:900番代の登場当時と最終編成では使っている塗料からして違いますし、現在でも検査担当の工場によって若干色味が違うということもあるようですが、今回は両者を繋げて楽しむ方もいらっしゃるだろうということで、あえて同じ色に合わせてあります。

RMM:屋上に目を移すと、クーラーが屋根から少し浮き上がっていますね。

島貫:実車はクーラーが屋根に密着しているわけではないので、それを再現しています。あと、201系のクーラーは103系等の他形式と共用なので、断面部分の下辺と屋根カーブが合っていないのも実物通りで、これらは決してエラーではありません(笑)。

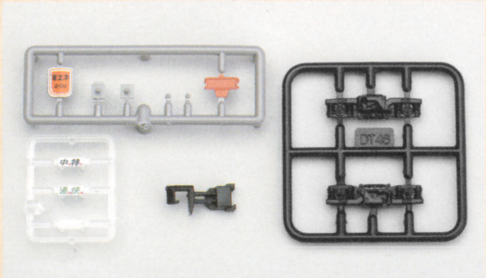
RMM:これはちゃんと書いておかないといけないですね(笑)。

次は「四季彩」!

RMM:今回試作車と量産車が一気に出揃ったことで、他線区のバージョンなど今後のバリエーション展開も非常に期待されるところですが。

島貫:直近では5月予定で「四季彩」を準備していて、新旧の2種類出します。もちろん、実物の片側だけ大型化された側窓も再現しますよ。

RMM:この後レギュラー版第13弾(20m・21m級気動車編)や路面電車の新展開も控えていますし、今後の鉄コレもますます楽しみですね。本日はどうもありがとうございました。



▲各セットに付属するユーザー取付用パーツ。試作編成デビュー時に使用された「省エネ201」マークや非電照式の種別板差し、屋上パーツ類がセットされる。

ジオコレの新しい潮流 2

国鉄201系 中央線900番代

▶東急車輌製(セットA、左)と日本車輌製(セットB)とで運行番号表示器や運転室内などの異なる色調も再現している。

「省エネ電車」の使命を帯びて登場

201系は省エネルギーや居住性の改善といった時代の要請に応えるべく、当時の国鉄が従来の103系に代わる次世代の通勤型電車として世に送り出した系列で、1979（昭和54）年に900番代を名乗る試作車10輌が中央線快速用として三鷹電車区に配置された。

性能的な目玉は何と言っても国鉄初のサイリスタチョッパ制御の採用で、従来の抵抗制御に比べて大幅な消費電力の削減となった。また、台車は通勤型として301系以来久々に空気バネ式（乾式円筒案内式のDT46X・Y、TR231X・Y）が採用され、パンタグラフもこれまた301系以来となるPS21（PS16の追従性改良型）となり、屋上通風器も63型以来のグローブ式から箱型の押込み式に変更された。前面は窓廻りをブラックアウトさせた大変印象的なものとなり、この手法は後続の車輌にも少なからず影響を与えた。前面窓自体の構成はなぜか、振子試作車である591系（低運転台側）のそれを踏襲したものとなっているのが興味深い。

客室内の造りについても大幅なモデルチェンジが行なわれ、色調は103系までの寒色系から暖色系となり、座席端部に板状の袖仕切が設けられ、定員着席を促すべく7人掛けロングシートは中央の一人分のみ異なる色となっている。また、試験的に先頭車のみ旧型国電以来のスタンションポールを設置したのも注目を集めた。天井はいわゆる「平天井」だが、長手方向中央部に従来の扇風機に代わってラインフローファン、その両側に全長に渡るスリット状のクーラー吹き出し口を設けるという、現在では当り前となった方式をいち早く採用した点は特筆に値するだろう。

側面の車番は特急型以外の国鉄車輌としては例外的にステンレスの切抜き文字とされ、当時の設計陣の201系に対する自信と期待をとりわけ印象付けるものとなった。

鉄コレの201系試作車

今回の鉄コレ製品はセットAが東急車輌製、セットBが日本車輌製の5連（4M1T）を再現したもので、両者は車番のほか、運転室の色調（モ

201系中央線
900番代試作編成
5輌セットA

©2011年1月発売:4,725円

■クハ201-901

■モハ201-901

■モハ200-901

■モハ201-902

■クモハ200-901

デル的には仕切板や運転台パネルの着彩）や運行番号表示器廻りの色調を変えてある以外は基本的に同一の内容と言える仕様。両セットを単純に併結することで登場から試運転までの姿(5輌+5輌)を、セットAのうち中間車2輌をセットBの編成に組み込むことで営業運転開始後の姿（3輌+7輌）を再現することができる（編成表参照）。

　両セットを連結するには、中間に入る先頭台車に付属のアーノルトカプラーを装着すればOK。この部分に別売のTNカプラーを使用する場合、床板の取付ツメが若干奥まっている（先頭車の車体が長いのを再現している反面、床板パーツは他車と共用しているため）ので、ユーザー側で床板の先頭側を延長するか取付ツメを作り直すなど、何らかの工夫が必要となる。そのほかの中間連結部は別売の動力ユニット（TM-14）も含めてTNカプラーを無加工で取付可能となっている。

　Nゲージ化用パンタグラフはTOMIXのPS16R形（PS21形）・品番0262が指定されているが、入手が難しい場合は集電舟の形状（先端がパイプ状）にこだわらなければ、他のPS16製品を使用しても構わないだろう。従来の鉄コレ同様、パンタ取付穴は複数の仕様に対応している。

改造ネタも数多く存在

　実車の900番代は2005年に廃車されるまで、様々な仕様、組成、そして路線で使われたことで知られるが、工作派の諸氏は今回の製品を使ってこれらを再現してみるのも面白い。

　年代順に具体的に記すと、1983年の量産化改造後の姿（モハ201・200-901が電装解除されてそれぞれサハ201-901・902になるなど）や黄色5号に塗り替えて中央・総武緩行線へ転属後の姿（1986年以降）、さらにATS-P型機器設置関連で量産車と混結（試作先頭車は中間封じ込め）となった1988年以降の姿も、同時発売のH7最終編成を使えば不可能ではない。京葉線に転属後の青22号塗装（2001～2005年）で最後の活躍を再現するのも悪くないだろう。

●900番代試作編成　1979年（登場～試運転時）

:Aセット　:Bセット

←東京·新宿　青梅·高尾→

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
クハ201-901	モハ201-901	モハ200-901	モハ201-902	クモハ200-901	クハ201-902	モハ201-903	モハ200-902	モハ201-904	クモハ200-902

●900番代試作編成（営業運転開始時～量産化改造前）

:Aセット　:Bセット

←東京·新宿　青梅·高尾→

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
クハ201-901	モハ201-901	クモハ200-901	クハ201-902	モハ201-902	モハ200-901	モハ201-903	モハ200-902	モハ201-9044	クモハ200-902

201系中央線 900番代試作編成 5輌セットB

©2011年1月発売:4,725円

■クモハ200-902

■モハ201-904

■モハ200-902

■モハ201-903

■クハ201-902

ジオコレの新しい潮流 2

JR東日本201系 中央線H7編成

◀周囲がステンレス車体のE233系に替わりゆく中、最後までオレンジ色の車体で中央線に残ったH7編成。2009.8.22 吉祥寺 P:小野雄一郎

201系試作車と量産車の違い

待望の201系量産車は、少し間を置いた1981年から投入が開始され、当初は試作車と同じ中央快速線に、翌年からは中央・総武緩行線と関西の京阪神緩行線にもお目見えし、3種類のカラーリングでの活躍が見られるようになった。

総じて、試作車のコンセプトモデル的な部分を運用・保守面から現実的な仕様に見直したのが量産車と言うことができ、各部にわたる設計変更が行なわれている。最も目立つ車体関係では、床面を低く、屋根を高くすることで室内の天井が40mm高くなった。これによって側面の幕板（雨樋と窓上辺の間）が広くなり、戸袋窓の天地寸法が客扉窓に合わせて縮小されたことと相まってやや鈍重なイメージとなっている。前面は基本的デザインは同様ながら窓ガラスの寸法が微妙に変わったほか、何と言ってもブラックフェイスの下部に取り付けられた大型の手スリによって印象がかなり変化している。また、先頭車の全長が200mm長かったものが中間車と同一となり、その分運転室が後退したため乗務員扉直後の戸袋窓が廃止となった。

車体構造的には外板を台枠の外側にスポット溶接する従来の工法から、突き合わせ工法と呼ばれる台枠の上部に側板を連続溶接する方式に変更、高張力鋼板の使用などと共に腐食対策の強化が図られている。

艤装関係ではパンタグラフを離線対策から2基搭載としていたものを1基搭載に改め、台車は車体直結式からDT32系同様の大径心皿方式に変更、補機類もマイナーチェンジされている。

客室内は概ね試作車の構造を踏襲しているが、袖仕切の簡素化や7人掛け座席が色分け通りに3＋1＋3に分割されていたものを4＋3に改めるといった細かな変更があり、スタンションポールの採用も見送られている。

試作車で比較検討された運転室は色調こそオーソドックスな寒色系に落ち着いたものの、マスコンハンドルは東急車輛製編成の横軸式（新幹線タイプ）が採用されている。

鉄コレのH7最終編成

今回製品化されたH7編成は201系量産車としては比較的後期のタイプ（1984年東急車輛製）で、屋上クーラーはステンレスキセのAU75G、チョッパ装置は改良型のCH1B（201系オリジナルはCH1、203系用はCH1A）を搭載している。中央線用の実車が4輌+6輌の分割可能編成と10輌貫通編成の2種類存在したうち前者のタイプで、中間

201系中央線 H7最終編成 5輌セットA

◎2011年1月発売：4,725円

■クハ201-128

■クハ200-128

■モハ201-255

■モハ200-254

■モハ201-254

にサハ201は含まれない。2007年に東京寄から4輌＋6輌だったものが6＋4輌に組成変更されているが、それ以前はH17編成を名乗っていた。

前述の通り試作車と各部が大きく異なる点をことごとく再現しているため、モデルとしても試作車編成との外観上の共用パーツはベンチレーター等わずかしかなく、同じ201系ながら実質上別製品と言って差し支えない。

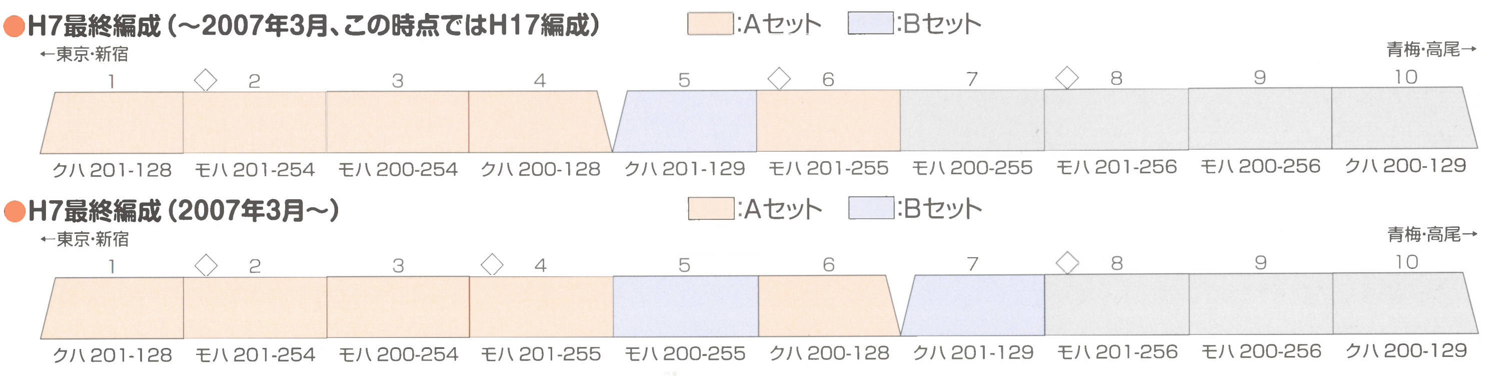
製品は言うまでもなく引退時の姿を再現しており、特に先頭部は大型の行灯式種別表示器（両端のみ）やスカート、屋上列車無線アンテナの取付や運番表示器のLED化により、登場時からは大きく様相が変わっている。登場時の姿を再現した試作車編成と、その辺りを比較してみるのも面白い。

セット同士の連結は試作車編成同様、中間に入る先頭車同士の連結は付属のアーノルトカプラーによって行なえるが、その際は床下のスカートを取り外さなければならない。スカートを取り付けたままでの連結にこだわるならばTNカプラー化ということになるが、この際に干渉するスカートの内側を削る必要があり、パーツが軟質樹脂を使用していないこともあって折れやすく、慎重な工作が必要となるので注意が必要だ。形態的には湾曲型の胴受と電連を再現したE217系用（JC26）がベストマッチだが、カプラー後部が大きなタイプなので、先頭台車の首振りと干渉しないよう加工が必要となる。

自分だけの201系に改造も可能

製品名の通り、引退時のH7編成にプロトタイプを限定したモデルではあるが、閉塞された妻窓はガラス側に塗装表現としているので、塗装変更や加工次第で様々な年代や仕様に改造することも可能だ。中央・総武緩行線や京阪神緩行線、京葉線仕様のほか、編成中モハ201の1輌に霜取りパンタを増設した編成を再現してみるのも面白いだろう。

▲試作車に「省エネ」ヘッドマーク、最終編成に種別板差しを装着したところ。実はよく似た前面窓廻りにも両者で微妙な寸法差があり、それを的確に再現している。P:羽田　洋



201系中央線
H7最終編成
5輌セットB

◎2011年1月発売：4,725円

■クハ201-129

■モハ200-255

■モハ201-256

■モハ200-256

■クハ200-129

ジオコレの新しい潮流 3

待望の第2弾は
大きく進化！

国鉄101系
運転台型

国鉄101系運転台型コントローラー フルセット

◎2010年7月発売：17,430円

※右の「マスコン・ブレーキセット」と「メーター・ドア開閉器セット」を合わせた内容です。

ギミック満載の運転台「模型」

製品名に「運転台型」と銘打たれている通り（それ以前に写真をご覧いただけば一目瞭然なのだが）、前回の鉄コレ式制御器が運転台のマスターコントローラー（マスコン）のみを模していたのに比べ、今回製品は運転台を丸ごと再現しているのが大きな違い。とは言え実物の約1：3の縮尺による全体の印象はコンパクトで愛らしくもあり、決して大上段に構えた製品ではなく、コンセプト的には前回製品の延長線上に位置するアイテムであることが感じられる。

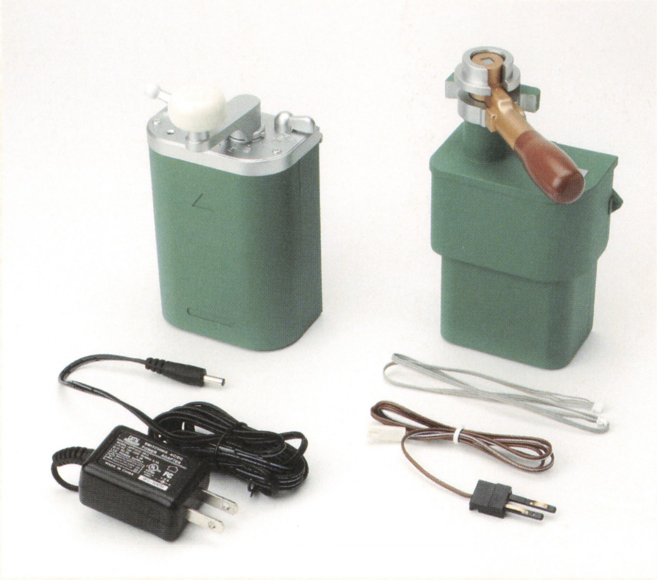
もちろん、単に形だけ実車の運転台に倣ったものではなく、マスコンによる加速、ブレーキによる減速→停止と共にメーター（それぞれ速度計、ブレーキ圧力計）が連動し、さらにサウンド機能を持たせることによって列車の走行と連動したリアルな運転感覚を楽しめるのが本製品の真骨頂である。さらに、運転台だけでなく扉開閉スイッチを付加することで駅での客扱い操作まで含めた列車運行のプロセスが一通り再現されており、よく練られた企画であると唸らされる。なお、大幅な機能拡張に伴い、電源は第1弾の乾電池式からACアダプター使用に改められている。

本製品のもう１つの特徴が、コントローラーそのものが「模型」でもあること。プラ成型品ながら塗装の色調や質感、ビス頭や蝶番まで101系の運転台を可能な限り再現しており、特に脱着可能なブレーキハンドル（実物ではクルマで言うキーの役割を果たしている）には開発スタッフの並々ならぬこだわりが感じられる。このような模型的視点によるコントローラーというのは今までの鉄道模型ではありそうでなかった存在であり、（決して安価とは言えないものの）Nゲージ車輌セットと同水準の価格でこれだけの機能と外観を有するプロダクツが手に入るという事実は、我々鉄コレファンにとって正に福音と言うべきではないだろうか。

2008年9月に第1弾が発売され、好評を博した鉄コレ式制御器。続く第2段は国鉄新性能電車である101系をプロトタイプにリアルな運転台を再現、ギミックを含めて大幅なグレードアップが図られた。ここでは製品構成や機能の解説のほか開発者へのインタビューも織り交ぜ、このリアルでユニークなコントローラーの全貌に迫ってみたい。

TEXT：鈴木重幸　PHOTO（特記以外）：青柳　明（RMM）

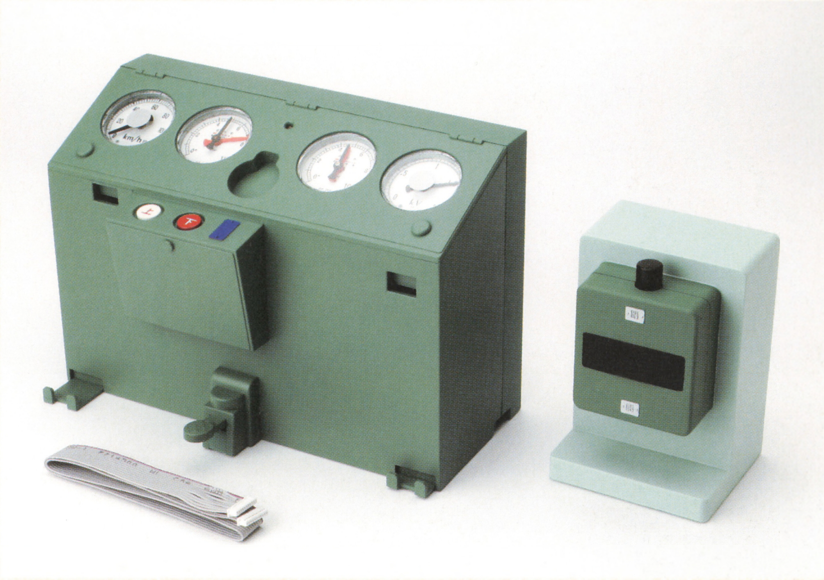
TETSUDOU COLLECTION
鉄コレ式 制御器 コントローラー
CONTROLLER



マスコン・ブレーキセット

◎2010年7月発売：9,240円

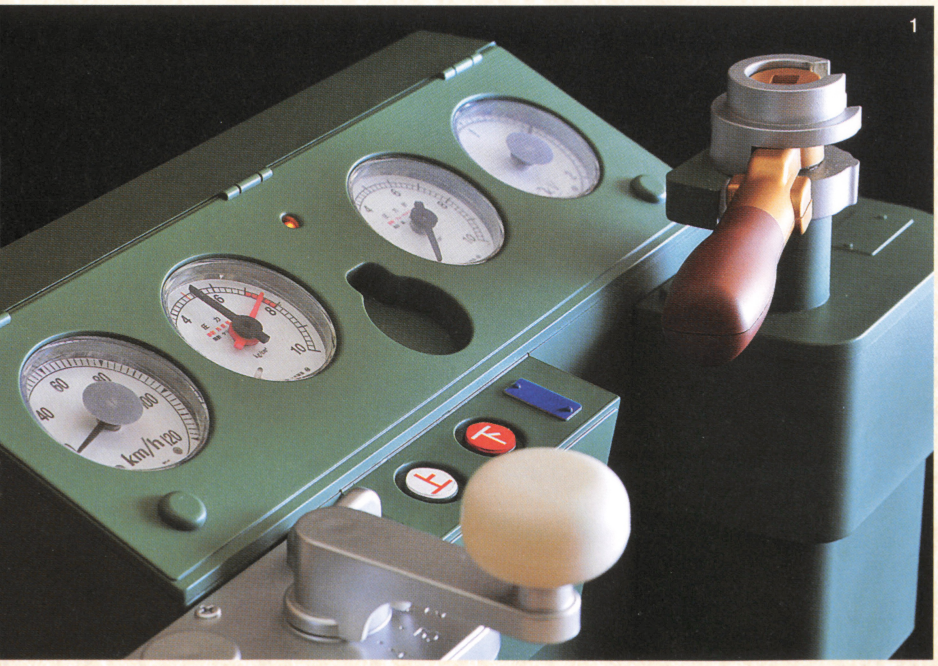
※ACアダプター、DCフィーダー、ブレーキ／マスコン接続コード付属
※当セットのみではサウンド機能はありません。

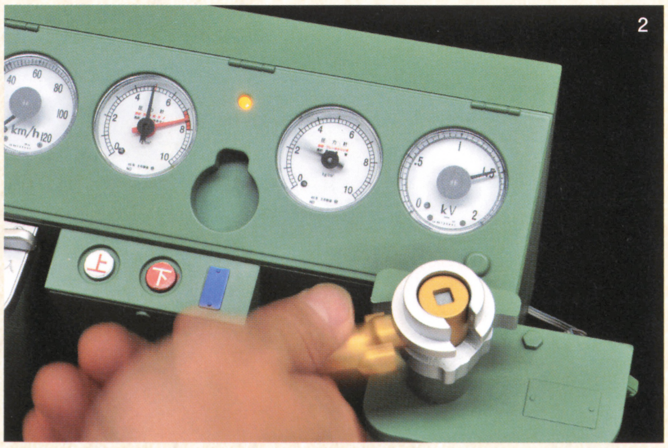


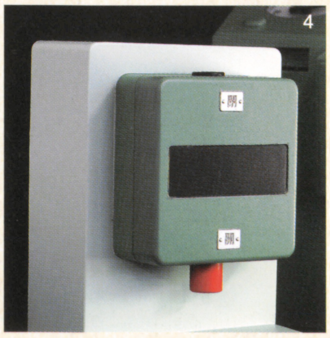
メーター・ドア開閉器セット

◎2010年7月発売：8,190円

※メーターユニット／マスコン接続コード付属
※当セットのみでは車輌の走行やサウンド機能はありません。

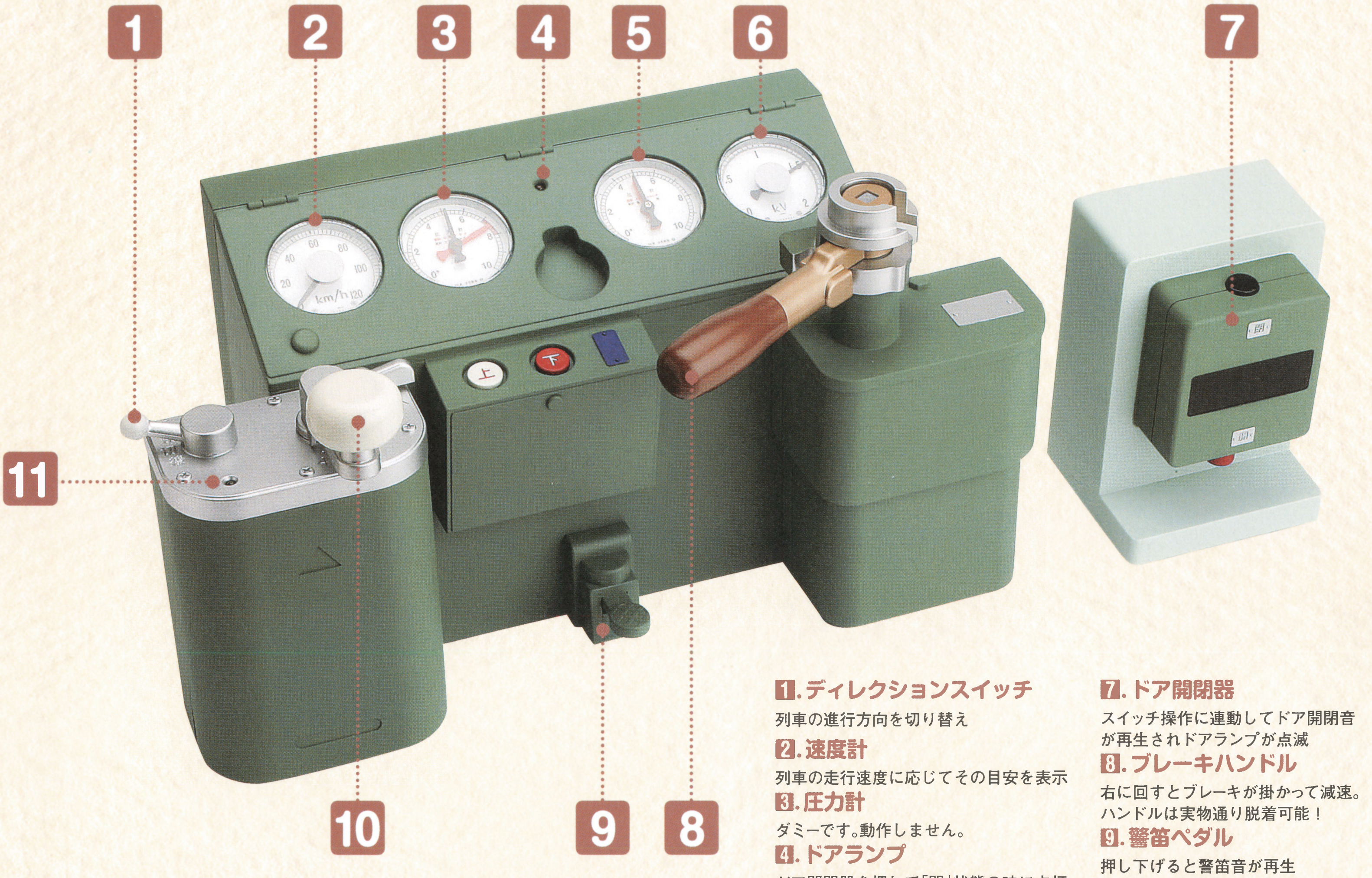






1.速度計はもちろん、ブレーキハンドルの操作と連動してブレーキ圧力計(右から2つ目のメーター）も動作する。 2.4連のメーターが並ぶパネル部分も精密に再現。あたかも蓋部分が開閉するように見えるが、実は一体のプラ成型なのである。　3.足下部分の警笛ペダル。押し下げることで任意に警笛を鳴らすことが可能。　4..列車運行に欠かせない扉開閉装置も用意。運転士のみならず、車掌の気分も味わえる？　／以上4点　P:TOMYTEC

鉄コレ式制御器 国鉄101系運転台型コントローラー 各部の名称と機能



1.ディレクションスイッチ
列車の進行方向を切り替え

2.速度計
列車の走行速度に応じてその目安を表示

3.圧力計
ダミーです。動作しません。

4.ドアランプ
ドア開閉器を押して「閉」状態の時に点灯

5.ブレーキ圧力計
ブレーキのハンドル位置に応じて表示

6.架線電圧計
ダミーです。

7.ドア開閉器
スイッチ操作に連動してドア開閉音が再生されドアランプが点滅

8.ブレーキハンドル
右に回すとブレーキが掛かって減速。ハンドルは実物通り脱着可能！

9.警笛ペダル
押し下げると警笛音が再生

10.マスコンハンドル
ハンドルを回転させることにより、速度を4段階に切り替え可能

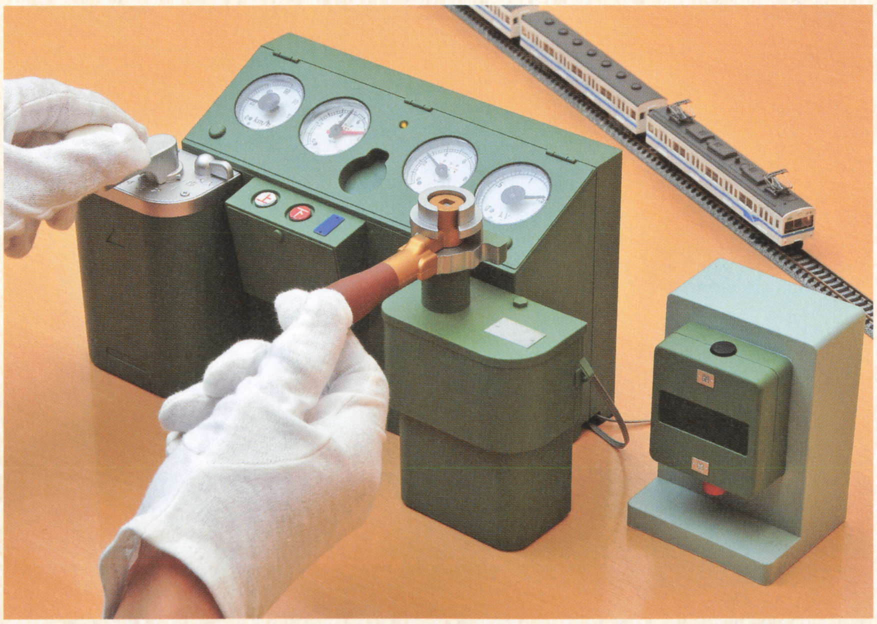
11.電源ランプ
背面の電源スイッチを入れると点灯

操作感覚を体感して欲しい

ここまで国鉄101系運転台型コントローラーの全貌についてご紹介してきたが、製品が「動き」や「音」を楽しむための製品であるゆえ、誌面ではなかなかその魅力を伝えきれない部分もあるのが正直なところ。もし店頭などで機会があれば、実際の操作感覚を確かめていただきたい。
トミーテックの本製品紹介ページ

http://www.tomytec.co.jp/diocolle/lineup/tetsudou_seigyo

では、無料で解説動画を閲覧可能だ。



▶運転する車輌は国鉄101系のみならず、1950〜60年代の新性能車や、一部旧型車でも十分にその醍醐味を味わえる（写真は101系譲渡車の秩父鉄道1000系）。　P:TOMYTEC

ジオコレ担当者に聞く…!

鉄コレ式制御器 101系運転台型 コントローラー編

聞き手:RMM まとめ:鈴木重幸 取材日:2011.1.27

従来運転のみだった鉄コレ式制御器にメーター動作やサウンド機能が加わり、ジオコレ製品の中でも質・量ともに最大級のアイテムとなった101系運転台型コントローラー。その開発の経緯や苦労話について、株式会社トミーテック・ニューホビー企画課の島貫英紀さん・古賀太一さん、営業部企画課の最上雅博さんに語っていただきました。

当初はマスコン単体で発売する予定でした

RMM：乾電池式で簡素だった前回と比べて、製品仕様がいきなり鉄道模型を越えるレベルまで飛躍したというイメージがあるのですが。

TOMYTEC：最初に出したコントローラーはレトロな電車に似合うものをということで、カタチにこだわりました。その点はおかげさまで好評いただくと共に、次はもう少し新しいタイプが欲しいというご要望もありました。そこで、ACアダプター電源で電車型のコントローラーを出そうということになりました。

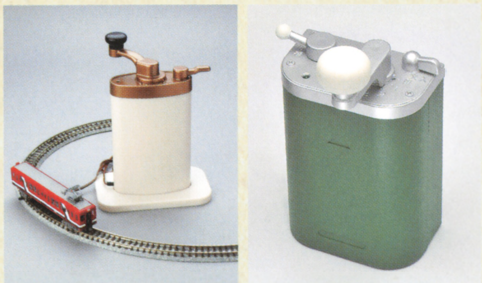
RMM：最初から製品のフルセットのようなものを構想されていたわけではないんですね。

TOMYTEC：実際の製品でもマスコン単体のみで運転可能になっていますが、それにブレーキハンドルを接続すると別個にブレーキ制御するようになり、メーターパネルを接続すると連動して速度計が動くようになり…、というシステムアップの販売方法を考えていました。しかし実際にはセット販売して欲しいというご要望が多くて、製品のような販売形態に落ち着いたという経緯があります。

RMM：なるほど、そういったプロセスを伺うと、話の流れが見えてきますね。

プロトタイプの選定とサウンド機能について

TOMYTEC：前回のレトロタイプは少しデフォルメしていますが、折角電車型のコントローラーを出すならスケールにこだわろうと。そのタイミングで鉄コレから秩父鉄道1000系（101系譲渡車）を出すことになったので、



▲第1弾の鉄コレ式制御器（上段写真）は実物のマスコン部分のみを再現したものだった。今回製品も開発当初は右写真のようにマスコン単体での発売が考えられていたという。
（右写真のみ）P:TOMYTEC

プロトタイプは101系に決まりました。

RMM：101系ですと古すぎず新しすぎず、運転台らしい運転台というイメージですからね。しかし、ここまでリアルになると、逆になぜ鉄コレ専用なのか、というユーザーの疑問が湧くと思うのですが？

TOMYTEC：これは、企画当初の段階で乾電池式コントローラー（定格6V）のグレードアップ版というところから始まったためで、結果的にお客様のご要望とズレが生じてしまったのは反省点ですね。いずれはNゲージ鉄道模型にも対応した仕様もやりたいと考えています。

RMM：サウンド機能は今回の製品の魅力を語る上で大きな比重を占める要素だと思うのですが、これを盛り込むことになったきっかけは？

TOMYTEC：先ほどのバージョンアップしていくという構想の中で、メーターが動くだけでは寂しい、他にもギミックを付けたいということで。鉄道模型で音を出す場合、車輌側からと運転台側からの2通りの方法があるわけですが、運転台側から出した方がリアルで、コストもそれほど高くないということが判ったので採用になりました。

RMM：モーター音は101系らしいリアルな感じですね。

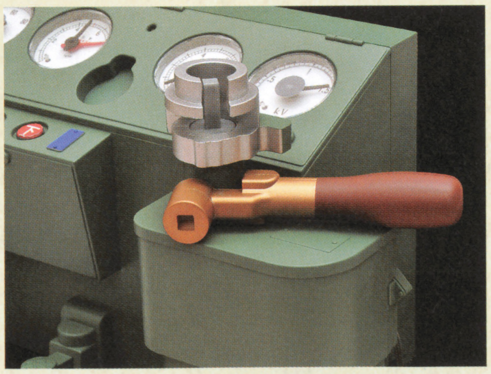
TOMYTEC：モーター音はちゃんとMT46から録っています。それから警笛音も、国鉄型では一般的なAW5ですね。

RMM：違うサウンドの仕様もあると楽しいのではないかと思いますが。

TOMYTEC：マスコンの内部にサウンドモジュールを入れてあるのですが、将来的にはここを差し替えて別バージョンを出せるような拡張性は持たせてあります。

RMM：ドア開閉器もサウンド付きですし、ここまで充実するとコントローラーのギミックだけでも楽しいですよね。

TOMYTEC：車輌がなくてもサウンドを含めた一連の動作が楽しめるように、シミュレーションモードを搭載していますが、やはり音だけで楽しまれるお客様も多いようですね。



▲実物の持つ砲金の質感再現や、脱着可能な構造にこだわったというブレーキハンドル。
P:TOMYTEC

「部品模型」としてのこだわりも

RMM：メーターの針の動きがこれまたリアルですね。

TOMYTEC：出力電圧と車輌の起動電圧との間にズレがありますから、列車が動き出すのと速度計の針が動き始めるのを同期させるのにはこだわりました。ただ、速度計とブレーキ圧力計の他に双針式の圧力計も動かしたかったのですが、これがなかなかうまく行かず断念しました。これは次回への課題ですね。

RMM：ギミックの部分も含めて、コントローラーでありながら「部品模型」としての側面もありますよね。特に色彩が非常に良いと思いました。

101系運転台型コントローラーとTOMYTEC島貫氏。製品のコンパクトな可愛らしさもお判りいただけよう。
P:RMM

TOMYTEC：成型色を国鉄の色見本に合わせています。一番難しかったのがブレーキハンドルで、工場に「金と銀と銅の中間」と指定したりしました（笑）。ブレーキハンドルですが、抜取り位置でバネが作用して「カチッ」と鳴るのを再現できなかったのが心残りです（笑）。社内ではそもそも、ブレーキハンドルが脱着可能なギミック自体不要では、という意見もあったのですが。

RMM：いや、それは絶対必要でしょう（笑）。

おもちゃ大賞を受賞！

TOMYTEC：おかげさまで「日本おもちゃ大賞2010」のハイターゲット・トイ部門で優秀賞を受賞することができました。

RMM：それはスゴイですね！しかし従来的な鉄道模型の世界では、おもちゃ大賞にノミネートするという発想すらなかったと思います。

TOMYTEC：この製品に関しては、良い意味でおもちゃの側からのアプローチというか、遊び心の部分というのはありますね。それにしても審査の時はプレゼンの時間が5分しかなくて大変でした。リアクションも薄くて「これは駄目かな」と（笑）。審査員の方が後でご自分で触ってみて、初めて「なるほど」と納得された部分はあったようですね。

RMM：確かに、鉄道好き以外の方にこの製品の面白さをすぐに理解してもらうのは難しい部分があるかもしれませんね。

より良い製品を作っていきたい

RMM：ところでこの製品はやはり人気があったようで、既に入手が難しくなっているようですね。

TOMYTEC：再生産もいずれ行ないたいですし、お客様のご要望に耳を傾けて、少しでもより良いものを作って行きたいですね。

RMM：今回のような、予想を上回る好製品を期待してしまいます。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

▲温泉街によくある複雑な地形が、製品段階で塗装済にて再現されている。

◀目線を低めてみると、渓流沿いの露天風呂や赤い欄干の木橋、望楼付の木造旅館など、どこかで見たような懐かしい温泉街の光景が甦る。

ジオコレの新しい潮流4

線路からの独立宣言！

ジオラマベースA 温泉街の情景

TEXT：水野宏史（RMM） PHOTO（特記以外）：金盛正樹

“精緻な箱庭”登場！

2010年11月、建物コレクション「温泉宿A～C」と同時に発売されたジオラマベースA「温泉街の情景」は、A4サイズというコンパクトな面積に渓流や石段といった温泉街特有の複雑に起伏のある情景を作り込んだ、いかにも日本人好みと言ってよいジオラマである。その上に乗ってくる別売の古風な旅館街も含めて考えると、これはまさに精緻な箱庭”と言えよう。

このように建物や地形を組み合わせた情景をコンパクトにまとめる､という点では､1:150のNゲージサイズは実に手頃な大きさではある。しかし、このサイズの情景製品と言うと、そのスケールの由来もあるとはいえ鉄道の影を離れて存在することは困難であった。むしろ情景模型単体としての成り立ちにくさを、「鉄道模型のアクセサリー」という位置付けで市場を確保していたとも言えるのではないだろうか。

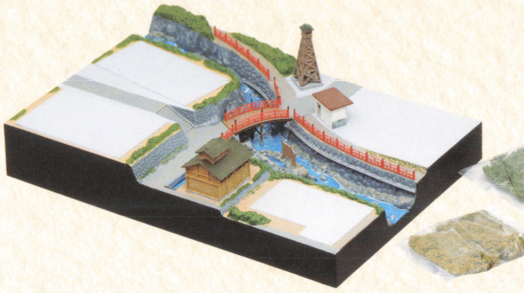
ジオコレも、当初はどちらかというと鉄道模型の添え物的な意味合いが高かったものの、7年半の時を掛けてラインナップも充実し、ジオコレだけでも世界が完結するようになりつつある。この｢ジオラマベース」こそ、その「ジオコレで完結した世界」のひとつの記念碑的な存在であろう。

ありそうでなかった「地面の模型」

あらためて製品を観察すると、温泉街と言えばだれもがすぐに思い浮かべる渓流や石段などの変化に富んだ地形が、細密なプラスティック成型でカッチリと再現されている。同じものを製品抜きで作るとなると、発泡スチロールなどの地形素材を重ねたり削ったりして、さらに曲がりくねった渓流をどう再現したらいいのか悩み込んでしまう人も多いはずで、そういう人にも「地面模型の見本」的な意味合いで歓迎されるであろう。

一方でこうした製品に対し、お仕着せでオリジナリティがない、と評される方も中にはいるかもしれないが、まずはこうした製品を小加工することで作り込んだ情景に手を入れる効果や面白さをいち早く味わうことができるのなら、情景造りの上達のノウハウ習得も結果的に早道であると言えよう。

まずは難しいことを考えずに、このジオラマベースを付属のアクセサリー類やフォーリッジ、別売の温泉宿で飾り立てて、さざまな角度から覗き込んでみることをお勧めしたい。フラットなベースを目の前にするのとは全く異なった世界がそこに広がるはずだ。製品そのままでも､文字通りベースとして自分なりに手を加えても楽しめてそのままインテリアにもなるジオラマベースは、鉄道模型を持つ人持たない人にかかわらず自信を持ってお勧めしたいアイテムだ。現在は好評のため各地で品切れになっているが、近く再生産が行なわれる予定なので、ぜひともその際に手に入れておきたい逸品である。



▲「ジオラマベースA 温泉街の情景」製品の全貌。塗装済のプラスティックベースに各種付属アクセサリー （共同浴場、温泉減圧塔、フィギュアなど。一部はキット形態）を同梱。7,140円、温泉宿は別売となる。

▲組み立てた「ジオラマベースA 温泉街の情景」に別売の建物コレクション「温泉宿」3棟、ザ・カーコレクションを組み合わせた再現例。フィギュア（ザ・人間）は12体付属するが、さらに買い足して賑やかに彩りたい。

ジオコレ担当者に聞く…！

ジオラマベースA 温泉街の情景編

聞き手・まとめ:RMM、取材日:2011.2.15

前述のように、建物コレクション「温泉宿A～C」と同時に発売となったジオラマベースA「温泉街の情景」は、これまでの線路あってのジオラマという考えから解放され、これ単体でも充分にジオラマシーンを演出できる製品として話題となりました。メーカーでも予想以上の売れ行きで急遽再生産が予定されるなど、ジオラマ界でもまれに見るヒット商品になりましたが、この発展性を秘めた商品についての成り立ちについて、トミーテックにおいてこれら建物・情景関連のジオコレ製品の開発を担当するニューホビー事業部企画部の梶 幸夫さんにお話しを伺いました。（編集部）

完売続出のヒット商品に

RMM：まず、これまで鉄道模型用のミニレイアウトなどのように、線路の付いた半完成ジオラマはありましたが、最初から線路を組み込むことを前提としない半完成ジオラマは珍しいと思います。こういう流れというか時代が来る…というような予感があったのでしょうか。

梶：これまで情景関係の製品開発を続けてきて、鉄道模型をやっている方があくまでもストラクチャーとして買っていく、という流れだけではなく、明らかにお客様の層が広がってきているという実感はありました。そこで世界観を広げる意味で、今までより一歩踏み出した製品を手掛けたわけです。

RMM：で、フタを開けたら完売のお店が続出、ということで、正直私もこのジオラマベースが在庫しているお店を見ることがほとんどありませんでした。企画としてはまず成功、というところでしょうかね。

梶：実は私もそこそこはいけるのではないか、と思っていたのですけど、なにせ単価が安いものではありませんから、販売店の方が慎重になってしまって注文数が伸びず、結果的に生産数を絞らざるを得なくなってしまったんですね。でもこれで一定数は需要のある商品であるということがわかりました。

見た目以上に本格派

RMM：最初に模型イベントで試作品を拝見した時は、発泡スチロールやバキューム成型などの簡易な素材を想像していたのですけど、量産品をいざ手に取ってみると丈夫でずっしりと重い、本格的なプラスティックの射出成型品であるのには驚きました。角もピッチリでていますし。

梶：最初はコストをできるだけ掛けないつもりで、当然発泡スチロールなど簡易な成型品も検討してみたわけですが、やはり作るからには中途半端なものにはできない。で、結局はプラスティックの本格的な成型品で作ることになったのですが、現物が仕上がってきた時は私もびっくりしてしまいましたね（笑）。

RMM：A4の用紙を当ててみたら、ほとんど同じサイズなんですね。このA4サイズというのはあらかじめ意図されたわけでしょうか。

梶：例えば鉄道模型のレイアウトだとすると、小さく作ってもA3を切ることはなかなか困難ですが、線路がないことによりもう少し小さくできるのではないかと。保管場所などを考えても、日本の住宅事情ではA4というサイズがちょうどいいのではないか、ということで決まりました。

よくある「温泉街」を目指して

RMM：情景については、誰もが「そうそう、温泉街ってこうだよね」と言いたくなるような、それらしい仕上げになっていると思いますが、特にどこをモデルにされたとかということはあるのですか。

梶：もちろん実際の温泉地にも出向いて取材はしていますので、たまたま「どこかに似ている」という場所があるかもしれませんが、基本的には特定のモデルはなく、いろいろな場所の要素をミックスし、デフォルメして小さくすることにより「よくある温泉街」のイメージとしています。スケールで作ってしまっては、とてもA4には入りませんからね。

▲これほどの精密感を持ったジオラマが、難しい工作を施さなくても手軽に再現できるのはありがたい。

RMM：小高い丘や渓流などの造型は、レイアウト経験者にしても作りにくいもののひとつですし、ましてジオラマに興味を持ち始めたばかりの方は手も足も出ない、というのが本音だと思います。そういう方には歓迎されたことでしょうね。

梶：そうですね、特にこういう高低差のある地形造りというものは、ジオラマ造りの中では最も難しい作業、と言えるでしょうね。線路を敷いたり建物を組み立てたりといった工作とは別の難しさがあります。ここが完成している意味は大きいと思います。

RMM：そういえばベース上に広場のような一角がありますが、ここはバスやクルマを置いて駐車場にしたり、情景コレクションの公園パーツや露店を置いたりするなど、多目的に使えそうですね。ジオコレシリーズの横の連携を感じさせられます。

梶：実は、開発段階ではここにも旅館を建たせる計画があったんですよ。でもいざ建物を置いてしまうと、意外と殺風景なうえにせっかく川辺の露天風呂や太鼓橋を作り込んでもよく見えなくなってしまいます。それならば建物を詰め込むよりは、手前を低くして全体をゆったりと見せると同時に、買った方が自由に使っていただける空間にした方がいい、と考えました。もちろんバスコレやカーコレ、それにフィギュアを置いていただいても構いません。

RMM：そうですね、買った方にとっては自分のアイディアが生かせるところがあった方が当然楽しいでしょうからね

小さなジオラマに大きな期待

RMM：実際に購入された方から、何かリクエストのようなメッセージが寄せられることはありましたでしょうか。

梶：いかんせん売れたと言っても絶対数が多いわけではないので、今の段階では「楽しみにしていたのに手に入らなかった」というクレームの方が多いくらいです（苦笑）。でも確実に買ってくれる方がいることがわかったことは大きいと思います。もちろん再生産は予定していますので、春頃までお待ちいただければ、と思います。

RMM：今回は温泉街ということで、多くの人にとって安らぎを感じるような好感の持てる光景だったのではないかと思います。Aというからには当然B、C…と展開が期待されるわけですが、それらの予定はすでにございますか？

梶：もちろん続編は考えています。まだ具体的にどういうものとは言えないのですが、今年中には次のジオラマが出てくるはずですので、ぜひとも次はお店に注文を入れて（笑）楽しみにお待ちください。

RMM：どんな情景になるか今から楽しみですね。本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

▶A4サイズというコンパクトなサイズに、大変手軽な工作だけで温泉街の情景が再現される（温泉宿・自動車別売）。部屋の中で旅行気分が味わえるジオラマはインテリアにも最適だ。

鉄コレ知恵袋

～鉄コレファンのための実車ガイド～

2005年より発売が開始された鉄道コレクション、略して「鉄コレ」は、当初すべての製品がブラインドパッケージ販売とされ、購入して蓋を開けないと何が出てくるかわからない、というゲーム性の高い商品でした。そのため「欲しい車輌を選んで買う」という一般の鉄道模型に対し、「この車輌、一体何だろう?」という疑問が生じる機会も必然的に高かったわけです。

「中身の見える」オープンパッケージ販売が中心となってきた今、振り返ってみると実に多彩な車輌が製品化されていることに気付きます。その数およそ300輛余り。自由型も含む地方の小型電車から首都圏を走る通勤電車まで、実に多彩な車輌が模型化されてきています。その中でも特定の私鉄に車種が集中する傾向が高く、近代の現役車輌がほとんど模型化されてしまったような鉄道もいくつか存在しているのに気付くことでしょう。

今回は残念ながら誌面の都合で、前回(2巻)ほどたくさんの鉄道会社を紹介することはできませんが、そのような模型化が集中している鉄道会社として富士急行と銚子電気鉄道を、また前回の「ダイジェスト版」に代わり、ある会社の特定形式・特定傾向の車輌を追う「アラカルト版」を掲載しました。あなたのお持ちの車輌への関心が高まれば幸いです。　(編集部)

企画・構成：RMM編集部
Text：佐藤鉄雄、佐藤哲朗、鈴木重幸、高橋　脩、羽山　健(RMM)
Modeling：酒井　啓、葉賀敏明
Photo(模型)：青柳　明(RMM)、金盛正樹、羽田　洋

★掲載鉄道★

■新潟交通 ……26
■銚子電気鉄道 ……30
■鹿島鉄道キハ431 ……35(上)
■高松琴平電鉄 ……35(下)
■叡山電鉄600形 ……38
■新潟交通クハ37・蒲原鉄道クハ10 …39

鉄コレ知恵袋

富士急行

大月線：大月～富士吉田（23.6km）
河口湖線：富士吉田～河口湖（3.0km）

Text：鈴木重幸
Photo（特記以外）：青柳　明（RMM）

古くからユニークなオリジナル発注車や各鉄道からの譲受車が活躍することで知られる富士急行。鉄コレでも第3弾の5700系を皮切りに、通常のブラインド販売やオープン販売に事業者特注品も加わり、歴代の面々が数多くモデル化されている。ここでは概ね実車の導入順にそのラインナップを眺めてみよう。

■富士山麓電気鉄道モ1

富士山麓電気鉄道（旧社名）が1929年の開業時に導入。全7輌中モ1～5は戦後大型の車体に載せ替えてモハ501形（後にモハ3600形）となったが、その際モ1の旧車体が上田丸子電鉄（現在の上田電鉄）に譲渡され同社のクハ251→モハ4257として活躍。廃車後に富士急が買い戻し、2006年に創立80周年記念事業として河口湖駅前に復元保存された。

▲事業者特注品のモハ5708（左）と、第3弾に含まれるモハ5722。富士急車輌は様々な販売形態でリリースされるのも特徴だ。

鉄コレでは原形の2個パンタ仕様としているが、保存車は上田時代の1個パンタのままとされている。

■3100形

日本車輌製の2扉クロスシート車で、1956年に登場。形式の上2桁は登場年の元号にちなむ（5000形、5700系も同様）。狭軌用としては初めて平行カルダン（WN）駆動を実現した車輌で、2輌でほぼ等間隔になるよう配置された側扉位置にも特徴がある。

1958年には第2編成が増備されたが1971年に事故廃車。この編成にモハ3104が含まれていたことから、以後富士急では忌番として末尾4、9を飛ばしている（後述の5700系は編成の相方となる末尾0、3も欠番）。残る第1編成はその後も40年間の長きに渡り、1997年まで活躍を続けた。

■7000系

7000系は元国鉄の17m級国電で、このうちモハ7031・7032は2扉車クモハ14を、クハ7061・7062は3扉車のうち木造鋼体化車由来のクハ16 400番代を1969年に譲受したもの。1971年にはモハ7033とクハ7063が入線しているが、前者は両運転台改造車のクモハ12050、後者は2連の側窓が特徴の元31系クハ16013で、いずれも鉄コレのプロトタイプとは異なる。

■5000形

3100形第2編成の廃車補充として1975年に登場した久々のオリジナル車にして富士急初の冷房車。台車やユニットサッシ等、各部に115系と共通の部品を使用しており、私鉄電車ながら国電らしい雰囲気を醸し出すユニークな存在である。

導入は1編成に留まり長らくオリジナル塗装で活躍していたが、1997年には富士急ハイランドのイベント関連で「ゲゲゲ号」に、翌年には「トーマスランド号」に衣替え、2001年にグラデーション基調の現行ラッピングとなっている。2007年以降は車内のリニューアルも施され、車内外共に「きかんしゃトーマス」一色となっている。

■5700系

元小田急の17m3扉カルダン車を譲り受けたもので、これにより吊掛駆動車は一掃された。

種車は形態の異なる元2200形・2220形・2300形・2320形に分かれるが、このうち鉄コレのプロトタイプとなっているのは前面非貫通の元2200形（5707・5708）と前面貫通形で側扉間に等幅の窓が3枚並ぶ元2220形（5717・5718・5721・5722・5725・5726）の2タイプ。

1980年代から90年代前半まで富士急の主力を成した車輌だが、老朽化に加え非冷房であるため元京王の1000系に置換えられ、1997年までに全車廃車となっている。

■1000系

名車の誉れ高い京王帝都5000系を譲り受けた現在の主力。軌間が異なるため台車は営団日比谷線3000系が履いていたFS510に履き替えられ、他にも元クハの電装など大掛かりな改造が京王重機で施工されている。

車内の仕様の違いによってロングシートの1000形とセミクロスシートの1200形に分けられ、1000形2編成と1200形7編成が導入された（1200形は末尾4が欠番）。両者共クーラーの形状は種車に由来する集中式と分散式の2種類が存在する。

近年は塗装や仕様を変更された編成が多くなり、鉄コレ化されたマッターホルン号（現在の1201編成は初代を経て3代目）、リバイバル塗装のほか水戸岡鋭治氏のデザインになる富士登山電車も出現するなど、賑やかなラインナップを形成している。

■改造ネタあれこれ

非常に充実している鉄コレの富士急車輌だが、既存製品の改造によりさらにラインナップを増やすことも可能だ。

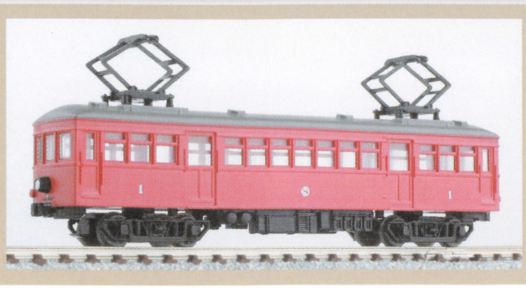
まず、モハ501形のうち車体更新されなかった507・508が後年荷物車に改造されたモニ101・102が、オリジナル形態であるモ1から製作可能。側扉間の窓を全て埋めることと、ライト類の移設・増設、パンタグラフの1基化がメインの工作となる。

現行の1000系のうち比較的簡単に作れるバリエーションがリバイバル塗装第2弾（29頁に作例記事掲載）。これとも関連するが第11弾の琴電1100形と屋根板をトレードすることで分散冷房車仕様も手軽に作ることができる。詳細は110頁からの京王5000系譲渡車作品集をご覧いただきたい。

閉鎖された中央扉や細かなレタリング等、最もハードルの高いのが富士登山電車だが、現行富士急車のなかでもユニークさはピカイチの存在だけに、ぜひともチャレンジしてモノにしたい編成である。

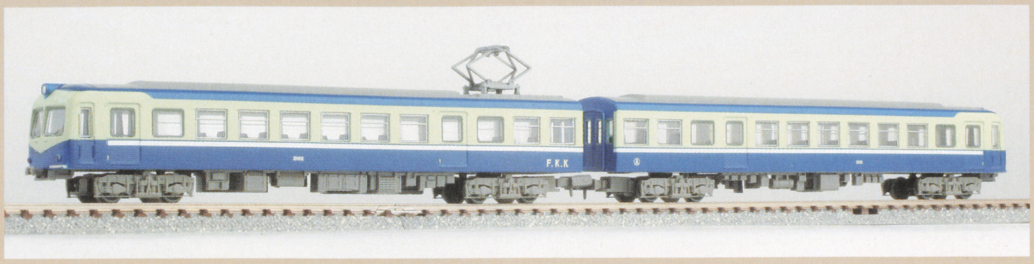
創立80周年記念
鉄道&バスコレクションオリジナルセット
(富士山麓電気鉄道モ1・いすゞBX352)

・事業者特注品
・2006年10月発売:1,500円



モハ3101・モハ3102

・ブラインド販売(第5弾)
・2007年10月発売:各630円



モハ7032・クハ7062

・ブラインド販売(第4弾)
・2007年3月発売:各483円

5000形2輛セット
(モハ5001+5002)

・オープン販売
・2010年6月発売:1,890円

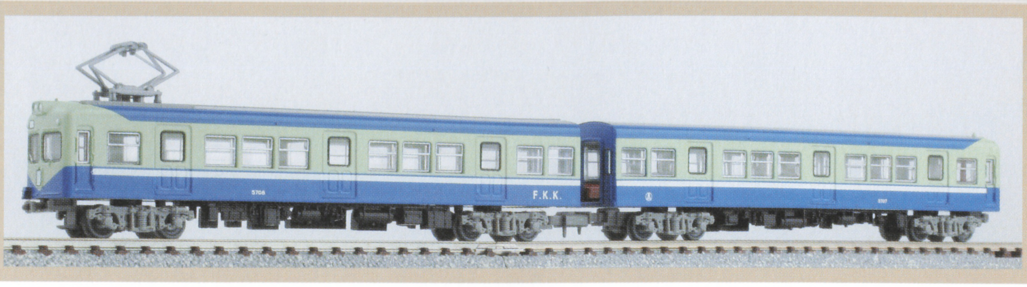
5000形2輛セット
(トーマスランド号)
(モハ5001+5002)

・オープン販売
・2010年6月発売:2,730円

鉄コレ富士急行フルラインナップ。総勢19輌は私鉄車輌としては実に最多を誇る。

5700系2輌セット（モハ5707+モハ5708）

・事業者特注品
・2006年10月発売：1,500円



モハ5721・モハ5722

・ブラインド販売（第3弾）
・2006年9月発売：各483円

モハ1208・モハ1308

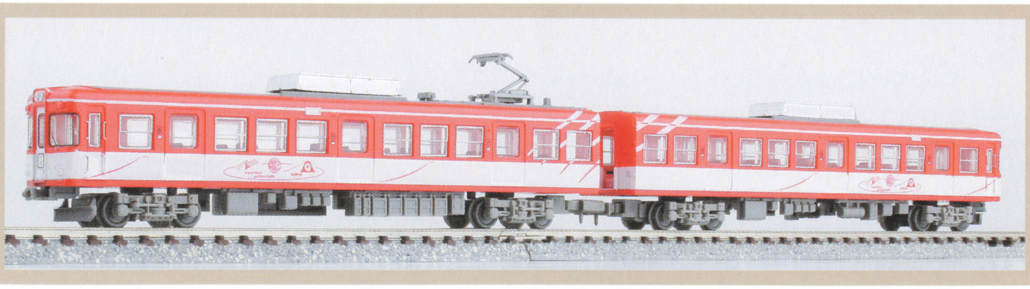
・ブラインド販売（第11弾）
・2010年1月発売：各630円

1000系開業80周年記念塗装2輌セット（モハ1202+モハ1302）

・事業者特注品
・2009年10月発売：2,200円

1000系マッターホルン号2輌セット（モハ1201+モハ1301）

・事業者特注品
・2010年10月発売：2,200円



編成例

※車番は鉄コレのプロトタイプに該当するもの

←富士吉田　　大月・河口湖→

■3100形

モハ 3100	モハ 3100
3102	3101
3104	3103

■7000系

モハ 7030	クハ 7060
7031	7061
7032	7062

■5000形

モハ 5000	モハ 5000
5002	5001

■5700系

モハ 5700	モハ 5700	+	モハ 5700	モハ 5700
5708	5706		2輌または	
5722	5721		4輌編成で運用	

■モニ100（モ1改造で製作可能）

モニ 100
101
102

■1000系

モハ 1200	モハ 1300	+	モハ 1000	モハ 1100
1201	1301			
1202	1302			
1208	1308			

1000系・1200系は単独2輌または様々な組み合わせにより4輌編成で運用

■（参考）JR東日本201系中央線

クハ 200	モハ 200	モハ 201	クハ 201

2007年3月以前はクハ201が、以降はクハ200が前面大型種別表示器付

鉄コレ改造作例
富士急行「リバイバルカラー」1001編成を作る

Text & Modeling：葉賀敏明

▲2009年6月に登場した、富士山麓電気鉄道時代のリバイバル塗装。シックなカラーリングは1000系にもよく似合う。
2010.10.24　河口湖　P：野牛弘幸

富士急行線開業80周年の2009年に相次いで登場したリバイバル塗装のうち、鉄コレで製品化されていない昭和20年代の塗装を復刻した1001編成を製作。製品と違和感なく並べるのを目的とし、ほぼ塗装変更だけのスッキリしたモデルを目指しました。

この1001+1101編成はセミクロスシートの1201+1301編成と共に富士急に最初に導入された元京王5000系で、車内がロングシートのままとなっています。

のちに投入された1002編成と異なり、貫通路の狭幅化を受けていないため、車体は同様の形態である琴電1100形を、屋根板は集中クーラーを載せた富士急製品を使っています。

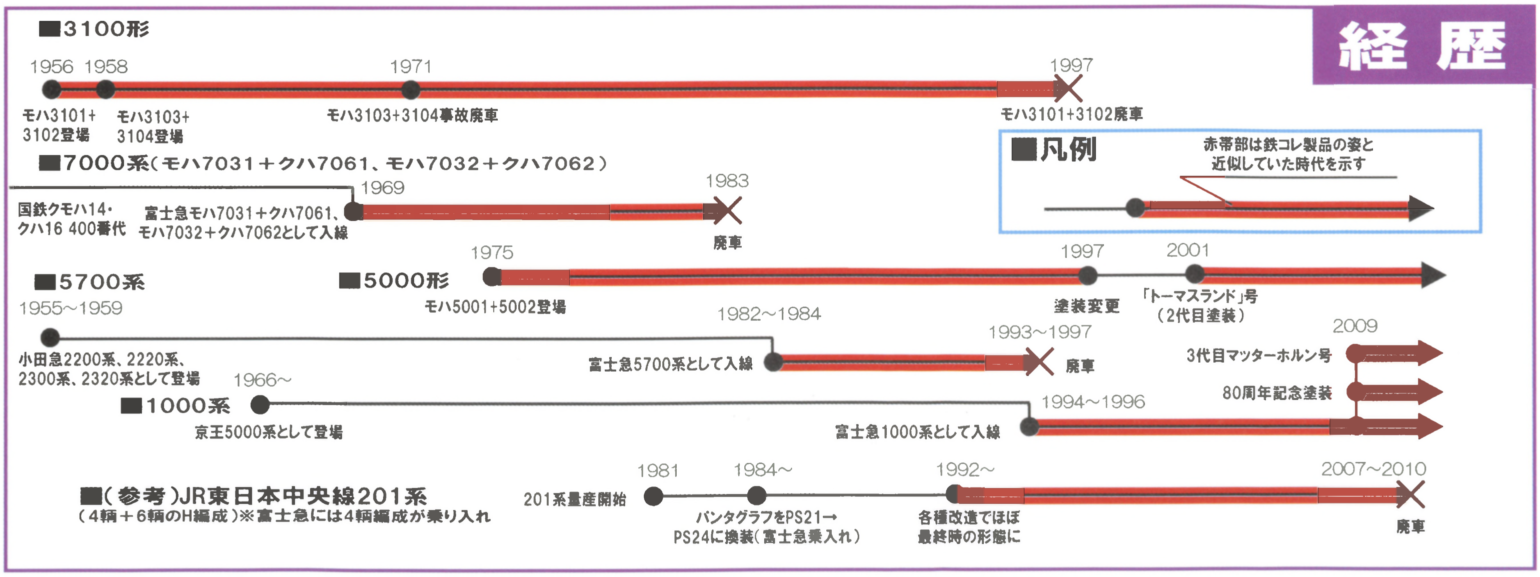
まず塗装を剥離してから、今回唯一手を加えたヘッドライトの透明化加工を行ないます。モールドを除去して市販パーツをおごっても良かったのですが、ライト中心にφ0.5の穴を開けた際にキレイに決まったので、精密ヤスリでそのまま拡大してクリアーのランナー引き延ばし線から作ったレンズを用意しました。

塗装はGM㉘西武アイボリーとクレオス131赤褐色を使用、仕上げに方向幕やライトのフチなどの細部塗装と標記を入れます。標記類は市販品がありそうですが、別作品を仕上げる際に作っておいた自作デカールを使用しました。

車体が仕上がったら、用意しておいたライトレンズを木工ボンドで接着し、あとは通常の鉄コレの再組立てと同様です。

これで我が鉄道の富士急車輌にバリエーションがひとつ増えました。土日の休みにできる気分転換のような工作も良いですね。

▲市販の鉄コレと違和感のないようスッキリまとめた1001編成。他の富士急車と異なり貫通路が広幅のままのため、車体は同じ京王5000系譲渡車の琴電1100形を使用している。



▲一足先に引退を迎えたデハ702を間に挟み、最後の吊掛車3連が運行された。デハ702は晩年、60年代頃にデハ301などに塗られていたとされる爽やかなブルー系塗装に変更されていた。復刻塗装といっても同車がこの塗装となるのは初めてだが、実によく似合っていたものだ。
2010.1.23　西海鹿島～海鹿島　P:羽山　健

銚子電鉄
デハ700・800形

Text:佐藤哲朗
Photo(模型):青柳　明(RMM)

近年はすっかり千葉の観光鉄道として有名になった銚子電鉄。第1弾でデハ301とデハ501が登場して以来、鉄コレでもおなじみの存在となっているが、最新の第12弾でついにデハ701・702・801が登場。近年まで活躍したその姿を手にすることが可能となったのである。

■限界まで活躍した古豪たちよ、永遠に…

電動車が1輌単位で増備され、しかもその多くが直接制御車であったこともあり、特に朝ラッシュ時の連結運転に支障をきたしていた銚子電鉄に、待望の新車として1978年に入線したのが、デハ701およびデハ702であった。

前歴は近江鉄道のモハ51・52で、1928年にデユワ101・102として登場した車輌を1941年に鋼体化したもので、1961年に両者共片運化されていた。入線にあたっては、西武所沢工場にて再度両運転台化され、その際に旧連結面側は3枚窓となり、2枚窓の元々の運転台側と両面で違う顔という面白いものとなった。入線後は、当時の銚子電鉄において唯一総括制御が可能な組み合わせということで、朝ラッシュ時のみならず多客期などの主力として活躍することとなった。

1991年頃に西武赤電風塗装から観光塗装となった後の1994年、テレビ東京系のバラエティ番組『おまかせ!山田商会』の企画でデハ701に特別塗装が施されることとなり、屋根や

▲鉄コレ第12弾で通常品としてラインナップされたデハ701。サボやワンマン標記まで細密に表現されている。

▲そしてシークレットとしてラインナップされたのが、双子の兄弟と言えるデハ702。最晩年の青系塗装であるだけでなく、各部がデハ701と異なる専用ボディとなっていた。

▲デハ701の外川側正面。入線時片運だったのを両運としたため、不揃いな大きさになった3枚窓がチャームポイントである。
2007.1.16　仲ノ町　P:佐藤哲朗

▲こちらは原形スタイルの2枚窓となっている銚子側正面。この角度で見ると、老朽化のために台枠が垂れ下がっている様子がよくわかる。
2007.1.16　仲ノ町　P:佐藤哲朗

ベンチレーターまで真っ黄色となった車体に、山田邦子氏デザインのカップルのイラストとトミーズ雅氏デザインのカニイラストが両側面に大胆に施され、車内には「カップルシート」やハート型の吊り革が装備されるなどの華やかな改装が施されたが、翌年同車が衝突事故を起こし、復旧の際に元の塗装に戻された。事故の際には台枠が歪んでしまい、復旧後も側面裾にはその跡が見られていた。また同車の引退が間近となった2007年には、以前同社車輌に塗装されていた青系のツートンカラーがデハ702に塗られ(実際には同車に塗装された実績はなかった)、引退までその姿を保つこととなった。

一方1985年に入線したデハ801は、1950年製の伊予鉄道モハ106を譲り受けたもので、こちらは既に両運転台車であったことから、西武赤電風塗装への変更などの整備は仲ノ町車庫で行なわれた。入線後は16.2mと同線一の大型車となったことから、以来主力として長きに渡って存在感を見せつけていた。

1994年に1000形が入線した後も、両形式共に変わらず活躍を続けたが、同線の経営悪化に伴う整備不良などで老朽化が進み、ついには国土交通省から「車輌更新の是正勧告」対象車となってしまうほどの状況となってしまった。2010年、奇しくもデハ801と同じ伊予鉄道から譲受した2000形に置き換えられてついに引退となった。今のところ、今後の処遇は未定であり、各車とも現在は沿線の各側線に留置中となっている。

▲デハ801。入線後は塗装変更程度の変化で長く主力として活躍した。この車輌も前後で顔が異なっており、代替で入線した2000系共々、因縁めいたものを感じさせる。
2007.1.16　笠上黒生　P:佐藤哲朗

■目ざせ! 銚子フルコンプ!

これまでデハ301・デハ501・デハ1000形が鉄コレ化された銚子電鉄。第12弾では、レギュラーでデハ701とデハ801、そしてシークレットアイテムとしてデハ702がお目見えした。

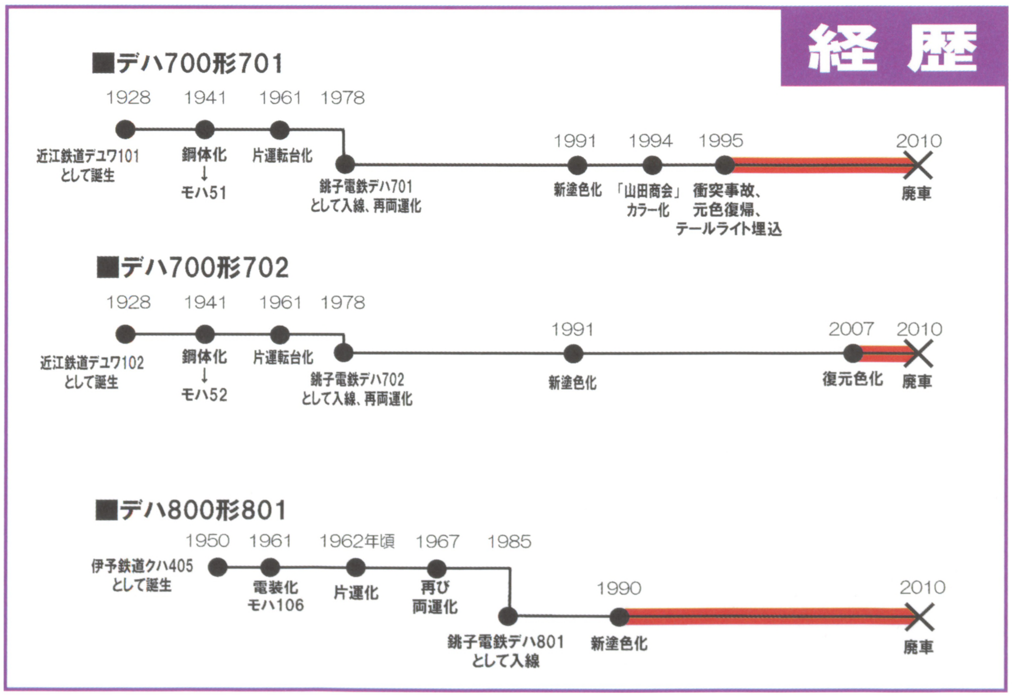
まずレギュラーの2種は、それぞれ1990年以降の観光塗色の、金彩や側面マークがなくなった最晩年の姿がモチーフとなっている。鮮やかな塗り分けはもちろん、前回のモハ1000形では再現されていなかった「銚子ー外川」サボやワンマン標記もしっかりと再現されており、買ったそのままで十分に鑑賞に耐えるレベルまで作り込まれているのが見事である。

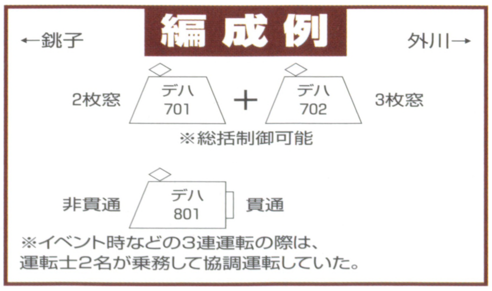
そしてシークレットのデハ702は、これまた最晩年の復元旧塗装姿がモチーフとなった。もちろん、デハ701の単純な塗装変更モデルではなく、ドア窓の違い(701は小窓)やテールライトの違い(701は事故復旧時に埋込化)などの細かな差異もきちんと再現されている。デハ701では、外川側のみが2灯シールドビームになっている点まで再現されているなど、そのこだわりも一級品と言える。

実車は惜しまれつつ引退してしまったが、モデルではこれからが活躍の本番となるだろう。モハ1000形と共に並べれば、苦境にめげず奮闘し続けた近年の姿が。旧塗装に塗り替えて、デハ301らと並べれば、旧型車華やかなりし80年代が再現できるだろう。いずれは新鋭2000形の製品化なども期待したいところであるが、ますます面白くなった銚子電鉄をおおいに楽しみたいものである。

▲第12弾に通常品としてラインナップされたデハ801。同一鉄道の、全く異なる形式が同時の弾にラインナップされるあたりに銚子電鉄の人気ぶりが窺える。

発売形態(発売日)	形式・車号
第12弾(2010年9月)	デハ700形701
	デハ800形801
第12弾(2010年9月) シークレットアイテム	デハ700形702(青系塗色)





鉄コレ改造で「最新」車を作った！
銚子電鉄2000形

MODELING, MAKING PHOTO &
TEXT：酒井　啓
PHOTO（模型・特記以外）：金盛正樹

▶勢揃いした「銚子オールスターズ」。時代設定は様々であるが、実にカラフルな陣容が手軽に再現できるようになったのも、鉄コレの大いなる魅力である。

■きっかけは…

千葉県在住の身として、同じく千葉県で奮闘している銚子電鉄には、以前から一度は訪れてみたいと思っていました。しかし同じ千葉県とはいえ、私の住まいと銚子は地理的に全く対称の地…。そのせいでなかなか足が向きませんでした。

そんなある時、親戚の結婚式が銚子市内で行なわれ、出席する両親を送ったその待ち時間を活かして、待望の銚子電鉄訪問を果たしたのです。乗って撮って…と楽しい時間を過ごした後、以前から親交のある平柳先生（本当に中学校の先生なので敢えて先生と呼ばせていただきます）にそのことを伝えると、なんと先生も前日に銚子を訪れ、モジュール製作のため外川駅の取材を行なっていたとのこと。私が新鋭車2000形の取材をしていると伝えたら、「車輌ができたらモジュールと一緒に撮影させて」とお返事をいただくことに…。快諾させていただいたものの、同時に「変なものは作れない…」と気合を入れ直して取り組むこととなりました。そのためもあって、取材不足だった部分を翌週に再度取材に出かけてしまうことになったほどです。

■

さて製作する2000形は、伊予鉄道が京王2010系を譲り受けた800系を、再び譲り受けたもので、元々3連だった編成の中間車に運転台を設置したため、編成の前後で違う顔となった特異な外観が特徴です。製作にあたっては、そういった特色を的確に再現するため、取材を綿密に行ない、製作に反映させました。

▲2000形4輌の表情。編成の前後で違う顔を持ち、それぞれ塗装が異なるため4種類の表情が楽しめるのが実に面白い。

■銚子寄り先頭車（2001、2002）

銚子寄り先頭車は、2010系元来の湘南型前面を持っています。製作にあたっては『ハイパーモデリング4』で京王2000系を製作された小川氏の記事を参考にさせていただき、鉄コレ新潟交通2220形に、GM京王3000系の前面を組み合わせる手法を採りました。

ヘッドライトはプラ板にタヴァサ（PN033）を差し込み、それをおデコに取り付けた後ポリパテを盛って整形。テールライトはBONA（P-208）を取り付けました。屋根は元車輌のものは使わず、後述の工作に用いた鉄コレ伊予鉄762から、幅と長さを詰めたものを車体に接着しました。

パンタ廻りの配管は本銚子駅の跨線橋から撮影した写真を元に再現。パンタ台は富士川車輌工業

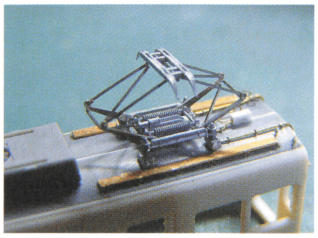
▲銚子の新鋭2000形2001編成。新潟交通（旧小田急2220形）をベースにし、優雅な関東型3扉スタイルをそつなく再現している。

▲2001編成。京王ファンにはとみに懐かしい「グリーン車」塗装となった姿は、早くもファンの間でも人気を集めている。 2010.11.4 仲ノ町 P：高橋 隆（RMM）

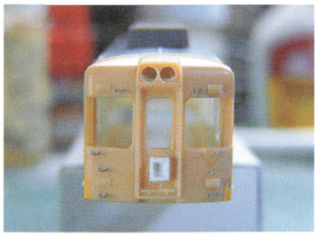
▲2002編成。「イオン銚子ショッピングセンター」のラッピング広告車として、派手な装いになったスタイルが目をひく。 2010.11.5 笠上黒生～西海鹿島 P：高橋 隆（RMM）

製のものを使用しましたが、誤って逆に付けていたことが後に発覚…。パンタはTOMIXのPG16を使いました。

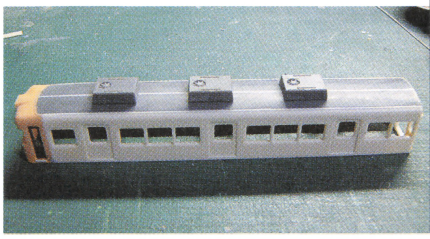
クーラーは、恐らくそのものズバリと思われる鉄コレ伊予鉄762のものを使用、正面のサボ受けはエバーグリーンのプラ材を切り出して組み立てました。床下機器は実車同様になるように鉄コレやGMのパーツを用いて並べてあります。



▲実車取材を参考に、作り込まれたパンタ周囲の配管。



▲京王5000系（狭幅車）の前面を切継ぎ、裾の絞りをストレートに修正する。



▲加工の途中の様子を見る。前面の切り継ぎや屋根の幅変更などの工作が見て取れる。

■外川寄り先頭車（2501、2502）

外川寄り先頭車は伊予鉄時代に改造され、京王5000系風の顔となった特異なスタイルを見せています。モデルでも元京王5000系である伊予鉄762の顔を使用しますが、実車同様車体断面が異なってしまうため、前面側の裾部分にポリパテを盛って整形しました。乗務員ドアは裾カーブが変わるため元のままではおかしくなるので、タヴァサ（PT-407）をはめ込んで平板なものにします。ヘッドライトもタヴァサ（PX038）に交換しました。その他屋根やクーラー、床下機器などは銚子寄と同様に加工しています。

■塗装と仕上げ

両編成とも、金属パーツにマッハ模型のエッチングプライマーを塗り、GM灰色9号を吹いて下地とし、本塗装に備えます。

まず2001編成は、京王電鉄時代のグリーン塗装となっています。過去の製作記事を参考にしながらいろいろと試してみましたが、その中で自分のイメージに近かったクレオスのルマングリーンを選び、塗装しました。

そして問題なのが2002編成。デビュー時から「イオン銚子ショッピングセンター」のラッピング広告電車となっており、それを避けては通れません。車体色自体はGM小田急アイボリーを吹き、車体側面のラッピングは、取材したデータをアルプスMDプリンターを所有している知人に渡し、制作を依頼しました。完成したデカールは全面に渡るもので、マークソフターを駆使しての貼付となりましたが、特に客ドアの下とクツズリの辺りがなかなか馴染まず大変苦労しました。車番や行先方向幕も、両編成共にデカールを作成して再現してみました。

屋上及び床下はGMねずみ1号を吹き、車体には半ツヤ、屋根にはツヤ消しのクリアーを吹いて、乾燥後組み立てて晴れて完成となったのですが、しかし今年の正月明けに再び銚子電鉄を訪ねてみたところ、なんと2002編成の白一色だった前面に、京王時代をイメージさせるような赤い線が入れられているではありませんか。そこでさっそく帰宅後、完成していた車輌に後から赤い帯のデカールを追加で貼ってみました。2001編成も湘南顔の窓のHゴムが白となっていたのですが、こちらは以前の方が好みなこともあって、そのままとしています。

最後に、この発表のきっかけを作っていただき、外川駅モジュールの撮影に私の車輌を使っていただいた平柳先生に、この場をお借りして心からお礼申し上げます（今回の車輌紹介でもモジュールを使わせていただきました）。

編集部より：文中で記されている、平柳 聡氏作の外川駅、キャベツ畑モジュールは、好評発売中の『鉄道模型Nゲージ大図鑑2011』に掲載されていますので、併せてご覧ください。

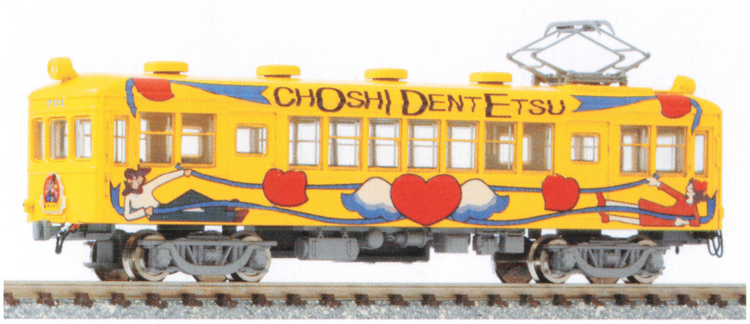
▲外川駅に佇む3001編成。入線する車輌は変わりゆくが、外川駅の趣きある駅舎は変わらずこの地に立ち続けているのが嬉しい。 モジュール製作＆PHOTO：平柳 聡

▲2002編成。大きな特徴である広告ラッピングは、MDプリンターによる自作デカールを製作して使用している。最近になって追加された前面の赤帯はデカールで追加している。

▲「澪つくし号」を単機で牽引するデキ3。鉄コレとしては番外となるが、銚子を語るのには欠かせないデキ3とユ101「澪つくし号」。いずれもワールド工芸のキットを組んだもので、個性的な電車群と共に楽しみたいアイテムである。

▲その他の作品をダイジェストでご紹介。ゲーム「桃太郎電鉄」のラッピング広告電車となっているデハ1001は、製品そのままながらN動力化で雰囲気アップ。

▲漫画「鉄子の旅」作者・菊池直恵氏のデザインによってシックな装いとなったデハ1002。デハ301に塗装された鉄コレはノベルティとして存在したが、こちらはもちろん実車通りにデハ1000形を塗り替えたもの。



▲テレビ番組「おまかせ！山田商会」の企画で派手な装いとなったデハ701。山田邦子氏デザインのカップルが描かれた面では、「CH』O』SH』ID』ENT』E』TSU」のロゴで「OIDE（おいで）」と読ませるなどの細かいこだわりが。

▲トミーズ雅氏デザインによる、カニが描かれた面。「横に動く電車」→「横に歩くカニ」という、ひと味違った発想から産まれたスタイルが、非常に楽しい雰囲気を出している。

▲銚子名物・キャベツ畑の中を行く2002編成。海風をたっぷり浴びて軽やかに走り抜けるその姿は、新生なった銚子電鉄の新たな魅力となっていくことだろう。
（左上写真と共にモジュール・背景画製作：平柳　聡）

鉄コレ知恵袋 アラカルト

鹿島鉄道キハ430形

Text：葉賀敏明、RMM
Modeling：葉賀敏明
Photo（特記以外）：青柳　明（RMM）

▲湘南顔の気動車が、2007年という廃止の時まで、ここ鹿島には3輌も在籍していた。手前がキハ431、奥は元夕張鉄道のキハ714。
2007.1.27　石岡　P：水野宏史

■実車について（TEXT：RMM）

鹿島鉄道キハ430形（431・432）の前身は、北陸の加越能鉄道が加越線用として1957年に東急車輌で新製したキハ120形（125・126）。全長16m級、前面は流行の湘南型2枚窓、側面はバス窓で2扉という形態。機関はDMF13B、変速機は当初から液体式TC2を搭載していた。1972年9月の路線廃止により、他の同僚3輌と共に関東鉄道に譲渡され、他の3輌が常総線の配属となったのに対し、125・126の2輌は鉾田線に配属され、キハ431・432となった。その後、関東鉄道鉾田線は1979年に鹿島鉄道として分社化。さらに1987年に車体更新・ワンマン化を受けている。1989年に軽快気動車のKR500形が導入されると、一時的にそれと同様のパステル調塗装を身にまとったが、1997年頃には元の朱色・クリームのツートン塗装に復旧。さらに2002年には432の正面が金太郎塗りになり、追って2003年には431が同様の金太郎塗りながら下半分が緑色とされて好対照の2輌となった。最後まで非冷房、旧型気動車のスパルタンな乗り心地を現代に伝えつつ、2007年の路線廃止で2輌とも廃車となった。共にちょうど50年の生涯であった。なお、2輌とも解体を免れて保存されている。

■作例について（TEXT：葉賀敏明）

鉄コレ第10弾のシークレットは鹿島鉄道のキハ

鉄コレ知恵袋 アラカルト

高松琴平電気鉄道

琴平線：高松築港～琴電琴平（32.9km）
長尾線：瓦町～長尾（14.6km）
志度線：瓦町～琴電志度（12.5km）

Text：佐藤鉄雄

▲晴れて3つの"ことでんカラー"が鉄コレで出揃った。一時の「コトデンそごう色」にもそれはそれで魅力があったが、やはり素朴なツートンカラーは地方私鉄らしく親しみやすい。こうなると茶系に塗られた旧型車も揃えたいところ!
P：羽田　洋

■ニューカラーとなった琴電の「今」

「琴電」の名で親しまれる高松琴平電気鉄道。以前は雑多な旧型電車で名を馳せた同鉄道も、近年は車輌更新が進み、2007年には非冷房の旧型車が通常運用から撤退。冷房化率100%を達成した。

この車輌整理とともに琴電のイメージを変えたのが、2002年導入のラインカラー制に伴う塗色変更だ。シンプルな2色塗り分けで車体上半はいずれもアイボリー、下半が琴平線：黄、長尾線：緑、志度線：ピンクに塗り分け。前面・側面には新制定の「ことでん」ロゴを貼付、動態保存の旧型車・全面広告車を除く全車に波及している。

鉄コレでも最近、このラインカラーに彩られた現行車輌がリリース。第12弾までに3つのカラーが1形式ずつ出揃った。今回はこれらの現行車3形式について紹介しよう。

●緑の長尾線…600形

1998～2002年、琴電では車輌規格の小さい長尾・志度線用に、元名古屋市交通局の地下鉄電車を改造のうえ導入。当初は後述の1100形とともに白＋緑＋グレーの「コトデンそごう色」と呼ばれる新塗装が施されていたが、2002年からのラインカラーへの塗り替えで2006年に消滅した。

このうち新製時から先頭車の700形（4輌）に対し、600形（24輌）は中間車からの改造で、元形式は250・700形（東山線）、1600・1700・1800・1900形（名城線）。250形は名古屋時代に先頭車化、残りはそれに倣って入線時に改造された。志度線用車は620番代で区分されている。

全車とも切妻・左右非対称のデザインは共通だが、改造時期や種車によって細かな形態差が見られる。外観上主なものを挙げると、

・元東山線車は種車が二重屋根で、冷房化時に上層を撤去したため前・側面上辺が屋根より高い。

・3基／1輌のクーラーのうち、中央は全車とも京王の発生品だが、両端は編成により小田急3100形由来、泉北高速100系由来の2種がある。

・元250形は前面窓が金属枠（車体色）、他はHゴム。

▲シークレットのキハ432(左)と通常品のキハ431。本来はこの2輌はほぼ同形態だが、時代設定の違いから、窓の大きさ、縦樋の有無、ステップ・尾灯形状などが異なっている。

▲シークレットをベースに、キハ431の最晩年の緑色塗装としたもの(左)と、元になったシークレットのキハ432。

▲最晩年の金太郎塗り分けとなったキハ432。茨城に来てからは35年を石岡の庫をねぐらに健気に働いた。　2005.9.13　石岡　P:葉賀敏明

432の末期の姿でした。

末期の姿と言っても、車体はノーマル製品のキハ431と違いが多く、1987年に大幅な更新を受けた形態が忠実に再現されており、小型化された正面窓や位置の下がった雨樋、追加された雨樋縦管など、形態的には全くの別物と言えるものでした。

私の手元にもこの貴重なシークレットモデルが2台やってきたのですが、こうなると同形態で腰板が緑に

入線時改造車は乗務員扉の窓位置が低い。

といったところ(車番との対照は別表参照)。鉄コレ化された601＋602は250形ベースで、クーラーは小田急＋京王。入線以来長尾線所属である。

運転は2連が基本で、2007年まではラッシュ時に旧型車を増結した3連が見られたが、鉄コレでは現行色の600形と素直に併結できる旧型車はまだなく、工夫を要する。また、まさに「今」の姿として、グリーンマックス発売の1300形(元京急1000形)との競演も楽しんでみたい。

◀鉄コレ化された601＋602(部分ラッピングがなされた姿)。元東山線車はモニター屋根を単層化したため、屋根が落ち窪んだ独特の形態。妻板上辺のカーブが元の上屋根の形である。張り出したステップは2006年の長尾線大型車対応化に伴う改造。　2006.8　仏生山　P:佐藤鉄雄

◀同じ長尾線の611＋612(参考)。元名城線の1800形で、元々ベンチレーター付の通常屋根だったため妻板天地が狭く、Hゴムの前面窓とともに上の601＋602とは趣を異にする。本車はこの後志度線へ転属、631＋632となった。　2007.3.23　瓦町～花園　P:水野宏史

●赤い志度線…700形

既刊『ジオラマコレクション完全マニュアル2』で紹介済のため詳細は割愛するが、製品の723＋724は元名市交東山線300形。長尾線701＋702として入線、2007年に志度線へ移り改番された。

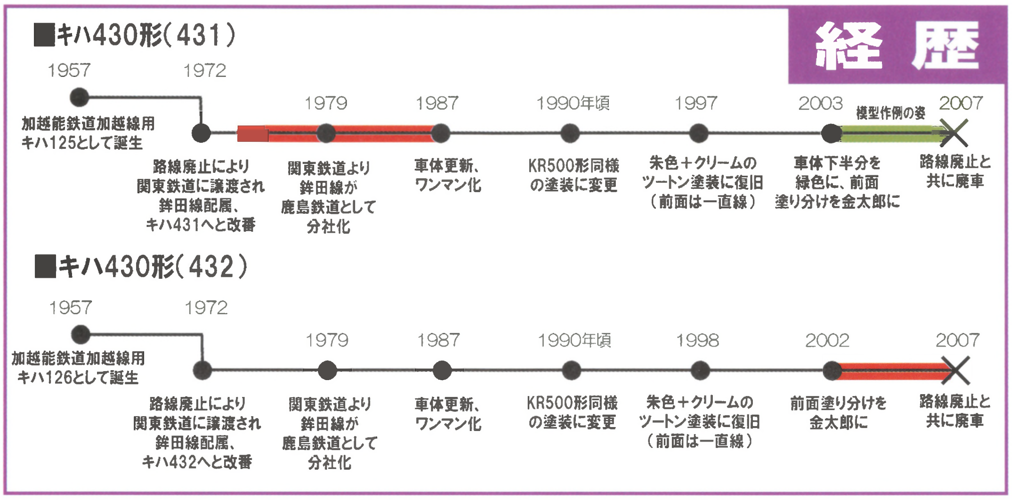
琴平・長尾線と線路が分断されているため顔合わせはなく、志度線の僚車も製品化されていないが、気になるのは長尾線用607～610から改造されて転入した増結Tc・801～804。Tcながらパンタを搭載し、連結面貫通路を埋め込んだ特異な存在だ。600形の加工で製作できれば700形の増結にも使え、変化がつくだろう。

●黄色の琴平線…1100形

1100形は元京王5000系。1997年に4編成8輌が入線した。いずれも1969年製の新製冷房車で、1輌あたり6基の分散クーラーを搭載。台車は京急由来のTS310に履き替えて標準軌化している。鉄コレ化された1105＋1106および1107＋1108は京王時代のクハ5700を電装したものだが、1101～1104は中間電動車デハ5000の先頭車化改造で、クーラー配置がわずかに異なる。登場時は「そごう色」で、現行色へは2005年度に塗り替え。現在も全車琴平線で

▲志度線の723＋724。700形は当車のほか、オデコの方向幕が特徴の721＋722(元名城線1200形)が存在する。　2008.11　今橋　P:広瀬晴一

▲シークレットをベースに、下半分の朱色部分にちょうど緑色を塗り重ねて手際よくキハ431へと変身させた。



塗られていたキハ431も欲しくなり、簡単に再現してみることにしました。

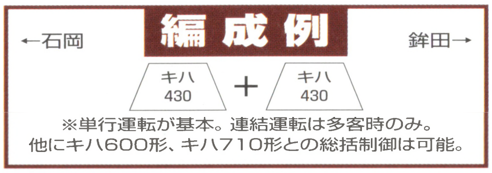
シークレットのキハ432との差は大雑把に見れば塗装だけですので、今回はアイボリー部分をマスキングして下半分に緑を塗ってみただけですが、塗装の違いからくる見栄えは抜群で、片側をTNカプラー装備にしてキハ432と組ませると良い雰囲気です。

肝心の緑はGM⑬の緑2号にわずかに白を足してくすませたものです。

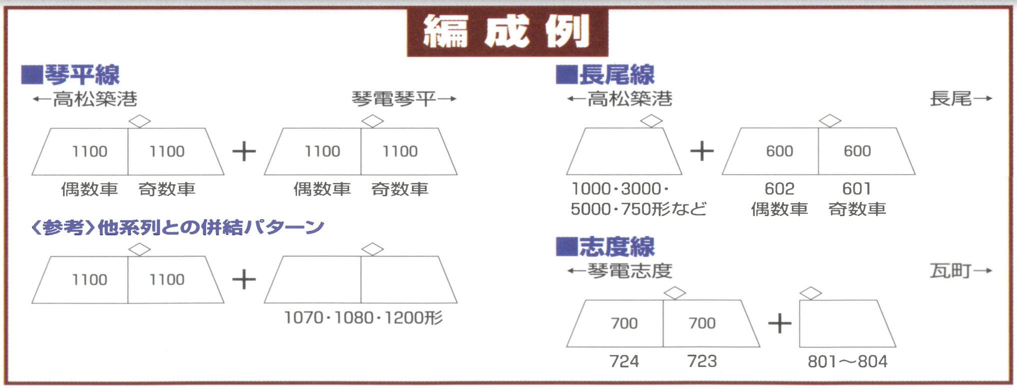
標記は富士急1001編成(29頁)と同じく、MDプリンターによる自作デカールです。

しかしこの形態のモデルがシークレットなのは、とても残念です。ノーマル製品と同様の塗り分けから、シクレそのものずばりの432、緑の431、そしてアイボリーに紫帯の新車と同じ塗装と、多くのバリエーションが考えられます。シクレとノーマルが逆でも良かったのでは?と思っています。

発売形態(発売日)	形式・車号
第10弾(2009年7月発売)	キハ430形431
第10弾(2009年7月発売) シークレットアイテム	キハ430形432(金太郎塗装)

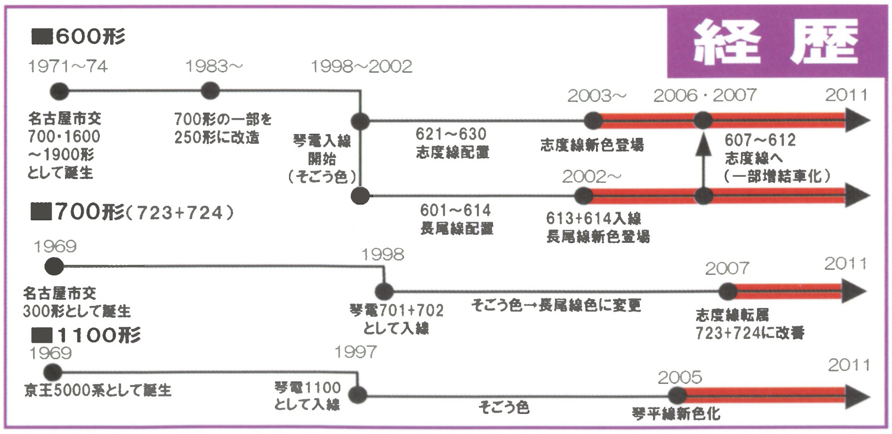


▲これも鉄コレナンバーの1100形1105＋1106。京王時代の通過表示灯はヘッドライトと連動して常時点灯している。
2010.4.19 高松築港～片原町 P:野牛弘幸



活躍している。

こちらも2連が基本だが、1100形同士の4連や、元京急の1070・1080・1200形との併結も見られる(「そごう色」時代なら1020形や1060形も可)。同形式4連は鉄コレ同士でお手軽に再現できよう。元京急車は種車のプラキットからの製作が早道だろう。グリーンマックスの1070・1080・1100形塗装済キットが入手できれば、塗装変更過渡期の雰囲気が再現できて面白い。



	車号	外板上辺	前面窓	乗務員扉窓	両端冷房	備考
長尾線	601＋602	高	金属枠	高	小田急	
	603＋604	低	Hゴム	低	泉北	
	605＋606	低	Hゴム	低	泉北	
	613＋614	低	Hゴム	低	泉北	
志度線	621＋622	高	金属枠	高	小田急	
	623＋624	高	金属枠	高	小田急	
	625＋626	低	Hゴム	低	小田急	
	627＋628	低	Hゴム	低	泉北	
	629＋630	高	金属枠	高	泉北	
	631＋632	低	Hゴム	低	泉北	元長尾線 611＋612
	801～804	高	Hゴム	低	泉北	増結用Tc 元長尾線 607～610

鉄コレ知恵袋 アラカルト

叡山電鉄600形

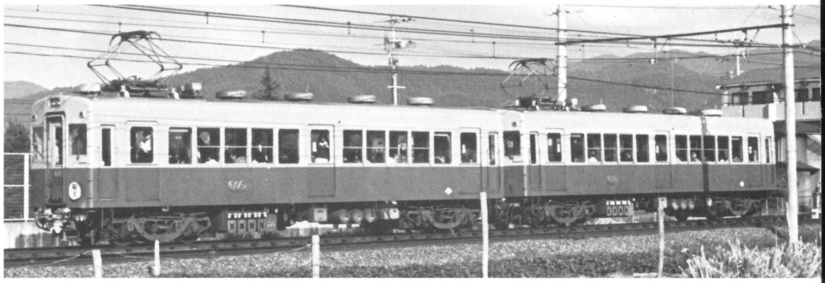
Text & Photo：高橋　脩

▲デオ900きららが登場した頃の叡電オールスターズ。左から、デオ720形、デオ600形、デオ900形、デオ800形。　1997.9.20　修学院

現在の叡電は1985年に京福電鉄より叡山線・鞍馬線が分社独立した路線である。デオ600形は、その京福電鉄時代の1979年2月に登場した形式。叡山・鞍馬線では1978年10月までトロリーポール（スライダー式）が使われていたが、本形式は廃止後の入線のため、ポール時代は経験していない。さて、叡山線では木造車デナ1形とデナ120形（事故廃車）の置き換えで元阪神のデナ500形を1964年より10輌導入していたが、50‰の勾配がある二軒茶屋以北には電気ブレーキが装備されていない関係で入線することができなかった。そこでパンタグラフ化が完了した翌年にデナ500形のパーツを使って新造されたのがデオ600形であった。車体は武庫川車輌製で、阪急電車のようなヘッドライトに屋根には私鉄では珍しいグローブ型ベンチレーターが装備されていた。

デナ500形の置き換えとして6輌登場したデオ600形は601＋602、603＋604、605＋606の2連1組で使われることが多かったが、この3本で車体形状が3種類に分かれていた。まず基本の601＋602に対して603＋604は車掌台側の窓の位置が上昇して前面の形状に変化があった。その603＋604の車体形状に、台車が弓型のボールドウィンの台車を履いたのが605＋606の編成であった。またポールさばき作業がなくなってから登場したデオ600形であったが、貫通扉の窓が開くようになっていたのも特筆されよう。両運転台で登場したデオ600形はその車体形状を生かして単行運転も行なわれていたが、デオ700形ワンマンカーシリーズ（デオ710・デオ720・デオ730）が登場し、単行運転がすべてワンマンカーで行なわれるようになると、デオ600形の単行運転も消滅した。デオ700形シリーズは登場時より冷房装置が装備され、その後にデオ800形シリーズ（デオ800・デオ810）も続くと、旧来の京福電車時代に登場した非冷房の車輌は随時置き換えとなり廃車されていった。さらに新しい叡電の顔とも言えるデオ900形きららが登場すると、代わりに600形2編成（601＋602と605＋606）が廃車。残った603＋604も叡山・鞍馬線全線ワンマン化が完了すると団体列車を除く一般営業には従事することがなくなり、2008年11月に廃車となった。

▲登場時のデオ600形（写真右はデナ500形）。廃車までの間で変化があったのは社紋などだけであった。　1979.2.18　修学院



▲弓型のボールドウィンを履いたデオ600形605＋606。種車であるデナ500形の台車の違いから、デオ600形でも2種類の台車が見られた。　1990.10.20　八幡前〜宝ヶ池

▲デオ600の屋根上。中小私鉄の新造車体の電車では珍しくグローブ型ベンチレーターが装備されていた。　1998.2.10　宝ヶ池〜修学院

▲デオ601号の鞍馬側前面。貫通扉横左上（車掌台側）に列車無線のアンテナがあった。　1998.3.18　貴船口

発売形態（発売日）	形式・車号
第12弾（2010.9）	デオ600形603

■デハ700形701　**経歴**

1979	1985	1990年頃	2008
車体新製 機器流用で誕生	京福電鉄から 叡山電鉄へと分離	前面に 新C.Iロゴが入る	廃車

※第8弾のデオ300形とは1979年〜1988年に同時在籍している。

編成例

←出町柳　　　　鞍馬・八瀬遊園→（現・八瀬比叡山口）

デオ600 ＋ デオ600

※通常2連だが、初期は単行もあり。

鉄コレ知恵袋 アラカルト

新潟交通クハ37 蒲原鉄道クハ10

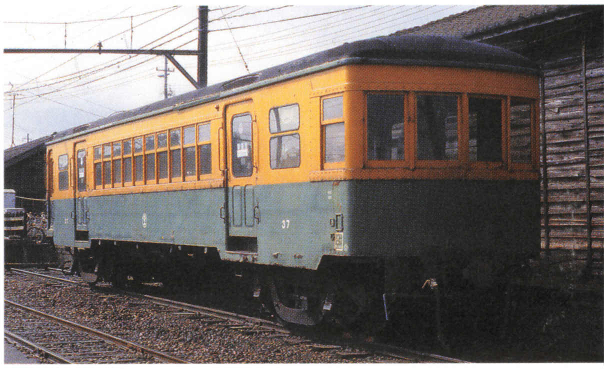
Text:RMM
Photo:長谷川興政

鉄道動力多様化の時期には様々な試行錯誤が行なわれ、紆余曲折を経た結果、当初とは全く異なる動力を得て働いた車輌たちがいる。蒸機改造のDLしかり（一連の森製作所製機関車など）、電車転じて気動車になったものしかり（小湊鉄道キハ5800など）。そしてその逆パターン、気動車転じて電車の制御車になったものが、奇しくも同じ新潟県に存する ローカル私鉄で1輌ずつ働いていた。21世紀になってまさかそんな変り種車輌がプラ製量産モデルで登場するとは…。

新潟交通のクハ37は、元国鉄キハ41000形（後のキハ04形）の41080。1934年・新潟鐵工所製で、1944年に国鉄廃車、1952年にクハ化改造の上で入線した。当初はキハ04形の面影をよく残すスタイルで、ただし台車はTR11に履き替えている。1972年、運転台側の前面を正面2枚窓に改造。恐らくこの際に扉位置、引き方向の変更などが行なわれているようだ。側扉は電車用で、オリジナルより幅広、下部にステップが露出している。その後、1978年に台車を弓型イコライザーのKS-30Lに交換。そして輸送人員の減少に伴い、1989年で廃車となった。

▲新潟交通クハ37。運転台は燕方で、2枚窓化されていた。併用軌道区間があることから排障器を持つ。台車は末期のKS-30Lを履いている。
1988.1　東関屋（2点とも）

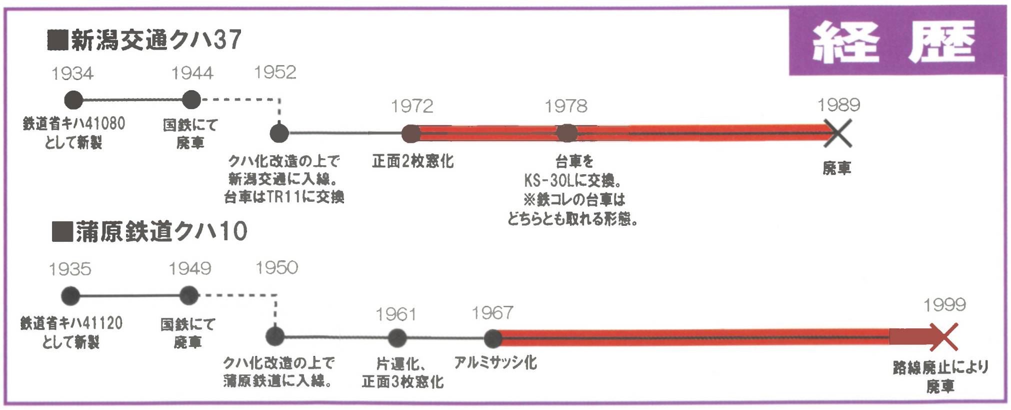
蒲原鉄道のクハ10は、同じく元国鉄キハ41000形の41120が種車。1935年・川崎車輌製で1949年に国鉄廃車、1950年よりクハ化改造の上で使用が開始された。当初はキハ04形のスタイルそのままだったが、1961年に西武所沢工場で五泉側前面の4枚→3枚窓化、加茂側運転台撤去及び貫通路設置、乗務員扉設置などが行なわれた。1967年には窓枠のアルミサッシ化も行なわれている。台車は最後までTR26のままで、車体外観も新潟クハ37に比べればはるかに原形の面影を残しており、実に1999年の路線廃止まで現役を貫いた貴重な存在であった。廃車時の車齢はなんと64年。末期は主にモハ71と組んで朝ラッシュ時の一往復にのみ運用されていた。現在は五泉市内で個人の手により保存されている。

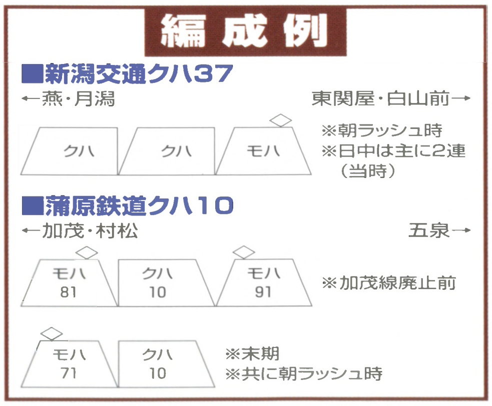


▲白山前方は運転台は撤去されていたが原形の面影を残す4枚窓だった。側面の戸袋部はシル・ヘッダーが廃され、Hゴム窓が上下に2枚並ぶ異様な様相。

◀蒲原鉄道クハ10。末期は写真の通りモハ71とほぼ固定編成を組み、朝ラッシュ（乗客のメインは高校生）に一日中で唯一の2連運用として一往復をこなしていた。
1995.9.9　村松

発売形態（発売日）	形式・車号
第10弾（2009.7）	新潟交通クハ37形37
	蒲原鉄道クハ10形10





ジオコレ カタログ

DIORAMA COLLECTION CATALOG
2009.4-2010.12

ここでは前回の『ジオラマコレクションマニュアル2』が発行された2009年4月以降から2010年12月までの間に発売されたジオコレ新商品につきまして、前刊同様の商品ジャンル別でのカタログ形式で紹介します。
なお1:150スケールではないものの、ジオコレと同様に鉄道模型サイズ(1:80)として企画されたいわゆる80(ハチマル)シリーズにつきましては、各ジャンルまとめて紹介いたします。

41 鉄道コレクション

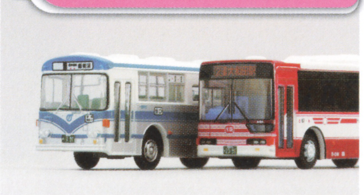
61 部品模型

62 ジオラマセット

63 建物コレクション

73 情景コレクション

83 ザ・バスコレクション



88 ザ・トラックコレクション

91 ザ・トレーラーコレクション

96 ザ・カーコレクション

102 建設機械コレクション

104 80(ハチマル)シリーズ

107 鉄道むすめコンテナ

01

鉄道コレクション

Text：RMM
Photo：青柳　明（RMM）、
羽田　洋、トミーテック

「鉄コレ」と言えば地方私鉄の小型電車…というのは過去の話。ユーザーによる「鉄コレはかくあるべき」論をヨソに、ここ1年半ほどの鉄コレはたくさんの「まさか」を繰り返してきた。そんなサプライズを順を追ってここにご紹介！

サプライズ1：ライトレールが出た！

鉄コレ黎明期の頃、パッケージに記してあった「昭和の良き時代」のコピーが、人知れず「さまざまな時代」に変わっていたことにお気付きだろうか。「鉄コレに現代の新型車輌は出ない！」と思われていたさなかの2009年8月、突如として最新型の次世代路面電車、富山ライトレールTLR0600形が発売されたのには多くのファンが衝撃を受けた。最新型、しかも路面電車と「鉄コレらしくなさ」という点ではダブルパンチであった。ご承知のように、TOMIXでは「ワイドトラムレール」と称する路面軌道を先般発売するなど、Nゲージ模型界では他社も含めて路面電車が花盛り。さらに鉄コレでは4月の発売予定で、京都市電など在来型の路面電車の発売も計画中だ。

サプライズ2：編成モノが出た！

鉄コレといえば1輌から3輌程度の短編成モノ…という概念を打ち破り、いきなり20ｍ級車4輌編成というセットが2009年12月に発売された。国鉄70系の中央東線／上越線である。従来からも「買い集めれば4輌編成も可」という製品がないわけではなかったが、いきなり4輌セット、しかも通好みの旧型国電とあって話題を呼んだ。しかも4輌それぞれに形態が異なるという凝りようをみると、コストダウン優先で車体共用が当たり前の初期の頃とは隔世の感がある。

サプライズ3：新性能国電が出た！

ところが4輌編成に驚いている場合ではなくなった。2011年1月には5輌編成の国鉄／JR201系が発売されたことは巻頭にて既述の通り。セット構成を考えると明らかに10輌編成を前提とした内容で、もう「鉄コレ＝短編成」の縛りは完全になくなったと言える。もはや車種選定の面でNゲージ鉄道模型と対等とも言えるラインナップが出揃っており、今後も良い意味で我々の期待を裏切るような製品が次々に発売されるに違いない。

▲「鉄コレらしくない車種選定」と多くのファンを驚かせた国鉄70系セット。写真は上越線仕様で、片方の先頭車が切妻のクハ75とされ、2輌入るモハも形態を変えるなど、旧型国電ファンをも唸らせる作り込みで話題を呼んだ。

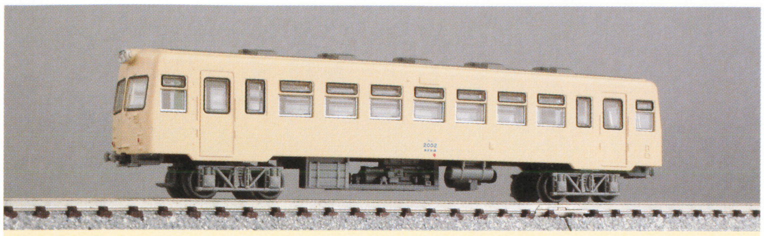
レギュラー品

第10弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種+シークレット1種
○2009年7月発売：各630円

第10弾ではシリーズ初の気動車として、国鉄キハ04形とその譲渡車や湘南型前面の16m級小型DCをラインナップ。非電化を想定したレイアウトでも遊べるなど、楽しみ方の幅が大きく広がった。

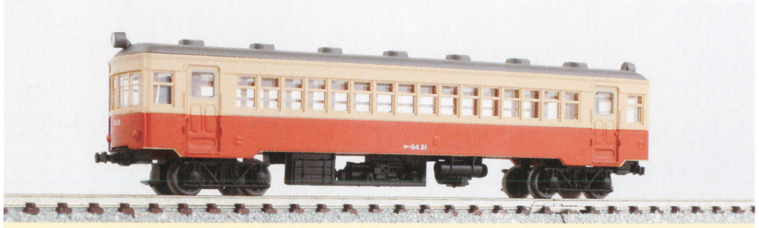
■【シークレット】鹿島鉄道　キハ432
同じ第10弾のキハ431が1980年代中頃までの姿なのに対し、こちらは正面金太郎塗り・前面窓縮小の晩年の姿を再現。



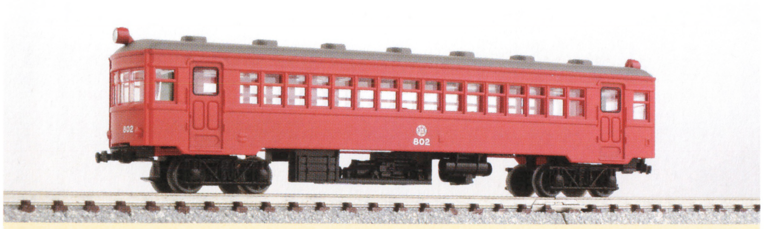
■東武鉄道 キハ2002
1983年に廃止された熊谷線用の気動車で、1954年の新製時から廃止まで同線で活躍した。モデルは晩年のセイジクリーム塗装。

■鹿島鉄道 キハ431
1957年製の元・加越能鉄道キハ125。廃止後移籍した関東鉄道鉾田線(→鹿島鉄道)で2007年の廃線まで活躍した。

■羽後交通 キハ3
1953年横荘線に登場、のち雄勝線に転属した。当時流行の湘南顔に片側のみバケットを付けたアンバランスさが特徴。

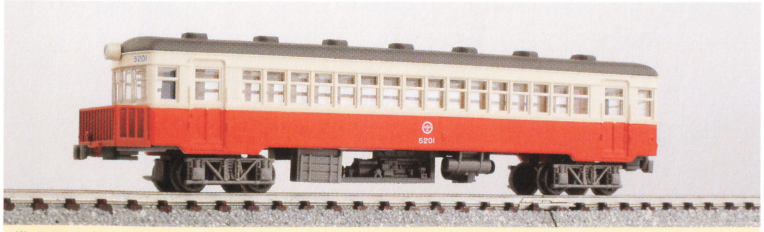


■国鉄 キハ04
戦前製の機械式気動車を戦後、ディーゼルエンジンに換装したもの。昭和20〜40年代にかけ、各地のローカル線で見られた。



■遠州鉄道 キハ802
国鉄二俣線直通用にキハ04を譲受したもの。当車はその後北陸鉄道・関東鉄道を経て、現在は鉄道博物館に収蔵されている。

■関東鉄道 キハ411
鉾田線(→鹿島鉄道)で使われた元キハ04で、片運化・前面2枚窓化でイメージが変化。同形のキハ412とペアを組んでいた。



■北陸鉄道 キハ5201
非電化の能登線用として国鉄から譲り受けたもの。片側にバケットが付くほか、転入時期が古く細部ディテールが原形に近い。

■同和鉱業片上鉄道 キハ302
これも元キハ04だが、窓下2灯化の前照灯が異彩を放つ。同僚の303は晩年、現役最後の旧キハ04として名を馳せた。

■新潟交通 クハ37
電車の制御車として転身した旧キハ41000。モデルは客扉移設や正面窓の2枚化などの改造で印象を大きく変えた晩年の姿。

■蒲原鉄道 クハ10
新潟交通クハ37と同様に旧キハ41000を制御車化したもので、こちらは比較的原形を保っている。1999年の全線廃止まで長く活躍した。

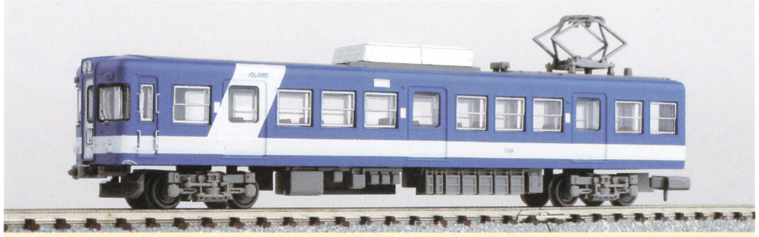
第11弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種＋シークレット1種
○2010年1月発売：各630円

第11弾は元京王5000系と元名鉄5200系の各私鉄譲渡車をラインナップ。いずれもパノラミックウィンドウの前面が特徴的な、およそ半世紀前に生まれた電車とは思えないフォルムが魅力だ。

■【シークレット】伊予鉄道　722

700系の増結車として使用される車輌で、ラッシュ時の3輌編成から切り離されて1輌で車庫へ戻る運用があることでも有名な車輌。



■富士急行 モハ1208

小田急から1982年より譲渡された5700系の代替として、1993年以降京王から譲渡された旧5000系。富士急では1000系となった。

■富士急行 モハ1308

1000系はこれまでの富士急標準塗色とは異なり、青地に白で富士山をかたどったストライプの入る新塗装とされた。

■高松琴平電気鉄道 1105

琴電では1997年より、琴平線用として元京王5000系を入線させた。現在はアイボリー地にイエローの琴平線塗色となっている。

■高松琴平電気鉄道 1106

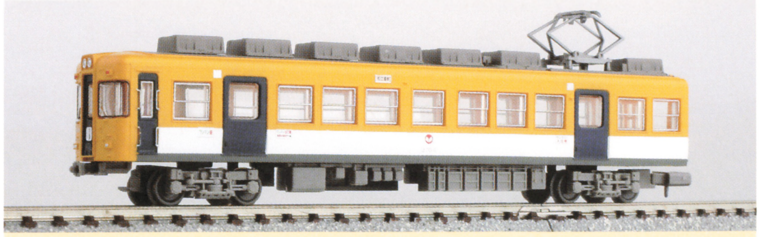
琴電琴平線に登場した元京王5000系は1100形と形式が改められ、同形式または京急からの譲渡車などと編成を組み活躍している。

■伊予鉄道 712

京王2010系の譲渡実績がある伊予鉄道にも1987年以降5000系が譲渡されることになり、700系として10本が導入された。

■伊予鉄道 762

712と編成を組むTc車。2輌編成のほかラッシュ時には722を連結し、3連で活躍する。モデル化された編成は初期製造の狭幅車である。



■一畑電車 2104

2100系は、1994年以降一畑電車に譲渡された元京王5000系で、2連4本のうち2本は譲渡時に3→2扉化改造がなされている。

■一畑電車 2114

2104と編成を組む2扉車改造車。2100系投入は2連4本で終了したが、後に2連2本が特急仕様車5000系として追加入線した。

■豊橋鉄道 モ1903

京王5000系とよく似た正面を持つ名鉄の元特急用車輌、5200系が豊橋鉄道に譲渡されたもので、譲渡時に冷房化改造がなされている。

■豊橋鉄道 モ1953

元名鉄5200系の譲渡車・豊鉄1900系は一時期豊鉄渥美線の主力車として活躍したが、1997年に昇圧のため全車引退した。

第12弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種+シークレット1種
○2010年9月発売：各735円

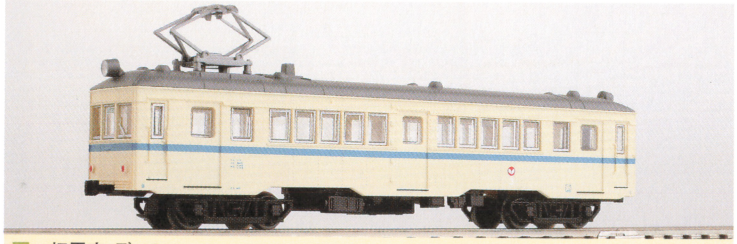
15～16m級の両運車を中心とした、「第1弾」発売時のコンセプトに比較的近いラインナップで好評を博した第12弾。小型レイアウトでの走行にも最適だ。

■銚子電鉄 デハ701

近江鉄道モハ51を前身とする15m級車輌で、僚友の702との間で銚子電鉄では稀少な総括制御が可能な車輌として重宝された。

■上田交通 モハ4257

富士急行の前身、富士山麓電鉄のモ1形として1929年に製造され、後に上田丸子電鉄（後の上田交通→上田電鉄）に譲渡された。



■一畑電車 デハ3

1927年の一畑電車電化用に新製されたデハ1形で、1978年に大社線用としてワンマン化改造がなされた際に外観が大きく変化している。

■銚子電鉄 デハ801

1985年に入線した伊予鉄道からの譲渡車で、入線当時は銚子電鉄最大の車輌として輸送力増強に貢献した。2010年に引退。

■高松琴平電鉄 601

名古屋市営地下鉄の東山線・名城線で活躍していた鋼製車輌、いわゆる"黄電"を1998年以降譲受したもので、緑色塗装は長尾線用。

■【シークレット】銚子電鉄 デハ702

デハ701と同様に元近江鉄道モハ51形の譲渡車で、晩年の702は銚子電鉄の旧塗装をイメージした青系の塗色が施されていた。

■近江鉄道 モハ51

銚子電鉄700形の前身の車輌で、元は木造車の鋼体化車輌。鋼体化後の1960年代の更新で正面2枚窓化や片運転台化がなされた。

■叡山電鉄 デオ603

京福電鉄叡山線時代の1979年に、阪神から譲渡されたデナ500形の機器を使って車体を新製したもので、2008年まで活躍が見られた。

■一畑電車 デハニ52

デハ1形と同時に誕生した荷物合造車で、こちらは自動扉化やアイボリー系への塗色変更が行なわれず、原形の面影をとどめていた。

■伊予鉄道 モハ106

1950年に制御車クハ405として新製されたものを電装した3扉車輌で、1985年に銚子電鉄に譲渡され同社デハ801となった。

■高松琴平電鉄 602

601と編成を組むパンタなしの制御電動車で、切妻先頭部の車輌は名古屋時代もしくは琴電入線時に中間車から先頭車化されたもの。

車輌セット

秩父鉄道1000系 リバイバル 3輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年2月発売：2,835円

国鉄初の新性能電車、101系が唯一現役で1000系として活躍する秩父鉄道では、創立110周年記念事業の一環として、1000系1本を1988年まで活躍した旧型車100形と同様の塗色に変更して運行を行なった。

■秩父鉄道 デハ1002

■秩父鉄道 デハ1102

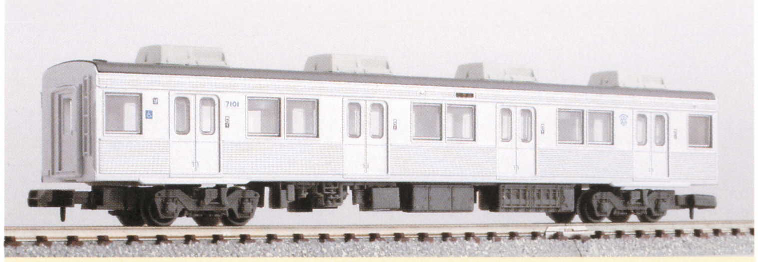
■秩父鉄道 クハ1202

秩父鉄道7000系 3輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年4月発売：2,835円

老朽化した1000系（旧国鉄101系）に代わる車輌として東急から入線した元8500系。実車も車輌によって屋根断面や先頭車化改造などの差異があり、モデルでも中間のサハ7101のみ異なる屋根断面が再現されている。

■秩父鉄道 デハ7001



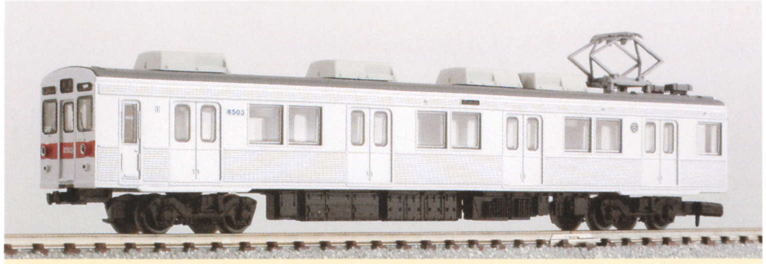
■秩父鉄道 サハ7101

■秩父鉄道 デハ7201

長野電鉄8500系 3輌セット

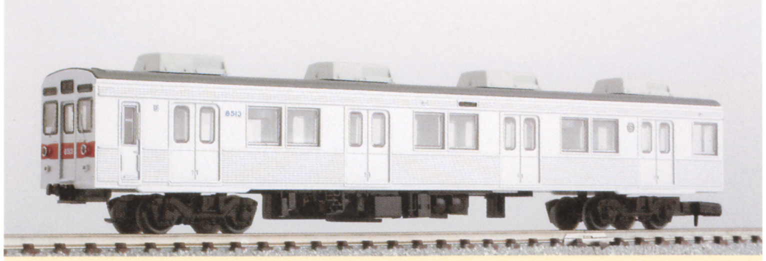
○オープンパッケージ販売
○2010年4月発売：2,835円

元東急の8500系を譲り受けたもので、長野電鉄では3連で使用されている。カラーこそ東急時代に比べ変化は少ないものの、床下機器の変更や貫通扉の設置など手を加えられている。



■長野電鉄デハ8503

■長野電鉄サハ8553



■長野電鉄デハ8513

銚子電気鉄道デハ1001（桃太郎電鉄）

○オープンパッケージ販売
○2009年4月発売：1,365円

銚子電鉄活性化の一環として登場した、HUDSONのゲームソフト「桃太郎電鉄」の広告電車。近年のラッピングカーらしい細かな絵柄も精緻な印刷でくっきり表現されている。

■銚子電気鉄道デハ1001（桃太郎電鉄）

富士急5000形2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年6月発売：1,890円

1975（昭和50）年に2連1本が新製された高性能車。国鉄車輌との共通部品を多用しているため、どことなく国鉄近郊型電車に通じるフォルムが特徴。

■富士急5002

■富士急5001

富士急5000形（トーマスランド号）2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年6月発売：2,730円

1997（平成9）年に富士急ハイランド内にオープンした「トーマスランド」をアピールするため、同年以降5000形には「きかんしゃトーマス」のキャラクターがデザインされたラッピングが施されている。

©2011 Gullane (Thomas) Limited.

■富士急5002

■富士急5001

西武351系 3輌セット

○オープンパッケージ販売
○2009年9月発売：2,835円

西武最後の旧性能車として1990年まで活躍した、湘南顔の17m車。レギュラー販第4弾の大井川鐵道312系の前身となった車輌だ。旧運転台部だけシル・ヘッダーが途切れる、いかにも改造車然としたサハも魅力的。

■西武クモハ351

■西武サハ1314

■西武クモハ352

西武鉄道571系 2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年2月発売:1,890円

20m級3扉の車体に切妻ボディと、第7弾にあった西武451系と似ているが、この571系は中間車として製造された車輌を先頭車化改造したもの。増結用や多摩川線などの支線で活躍した。

■西武クモハ571

■西武クハ1572

三岐鉄道601系 2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年2月発売:1,890円

これも第7弾にあった三岐601系(クモハ601 +クハ1602)と似ているが、種車が西武451系から571系とされたクモハ607 +クハ1608がモデルとなり、両形式由来の差異とともに客扉がアルミ無塗装化された姿を再現している。

■三岐クモハ607

■三岐クハ1608

和歌山電鐵いちご電車 2270系 2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年10月発売:2,730円

南海電気鉄道の貴志川線を引き継ぎ、2006年4月より運行を開始した和歌山電鐵では、電車の一部に独自のデザインを施しているが、そのうちのひとつ、沿線の名産品・いちごをモチーフとした電車。

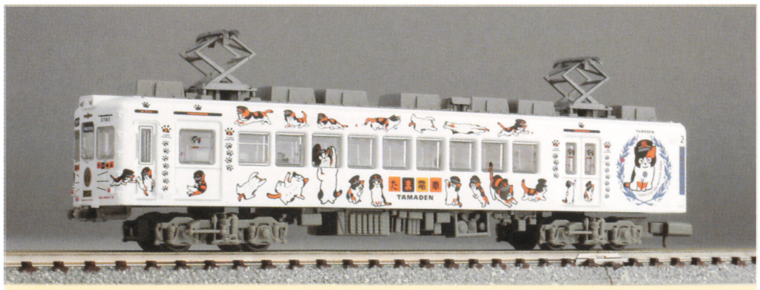
■和歌山電鐵2701 いちご電車

■和歌山電鐵2271 いちご電車

和歌山電鐵たま電車 2270系 2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年10月発売:2,730円

こちらはやはり南海電鉄より引継の2270系に、貴志川線貴志駅で「猫駅長」として親しまれている三毛猫の"たま"をデザインしたもの。実車に倣い窓が埋まった部分やガラスにはみ出したラッピング模様まで再現。


■和歌山電鐵2705 たま電車

■和歌山電鐵2275 たま電車

愛知環状鉄道100・200形 2輌セット

○オープンパッケージ販売
○2009年4月発売：1,890円

2008年10月に発売されたえちぜん鉄道MC6001・6101形の前身で、1988年の愛知環状鉄道開業時から2005年の愛知万博終了後まで在籍した。譲渡後とは全く異なるイメージながらこちらも複雑な塗装で、塗装済で手に入るのはありがたい。

■愛知環状鉄道101

■愛知環状鉄道201

名鉄3730系 2輌セット スカーレット

○オープンパッケージ販売
○2010年3月発売：1,890円

戦後、名鉄線内に多数残存していた木造車や初期の鋼製車を種車とし、主要機器を流用のうえ車体を新製したいわゆる“HL車”の仲間。3700系に対し客扉が両開き化され、戸袋窓がなくなったのが特徴。

■名鉄モ3762 スカーレット

■名鉄ク2762 スカーレット

名鉄3730系 2輌セット 旧塗装

○オープンパッケージ販売
○2010年3月発売：1,890円

上記3730系の登場時の塗色を再現したモデル。“HL”と呼ばれた手動進段車は、車体は新製でも機器流用による性能面での見劣りは如何ともしがたく、支線区で活躍したのち姿を消していった。

■名鉄モ3733 旧塗装

■名鉄ク2733 旧塗装

名鉄5200系 2輌セット スカーレット

○オープンパッケージ販売
○2010年4月発売：1,890円

名鉄初の高性能車5000系の増備車として1957年に誕生した車輌で、12輌と少数派ながらパノラミックウィンドウの正面や一段下降窓の側面など、斬新なデザインで注目を浴びた。後に全車が豊橋鉄道へ譲渡された。

■名鉄モ5210 スカーレット

■名鉄モ5209 スカーレット

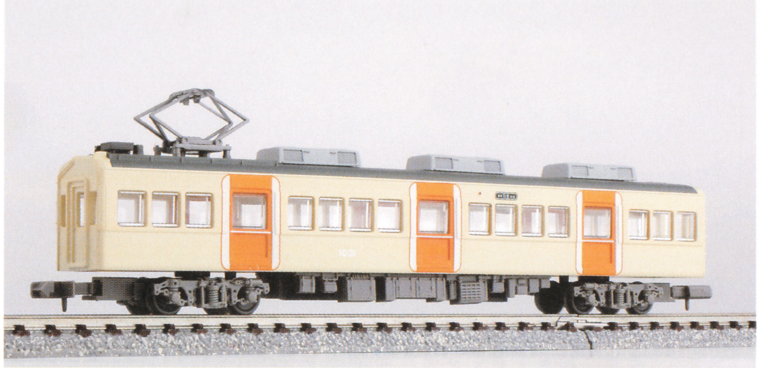
能勢電鉄1000系 4輌セットA（引退時カラー）

〇オープンパッケージ販売
〇2010年5月発売：3,780円

能勢（のせ）電鉄は阪急の子会社であることから、車輌も元阪急譲渡車で占められる。1000系は阪急の初期高性能車1010系ならびに1100系を譲受したもので、晩年は俗に「フルーツ牛乳」と呼ばれるカラフルな塗色であった。

■能勢電鉄1001（引退時カラー）

■能勢電鉄1081（引退時カラー）



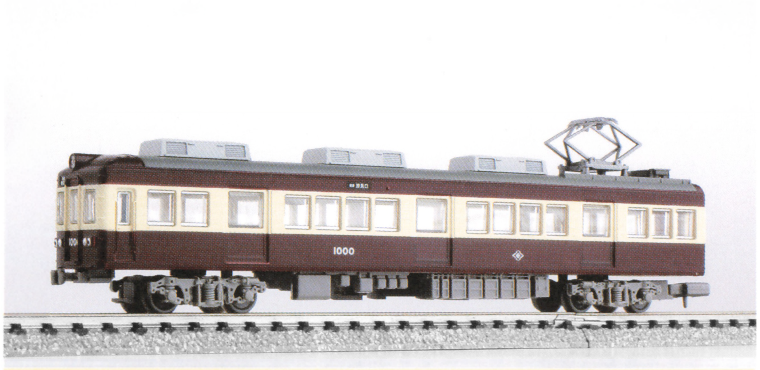
■能勢電鉄1031（引退時カラー）

■能勢電鉄1051（引退時カラー）

能勢電鉄1000系 4輌セットB（登場時カラー）

〇オープンパッケージ販売
〇2010年5月発売：3,780円

4連2本が導入された1000系は、1000Fが阪急元1010系（神戸線用）、1001 Fが元1100系（宝塚線用）と種車が異なる。能勢電鉄入線当時は、阪急電車の面影を残すマルーン主体の落ち着いた塗装であった。



■能勢電鉄1000（登場時カラー）

■能勢電鉄1080（登場時カラー）

■能勢電鉄1030（登場時カラー）

■能勢電鉄1050（登場時カラー）

国鉄70系 上越線 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2009年12月発売：3,780円

20m級の国鉄車輌4輌セットという、発売当時の鉄コレシリーズではトップクラスの大型製品であった70系。本セットは派手な出で立ちの上越線仕様で、豪雪地らしい先頭台車装着のスノープラウや、中間1等車からの改造先頭車・クハ75が見どころとなる。

■クハ76029

■モハ70025

■モハ70097

■クハ75006

国鉄70系 中央東線 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2009年12月発売：3,780円

同じ70系でも、こちらは横須賀線と同様にスカ色に塗られた中央東線仕様。中間に小断面トンネル通過対策としてモハ71、モハ72850という低屋根車を組み込んでいるのがポイント。両側の先頭車でトイレ位置や前面窓が作り分けられている。

■クハ76063

■モハ71009

■モハ72852

■クハ76036

国鉄70系 中央西線 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年10月発売:3,780円

戦後国鉄の近郊型電車の決定版とも言える70系は、横須賀線を皮切りに関東・関西の各線区に投入されたが、その後の横須賀線の新性能化などにより全国の直流電化線で活躍が見られた。中央西線もそれらのひとつだ。

■クハ76300

■モハ70078

■モハ70310

■クハ76043

国鉄70系 阪和快速 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年10月発売:3,780円

1955（昭和30）年に阪和線快速電車として投入された70系は、クリーム色と緑色という今までにない塗装で投入された。当時の新製車は70系の中でも全金属製の300番代となり、スマートな車体が特徴であった。

■クハ76315

■モハ70318

■モハ70319

■クハ76314

国鉄101系中央線 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年2月発売：3,780円

国鉄新性能電車のさきがけとして1957年より中央線に投入された101系は、音の静かなカルダン駆動や両開き扉とともに、明るいオレンジの車体が当時は新鮮でイメージアップに貢献した。

■クモハ100-102

■モハ101-59

■サハ101-219

■クハ101-67

国鉄62系 4輌セット

○オープンパッケージ販売
○2010年6月発売：3,780円

当時車体の陳腐化が目立っていた旧型国電72・73系列を種車として、1974（昭和49）年に115系並みの新製車体に載せ替えたもの。4輌編成3本が改造され、身延線で活躍した。

■クハ66000

■モハ62000

■モハ62001

■クハ66301

イベント限定品

名鉄5200系 2輌セット 旧塗装

○オープンパッケージ販売（イベント限定）
○2010年4月発売：1,890円

通常品でも発売された5200系の登場時の姿。こちらの塗色はイベント販売限定品とされ、各地の鉄道や模型関係のイベント会場でのみ発売される。

■名鉄モ5202旧塗装

■名鉄モ5201旧塗装

メディア付録

里山交通キハ1001（講談社刊『週刊 鉄道模型 少年時代』付録）

○雑誌付録
○2009年8月発売
○問：週刊鉄道模型少年時代
お問い合わせダイヤル
TEL：03-6826-8871

冊子と共に届く各号のジオラマパーツを75巻分組み合わせると、600×450mmのミニレイアウトとその中を走る車輌が完成するという週刊の鉄道模型製作マガジン。車輌は創刊号の付録とされた「里山交通キハ1001」で、第10弾国鉄キハ04形塗り替えのフリー気動車。

■里山交通キハ1001（フリー気動車）

一畑電車デハニ50形（松竹発売DVD／ブルーレイ『RAILWAYS』豪華版付録）

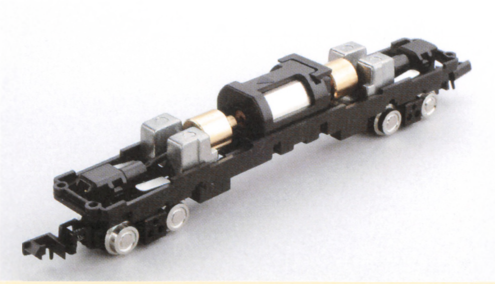
○DVD／ブルーレイ付録
○2010年10月発売
○問：松竹DVD倶楽部
TEL：0120-135-335
（受付：平日10:00～17:00）

2010年5月に松竹より封切りされた話題の映画、『RAILWAYS［レイルウェイズ］～49歳で電車の運転士になった男の物語～』のDVD／ブルーレイのうち、豪華版のみに付属した鉄道コレクション限定モデル。映画中で"準主役"級の出演を見せた一畑電車デハニ52・53の2輌がモデルで、現定数5253個はたちどころに売り切れとなった。第12弾のデハニ52とはカプラーが異なるほか、53ではアルミサッシ窓を再現している。

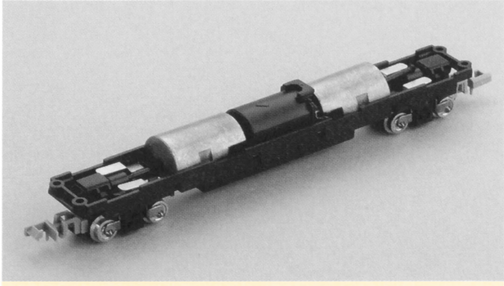
■一畑デハニ52

■一畑デハニ53

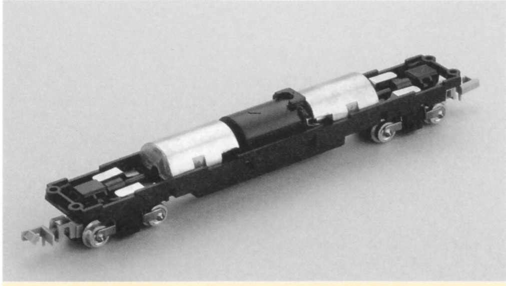
専用動力ユニット



■TM-11（16m級用C）2009年7月発売：2,940円
16m級気動車に使用可能な、軸距12mmのタイプ。



■TM-12（19m級用A）2010年1月発売：2,940円
関西私鉄ファン待望の19m級動力。軸距14mmのタイプ。



■TM-13（19m級用B）2010年4月発売：2,940円
こちらも19m級動力だが、旧型車輌向きの軸距16mm。

新型LRV（次世代型路面電車）

富山ライトレール

○オープンパッケージ販売（全7種）
○2009年8月（赤、黄緑、紫）・11月（他4色）発売：各1,470円

これまでの「懐かしい昭和の車輌」とは一線を画す最新型LRV、富山ライトレールTLR0600形が登場。ワンタッチで装着できる専用動力やプラ製可動式パンタなど、新たな特徴を備える。
※車輪は製品状態では回転しません。また走行化パーツ（TT-03・04）には対応しません。

■富山ライトレールTLR0601（赤）

■富山ライトレールTLR0602（橙）

■富山ライトレールTLR0603（黄色）

■富山ライトレールTLR0604（黄緑）

■富山ライトレールTLR0605（緑）

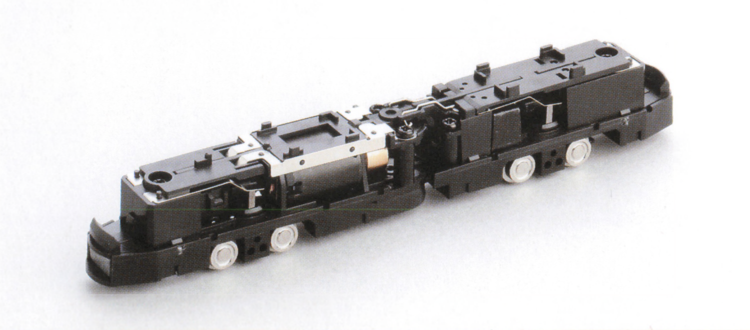
■富山ライトレールTLR0606（青）

■富山ライトレールTLR0607（紫）

ライトレール用動力

○2009年8月発売：3,465円

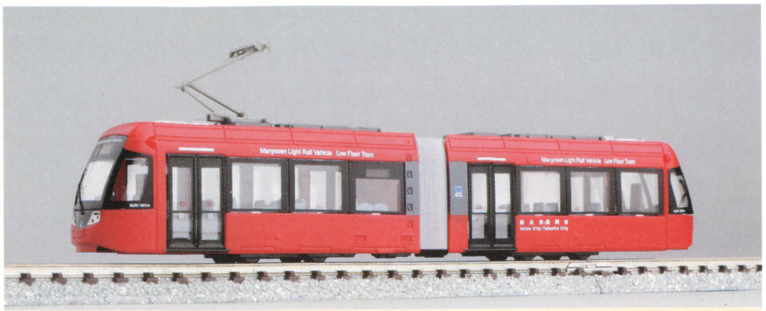
「富山ライトレール」発売に合わせ、一連のライトレールに適用される専用動力「TM-LRT01」が発売された。スーパーミニカーブレール（C103）・ミニカーブレール（C140・C177）が通過可能な小回りの利く動力だ。


■TM-LRT01

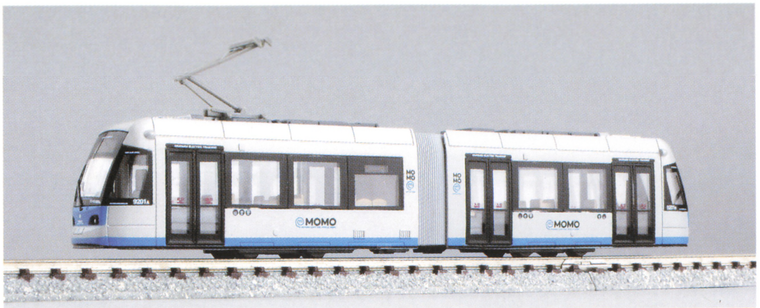
ライトレール3種（万葉線・岡電・熊本市）

○オープンパッケージ販売
○2010年4月発売：各1,470円

「富山ライトレール」に次ぐLRVとして、3社局の新型路面電車が発売された。TLR0600形の色替えではなく、前面デザインや扉配置の違いも作り分けられている。
※車輪は製品状態では回転しません。また走行化パーツ（TT-03・04）には対応しません。



■万葉線アイトラム



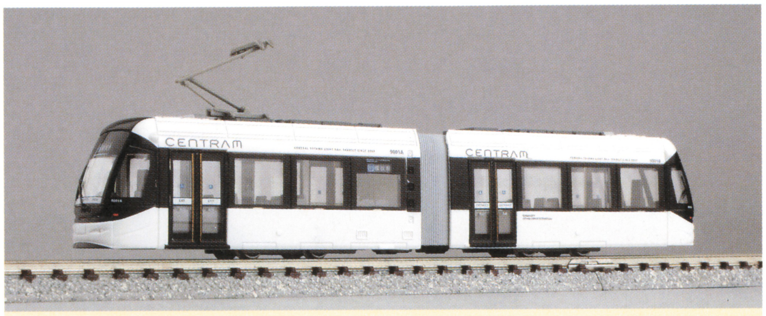
■岡山電気軌道MOMO

■熊本市交通局0800型

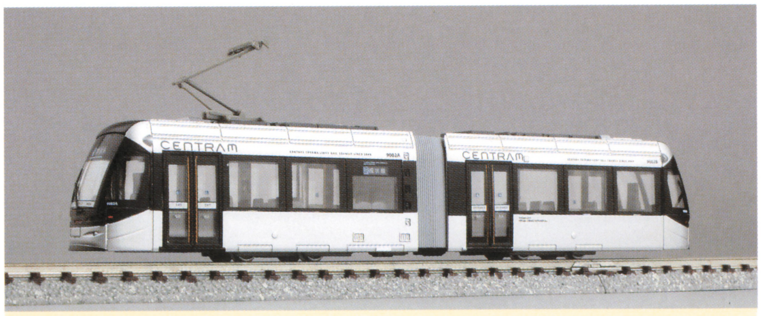
富山市内線 セントラム9000形

○オープンパッケージ販売
○2010年6月発売：各1,680円

2009年、既存の富山市内線に新線を開通させることで環状運転を可能にしたが、この際に環状線（愛称：セントラム）の専用車輌として増備されたのが3輌の新型LRV・9000形で、白・銀・黒とシックな装いが特徴。モデルは製品状態でも車輪が回転する。
※走行化パーツ（TT-03・04）には対応しません。



■セントラム 9001（ホワイト）



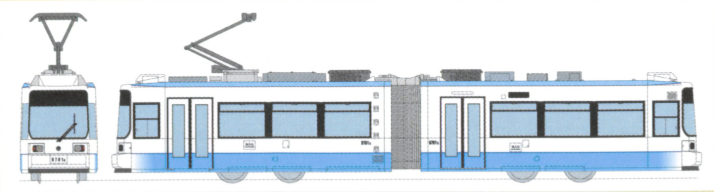
■セントラム 9002（シルバー）

■セントラム 9003（ブラック）

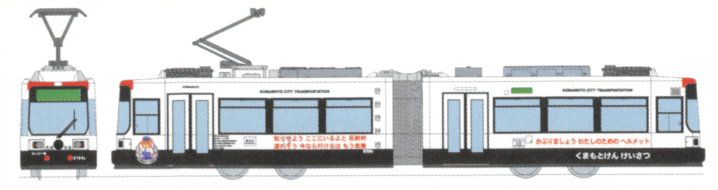
ライトレール予定品

熊本市交通局9700型

鉄道コレクションのライトレールシリーズに、昨今各地で登場している新型路面電車・低床式電車のさきがけとして、1997年に登場した熊本市交通局9700型が加わります。　※イラスト・写真と実際の製品仕様とは異なる場合があります。　※製品の都合上、模型は車体長さなど一部実物と異なる場合があります。



■熊本市交通局9700型1次車（9701）　3月発売予定：1,890円



■熊本市交通局9700型3次車（9704）　3月発売予定：1,890円

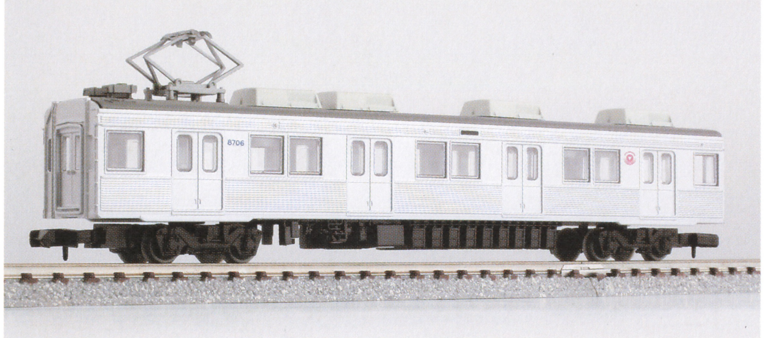
事業者特注品

東京急行電鉄8500系 3輌セット

○発売元:東急車輌電車市場
○2010年9月4日発売:3,300円

1975（昭和50）年に登場後、1991（平成3）年に至るまで大量増備が続けられ、田園都市線を中心に東横線、大井町線で活躍するなど東急ステンレスカーを代表する車輌と言える。先頭車1輌＋中間車2輌でモデル化。

■東急デハ8606



■東急デハ8706

■東急サハ8923

東京急行電鉄3600系 2輌セット

○発売元:東急車輌電車市場
○2009年6月発売:2,100円

国電の戦災車を東急が譲り受け復旧したものが3600系列で、先に発売された弘南鉄道譲渡後仕様に続き、事業者特注品として東急時代の姿が発売された。3600系列の中でも全鋼製のスマートなボディを持つタイプ。

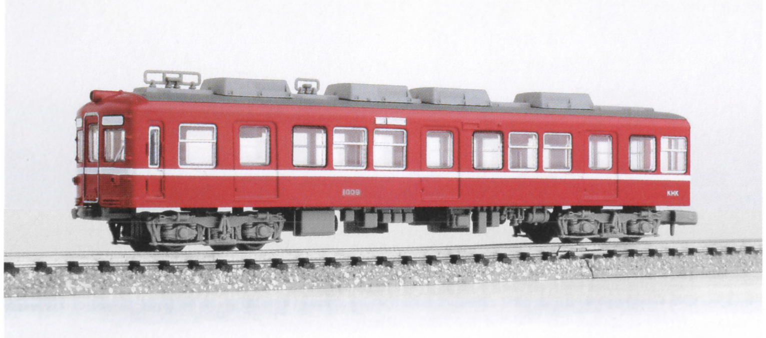
■東急デハ3601

■東急クハ3671

京浜急行電鉄1000形 2輌セット

○発売元:京急百貨店
○2010年12月発売:2,300円

1958（昭和33）年に試作車（初代800形）が誕生して以来、半世紀に渡り京急の主力車輌として活躍を続けてきた旧1000形をモデル化。プロトタイプは1959年から製造された1次車の冷房改造後の姿。



■京急1000形先頭車

■京急1000形中間車

東武鉄道5700系 2輛セット

○発売元：東武商事
○2009年11月発売：2,000円

往年の東武を代表する優等列車用電車。製品は貫通型前面で、前面窓がHゴム支持となった後年のタイプ。立体的な貫通幌やベンチレーターなど、別パーツが効果的に配されて細密感を盛り上げている。

■東武モハ5700形

■東武クハ700形

東武鉄道7300系（旧塗装）2輛セット

○発売元：東武商事
○2010年12月発売：2,000円

運輸省より割り当てられた戦時設計の国鉄モハ63形を元とし、戦後の増備車7800系と同様の車体に載せ替えられた通勤型電車。第9弾にてクリーム色でモデル化されたが、今度はそれ以前のツートンカラーとされた。

■東武モハ7300形（旧塗装）

■東武クハ300形（旧塗装）

富士急1000系 開業80周年記念塗装 2輛セット

○発売元：富士急行
○2009年10月発売：2,200円

富士急の主力となっている元・京王5000系のうち、開業80周年を記念して一世代前の標準色に塗られた編成をモデル化。京王5000系譲渡車はレギュラー版（第11弾）でも発売されたが、それに先駆けての登場となった。

■富士急モハ1202 開業80周年記念塗装

■富士急モハ1302 開業80周年記念塗装

富士急1000系 マッターホルン号塗装 2輛セット

○発売元：富士急行
○2010年10月発売：2,200円

富士急とは姉妹提携にある、スイスのマッターホルン・ゴッタルド鉄道と同様の塗色を既存の1000系（元京王5000系）電車に施したもので、モデルとなった1201編成はその二代目にあたる。

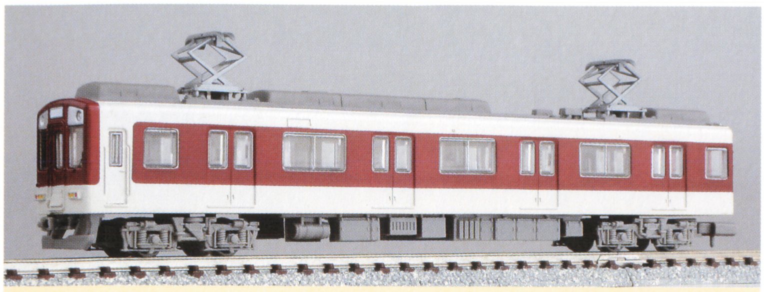
■富士急モハ1201 マッターホルン号塗装

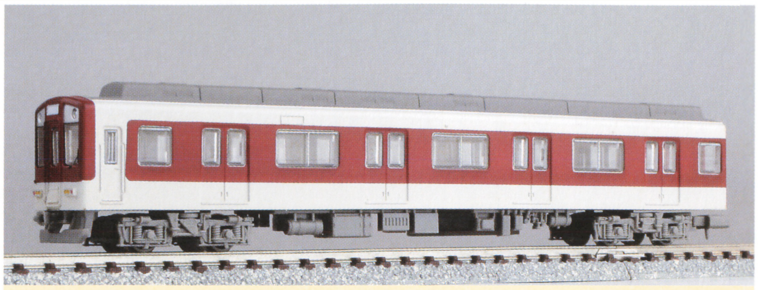
■富士急モハ1301 マッターホルン号塗装

近鉄1200系 2輌セット

○発売元：近畿日本鉄道
○2009年10月発売：2,000円

1982年に登場した名古屋線向けの界磁チョッパ車。前年デビューの大阪線用1400系と同様の車体で、先頭部の形態がモデルチェンジされたのもこの頃。プロトタイプの2連口は現在、ワンマン化され1201系となっている。


■近鉄モ1200形


■近鉄ク1300形

京阪電車1900系 2輌セット

○発売元：京阪電鉄
○2010年4月発売：2,000円

1963（昭和38）年より製造された特急用電車で、新造当初よりテレビカーが連結された。3000系の登場により3扉化などの通勤型改造がなされ、塗色も緑系に改められたが、晩年には一部の車輌が特急色に戻されて活躍した。

■京阪1900形テレビカー

■京阪1900形

南海22000系 2輌セット

○発売元：南海電鉄
○2009年9月発売：2,000円

「角ズーム」の愛称で親しまれた高野線用通勤車。現在も改造車が支線区に残るほか、2009年登場の観光列車「天空」もこの車輌がルーツだ。他形式併結の長編成からセットそのままの2連まで、多彩な遊び方ができよう。

■南海22001

■南海22002

大阪市交通局30系 2輌セット

○発売元：大阪市交通局
○2009年10月発売：2,000円

終焉迫る谷町線30系のうち、コルゲート付のステンレス車を製品化。冷房化され、ドアにも帯の入った近年の姿である。付属のステッカーには、アルミ車も含む冷改車全72輌分の車番を収録してある。

■大阪市交谷町線3000形

■大阪市交谷町線3300形

阪急1300系冷房車 2両セット

○発売元：阪急電鉄
○2009年8月発売：2,200円

2007年発売の1010系に続く阪急初期高性能車のモデル。1010系が非冷房仕様だったのに対しこちらは冷改された晩年の姿で、細部形態を作り分けている。阪急の鉄コレでは初となる先頭車＋中間車の2輌セット。

■阪急1300形

■阪急1350形

阪急2000形（非冷房）2輌セット

○発売元：阪急電鉄
○2010年10月発売：2,600円

近代の阪急電車スタイルを確立した2000形を、登場当時の非冷房の姿でモデル化。パンタグラフの有無が組み替えられるよう、交換用の屋根板が2枚付属する点は新しい試みとして注目された。

■阪急2000形

■阪急2050形

阪神電鉄3501形 2輌セット

○発売元：阪神電鉄
○2010年10月発売：2,200円

普通列車用の高性能車輌「ジェットカー」に続き、1958（昭和33）年に登場した急行用の高性能車輌で、クリーム色のボディに下半分を朱色とした塗色から、その後継車も含め「赤胴車」の名で親しまれた。

■阪神3501形奇数車

■阪神3501形偶数車

阪神5201形（5203〜5220）2輌セット

○発売元：阪神電鉄
○2009年8月発売：2,000円

阪神の普通電車用「ジェットカー」初の量産形式となった5101・5201形のうち、片運転台の5201形をモデル化。2008年にはステンレス試作車が発売されているが、こちらは鋼製車体のノーマルな姿。

■阪神5203〜

■阪神5204〜

2011年以降の発売品・予定品

○一部写真は試作品のため、実際の製品と異なる場合があります。
○記載価格は予価です。また発売月が変更になる場合があります。
○2011年1月発売の国鉄／JR201系中央線については12頁を参照してください。

■長野電鉄2000系A編成リバイバル3輌セット　2月発売予定　2,835円

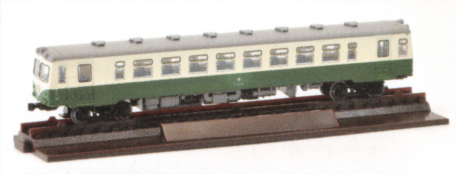
■長野電鉄モハ2001（マルーン）

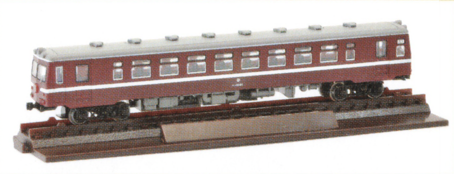
■長野電鉄サハ2051（マルーン）

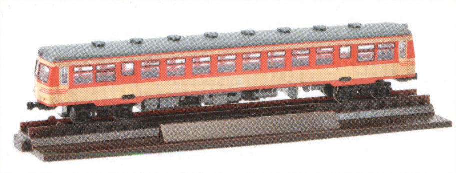
■長野電鉄モハ2002（マルーン）

※アンテナパーツはユーザー取付です。

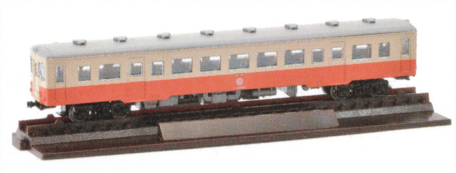
■鉄道コレクション第13弾　全10種+シークレット　○ブラインドパッケージ販売）　○3月発売予定:各735円

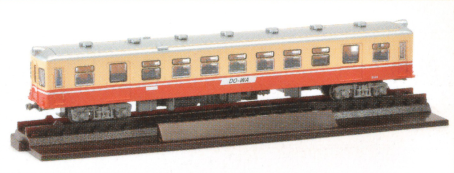

■留萌鉄道 キハ1001

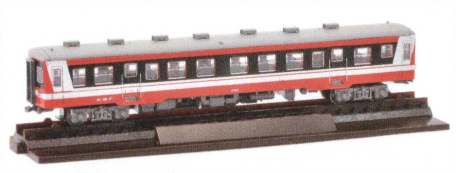

■茨城交通 キハ1001

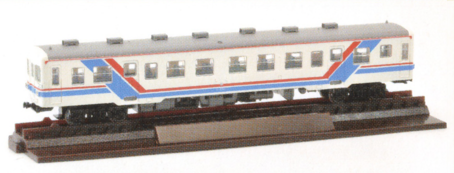

■島原鉄道 キハ4501

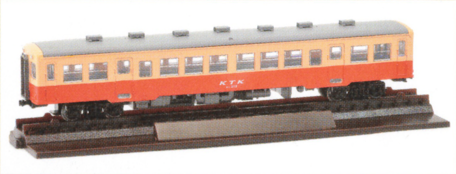
■雄別鉄道 キハ49200Y1


■津軽鉄道 キハ24021


■同和鉱業小坂鉄道 キハ2101


■鹿島臨海鉄道 キハ2001


■茨城交通 キハ201


■小湊鉄道 キハ213

■関東鉄道 キハ751

■国鉄101系 中央線試作冷房車5輌セットA ／ B

○3月発売予定:各4,725円

■国鉄101系 鶴見線3輌セット

○3月発売予定:2,835円

■福島交通7200系2輌セット

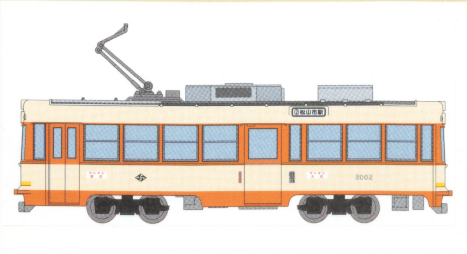
○3月発売予定:1,890円

■北陸鉄道7200形2輌セット

○3月発売予定:1,890円

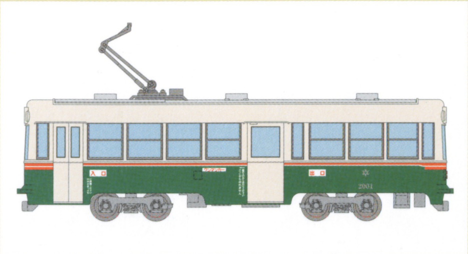
■伊予鉄道2000形

○4月発売予定:1,470円



■京都市交通局2000形（ワンマンカラー）

○4月発売予定:1,470円



鉄コレのライトレールシリーズ発売やTOMIXからのワイドトラムレール（路面軌道）発売など、路面電車製品が充実を見せる中、いよいよ懐かしい従来型の「路面電車」の発売が発表された。初回の車種は、京都市電2000形とその譲渡車、伊予鉄2000形の2種。同時に台車間距離可変式の専用動力ユニットも発売予定だ。

TOMYTEC 部品模型シリーズ

ジオラマコレクションの姉妹的製品として人気を集めるのが、TOMYTECの部品模型シリーズ。実物の行先表示や車番などを精密にスケールダウンし、鉄道模型では再現が難しい動きの部分や、個人ではなかなか手に負えないコレクション性も満足させてくれる魅力的な製品群である。大きさも携帯サイズからお部屋のインテリアに使えるものまで各種取り揃えられているのが嬉しい。ジオコレファンなら要チェックのアイテムといえるだろう。

Text：鈴木重幸　Photo（特記以外）：青柳　明（RMM）

★サボコレクション

▲様々な地方の多彩な行き先表示を再現したサボコレクション。差替え式の携帯ストラップ（サボ1枚附属）も発売された。

▼かつてターミナル駅で見られたサボ置き場も製品化。写真は2種あるうちの平置きタイプ。P：TOMYTEC

往年の客車列車などに取付けられていたサボ（側面の行先表示板）を1:10スケールで完全再現したシリーズ。ステンレスに焼付け塗装で実物のホーロー引きの質感を再現、文字の書体や各種ある形状へのこだわりはまさに部品模型の名に相応しい。16番とNサイズのシールも附属する。2010年10月には旧型国電の前サボを再現したシリーズもラインナップに加わっている。

品名	備考	発売時期	定価
サボコレクション第1弾		2008年12月発売	各315円
サボコレクション第2弾		2009年3月発売	各315円
サボコレクション第3弾		2009年6月発売	各315円
サボコレクション第4弾		2009年9月発売	各315円
サボコレクション第5弾	北海道のサボ	2009年12月発売	各315円
サボコレクション第6弾	上野口のサボ	2010年3月発売	各315円
サボコレクション第7弾	中央本線のサボ	2010年6月発売	各315円
前サボコレクション		2010年10月発売	各525円
サボ置き場　平置きタイプ		2009年7月発売	1,029円
サボ置き場　ボックスタイプ		2009年7月発売	1,029円
専用バインダー（ファイル3枚付）		2008年12月発売	1,890円
サボさしストラップ(オレンジ)		2009年2月発売	735円
サボさしストラップ(クリーム)		2009年2月発売	735円

※サボコレクション・前サボコレクションはブラインド販売

★手動方向幕

車輌前頭部の手動方向幕を再現したアイテム。形態的には113系等の国鉄近郊型電車のタイプを模している。各路線・年代別にマニアックな展開がなされており、直近では東武8000系2種がラインナップに加わった。

▲ハンドルによる手廻しの操作感覚が楽しい。P：TOMYTEC

品名	備考	発売時期	定価
SHM-01手動前面方向幕	115系 中央線	2010年1月発売	2,940円
SHM-02手動前面方向幕	113系 東海道・山陽線	2010年1月発売	2,940円
SHM-03手動前面方向幕	111系 東海道線	2010年3月発売	2,940円
SHM-04手動前面方向幕	113系 東海道・横須賀線	2010年3月発売	2,940円
SHM-05手動前面方向幕	115系東北・高崎線	2010年8月発売	2,940円
SHM-06手動前面方向幕	113系房総地区	2010年8月発売	2,940円
SHM-07手動前面方向幕	東武8000系本線	2010年12月発売	2,940円
SHM-08手動前面方向幕	東武8000系東上線	2010年12月発売	2,940円

★車番コレクション

話題となった編成の車番を丸ごとミニチュア化したシリーズ。サボコレクションと同様の携帯用ストラップが附属する。

品名	備考	発売時期	定価
車番コレクション201系中央線H4編成	10輌分入、携帯ストラップ付	2010年9月発売	3,150円
車番コレクション201系中央線H7編成	10輌分入、携帯ストラップ付	2010年9月発売	3,150円
車番コレクション 489系さよなら能登	9輌分入、携帯ストラップ付	2010年12月発売	3,150円

◀サボコレクション同様のステンレス板に焼付け塗装仕上げ、実物の切抜き文字も立体的に再現。

★方向幕キーチェーン・前面種別表示器キーホルダー

▲方向幕キーチェーンは7コマ分の行先を収録。ボタンを押すとバックライトが発光、表示は右側のダイヤルを回すことで変更される。　P：TOMYTEC

品名	備考	発売時期	定価
KHM-01方向幕キーチェーン	201系中央線	2010年3月発売	924円
KHM-02方向幕キーチェーン	103系京浜東北線	2010年3月発売	924円
KHM-03方向幕キーチェーン	113系東海道線(東京地区)	2010年3月発売	924円
KHM-04方向幕キーチェーン	211系東北・高崎線	2010年3月発売	924円
KHM-05方向幕キーチェーン	113系東海道線(中京地区)	2010年3月発売	924円
KHM-06方向幕キーチェーン	103系関西線	2010年3月発売	924円
KHM-07 方向幕キーチェーン	205系埼京線	2011年2月発売予定	924円
KHM-08 方向幕キーチェーン	103系阪和線	2011年2月発売予定	924円
KHM-09 方向幕キーチェーン	14系寝台客車1	2011年2月発売予定	924円
KHM-10 方向幕キーチェーン	485系特急電車1	2011年2月発売予定	924円
KHM-11 方向幕キーチェーン	0系新幹線	2011年3月発売予定	924円
KHM-12 方向幕キーチェーン	300系新幹線	2011年3月発売予定	924円
201系中央線前面種別表示器キーホルダー	201系中央線	2010年7月発売	735円

実車の表示幕を携帯サイズで再現したアイテムで、側面方向幕タイプのキーチェーンと、201系の前面種別表示器を模したキーホルダー（表示は差替え式）がラインナップされている。

★電動側面方向幕・電照式行先方向板

◀▲電動側面方向幕（左写真）と別売りのリアルな指令器。表示コマ数は実物を完全再現（最大70コマ）している。　P：TOMYTEC

電動側面方向幕は電車の側面方向幕を1:5スケールで完全再現した大物アイテム。別売の指令器（これも実物を模したもの）からの赤外線コントロールで指定したコマまで回すことができる。またバックライトのLEDは点灯時の蛍光灯のチラツキまで再現するというこだわりよう。

電照式行先方向板は手軽に楽しめる差替え式だが別売りの行先プレートセットも用意される。こちらも製品名に違わず白色LEDによるバックライト付きだ。

◀電照式行先方向板は行先プレートを差替えて楽しめる。P：TOMYTEC

品名	備考	発売時期	定価
DHM-01電動側面方向幕	201系 中央線	2010年2月発売	8,190円
DHM-02電動側面方向幕	103系 関西線	2010年2月発売	8,190円
DHM-03 電動側面方向幕	103系京浜東北線	2010年9月発売	8,190円
DHM-04 電動側面方向幕	103系総武線	2010年9月発売	8,190円
SR-01 指令器		2010年2月発売	5,040円
DHM-05 電動側面方向幕	14系寝台客車	2011年2月発売予定	8,190円
DHM-06 電動側面方向幕	485系特急電車	2011年2月発売予定	8,190円
DIH－01電照式行先方向板	201系中央線	2010年11月発売	2,940円
DIH－02電照式行先方向板	103系総武線	2010年11月発売	2,940円
DIH－03電照式行先方向板	103系京浜東北線	2010年11月発売	2,940円
DIH－04電照式行先方向板	103系関西線	2010年11月発売	2,940円
DIH－TEC1 電照式行先方向板	300系新幹線	2011年3月発売予定	2,940円
DP-01電照式行先方向板行先プレートセット	201系中央線	2010年11月発売	525円
DP-02電照式行先方向板行先プレートセット	103系総武線	2010年11月発売	525円
DP-03電照式行先方向板行先プレートセット	103系京浜東北線	2010年11月発売	525円
DP-04電照式行先方向板行先プレートセット	103系関西線	2010年11月発売	525円

★信号機テコ

往年の腕木式信号機用テコを再現した異色アイテム。別売のポイントコントロールボックスと組み合わせてTOMIXパワーユニットに接続することで、Nゲージの腕木式信号機や電動ポイントを制御可能。

品名	発売時期	定価
ST-01信号機テコ　おもりあり黒	2011年1月発売	945円
ST-02信号機テコ　おもりなし黒	2011年1月発売	945円
ST-03信号機テコ　おもりあり赤	2011年1月発売	945円
ST-04信号機テコ　おもりなし赤	2011年1月発売	945円
信号機テコ用ポイントコントロールボックスN-S	2011年1月発売	840円
信号機テコセット(コントロールボックス付・4個入)	2011年1月発売	6,825円

※セット内容／信号機テコST-01・02・03・04×各1個、信号機テコ用ポイントコントロールボックスN-S×4個

▲製品はおもりの有無、カラーリングの違いで計4種のラインナップ。

ジオラマセット

Text：RMM
Photo：トミーテック

“レイアウトの塗装済キット”とでも呼びたい製品が2010年2月、トミーテックより満を持して発売された。その名も「ジオラマセット」。ジオコレシリーズを各種詰め合わせにした、まさに「オールインワン」のジオコレの集大成である。

特筆すべきは、「詰め合わせ」と言っても単に部品が箱詰めにされているだけではなく、600×450mmのベースボードには線路が貼付済で、かつその周囲のバラスト（砂利）表現や地形の着色までがすでになされているのである。極論すればあとは同梱の建物や小物を組み立てて配置するだけ。比較的簡単で楽しい作業だけが残されているのである。

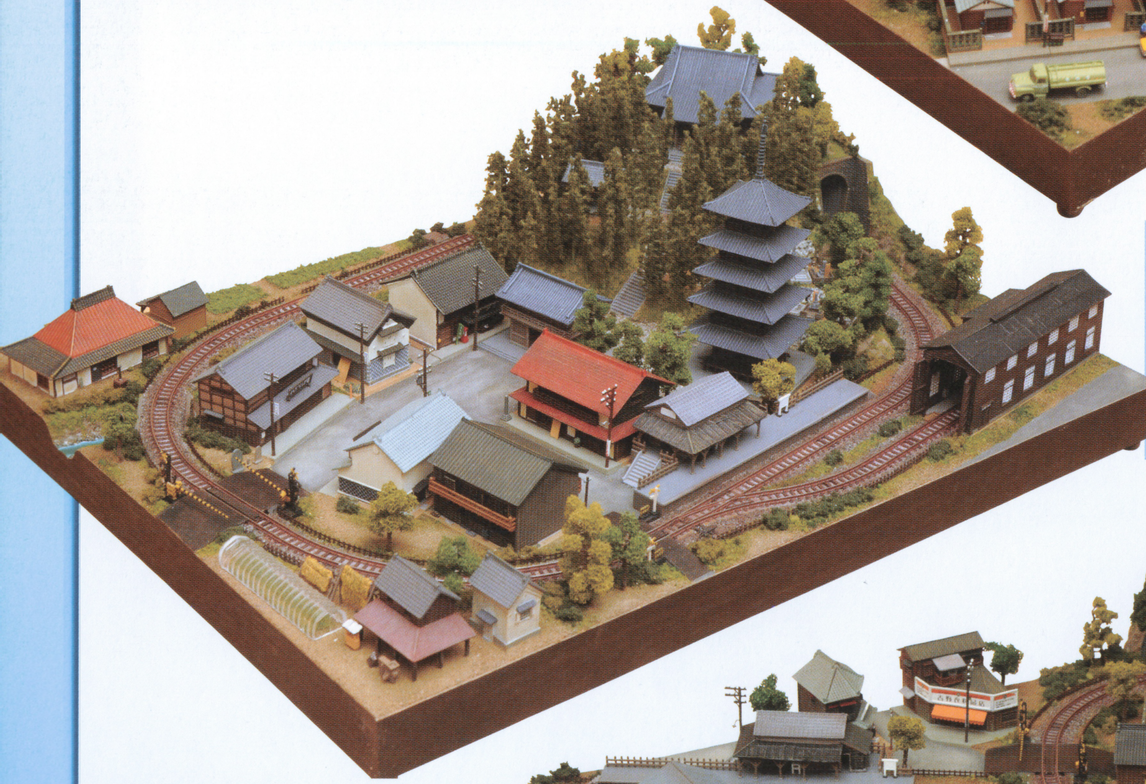
ベース寸法の小ささからくる曲線半径の関係で、走らせることのできる車輌は限られてはいるが（AとBは16m級以下、Cは15m級以下）、初めてのレイアウト製作にはもってこいの製品として、覚えておくと便利であろう。

- オープンパッケージ販売
（コントローラー、車輌別売）
- 2010年2月発売

ジオラマセットA ～駅前と商店街～

◎78,750円

小判型の線路から一本内側に入った引込線に駅がある造り。懐かしい昭和テイストの街並みが広がる。



ジオラマセットB ～お寺と門前町～

◎89,250円

竹林に囲まれたお寺と五重塔が印象的なジオラマ。古都の風情が感じられる。

ジオラマセットC ～海のある風景～

◎68,250円

漁港を大胆に手前に配した、広がりの感じられるレイアウト。磯の香りが部屋に漂いそうだ。

02 建物コレクション

Text：RMM
Photo：青柳 明（RMM）、羽田洋、トミーテック

街コレから建コレへ…Nゲージレイアウトの定番アイテム

ブラインドパッケージという中身の見えない販売方法であった「街並みコレクション（街コレ）」から進化し、欲しい建物を選んで買うことができるようになった「建物コレクション」。かつて「街コレ」で製品化された人気の製品も、順次再販分がこの「建物コレクション」に引き継がれるようになった。それはこれらのアイテムが、レイアウト造りの定番商品としてなくてはならない存在になってきた証とも言えよう。

他のジオコレとも連携

「建物コレクション」は2006年の製品化開始以来、情景コレクション「ザ・人間」など他のアイテムとの連携で製品展開が進められてきた。バスコレが並べられる「バス営業所」、情景小物の漁船が並べられる「漁港」などが良い例であるが、さらにガソリンスタンドや中古車屋、建機レンタル屋など、カーコレや新シリーズの「建設機械」などと歩調を合わせた企画も相次いだ。鉄道車輛と違ってすぐに飾って楽しむことのできる「レール」を持たない自動車モデルたちにとって、気軽に並べられる舞台が容易に入手可能になった点は歓迎すべきだろう。

TOMIXの補完アイテムとして

さらに目立ったのは、30年以上の歴史を誇るNゲージ鉄道模型ブランド、TOMIXとの連携がさらに進展したことであろう。特に2010年5月発売の「駅D／E」は、TOMIX規格の曲線レール半径に合わせたカーブホームということで、ベース内の土地利用に悩むレイアウトオーナーに福音をもたらした。このように、TOMIXではちょっと考えられないような「スキマ商品」的なアイテムが次々に生まれるフットワークの軽さは、Nゲージレイアウトの方向性に新しい選択肢を加えていくことだろう。

ついに線路がなくても…

建物コレクションの「温泉旅館」に合わせ2010年11月より発売開始した「ジオラマベース」。これまでとかく鉄道の従属物的な扱いであった1:150スケールジオラマを、完全に鉄道から独立させたという点で特異な製品であったと言えよう。常にNゲージの存在を前提に成り立ってきたジオコレの、いわば独立宣言である。もちろんレールと縁を切るわけではなく、「レールがなくても成り立つ1:150ジオラマ」を目指すという点で、ジオコレの新しい方向性を垣間見ることができよう（ジオラマベースは本稿にて紹介する）。

▼小規模な木造家屋や商店から徐々にスケールアップしてきた街並みコレクション～建物コレクションシリーズ。2010年には外観こそ昭和的であるものの、堂々とした5～6階建てのビルが発売されてファンを驚かせた。

集合住宅

◎オープンパッケージ販売
◎2009年4月発売：各1,575円

生活感あふれる、古めで小規模な集合住宅。テラスハウスのA（2009年3月発売）も含め、住宅密集地や炭坑などそれぞれの建物にふさわしいシーンで活用したい。

■集合住宅B　モルタルアパート

■集合住宅C　木造長屋

建売住宅

◎オープンパッケージ販売
◎2009年6月発売：各1,155円

住宅地で見掛けるような、比較的小柄な住宅が2軒ずつ入ったお手頃アイテム。歩道部分が1枚セットされており、私道に見立ててさまざまに配置で楽しむことが可能だ。

■建売住宅A　コロニアル屋根の家 2軒入

■建売住宅B　トタン屋根の家 2軒入

初詣セット

◎オープンパッケージ販売
◎2009年11月発売：6,090円

2007年発売の神社一式に、2009年11月発売の情景小物「お正月セット」（76頁参照）を組み合わせた企画商品で、特別付録としてご来光や紅白幕を印刷した背景紙が付属。

▲建物コレクション「神社」の特別バージョンと言える「初詣セット」のパッケージ

▲組立例（同梱の「お正月セット」の配置は各自の自由に）

■初詣セット

■中古車屋A ～昭和風～

中古車屋

◎オープンパッケージ販売
◎2009年8月発売：各1,575円

とりわけ郊外の風景には欠かせない中古車屋を昭和風・現代風の2種発売。万国旗やのぼり、値札など雰囲気を盛り上げるシール付で、いずれにもカーコレ第7弾の車が1台付属する（写真中の他の車は演出用で、製品には付属しない）。他にスロープが2個ずつ付属。

■中古車屋B ～現代風～

■ガソリンスタンドA ～昭和30年代風～

ガソリンスタンド

◎オープンパッケージ販売
◎2009年10月発売：各1,680円

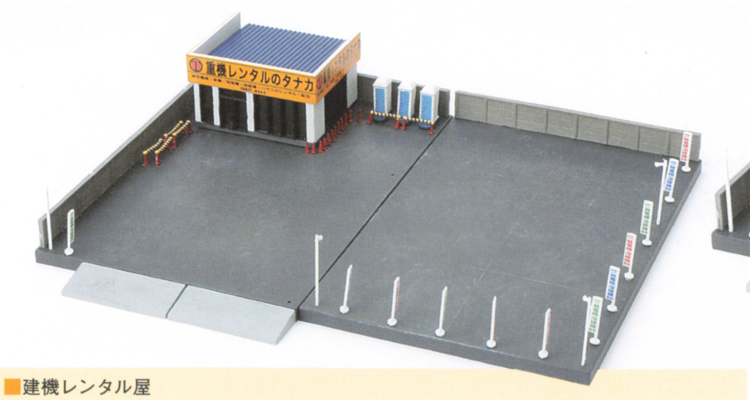
昭和30年代風・40年代風の2種のガソリンスタンド。いずれも出光のロゴマーク付で、敷地内の建物配置は自由。ガソリン計量器などの小アクセサリーやフィギュアが4体、カーコレ第7弾の軽トラックが1台付属。

■ガソリンスタンドB ～昭和40年代風～

建機レンタル屋

◎オープンパッケージ販売
◎2010年2月発売：1,260円

ジオコレの新シリーズ「建設機械コレクション」が2010年3月より発売開始するのに先駆け、そのディスプレイ台も兼ねて発売された。建物は比較的近代的なタイプだが、2011年2月には木造タイプの「建機レンタル屋B」の発売が予定されている。



■建機レンタル屋

▲建設機械コレクション（第1弾）を使用した配置例。

教会

◎オープンパッケージ販売
◎2009年12月発売：各1,890円

レイアウトに風格をもたらす教会が3種同時発売。AとCには塀と門柱、Bには小屋、Cには焼却炉が付属。同時発売された「ザ・人間　結婚式の人」（80頁参照）を並べて、華やかな結婚式シーンを再現するのにも最適。

■教会A　レンガ造りの教会

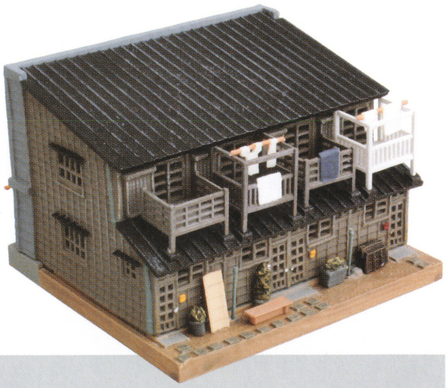
■教会B　白い塔の教会

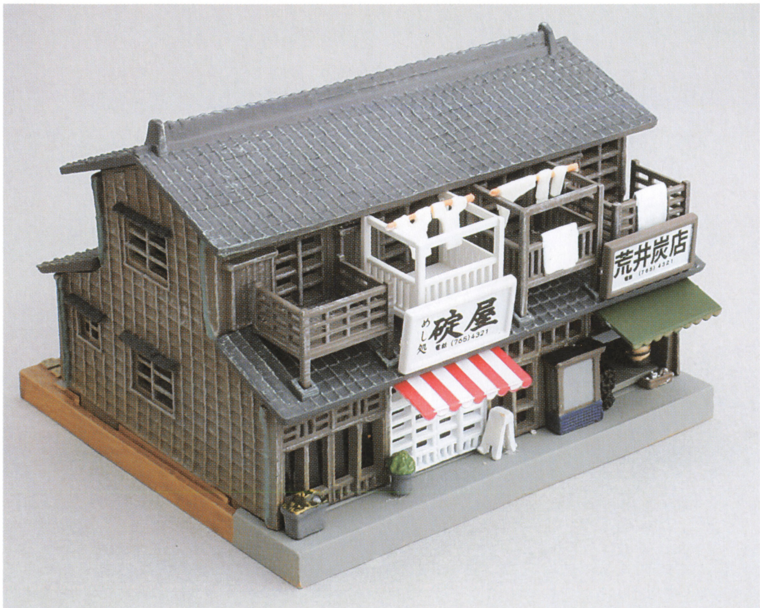
■教会C　ハーフティンバーの教会

商店長屋

◎オープンパッケージ販売
◎2010年3月発売：各1,365円

東京の下町などで見掛けるような、4軒続きの長屋が2種発売された。その哀愁あふれる外観は商店街や路面電車沿いの街並みにピッタリだ。





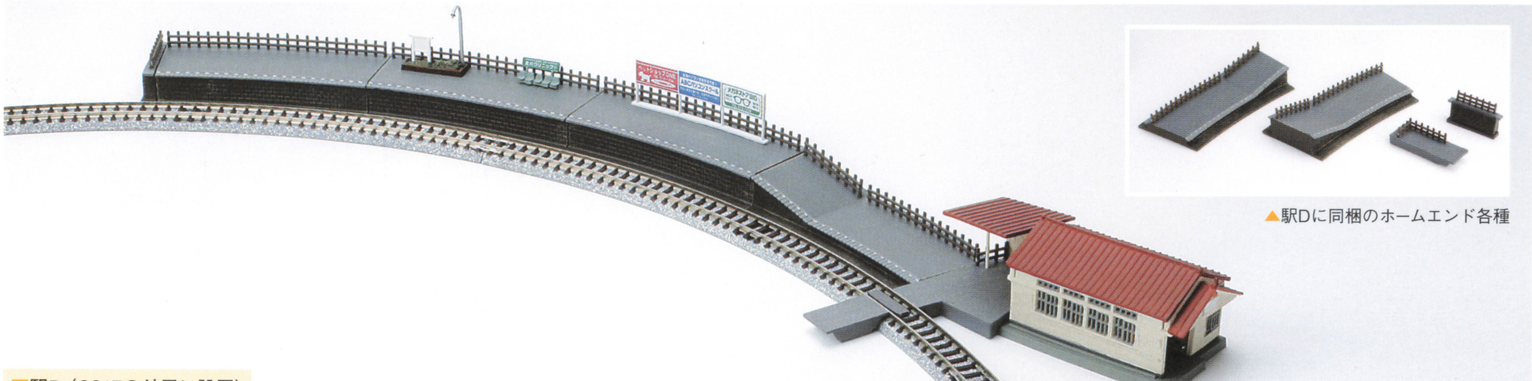
■商店長屋A

■商店長屋B

駅D/E(カーブホーム)

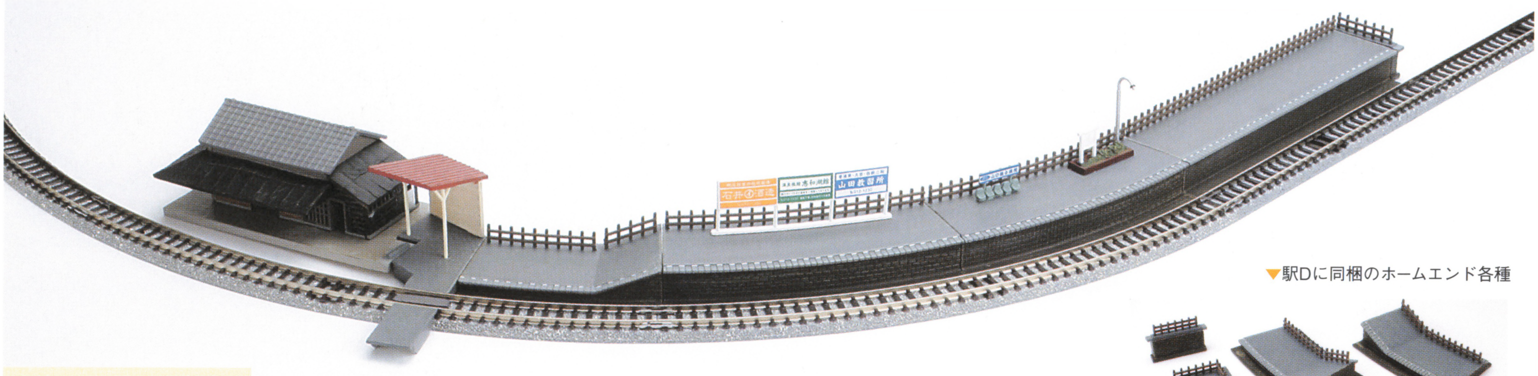
◎オープンパッケージ販売
◎2010年5月発売：各2,205円

TOMIX規格に準拠したNゲージにも対応するカーブホーム。C280およびC317の曲線レールに沿わせる形で用いる駅ホームと駅舎のセット。※写真のTOMIXレールは別売です。またホームエンドの添付写真には、全体写真に使われているものも一部含みます。



▲駅Dに同梱のホームエンド各種

■駅D（C317の外周に設置）



▼駅Dに同梱のホームエンド各種

■駅E（C280の内周に設置）

昭和のビル

◎オープンパッケージ販売
◎2010年9月発売

これだけ建物の種類が増えてくると、欲しくなるのは頭ひとつ突き出したようなな都会のビル。3種類の個性的な建物がジオコレで発売された。いずれも街のアクセントとして用いるのに最適。

▶同梱される屋上看板。屋上の階段と選択のうえ設置。

■昭和のビルA（オフィス）　2,100円

■昭和のビルB（マンション）　2,100円

■昭和のビルC（ホテル）　2,310円

病院

◎オープンパッケージ販売
◎2010年9月発売：各2,625円

地形に合わせフレキシブルに対応可能な病院が2種発売された。木造のAは横方向に拡張出来る4分割構造で、複数購入時に2棟を繋ぐ渡り廊下パーツ（写真左）も付属。鉄筋のBは横に3分割、縦方向にも積層して拡張可能な構造となっている。

■病院B（鉄筋コンクリート）

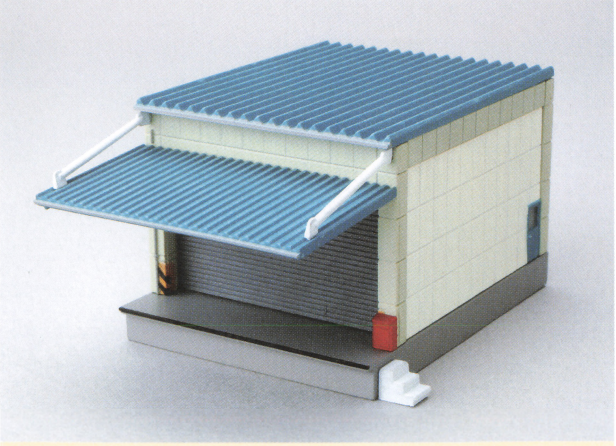
■病院A（木造）

トラックターミナル／プレハブ事務所

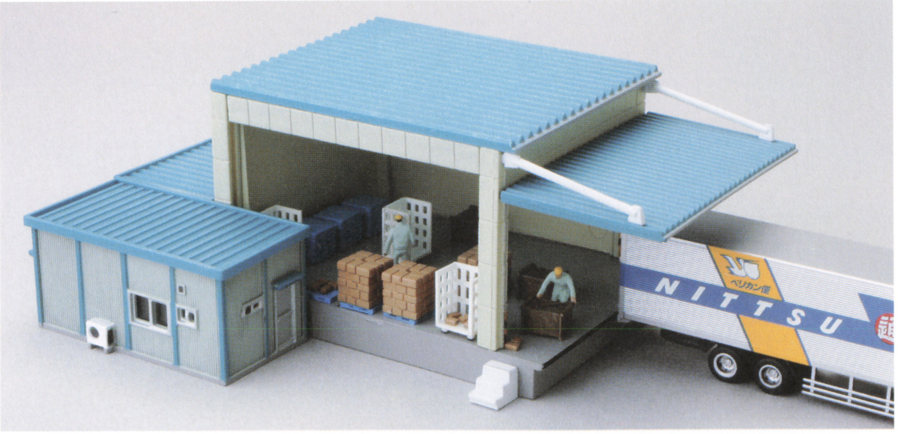
◎オープンパッケージ販売　◎2010年12月発売：各1,029円

同じジオコレの「ザ・トラックコレクション」などと組み合わせて情景を作るのに最適なトラックターミナルと、工事現場などさまざまな用途に使えるプレハブ事務所。トラックターミナルは正面シャッターや周囲の壁3面が脱着可能な構造。プレハブ事務所は3棟入となる。

■プレハブ事務所（3棟入）



■トラックターミナル



▲トラックターミナルの一部壁、シャッターを取り外し、プレハブ事務所に情景小物「荷物A」やザ・人間、ザ・トラックコレクションを組み合わせた情景の一例。

温泉宿

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売：各1,575円

ちょっと古めの温泉宿が3種発売。旅情あふれるその外観はいずれもどこかで見たような建物揃い。組み立てた3軒の温泉宿を設置可能な「ジオラマベースA」とともに楽しみたい。

※写真の各建物は、製品付属の着脱可能なプラ製ベース上で撮影。

■温泉宿A　望楼のある温泉宿

■温泉宿B　鉄筋造りの温泉宿

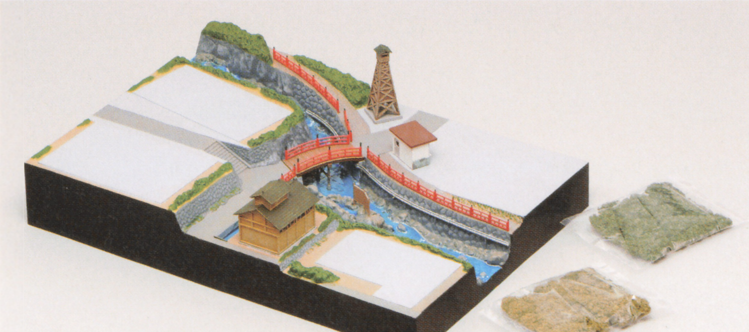
■温泉宿C　木造三階造りの温泉宿

ジオラマベース 温泉街

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売：7,140円

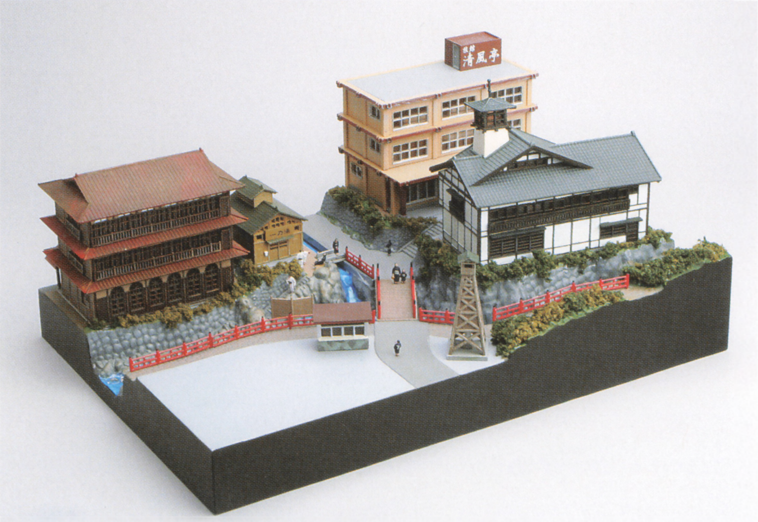
建物コレクション「温泉宿」3種と同時に発売された新シリーズ「ジオラマベースA」は温泉街をモデルとしたもので、地形が成型されたプラスティック製のベースと各種小物・フォーリッジが付属する。着色済のため、小物を組立・配置して別売の「温泉宿」を載せればすぐにジオラマとして楽しむことが可能となる。

▲ジオラマベースAに付属するフィギュア（計12体）



※小物類（キット形式）やフィギュア、フォーリッジ付属。

■ジオラマベースA 温泉街の情景



▲組み立てたジオラマベースに別売の温泉宿3棟を組み合わせた使用例。

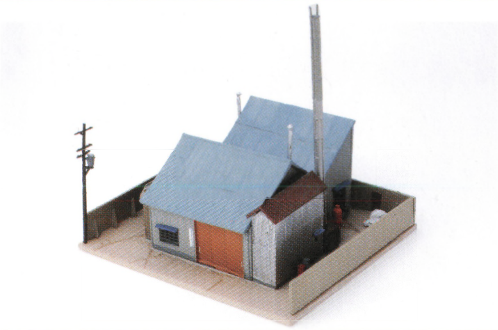
農家＆町工場(リニューアル)

◎オープンパッケージ販売
◎2009年4月発売：各1,155円

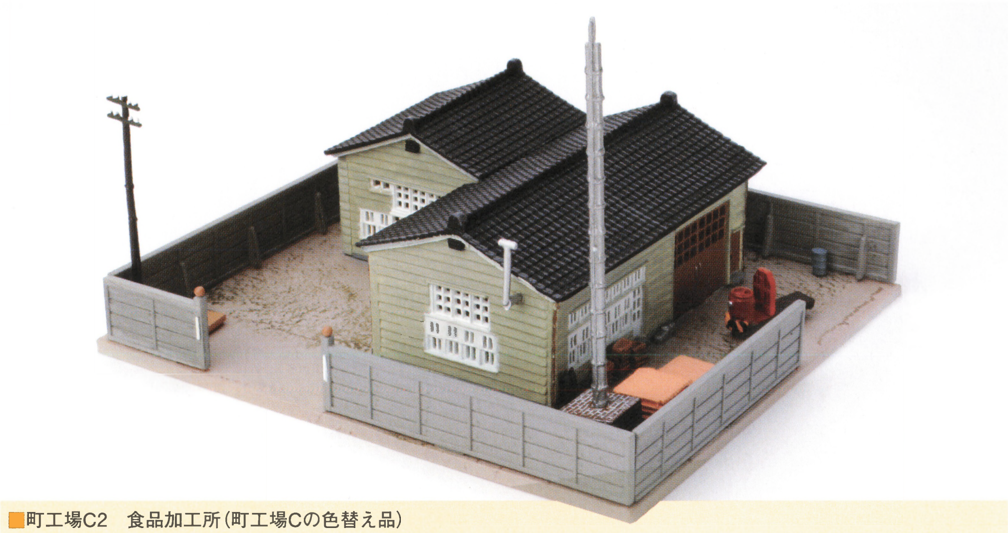
2006〜2007年に発売された建物コレクション農家＆町工場の色替えリニューアル版で、2008年7月発売分を合わせて9種すべてが再販された。比較的大きな敷地を持つ建物を再現したもので、別売の「ザ・人間」などを使って活気ある情景を再現したい。

■農家D2　漆喰壁の農家(農家Dの色替え品)

■農家E2　山中に建つ農家(農家Eの色替え品)



■町工場B2　鉄工所(町工場Bの色替え品)



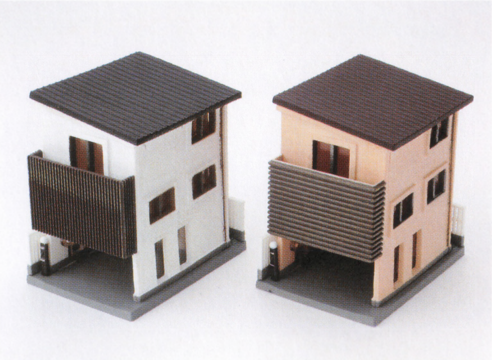
■町工場C2　食品加工所(町工場Cの色替え品)

狭小住宅(リニューアル)

◎オープンパッケージ販売
◎2010年2月発売：各1,029円

2008年5月に発売された「狭小住宅A・B」の色替えリニューアル版。いずれもリニューアルに際し、初回よりやや落ち着いた色合いにアレンジされている。A2は招き屋根の家2軒入、B2は片流れ屋根の家2軒入。

■狭小住宅A2

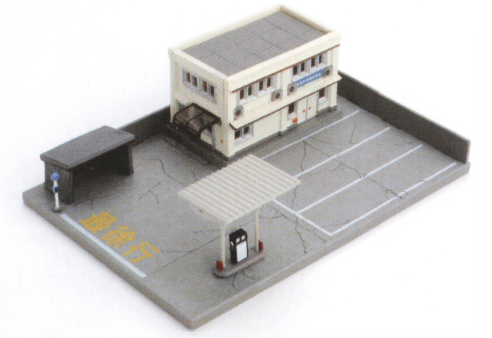


■狭小住宅B2

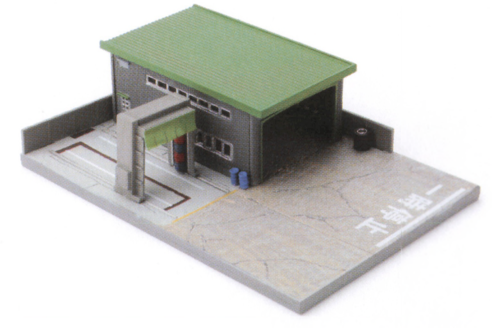
バス営業所(リニューアル)

◎オープンパッケージ販売
◎2010年1月発売：各1,260円

2008年9月に発売された「バス営業所A・B」の色替えリニューアル版で、各建物やアクセサリーは自由に配置することが可能。各ベースサイズ約150×100mm、ベース厚さはリニューアル前の3mmから5mmに変更されている。



■バス営業所A2



■バス営業所B2

大型建物（リニューアル）

◎オープンパッケージ販売
◎2009年4～5月発売：各1,029円

2006年3月に「街並みコレクション第5弾・大型建物編」として発売された製品6種を、色替えなどリニューアルのうえオープンパッケージに販売方法を変更して再発売したもの。

■銀行

■銭湯

■円筒形ビル

■劇場

■駅前旅館

■消防署

建物コレクション（リニューアル）

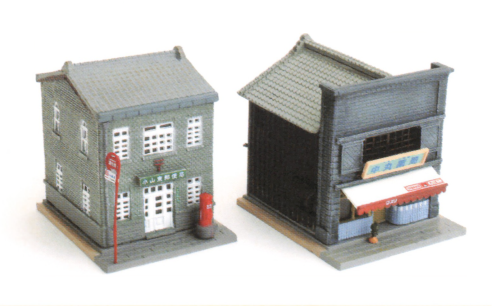
◎オープンパッケージ販売
◎2009年9～10月発売：各840円

ジオコレ最初の建物シリーズとして2004年2月、「街並みコレクション第1弾」として発売されたものがベースで、2006年7月に「第1弾R」としてリニューアル再生産後、さらにそれをオープンパッケージに販売方法を変更したもの。6種×2色の12アイテムを2種ずつ組み合わせ、計6アイテムとして発売。

■郵便局・薬局1

■時計店・酒屋1

■理髪店・写真館1



■郵便局・薬局2

■時計店・酒屋2

■理髪店・写真館2

甲州街道（リニューアル）

◎オープンパッケージ販売
◎2010年4～5月発売：各1,155円

2007年6月に「街並みコレクション第6弾・甲州街道編」として、ブラインドパッケージで発売されたアイテムの色替えリニューアル・販売方法変更品。それぞれ2種の建物が組み合わされたものが6パターン。

■醤油屋・蔵1

■蕎麦屋・茶屋1

■旅籠1

■醤油屋・蔵2

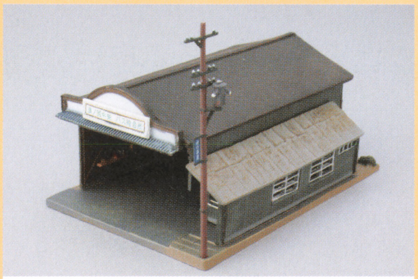
■蕎麦屋・茶屋2

■旅籠2

2011年以降の発売品・予定品

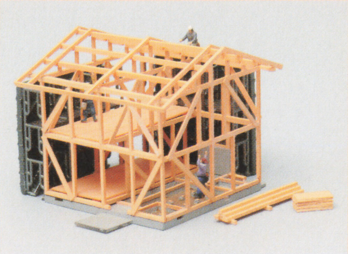
○一部写真は試作品のため、実際の製品と異なる場合があります。
○記載価格は予価です。また発売月が変更になる場合があります。

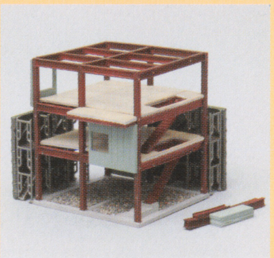
※レールは含まれません
■駅前セット　1月発売：1,680円

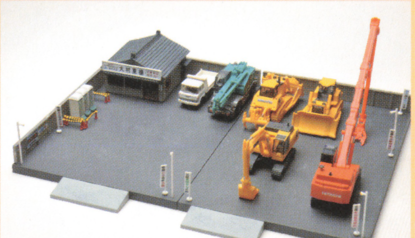

■駅前バス待合所　1月発売　819円

■駅前タクシー営業所　1月発売　819円

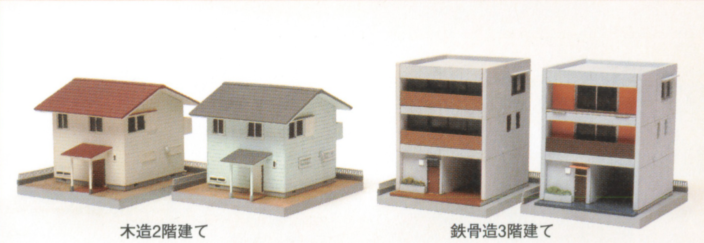
■駅前ビル　1月発売：819円


■建築中の建物A ～木造～
3月発売予定：1,365円


■建築中の建物B ～鉄骨造～
3月発売予定：1,365円


※建機・車は含まれません
■建機レンタル屋B　2月発売予定：1,260円

■タクシー営業所　3月発売予定：1,785円


木造2階建て　鉄骨造3階建て
■建売住宅C ／ D　4月発売予定　各2棟入1,575円

■小学校　4月発売予定：1,575円

03 情景コレクション

Text：RMM
Photo：青柳　明（RMM）
羽田　洋、トミーテック

シーンはより多彩に。3つのキーワード

本書の掲載対象とする2009年4月から2010年12月までの「情景コレクション」を振り返った時に、関連するいくつかのキーワードが思い浮かぶ。それは「季節・水辺・現場」なのではないか。

季節…レイアウトに旬の彩りを

過去より鉄道模型のレイアウトでは、あまり季節感を強調してしまうと年間を通してそのシーンのイメージに固定されてしまうので、山や畑は緑などといった無難な景色が好まれていたが、近年はモジュールやミニレイアウトなど小単位で完結するジオラマが流行したためもあり、思い切って季節を限定することも多くなってきた。そんな時に欲しいのが、むしろ時期を特定するためのアイテムである。

樹木でもサクラや紅葉などは先行していたが、今回は盆踊り、初詣、海水浴など実にピンポイント的な瞬間を味わうアイテムが各種発売された。これだけでジオラマを作って並べるのも楽しいし、何より平凡な景色にはないドラマがそこには満載だ。

水辺…日本の風景に欠かせない演出

従来より魅力的な題材でありながら、なかなかレイアウトには採り入れにくかった水辺。「より低い」地形造りの困難さや水面表現の技術に決定打がなかったこともあるが、何より「水辺の情景」にぜひとも欲しい小物がほとんど用意されてこなかったことも理由のひとつであろう。

その点、2008年に発売された「漁港」およびそれに付随する小物類はエポックメイキングであったが、より一般的な防波堤や橋、タグボートなども充実し、それらを使うことを目的にレイアウトやジオラマを作る人が出てきても不思議ではないだろう。

現場…より活き活きしたドラマのために

情景コレクションは、そのほとんどのアイテムに他のジオコレ製品とのリンクが見られる点も興味深いが、新シリーズの建設機械コレクションとリンクした「工事現場」はその代表例と言えるだろう。その封入パーツひとつひとつは正に素材といった感があり、十数年前では考えられなかったような製品展開であるが、こうしたパーツ群が製品として価値を持つほど周囲の情景アイテムが充実してきていることを思うと、まさにNゲージサイズ情景の世界も成熟期を迎えていると言えるのではないだろうか。

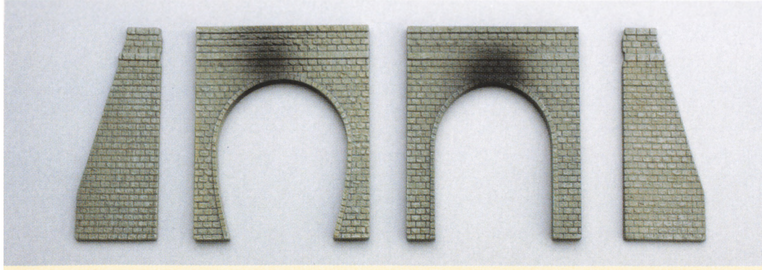
▲交番や火の見やぐら、それに歩道橋など、身の回りのありとあらゆるものが情景小物として揃ってきた。

情景小物

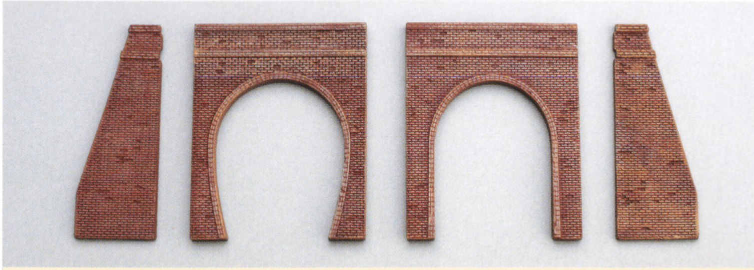
トンネルポータル

◎オープンパッケージ販売
◎2009年7月発売：各819円

トンネルの出入口となるポータルを、石積みとレンガ積みの2種製品化。いずれも直線用ポータル×2個と穴の横方向を広げたカーブ用ポータル×2個、袖パーツ×4個がセットされる。



■027　トンネルポータルA　切り石



■028　トンネルポータルB　レンガ

電柱

◎オープンパッケージ販売
◎2009年7月発売：819円

木製の古風な街の電柱。変圧器付3本、変圧器なし9本の計12本入。

■029　電柱

架線柱

◎オープンパッケージ販売
◎2009年9月発売：609円

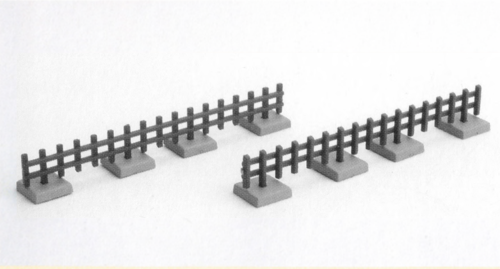
木製の2本柱を持つ古風な電化私鉄タイプの単線架線柱が6本と踏切警報器が2個付録で同梱される。

■037　架線柱C

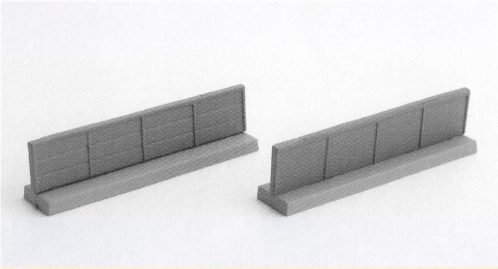
柵／塀／石畳

◎オープンパッケージ販売
◎2009年8～9月発売：各609円

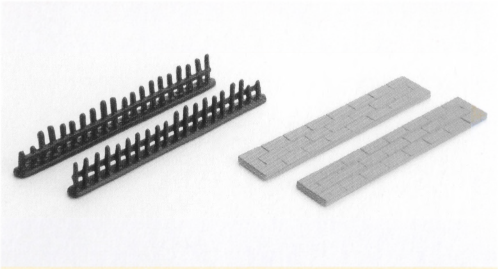
レイアウトでは欠かせない存在の柵や塀が塗装済で登場。木製の鉄路柵・コンクリート塀（いずれも固定用ベース付）。



■031　柵　木製の鉄路柵×16個入



■032　塀　コンクリート塀×16個入

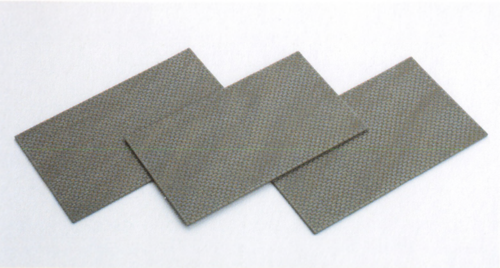


■038　柵・石畳　柵×7個・石畳×9個入

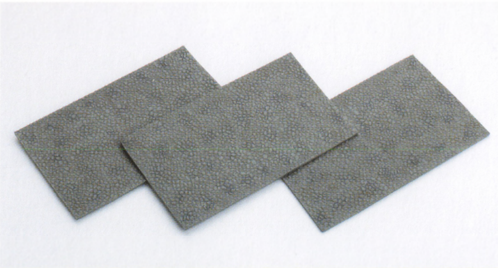
石垣

◎オープンパッケージ販売
◎2009年9月発売：609円

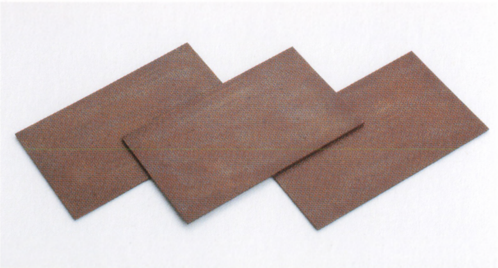
情景を作るための「素材」として、石垣模様をモールドした板材が3種発売。いずれもサイズ約100×60mm、厚さ1.5mmで、裏面に切り分け用のガイド溝があり容易に8分割に切断が可能。表面には軽く汚し塗装が施される。



■034　石垣A　平積み・3枚入



■035　石垣B　乱積み・3枚入　※Bのみ柔軟な材質を使用



■036　石垣C　レンガ・3枚入

海辺の情景セット

◎オープンパッケージ販売
◎2009年9月発売：1,155円

文字通り海辺の情景を演出するためのパーツセット。防波堤3個、灯標、テトラポッドをはじめとする消波ブロック3種各5個、青色の水面シートが付属する。

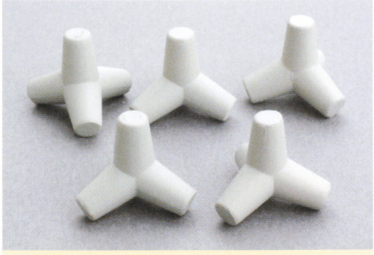
■039　海辺の情景セット

消波ブロック

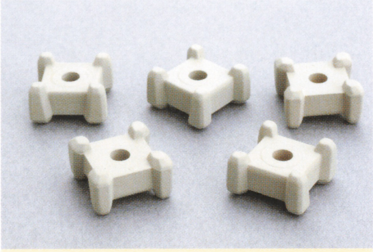
◎オープンパッケージ販売
◎2010年2月発売：各819円

「海辺の情景セット」セット同梱の消波ブロックと同じものが単品にて用意される。

■048　消波ブロックA　25個入



■049　消波ブロックB　25個入

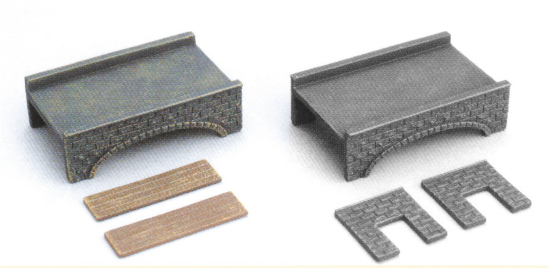


■050　消波ブロックC　30個入

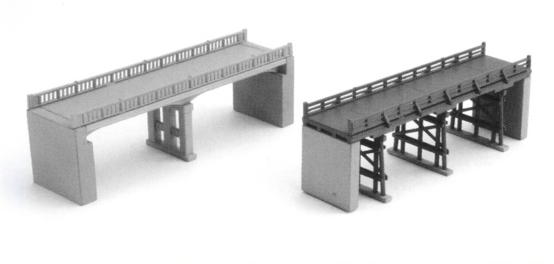
橋

◎オープンパッケージ販売
◎2009年12月（Aのみ9月）発売

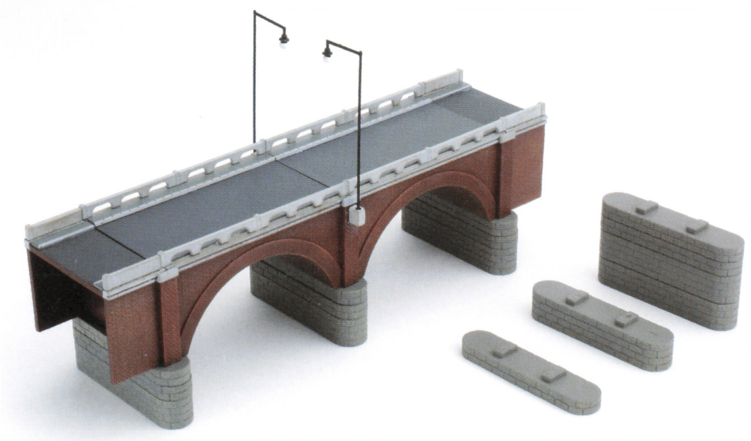
レイアウト製作に欠かせない橋が4種発売された。目的に応じて活用したい。



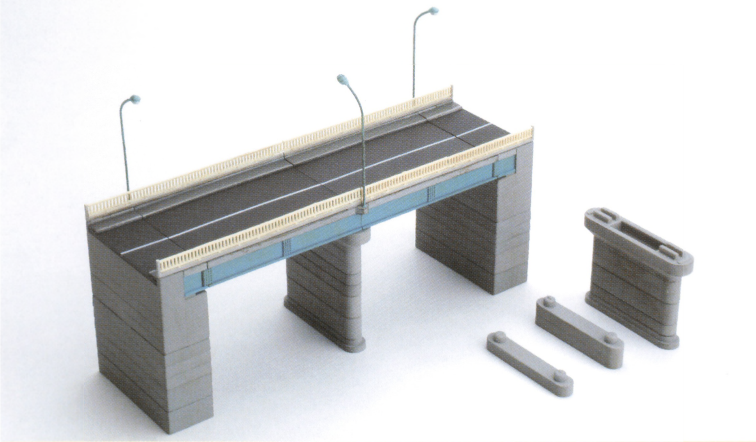
■033　橋A：609円
石橋×2個入、暗渠壁面・渡り板各2個付属



■044　橋D 木製・コンクリート製の橋：1,260円
全長約105～115mmの木製橋・コンクリート橋をセット。



■042　橋B：1,575円　全長約180mmのレンガ橋。橋脚高さが5mm刻みで調整可能。



■043　橋C：1,575円　全長約180mmの鋼鉄の橋。橋脚高さが5mm刻みで調整可能。

海の家

◎オープンパッケージ販売
◎2010年7月発売：各1,029円

夏の海岸沿いを演出する「海の家」が2種類発売。Aは土間式、Bは桟敷式で、いずれも建物のほかシャワー室、トイレ、各種小物が付属する。

■060 海の家A（土間式）

■061 海の家B（桟敷式）

祭の櫓

◎オープンパッケージ販売
◎2009年7月発売：1,575円

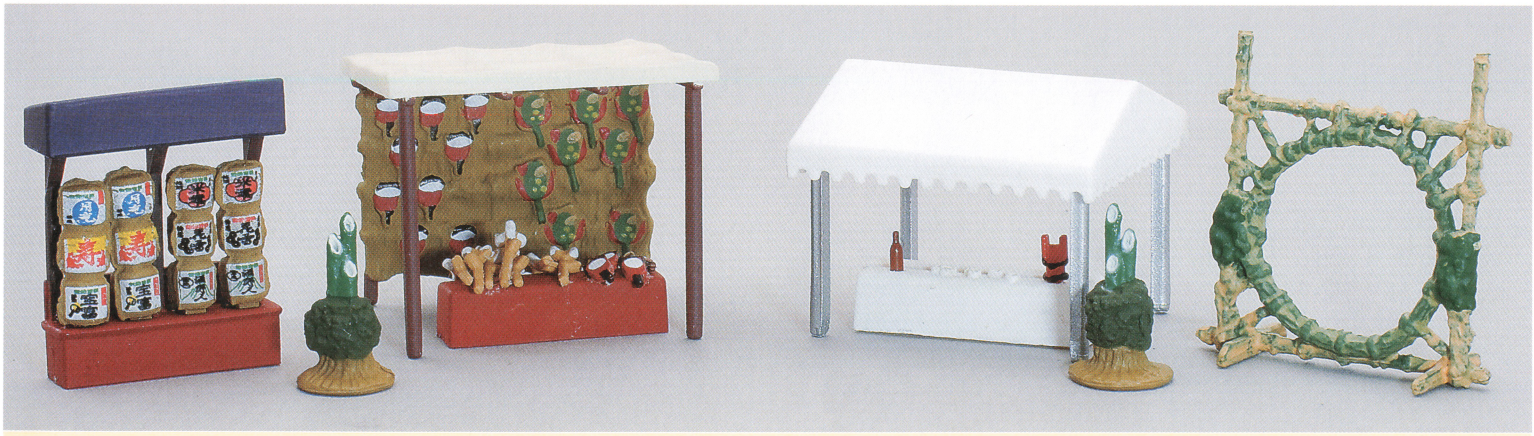
情景に季節感を与える「祭の櫓」。二段式の櫓に加え、盆踊りを踊る人・太鼓を叩く人の計14体のフィギュアが付属、別売の「ザ・人間 盆踊りの人々」を適宜加えてより賑やかなお祭りの光景が再現できる。

030　祭の櫓

お正月セット

◎オープンパッケージ販売
◎2009年11月発売：1,365円

初詣の光景を演出したい時に必要な小道具類を集めたもので、門松、縁起物屋台、テント、菰樽、茅の輪といったアクセサリーをセット、フィギュアも７体付属。

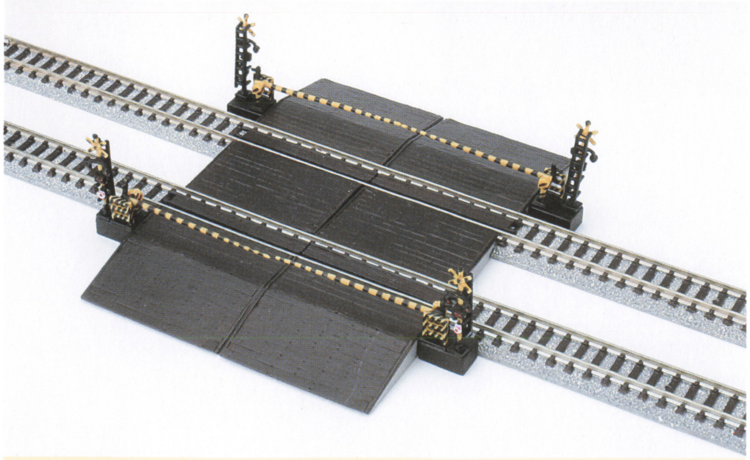


040　お正月セット

踏切

◎オープンパッケージ販売
◎2010年5月発売：819円

1車線分の「踏切A」に続けて発売された「踏切B」は、2車線分の車道を持ち左右に警報機・遮断機を設置したタイプの踏切セット。TOMIXレールに対応（写真のレールは別売）。



054 踏切B

日本庭園セット

◎オープンパッケージ販売
◎2009年12月発売：819円

情景を演出するためのパーツセットで、土塀、池の淵、竹垣、菖蒲、庭石、植栽、石畳、石灯籠、小橋、青色の水面シートが付属。写真中の池は同梱パーツを組み合わせて製作したもの。

041　日本庭園セット

火の見櫓・消防団車庫

◎オープンパッケージ販売
◎2010年1月発売：1,260円

火の見櫓とその脇に置くのに好適な木造の消防団車庫をセット。消防団車庫は扉の開閉を選択可能。

■046 火の見櫓・消防団車庫

交番

◎オープンパッケージ販売
◎2010年1月発売：819円

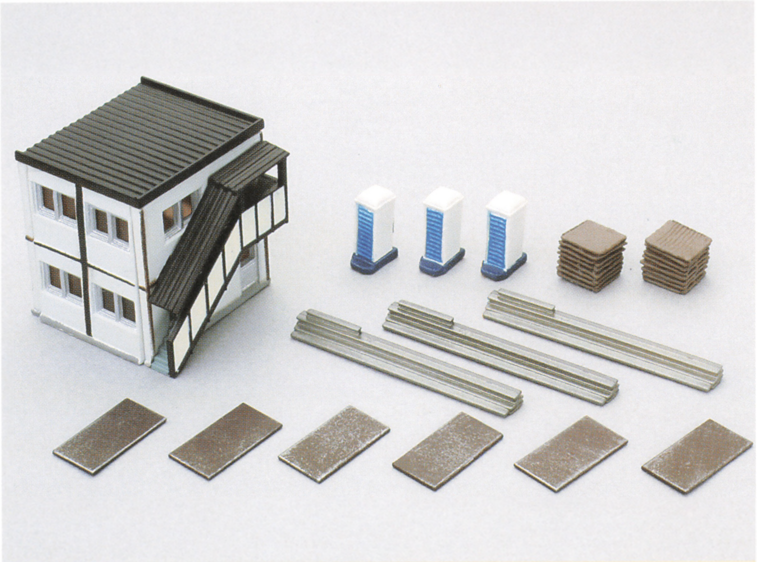
街で見掛けるタイプの交番を模型化。警官のフィギュア2体と自転車、コーンなどの小物が付属するほか、改造用として電飾キット接続用のコネクターが付いた赤色LEDが1個付属。

■047 交番　　「電飾キット」に対応する赤色LEDが付属。▲

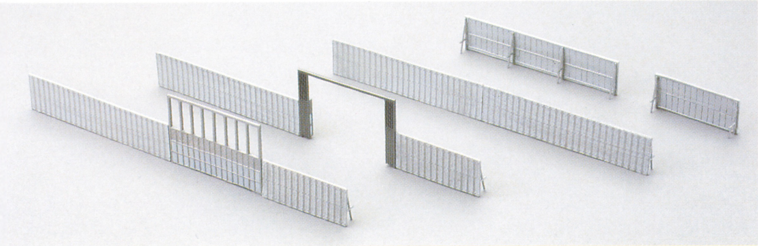
工事現場

◎オープンパッケージ販売
◎2010年3月発売：各819円

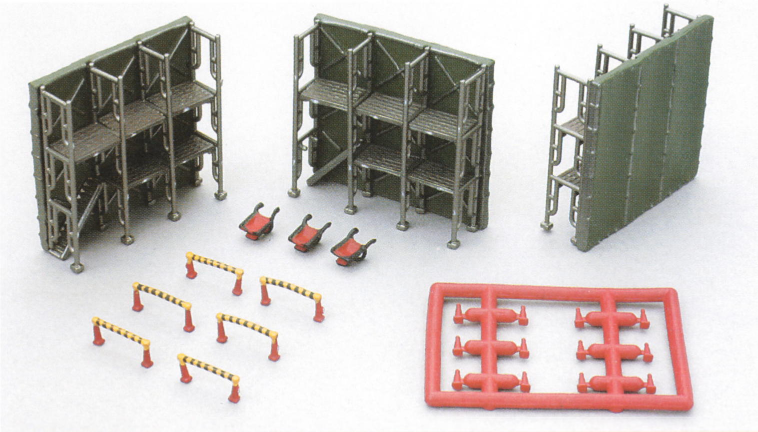
新シリーズの建設機械コレクションによく似合う、工事現場を演出するのに好適なパーツ集が3種発売。近く色替え版(A2～C2)も2011年2月に発売が予定されている。



■051 工事現場A　現場事務所と小物



■052 工事現場B　ゲートと塀

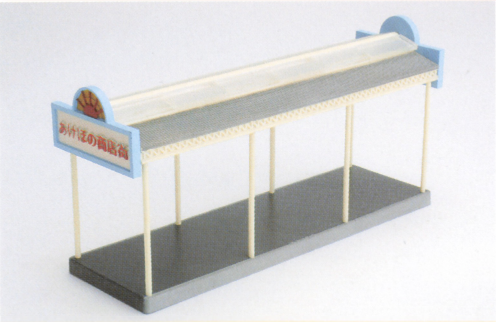


■053 工事現場C　作業足場

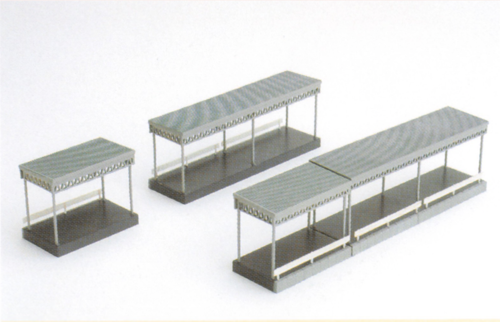
情景小物 アーケード

◎オープンパッケージ販売
◎2010年5月発売

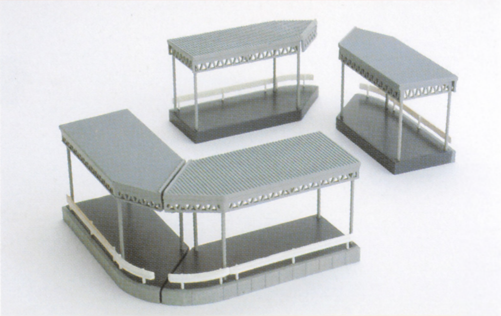
今までありそうでなかったユニークな製品で、商店の模型を並べただけで賑やかな繁華街のイメージが漂う。設置方法に合わせ3つのアイテムがある。ベース厚さは5mm。



■055 アーケードA　1,029円
二階の窓まで覆う高屋根(1セット入)



■056 アーケードB　819円
歩道用の直線屋根(2セット入　2:1の分割式)



■057 アーケードC　819円　コーナーで45度の分割式
歩道用の角屋根(2個でワンペア×2セット入)

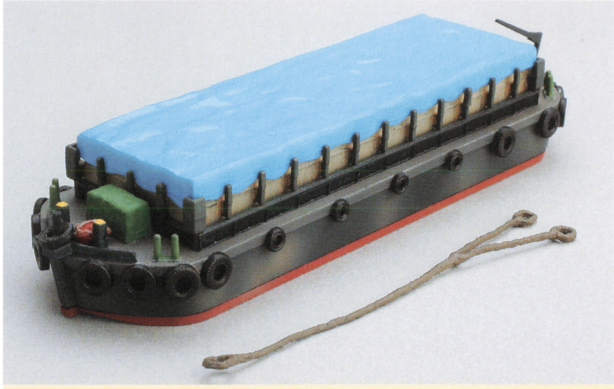
タグボート／運材船

◎オープンパッケージ販売
◎2010年9月発売：各1,029円

水際のアクセントとして効果的なタグボートと運材船が発売された。タグボートは船底などの色違いで2種が用意される。また運材船には牽引ロープと積荷が付属する。

■063 タグボート2（船底 青）

■062 タグボート1（船底 赤）



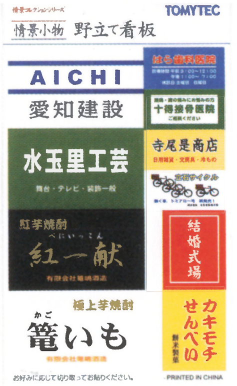
■064 運材船

野立て看板

◎オープンパッケージ販売
◎2010年6月発売：819円

4種類の形態×2セットが同梱された看板。図柄は印刷済だが、貼替用のシールが付属する。

■058 野立て看板

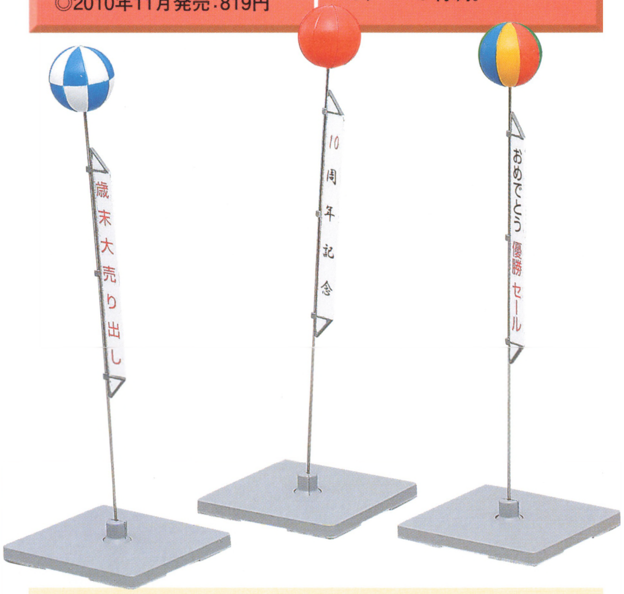


▲貼替用のシールが付属。

アドバルーン

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売：819円

ベースの付いたアドバルーンが3個入。ロープ部分は金属線で再現されている。貼替用のシールが付属。



■066 アドバルーン

屋上看板

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売：819円

ビルの屋上に設置する看板が2種類入。裏側から別売の電飾キットを用いて光らせることが可能なよう、透明樹脂で成型されている。シール付属。

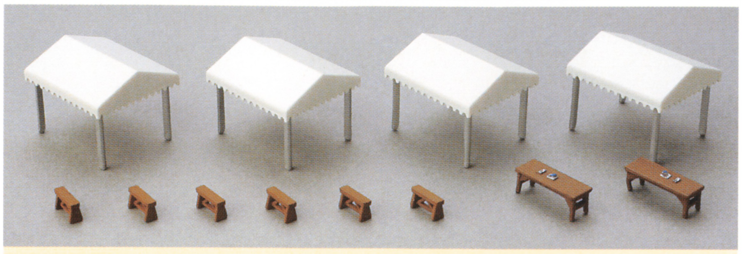
▲不透明のシールのほか、電飾用に透過したシールも付属。

■067 屋上看板

テント

◎オープンパッケージ販売
◎2010年9月発売:819円

運動会やお祭りなどでお馴染みの折り畳み式テントを模型化。テントが4個のほかテーブルや椅子、シールが付属。

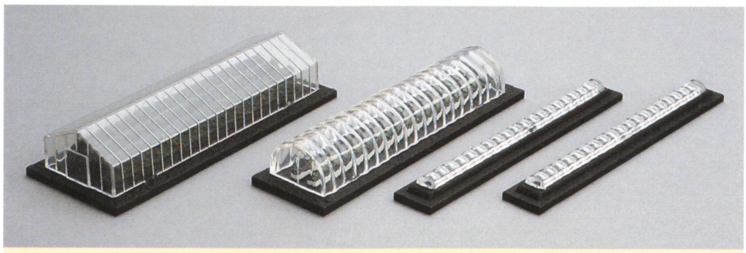


■059 テント

ビニールハウス

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売:819円

農村風景に欠かせないビニールハウスを模型化。大×1個、中×1、小×2個の計4個入で、温室内の作物も再現される。

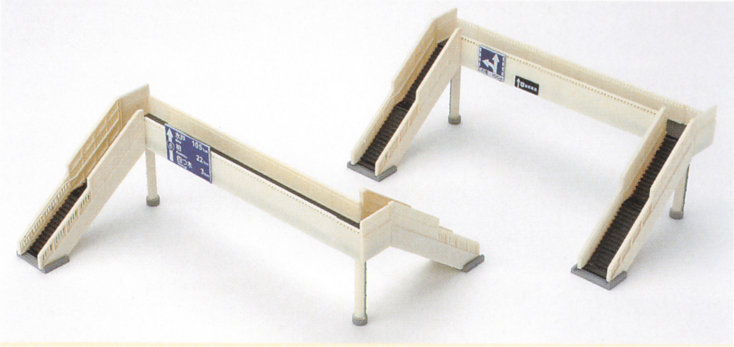


■065 ビニールハウス

歩道橋

◎オープンパッケージ販売
◎2010年1月発売:1,260円

街でよく見掛ける歩道橋を製品化。2セット入で、写真のように階段の方向を選択して設置することが可能。

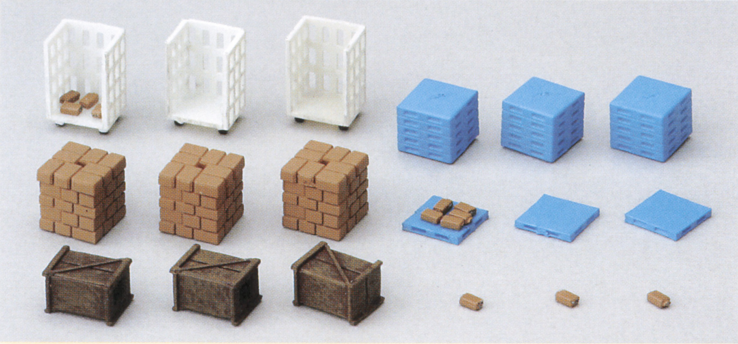


■045 歩道橋

荷物

◎オープンパッケージ販売
◎2010年12月発売:819円

トラックターミナルや工場、駅構内などと合わせて使いたい荷物のセット。荷物カゴや木箱、パレットなどが同梱される。

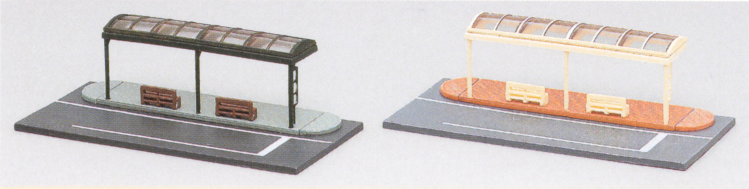


■069 荷物A

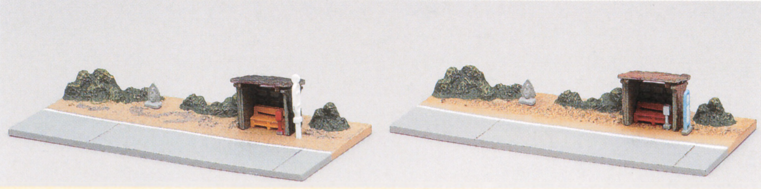
バス停(リニューアル)

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売:各714円

2008年9月に発売された「情景小物 バス停」A・Bの色替えリニューアル版2種。Aは都会的な片持ち式屋根のもの、Bは昔ながらの待合室タイプ。色違いで各2個入。



■007-2　バス停A2



■008-2　バス停B2

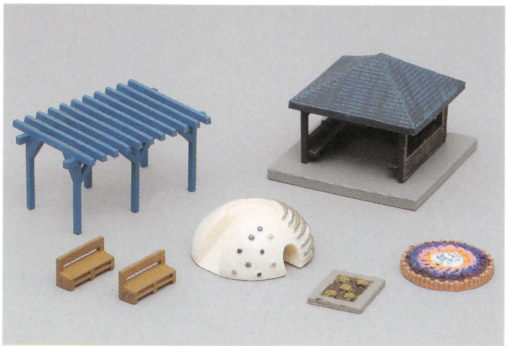
駅前・公園(リニューアル)

◎オープンパッケージ販売
◎2010年11月発売:各819円

2008年9月に発売された「情景小物 駅前・公園」A・Bの色替えリニューアル版3種。文字通り駅前広場や公園のほか、さまざまな情景に使えるパーツ集。

■012-2　駅前・公園A2

■013-2　駅前・公園B2



■014-2　駅前・公園C2

ザ・人間

盆踊りの人々

情景小物「祭の櫓」と組み合わせて使うのに最適な、浴衣を着て盆踊りを踊るフィギュア。色違い3種各12体入

○2009年7月発売：各525円

■032 盆踊りの人々（033・034は032の色違い品）

漁港の人々

建物コレクション「漁港」によく似合う、漁業関係者のフィギュア。色違い3種各12体入。

○2009年8月発売：各525円

■035 漁港の人々（036・037は035の色違い品）

結婚式の人々

結婚式のシーンを演出する新郎新婦、両親、牧師、参列者などのセット。色違い3種各12体入。

○2009年12月発売：各525円

■038 結婚式の人々（039・040は038の色違い品）

昭和の人々

昭和時代の街の商店街など、昔懐かしい風景を再現する際に重宝しそうなフィギュア。A～Bの2種各12体入。

○2010年1月発売：各525円

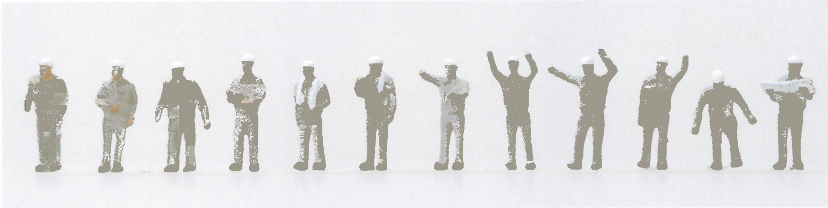
■041 昭和の人々（A）

■042 昭和の人々（B）

現場の人々

工事現場などに使いたい作業員のセット。作業着の色が043はグレー、044が青、045がライトグリーンの3種、各12体入

○2010年3月発売：各525円



■043 現場の人々（044・045は043の色違い）。

海水浴の人々

夏を演出する海辺で遊ぶ人々のフィギュア。色違い3種各12体入。

○2010年7月発売：各525円

■046 海水浴の人々（047・048は046の色違い）。

ザ・動物

馬

○2009年5月発売：525円

「ザ・トラックコレクション」第5弾の馬匹運搬車発売を契機に発売。写真の3形態が6頭入。

牛

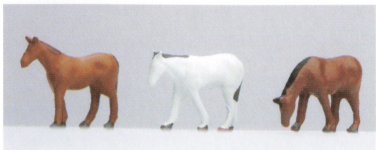
○2010年5月発売：各525円

黒牛のAとホルスタインのBとの2種。いずれも3形態のものが2体ずつ入った6体入。

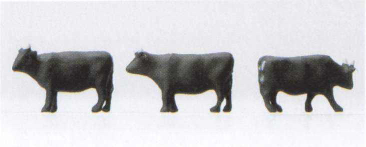
豚

○2010年6月発売：525円

黒豚を含む豚のセット。写真の形態のものが2体ずつ入った8体入。

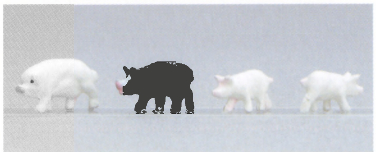


■001　馬



■002　牛（A）

■003　牛（B）



■004　豚

樹木

南国の木

○2009年9月発売:各714円

南国ムードや観光地らしさを演出するのに好適な樹木。カナリーヤシとココヤシは3本入、ソテツは5本入。いずれも樹木を支えるためのベースが付属。

■ソテツ

サクラ

○2010年2月発売:609円

「ザ・樹木」久々の新製品はサクラの改良版「サクラB」。幹と枝が一体成型とされ、コレまで以上に組立が容易に。4本入り。

■015 ココヤシ

■017 カナリーヤシ

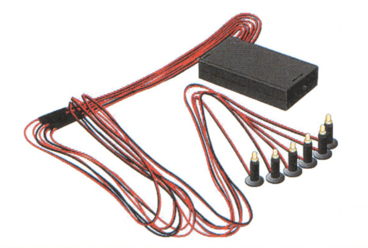
■018 サクラB

その他

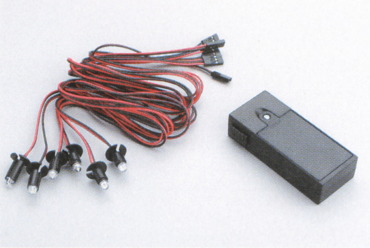
電飾キット

○A:2009年6月発売:1,050円
○B:2009年12月発売:1,260円
○C:2010年8月発売:1,365円

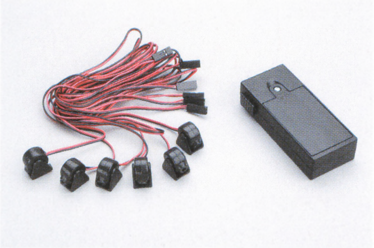
「建物コレクション」などの建物を簡単に点灯させるためのセット。LED×6個とその台座パーツ、LEDからのソケットが差し込み可能な電池ボックス(単3アルカリ電池別売)、建物内遮光用の遮光フィルムがセットされる。



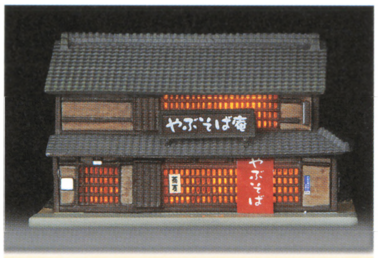
■電飾キットA ～白熱灯の色～



■電飾キットB ～白色蛍光灯の色～

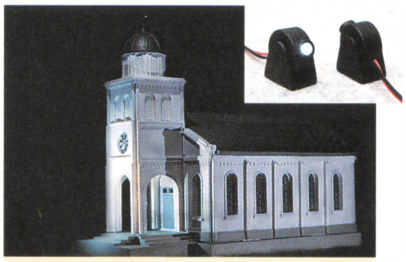


■電飾キットC (ライトアップ用照明)



▲電飾キットA (白熱灯の色)使用例

▲電飾キットB (白色蛍光灯の色)使用例

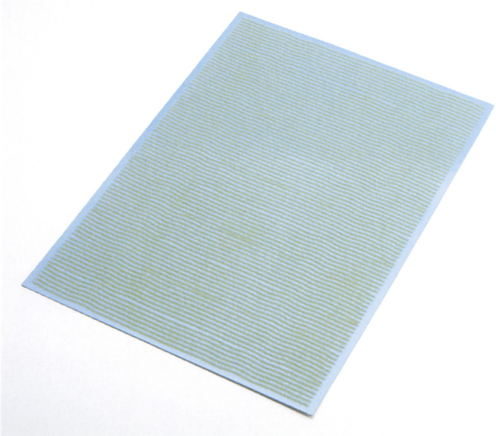


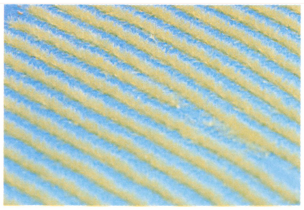
▲電飾キットC (ライトアップ用照明)使用例

ジオラママット

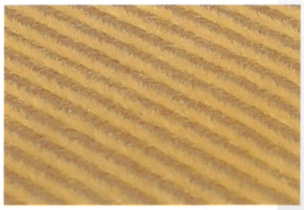
○2010年9月発売:各609円

加工しやすい紙製ベースに植毛が施されたシートで、切って貼るだけで地面表現が可能。「春の水田」と「秋の畑」の2種類を発売。





■ジオラママットA (春の水田)



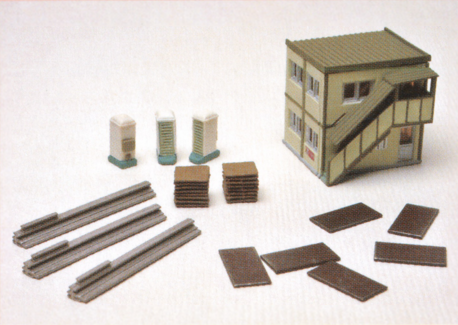
■ジオラママットB (秋の畑)

2011年以降の発売品・予定品

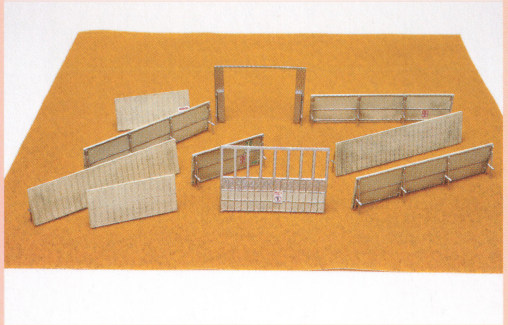
○一部写真は試作品のため、実際の製品と異なる場合があります。
○記載価格は予価です。また発売月が変更になる場合があります。

■情景小物068 自販機A ～現代風～　1月発売:819円

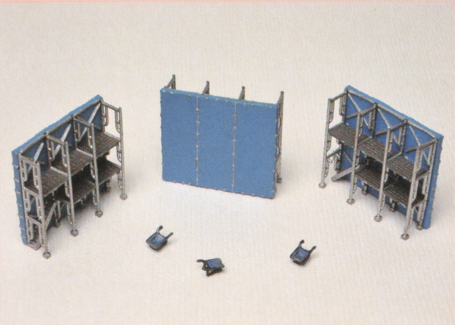
■情景小物070　農機小屋と農機A（左）
■情景小物071　農機小屋と農機B（右）　3月発売予定:各1,260円



■情景小物051-2 工事現場A2　2月発売予定:819円



■情景小物052-2 工事現場B2　2月発売予定:819円



■情景小物053-2 工事現場C2　2月発売予定:819円

■ザ・人間
049～052
撮る人々
1月発売:
609円

■ザ・人間
052～054
住宅街の人々
4月発売予定:
609円

■ザ・人間
055～057
小学生と先生
4月発売予定:
609円

■サウンドユニットA　3月発売予定:1,890円
警笛、ジョイント音、虫の音、踏切、ATS音など10種類の音を専用スピーカーより再生。単三アルカリ乾電池2本使用（別売）。

■情景小物 コンビナート　5月発売予定
□072 コンビナートA 蒸留塔:1,680円
□073 コンビナートB 冷却塔:1,680円
□074 コンビナートC ガスホルダー:2,625円
□075 コンビナートD 積み出し所:1,680円
□076 コンビナートE 守衛所・ゲート:924円
□077 コンビナートF パイプセット:1,680円
□078 コンビナートセット:15,540円
（A×2、B、C×2、D、E、F＋追加のパイプなど）
※写真中の線路、貨車、自動車等は別売りです。ジオラマ内容は必ずしもコンビナートセットとは一致しません。

04 ザ・バスコレクション

Text：宇佐美健太郎（トラック・バス編集部）、RMM
Photo：青柳 明（RMM）、羽田 洋

3度目の観光・高速バスシリーズ

2003年5月末に発売された「ザ・バスコレクション（バスコレ）」も、その勢いはとどまることを知らず、シリーズ展開は第14弾を迎えた。

バスコレ第14弾（2009年9月末発売）では、三菱製大型観光・高速バスの新旧モデルが製品化された。シリーズ展開が始まった頃からバスコレは路線バスを中心に製品化が進んだが、時折高速・観光バスのみのシリーズを織り交ぜ、ファンを飽きさせない。第14弾は、第8弾（2006年4月末発売）、第10弾（2007年8月末発売）に続く3回目の観光・高速バスシリーズとなった。

製品化されたのは、1992年に登場した三菱ふそうニューエアロバスと、1970年代後半から80年代にかけ活躍が見られた三菱ふそうMS618の「パノラマデッカー」。ニューエアロバスは2代目となるMS8系で、流麗なフォルムが特徴。「パノラマデッカー」は屋根上前方に設けられた航空機のコクピットのような天窓が特徴で、ヒサシの深い後期型がプロトタイプとなっている。

いずれの製品も全面はめ込み窓ガラスを採用。また、「パノラマデッカー」両備バスは屋根上マーカーランプが別パーツとして付属。これはシリーズ初となる上級者向けのユーザー取付パーツで、幅広いバスコレファン層に応えた格好となった。

通好みのラインナップ！

バスコレ第15弾（2010年3月末発売）では、2007～10年に製造・販売された三菱ふそうエアロスター・ワンステップ車のPKG-MP35UMと1980年代に活躍が見られたいすゞCJM500の北村製作所製ボディ架装車が製品化された。

北村製作所は1980年代終わり頃まで、バスボディを製造・架装していた新潟県のメーカー。このボディの架装車は東日本の事業者に採用例が多かった。バスコレでは初めての製品化となる。

シークレットアイテムは、この北村製ボディを架装したいすゞCJM500の前モデル、いすゞBU10を専用金型で再現、バスコレファンを沸かせた。いずれも通好みのラインナップである。

▲シークレットアイテムのいすゞBU10関東バス。レギュラーアイテムのいすゞCJM500とボディはほぼ同タイプながらも、エンジン・シャシー型式が一世代前のものとなっている。

ついに真打ち登場！

バスコレ第16弾（2010年11月末発売）では、1988年に登場し現在も全国各地で活躍が見られる富士重工業製7Eボディ架装車と、1960～70年代に活躍が見られた西日本車体工業（西工）製の42MC（66MC）、通称「カマボコ」を製品化。

富士重工業製7Eの路線バスは、かつてTOMIXからレイアウトのアクセサリーとして製品化されたこともあったが、バスコレでの製品化は「ついに真打ち登場！」と言った感がある。西工42MCも製品化が待ち望まれていた名車である。

なお、厳密に言えば京成バスは関東にあるバスボディメーカーが、西工42MCと共通図面を使用したライセンス製造車となる。

▲バスコレ第16弾の富士重工業7Eは、日産ディーゼルと日野のエンジン・シャシーの車輌がラインナップされ、両者で異なる微妙な違いも再現されている。この京浜急行バスは日産ディーゼル車。

レギュラー品

第14弾

○ブラインドパッケージ販売
○全12種＋シークレット1種
○2009年9月発売：各525円

三菱製の大型観光・高速バス新旧をラインナップ。1992年に登場した三菱ふそうニューエアロバスと、1970年代後半から80年代にかけて活躍が見られた三菱ふそうMS615「パノラマデッカー」の2種。「パノラマデッカー」は屋根上前方に設けられた天窓が特徴的である。

■三菱ふそうニューエアロバス
北海道中央バス

■三菱ふそうニューエアロバス
ジェイアールバス関東

■三菱ふそうニューエアロバス
東京空港交通

■三菱ふそうニューエアロバス
京王電鉄バス

■三菱ふそうニューエアロバス
帝産観光バス

■三菱ふそうニューエアロバス
名鉄バス

■三菱ふそうニューエアロバス
西日本ジェイアールバス

■三菱ふそうニューエアロバス
神姫バス

■三菱ふそうニューエアロバス
ことでんバス

■三菱ふそうニューエアロバス
九州産交バス

■三菱ふそうMS615「パノラマデッカー」
北陸鉄道

■三菱ふそうMS615「パノラマデッカー」
両備バス

■【シークレット】
三菱ふそうニューエアロバス　神姫バス
神戸市内定期観光バスK-Queen

第15弾

○ブラインドパッケージ販売
○全12種＋シークレット1種
○2010年3月発売：各525円

三菱ふそうエアロスター・ワンステップ車の現行モデルと、1980年代に活躍が見られたいすゞCJM500の北村製作所製ボディをモデル化。さらにシークレットはCJM500の前モデルであるBU10がモデル化された。

■三菱ふそうエアロスター
北海道中央バス

■三菱ふそうエアロスター
関東バス

■三菱ふそうエアロスター
東急バス

■三菱ふそうエアロスター
名鉄バス

■三菱ふそうエアロスター
京阪バス

■三菱ふそうエアロスター
阪急バス

■三菱ふそうエアロスター
神姫バス

■三菱ふそうエアロスター
広島バス

■いすゞ CJM500（北村ボディ）
岩手県交通

■いすゞ CJM500（北村ボディ）
新常磐交通

■いすゞ CJM500（北村ボディ）
蒲原鉄道

■いすゞ CJM500（北村ボディ）
東海自動車

■【シークレット】
いすゞ BU10
（北村ボディ）
関東バス

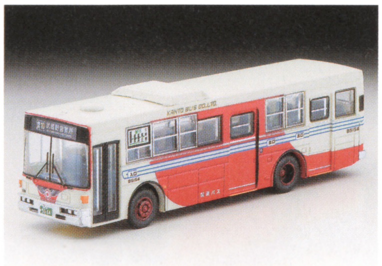
第16弾

○ブラインドパッケージ販売
○全12種＋シークレット1種
○2010年11月発売：各630円

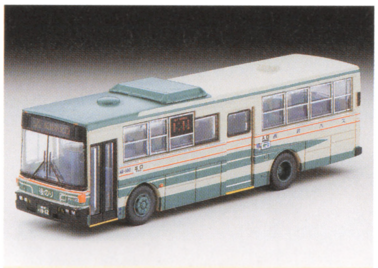
1988年に登場し、現在も全国各地で活躍が見られる富士重工業製7Eボディ架装車と、1960〜70年代に活躍が見られた西日本車体工業（西工）製の42MC（66MC）、通称「カマボコ」を製品化。

■富士重工業7E
南越後観光バス

■富士重工業7E
小湊鉄道



■富士重工業7E
関東バス



■富士重工業7E
西武バス

■富士重工業7E
西東京バス

■富士重工業7E
京浜急行バス

■富士重工業7E
遠州鉄道

■富士重工業7E
京都バス

■富士重工業7E
西日本ジェイアールバス

■西日本車体工業42MC
京成バス

■西日本車体工業42MC
大阪市交通局

■西日本車体工業42MC
西日本鉄道

■【シークレット】
富士重工業7E
京浜急行バス 赤バス
（貸切兼用車）

オープンパッケージ品

富士重工業5E 5台セットA

○2010年7月発売：3,150円

全国で数多く活躍した富士重工5Eボディ架装車が5台セットのオープンパッケージで登場。第6弾のものとは尺（ボディ長さ）などが異なる。

▲左より、西東京バス、横浜市交通局、京都バス、広島バス、琉球バス交通。関東以南の広いエリアから事業者を選定。

西日本車体工業96MC ノンステップバス5台セットA

○2010年8月発売：3,675円

1996年に登場し、やはり全国で数多く活躍している西工96MCボディ架装車の5台セット。第5弾のものとは異なり、末期に近い姿がモデル。

▲左より、東京都交通局、川崎市交通局、京都市交通局、大阪市交通局、佐世保市交通局。全国各地の公営交通5社局から選定。

イベント限定品

トミーテック 動態保存車 富士重工業5E 京都バス55号車

○2010年6月発売：600円

▲トミーテック自身により動態保存されているバスの、京都バス営業時代を再現したもの。

雑誌付録

週刊『鉄道模型 少年時代』第6号付録

○発売元：講談社
○2009年10月発売

▲日野BD34 里山交通カラー（フリー塗装）

事業者特注品

京浜急行バス オリジナルバスセット

○発売元：京浜急行バス
○2009年5月発売：1,200円

◀空港リムジンとして活躍する日野セレガRと、路線バス、いすゞエルガノンステップのセット。

京浜急行 オリジナルバスセットⅡ

○発売元：京浜急行バス
○2010年5月発売：1,200円

◀リムジンバスのニューエアロバスと、路線バス西工ノンステップ（96MC）のセット。

小田急 オリジナルバスセット

○発売元：小田急バス
○2010年11月発売：1,200円

◀現代のいすゞエルガノンステップバスと、小田急バス発足時の塗装のいすゞボンネットバスとの新旧セット。

松本電鉄 オリジナルバスセット

○発売元：松本電鉄
○2010年6月発売：1,200円

◀現行アルピコカラーのいすゞU-LV218Lと、上高地などで活躍した北村製作所製ボディを持ついすゞBU10Kとの新旧セット。

名古屋市交通局 オリジナルバスセット第2弾

○発売元：名古屋市交通局
○2010年3月発売：1,200円

◀2006年に続く2回目の発売で、三菱ふそうKC-MP717Mと、いすゞボンネットバスBX352との新旧セット。

呉市営バス オリジナルバスセット

○発売元：呉市交通局
○2009年9月発売：1,200円

◀CNG仕様のいすゞエルガノンステップと、動態保存されているいすゞBXD30との新旧セット。

大阪市交通局 オリジナルバスセット第3弾

○発売元：大阪市交通局
○2009年9月発売：1,200円

◀1990年代に導入された西日本車体工業58MCと、1970年代に導入された日野RC320P観光バスとの新旧セット。

大阪市交通局 オリジナルバスセット第4弾

○発売元：大阪市交通局
○2010年12月発売：1,200円

◀1970年代に導入された三菱MP107Kと、1980年代に導入された三菱MP218Kの、新旧呉羽（新呉羽）ボディ車のセット。

05

ザ・トラックコレクション

Text：宇佐美健太郎（トラック・バス編集部）、RMM
Photo：青柳 明（RMM）

タンクローリー、百花繚乱！

「ザ・トラックコレクション（トラコレ）」は、1：150スケールながら、ディスプレイモデルとしても十分なクオリティを持ち、2005年7月末の第1弾発売以来、多くのファンを獲得している。

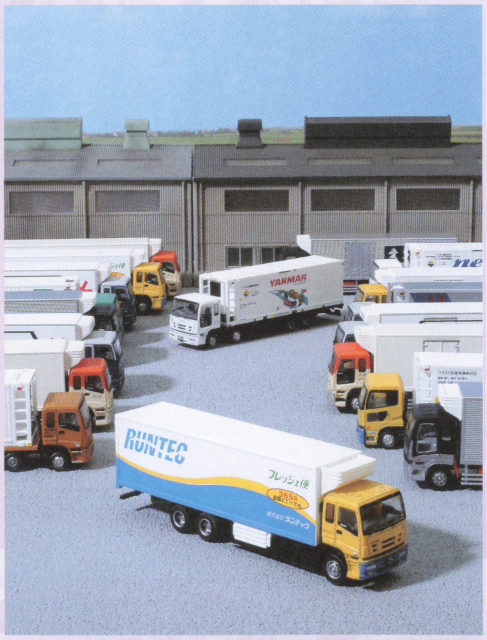
トラコレ第6弾（2009年11月末発売）は「タンクローリー」がテーマ。石油類輸送用、液化天然ガス輸送用、化成品輸送用、牛乳輸送用（ミルクローリー）など輸送品目別にタンク体の形状を作り分けている。石油類輸送用はタンク容量の異なる2種を作り分け、化成品と牛乳輸送用はメッキ仕様となっていることが特筆される。なお、変わり種のラインナップとして活魚輸送車があることがユニーク。車種としては日産ディーゼルC800が新規製作された。これは一部グレードが「レゾナ」の愛称を持つ、1980年代を代表する大型トラックである。

冷凍／冷蔵車、勢ぞろい！

トラコレ第6弾に続き第7弾（2010年7月発売）も、特定の用途のトラックをテーマに展開。第7弾は冷凍／冷蔵パネルバンと31フィート冷凍／冷蔵コンテナトラックがテーマ。冷蔵パネルバンの荷台はコルゲートの有無で2タイプあり、31フィートコンテナも形式によるパネルラインやクーリングユニット形状など微妙な差異を作り作り分けている。車種としては日産ディーゼル・クオン、いすゞギガの最初期モデルに加え、2007～10年に製造・販売された、いすゞギガのマイナーチェンジモデルと、それから2世代前に当たり1970年から製造・販売された、いすゞニューパワーが新規製作された。いすゞニューパワー幌付き平荷台トラック一般営業用は、カタログカラーとも言える青と黄色のストライプが大胆に配されたタイプで、非常に魅力的である。

▲トラコレ第6弾の日産ディーゼルC800は、ヘッドライト、グリルなどの形状違いで前期型（左）と後期型を作り分けている。

▲トラコレ第7弾のいすゞニューパワー。この車種は幾度かのマイナーチェンジで大きく意匠を変えたが、最初期型がモデル。



レギュラー品

第6弾

○ブラインドパッケージ販売
○全12種＋シークレット1種
○2009年11月発売：各525円

第6弾はタンクローリーがテーマ。石油類輸送用をはじめ、液化天然ガス輸送用、化成品輸送用、牛乳輸送用（ミルクローリー）などタンク体の形状を作り分けている。車種も新たに日産ディーゼルC800が加わっている。

■日野TC 14kℓタンクローリー
出光興産（旧塗装）

■日産ディーゼルC800前期型14kℓタンクローリー
出光興産（新塗装）

■日産ディーゼルC800前期型14kℓタンクローリー
日本石油

■日産ディーゼルC800前期型14kℓタンクローリー
新日本石油（ENEOS）

■日産ディーゼルC800前期型14kℓタンクローリー
共同石油

■日産ディーゼルC800後期型16kℓタンクローリー
ジャパンエナジー （JOMO）

■三菱ふそうスーパーグレート LPGローリー
大陽日酸

■三菱ふそうスーパーグレート LPGローリー
岩谷産業

■日産ディーゼルC800後期型
化成品ローリー

■日産ディーゼルC800前期型
ミルクローリー

■日産ディーゼルC800後期型
活魚輸送車 一般営業用

■日野プロフィア
消防水槽車

■【シークレット】
日産ディーゼル
C800前期型14kℓ
タンクローリー
日本石油（旧塗装）

第7弾

○ブラインドパッケージ販売
○全12種＋シークレット1種
○2010年7月発売：各630円

冷蔵パネルバンと31フィート冷凍・冷蔵コンテナトラックがテーマ。車種はレギュラーアイテムで日産ディーゼル・クオン、いすゞギガ（最初期・マイナーチェンジ後）、いすゞニューパワーの3車種4タイプ。

■日産ディーゼル・クオン 31フィート冷蔵コンテナトラック ランテック

■いすゞギガ 冷蔵パネルバン
ランテック

■いすゞギガ 冷蔵パネルバン
福岡運輸

■いすゞギガ 冷蔵パネルバン
キユーソー便

■いすゞギガ 冷蔵パネルバン
一般営業用

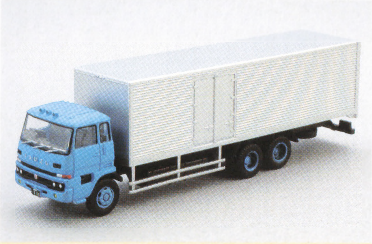
■いすゞギガ 31フィート冷凍コンテナトラック
ヤンマー

■いすゞギガ 31フィート冷凍コンテナトラック
日本石油輸送

■いすゞギガ 31フィート冷蔵コンテナトラック
日本通運

■いすゞギガ 31フィート冷凍・冷蔵コンテナトラック　西久大運輸倉庫

■いすゞギガ(最初期モデル) 31フィート冷凍コンテナトラック　福岡運輸



■いすゞニューパワー 冷蔵パネルバン
一般営業用

■いすゞニューパワー 幌付き平荷台トラック
一般営業用

■【シークレット】
日産ディーゼル・ビッグサム 31フィート冷蔵コンテナトラック
九州牛乳輸送

事業者特注品

日本フレートライナー トラック・コンテナセット

○発売元:日本フレートライナー
○2010年10月発売:1,500円

◀▲珍しい「ザ・トラックコレクション」の特注品。UDトラックス(旧・日産ディーゼル)クオン+UV54A型コンテナ、日野プロフィア+UV54A型コンテナのセット。

06

ザ・トレーラーコレクション

Text：宇佐美健太郎（トラック・バス編集部）、RMM
Photo：青柳 明（RMM）、羽田 洋

鉄道好きも納得、ハイキューブと車輌輸送用

ザ・トレーラーコレクションは、通常のトラックとは異なり、トラクタートラック（牽引車）とトレーラー（荷台）で構成されるトレーラーを題材にしたシリーズ。1：150スケールとはいえ、実物同様、堂々とした車体は非常に魅力的であり、トラクタートラックとトレーラーは切り離しもできる。2007年9月に発売した『ジオラマコレクション完全マニュアル』に第2弾までを掲載したが、その後少々シリーズ展開の間が開いたことから、本誌ではそれ以来の掲載となる。

ザ・トレーラーコレクション第3弾（2009年6月発売）は、40フィートハイキューブ（背高）コンテナトレーラーとポールトレーラーを製品化。ハイキューブコンテナは通常より外寸で約30cm背高となる海上コンテナである。ポールトレーラーは鋼材や鉄道車輌など長尺物輸送のためのトレーラーである。鉄道好きも納得のラインナップだ。

三菱ふそうの各仕様が登場！

ザ・トレーラーコレクション第4弾（2010年3月発売）は、海上コンテナトレーラーと低床構造の重トレーラーを製品化。海上コンテナは40フィートハイキューブリーファーコンテナ（冷蔵コンテナ）を新規製作している。また、40フィートドライコンテナは新たに5社の運送会社のカラーリングをラインナップしている。

トラクタートラックの車種としては、2007～10年に製造・販売された三菱ふそう新型スーパーグレートをはじめ、三菱ふそうスーパーグレートのトラクタートラック専用スーパーフルキャブ仕様、ボンネットタイプのW250型を、今回新たに製作しており、バリエーションに富んでいる。

待望のスーパードルフィン現る！

ザ・トレーラーコレクション第5弾（2010年12月発売）は、コンテナトレーラーに加え、バントレーラーを製品化。積載コンテナも40フィート海上コンテナ、31フィート鉄道コンテナがあり、前者には「フラットラックコンテナ」と呼ばれる特殊コンテナが新たに製品化された。これは産業機械や建設資材など通常のドライコンテナに積載できない大型貨物を輸送するためのオープンタイプのコンテナである。トラクタートラックは、1981～92年に製造・販売された日野スーパードルフィンを新規製作。トラクター仕様のグリルを装備するタイプで、年代によるヘッドライト形状の違いを作り分けている。

▲ハイキューブタイプ（左）と通常タイプで高さの異なる海上コンテナは、1:150スケールにしてもその差がハッキリと分かる。

▲三菱ふそうスーパーグレートの各仕様がラインナップされた。左から新型、スーパーフルキャブ仕様、旧モデルの一般的な仕様。

▲日野スーパードルフィンは、最初期の丸4灯ライト（丸目）とマイナーチェンジ後の角4灯ライト（角目）を作り分け。

レギュラー品

第3弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種+シークレット1種
○2009年6月発売：各630円

迫力の長大トレーラーのバリエーションが楽しめる「ザ・トレーラーコレクション」。第3弾では40フィートハイキューブコンテナトレーラーとポールトレーラーを製品化。日本通運の三菱ふそうFVポールトレーラーは、鉄道コレクションの車輌の陸送風景も再現できる。

■日立物流 日産ディーゼル・ビッグサム（後期型）
ポールトレーラー（鋼材の積荷パーツ付属）

■日本通運 三菱ふそうFVポールトレーラー

■日本高速輸送 日産ディーゼル・ビッグサム（後期型）＋
川崎汽船40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日本コンテナ輸送 日産ディーゼル・ビッグサム（後期型）＋
日本郵船40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■国際コンテナ輸送 日産ディーゼル・ビッグサム（後期型）＋
商船三井40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日産ディーゼル・ビッグサム（中期型）＋
ワンハイ40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日産ディーゼル・ビッグサム（中期型）＋
コスコ40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日産ディーゼル・ビッグサム（中期型）＋
マースク40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日産ディーゼル・ビッグサム（中期型）＋
サミットシッピング40フィートハイキューブコンテナトレーラー

■日産ディーゼル・ビッグサム（中期型）＋
フリー 40フィートハイキューブコンテナトレーラー

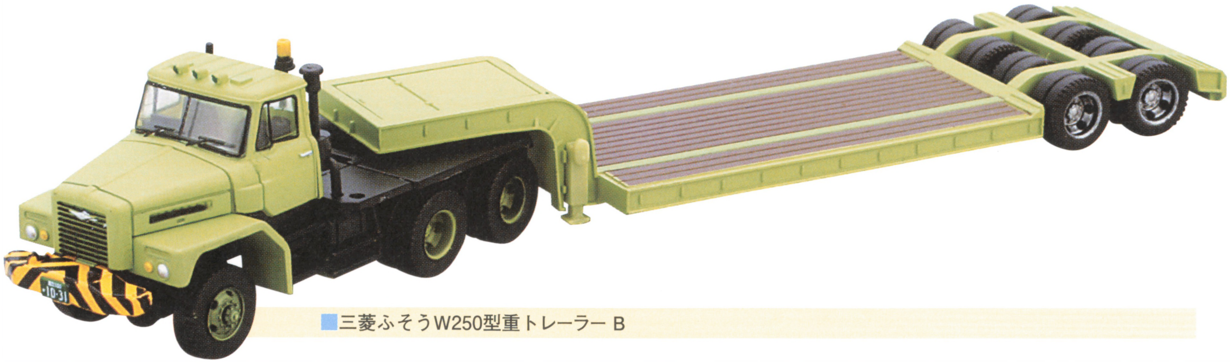
【シークレット】
■国際コンテナ輸送 日産ディーゼル・ビッグサム（前期型）＋
商船三井40フィートハイキューブコンテナトレーラー

第4弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種+シークレット1種
○2010年3月発売：各630円

海上コンテナトレーラーと低床構造の重トレーラーをモデル化。コンテナは40フィートハイキューブ冷蔵コンテナを新規製作。トラクターでは新たに三菱ふそう新型スーパーグレートとボンネットタイプのW250型が追加となった。

■三菱ふそうスーパーグレート（ハイキャブ仕様）重トレーラー A



■三菱ふそうW250型重トレーラー B

■日本高速輸送 三菱ふそうスーパーグレート+
川崎汽船40フィートハイキューブ冷蔵コンテナトレーラー

■日本コンテナ輸送 三菱ふそう新型スーパーグレート+
日本郵船40フィートハイキューブ冷蔵コンテナトレーラー

■国際コンテナ輸送 日産ディーゼルC800 +
商船三井40フィートハイキューブ冷蔵コンテナトレーラー

■三菱ふそう新型スーパーグレート+
OOCL40フィートドライコンテナトレーラー

■三菱ふそう新型スーパーグレート+
APL40フィートドライコンテナトレーラー

■三菱ふそう新型スーパーグレート+
韓進海運40フィートドライコンテナトレーラー

■三菱ふそうスーパーグレート+
SITC40フィートドライコンテナトレーラー

■日産ディーゼルC800 +
サフマリン40フィートドライコンテナトレーラー

【シークレット】
■三菱ふそう新型スーパーグレート+
APL20フィートドライコンテナトレーラー

第5弾

○ブラインドパッケージ販売
○全10種＋シークレット1種
○2010年12月発売：各735円

コンテナトレーラーとバントレーラーをモデル化。コンテナは40フィート海上コンテナ、31フィート鉄道コンテナ、40フィートフラットラックコンテナをラインナップ。トラクターでは新たに日野スーパードルフィン角目が追加となった。

■国際コンテナ輸送 日産ディーゼル・ビッグサム中期型＋
商船三井40フィートフラットラックコンテナトレーラー

■日本コンテナ輸送 日野スーパードルフィン角目＋
日本郵船40フィートフラットラックコンテナトレーラー

■一般営業用 日野スーパードルフィン丸目＋
フリー 40フィートフラットラックコンテナトレーラー

■日本通運 日野プロフィア＋
31フィート鉄道コンテナトレーラー

■一般営業用 日野スーパードルフィン角目＋
全国通運 31フィート鉄道コンテナトレーラー

■日本通運 日野HE ＋
アルミバントレーラー

■西濃運輸 日野プロフィア＋
アルミバントレーラー

■一般営業用 日野プロフィア＋
ウイングバントレーラー（低床3軸タイプ）

■一般営業用 日野スーパードルフィン丸目＋
南星海運 40フィートハイキューブ海上コンテナトレーラー

■一般営業用 日野スーパードルフィン角目＋
グランドチャイナシッピング 40フィートハイキューブ海上コンテナトレーラー

【シークレット】
■西濃運輸 日野スーパードルフィン角目＋
アルミバントレーラー

2011年以降の予定品

Text:RMM
Photo,Illsuration:TOMYTEC、RMM
○すべての写真は試作品のため、実際の商品と異なる場合があります。

○ザ・バスコレクション

■ボンネット・旧型バス2台セット2種
一般発売のオープンパッケージ、2台セットという形態で発売となる新企画。セットAはいすゞが2台(BX352、BA741)、セットBは日野が2台(BH15、BD33)、それぞれフリーカラーとなる。いすゞBA741、日野BH15は完全新規金型。3月発売、各1,470円。

◀一般発売のオープンパッケージ、2台セッ左2台がセットA（いすずBX352、BA741)、右2台がセットB（日野BH15、BD33)。

■西鉄高速バス5台セット
西日本を中心に、関東まで路線を広げる西鉄高速バスを仕様違いで5種ワンセットとしたもの。車輌は西日本車体工業のネオロイヤルSD-Ⅱ(スーパーハイデッカー)で、02MCと92MCを作り分けている。2月発売、3,675円。

▲左から、西工ネオロイヤル02MC「はかた号・どんたく号カラー」、92MC「ムーンライトカラー」、02MC「桜島カラー」、92MC「桜島専用カラー」、92MC「フェニックスカラー」。

○ザ・トラックコレクション

■オープンパッケージシリーズ2台セット2種
トラコレシリーズに初のオープンパッケージ仕様が登場する。工事現場に欠かせないダンプカーとミキサー車の2種がワンセットで、キャブはセットAが「日野スーパードルフィン」、セットBは「いすゞニューパワー」となる。情景小物「工事現場」や「建設機械コレクションVol.2」と組み合わせると良いだろう。2月発売、各1,470円。

◀左2台がセットAの日野スーパードルフィン(ダンプカー、ミキサー車)、右2台がセットBのいすゞニューパワー（ダンプカー、ミキサー車)。

○ザ・トレーラーコレクション

ザ・トレーラーコレクションにもオープンパッケージ仕様が初登場。同事業者2台セットが一挙3種ラインナップされる。右写真は日本郵船2台セット。3月発売、1,680円(他の2種も同)。

◀トラックキャブは2台とも日野プロフィアとなる。

各セットは40ftドライコンテナと40ft冷蔵コンテナをラインナップ。第1弾でラインナップしたコンテナの標記・印刷箇所をリニューアルしたものとなる。下写真は商船三井2台セット。

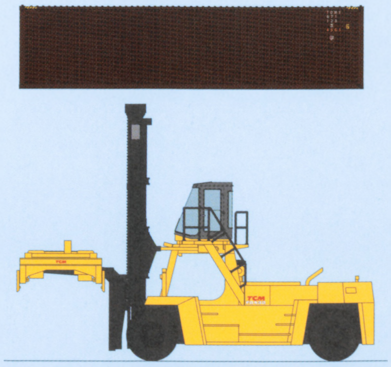
▲トラックキャブは2台ともいすゞギガで、写真左の方はハイルーフ仕様。

各セットともトラックキャブは各メーカーのカタログカラーとしてあり、汎用性が高いため、様々なコンテナを積み替えできるようになっている。下写真は川崎汽船2台セット。

▲トラックキャブは2台とも日産ディーゼルクオンで、写真左の方はハイルーフ仕様。

○コレクション アクセサリーシリーズ 特殊荷役

新シリーズの「特殊荷役」から、コンテナヤードでの積み降ろし作業に欠かせないトップリフターが待望の製品化。車種はTCM社製FD430で、カラーバリエーションは2種。もちろんリフト部分は可動アクションが楽しめる。40ft背高コンテナが1個付属。3月発売、各1,575円。



▲トップリフター Aはカタログ仕様、フリー塗装　コンテナ付き。

▲トップリフター BはNYTT仕様、NYK塗装　コンテナ付き。

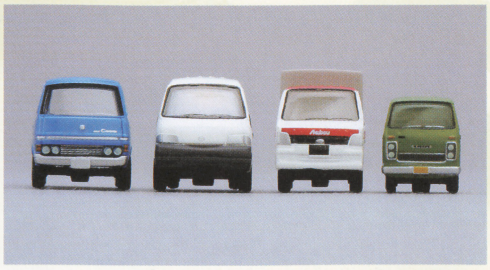
未塗装状態の試作品。

07 ザ・カーコレクション

Text：宇佐美健太郎（トラック・バス編集部）、RMM
Photo：青柳 明（RMM）、羽田 洋

大好評展開中のカーコレ！

ザ・カーコレクション（カーコレ）は、軽自動車から2tクラスの小型トラックまでの自動車を1:150スケールで再現するシリーズ。正確な造型はもとより艶やかな塗装、グリルやガーニッシュ（装飾パネル）、エンブレムなどを精密印刷で表現することで、恐るべきほどのクオリティを持っている。シリーズ展開も活発で、本誌では中身の見えないブラインドパッケージ販売の通常シリーズを6シリーズ、通常シリーズ発売後、塗装・仕様変更を行ない、4台セットのオープンパッケージ販売とした基本セットシリーズを10シリーズ紹介している。今回掲載するカーコレのテーマは、大きく分けると昭和の自動車と現代の自動車に分けられるため、本項ではそのような観点で概説する。



▲美しい塗装と精密印刷がカーコレのウリ。ヘッドライトやグリルはもちろんのこと、モールやエンブレムなどの細密表現はもはや神業の域。

昭和のクルマたち

カーコレVol.9、11では1950年代後半から1960年代前半にかけて製造・販売された、昭和のいにしえの自動車たちが製品化された。ダイハツCO8型やミゼットMP、マツダK360といったオート三輪は、1:150スケールのプラスティック製精密モデルとしては初めてのもので、待望の車種であった。また、実物の自動車史でもエポックメイキングな車種が製品化され、初代トヨペット・クラウンやスバル360など、忘れられない名車たちが姿を現した。一方、カーコレVol.7、10の一部では1960～80年代に活躍が見られた懐かしの商用車、セダンが製品化されており、様々な時代の鉄道車輌と共演させられる愉しさが広がった。

▲映画『ALWAYS 三丁目の夕日』に登場するような、昭和の自動車たちが製品化された。スバル360やダイハツ・ミゼットMPはその典型。

現代のクルマたち

既出のバス、トラック・トレーラーが、現代のモデルを中心に製品化しているのに対し、乗用車をはじめとする小型車たちは幾分古めの時代設定のモデルが多かったことから、現代を表現するにふさわしいモデルも積極的に製品化されるようになった。カーコレVol.8では現在をときめくミニバン、Vol.7の一部と12では、街角でよく見かけるタクシーやバン、軽トラックなどの商用車、Vol.10の一部では正統派4ドアセダンが製品化された。これでレイアウト・ジオラマを彩る自動車たちが、シングルアームパンタグラフを装備する軽量ステンレス製の最新通勤電車と並べても、マッチした時代設定となった。

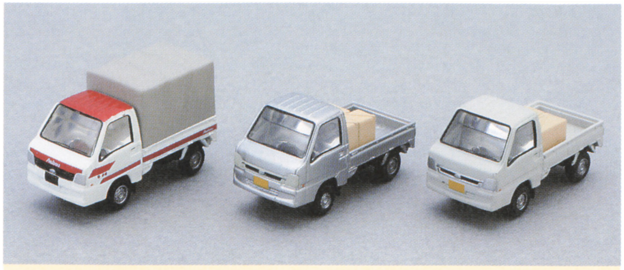
▲現代を象徴するミニバン。実車の複雑な造型もカーコレでは的確に再現している。黒っぽいスモーク（色付き）ガラスなどもキチンと再現。

レギュラー品

Vol. 7

○ブラインドパッケージ販売
○全12種（同車種の色違い2台セット）
＋シークレット4種
○2009年6月発売：各504円

Vol.7は「商用車今昔編」と題じ、軽トラック2種、ワンボックスカー 2種からバリエーションを展開した。

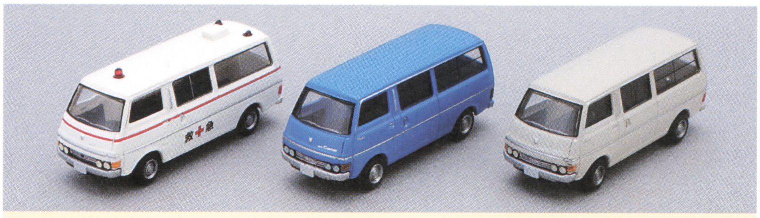


■スバル・サンバー軽トラック
幌付き（赤帽）、銀色、白色

■【シークレット】日産キャラバン長尺バン白+水色、
HondaTN-7軽トラック幌付き黄色

■HondaTN-7軽トラック
幌付き水色、黄緑色、白色

■【シークレット】マツダ・ボンゴ バン消防広報車（東京消防庁）
スバル・サンバー軽トラック幌付き（東京23区清掃事業）



■日産キャラバン　長尺バン
救急車、青色、白色

■マツダ・ボンゴ バン
パトカー （警視庁）、白色、銀色

Vol. 8

○ブラインドパッケージ販売
○全12種（同車種の色違い2台セット）
＋シークレット4種
○2009年10月発売：各504円

続くVol.8は1990年代以降現代までの路上の主役であるミニバンを、各社を代表する4車種ラインナップ。特装車仕様の雰囲気の違いも見られて興味深い。

■Hondaオデッセイ
赤色、青色、金色

■【シークレット】 Hondaオデッセイ 白色
日産エルグランド警察車輌

■トヨタ・エスティマ
パトカー （警視庁）、薄茶色、金色

■【シークレット】トヨタ・エスティマ・ファイヤーチーフ（東京消防庁）
トヨタ・アルファード個人タクシー （富井タクシー）

■日産エルグランド
消防広報車（西東京市消防団）、黒／灰色、白／灰色

■トヨタ・アルファード
銀色、黒色、白色

Vol.9

○ブラインドパッケージ販売
○全12種(同車種の色違い2台セット)
+シークレット4種
○2010年2月発売:各504円

Vol.9は「いにしえの商用車編」と題し、1950年代後半から60年代にかけ製造・販売された、オート三輪や軽ライトバンなどを製品化した。

■マツダK360
ピンク色幌付き、空色、白色

■【シークレット】ダイハツCO8型ダイハツロゴ仕様幌付き、
マツダK360マツダオート愛媛仕様

■スバル・サンバー ライトバン
薄灰色、黄緑色、灰色

■【シークレット】トヨタ・トヨエース 水色/青色幌付き、
スバル・サンバー ライトバン 青色

■ダイハツCO8型
青色幌付き、緑色、橙色

■トヨタ・トヨエース
薄灰/青色幌付き、黄/茶色、クリーム/茶色

Vol.10

○ブラインドパッケージ販売
○全12種(同車種の色違い2台セット)
+シークレット4種
○2010年5月発売:各609円

「新旧高級セダン」がテーマ。1960年代後半と2000年代前半の4ドアセダンをそれぞれ2種ずつ製品化した。それぞれにパトカーがラインナップされているのが特徴。

■日産セドリック
パトカー(警視庁)、白色、黒色

■【シークレット】日産グロリア・パトカー(大阪府警)、
日産セドリック道路パトカー(首都高速道路公団)

■日産ティアナ
パトカー(北海道警察)、白色、青色

■【シークレット】トヨタ・クラウン(千葉県警・散光灯昇降装置付き)、
日産ティアナ覆面パトカー銀色

■日産グロリア
水色、銀色、黒色

■トヨタ・クラウン
パトカー(神奈川県警)、 覆面パトカー白色、銀色

Vol.11

○ブラインドパッケージ販売
○全12種（同車種の色違い2台セット）＋シークレット4種
○2010年8月発売：各609円

「思い出の街角編」をテーマに1950年代後半から60年代前半にかけてよく見られた車種を製品化。蒸機時代の沿線風景を再現するには最適な内容である。

■ダイハツ・ミゼットMP
幌付き青色、淡緑色、橙色

■【シークレット】トヨペット・マスターライン 青緑色、トヨペット・クラウン ファイアーチーフ（東京消防庁）

■スバル360
白／水色、茶／クリーム色、黒／青緑色

■【シークレット】ダイハツ・ミゼット幌付き赤色（AMERICAN Supply COMPANY）、スバル360 アズキ／ピンク色

■トヨペット・クラウン
パトカー（警視庁）、構内タクシー、黒色

■トヨペット・マスターライン
救急車（浅草消防署）、ピンク色、茶色

Vol.12

○ブラインドパッケージ販売
○全12種（同車種の色違い2台セット）＋シークレット4種
○2010年11月発売：各609円

「現代の街角編」と称し、街中でよく見かける商用車やハイブリッド車を製品化。待望された近年の形の救急車もラインナップ。

■トヨタ・プリウス
赤色、銀色、白色

■【シークレット】トヨタ・クラウン セダン個人タクシー（富井タクシー）、トヨタ・プリウス自主防犯車（江戸川区）

■日産AD
紺色、銀色、白色

■【シークレット】日産パラメディック消防指揮車（東京消防庁）、日産AD（東京都下水道局）

■トヨタ・クラウン セダン
日本交通タクシー、日本交通タクシー（黒タク）、紺色

■日産パラメディック　救急車
東京消防庁、松戸市消防局、大阪市消防局

2011年以降の発売品・予定品

Text:宇佐美健太郎(トラック・バス編集部)
Photo:青柳 明(RMM)、トラック・バス編集部
○Vol.13の写真は試作品のため、実際の製品と異なる場合があります。

本誌では2010年12月まで発売されたアイテムを掲載しているが、2011年に入り、編集中に発売されたアイテムおよび発売予定アイテムを補足として紹介する。

■ザ・カーコレクションVol.13
1970年代後半から80年代前半にかけて活躍が見られた商用車を製品化。車種は、トヨタ・カローラ30(サンマル)バン、トヨタ・ランドクルーザー、トヨタ・ダイナ、三菱ふそうキャンター(通称「V字キャンター」)。道路パトカーやレッカー車といった特装車もラインナップされる。ブラインドパッケージ販売で全12種+シークレットアイテム4種。価格は各630円で、2011年2月発売予定となっている。

カーコレVol.13で製品化されるトヨタ・ダイナ。前輪がフロントバンパー近くに位置するセミキャブオーバースタイル。その独特な風貌から、「くちびるダイナ」、「ゴリラダイナ」などの通称を持つ。

カーコレVol.13で製品化されるトヨタ・カローラ30バン。テールライトが釣り目仕様であるため、それに合わせ角が切り欠かれたリアウィンドウとクォーターウィンドウもよく再現されている。

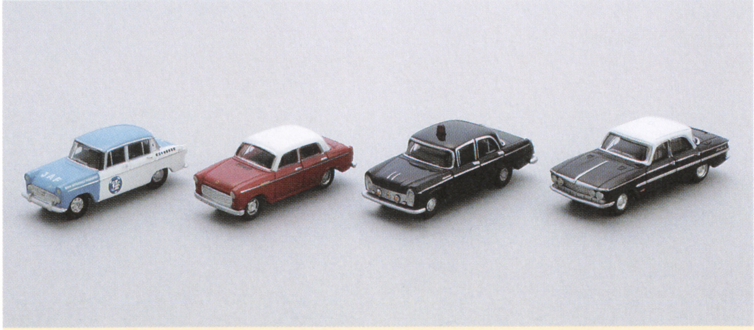
■ザ・カーコレクション基本セットF3
カーコレVol.6で製品化されたコンパクトカーの仕様・塗装変更版。左からマツダデミオ 黒色、Hondaフィット 白色、トヨタ・ヴィッツ自主防犯車(世田谷区安全安心パトロール)、日産マーチ道路パトカー(宮城県道路公社)。オープンパッケージ販売。2011年1月発売で価格は1,344円。

オープンパッケージ品

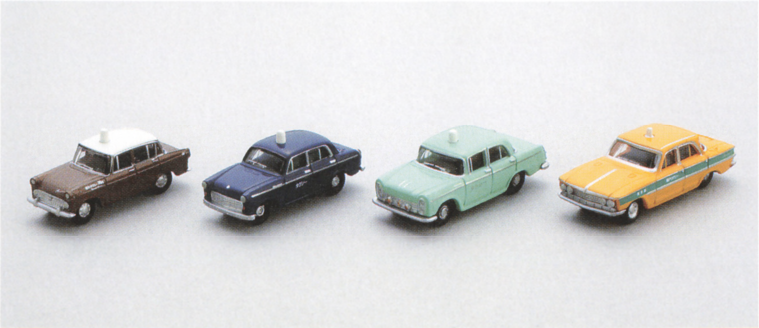
基本セット

○オープンパッケージ販売

ブラインド販売のレギュラー品に対して、ジオラマの定番アイテムとして使いやすいオープンパッケージとしたのが「基本セット」。4台入りで、レギュラーとは異なるカラーリングのものも含まれている。



■基本セットA2　○2009年12月発売:1,344円
トヨペット・コロナ(JAFサービスカー)、ダットサン・ブルーバード(白/赤)、日産セドリック(覆面パトカー)、プリンス・グロリア(白/黒)



■基本セットA3　○2010年1月発売:1,344円
タクシーセット　トヨペット・コロナ白/茶色、ダットサン・ブルーバード紺色、日産セドリック黄緑色、プリンス・グロリア構内タクシー

■基本セットB2　○2010年7月発売:1,344円
トヨタ・セリカXX 白/黒色、日産スカイライン 赤/黒色、トヨタ・マークⅡ 青/銀色、日産セドリック パトカー(長野県警)

■基本セットC2　○2009年12月発売：1,344円
プリンス・スカイラインGT 黒／白色、ダットサン1200トラック ニッサンサービスカー（ダットサン純正部品）、トヨペット・クラウンパトカー（大阪府警）、トヨペット・クラウンバン JAFサービスカー

■基本セットD2　○2010年7月発売：1,344円
日産フェアレディ Z　初代Z432 緑色、初代240ZG 黄色、4代目300ZXパトカー（警視庁）、5代目マルーン色

■基本セットE2　○2010年1月発売：1,344円
トヨタ・ハイエース救急車（杉並区消防局）、いすゞエルフ清掃車深緑色（富井清掃）、トヨタ・ダイナ高床平荷台トラック青色、三菱ふそうキャンター（ヤマザキパン）

■基本セットF1　○2009年9月発売：1,344円
マツダ・デミオ パトカー（宮崎県警）、Hondaフィット（ピンク）、トヨタ・ヴィッツ サービスカー（セブン・イレブン）、日産マーチ自主防犯車

■基本セットF2　○2009年9月発売：1,344円
マツダ・デミオ サービスカー（ファミリーマート）、Hondaフィット自主防犯車、トヨタ・ヴィッツ（水色）、日産マーチ消防救命活動車（横浜消防）

■基本セットG1　○2010年9月発売：1,344円
日産バネットバン（日産部品）、日産キャラバン移動交番車（千葉中央警察署）、スバル・サンバー幌付きトラック 消防機材搬送車（新居浜市消防）、Honda TN-7幌付きトラック 濃緑色

■基本セットH1　○2010年10月発売：1,344円
Hondaオデッセイ個人タクシー（富井タクシー）、トヨタ・エスティマ パールホワイト色、日産エルグランド ガンメタリック色、トヨタ・アルファード消防指揮車（消防局）

雑誌付録

週刊『鉄道模型少年時代』第60・61号付録

○発売元：講談社　○2010年11月発売

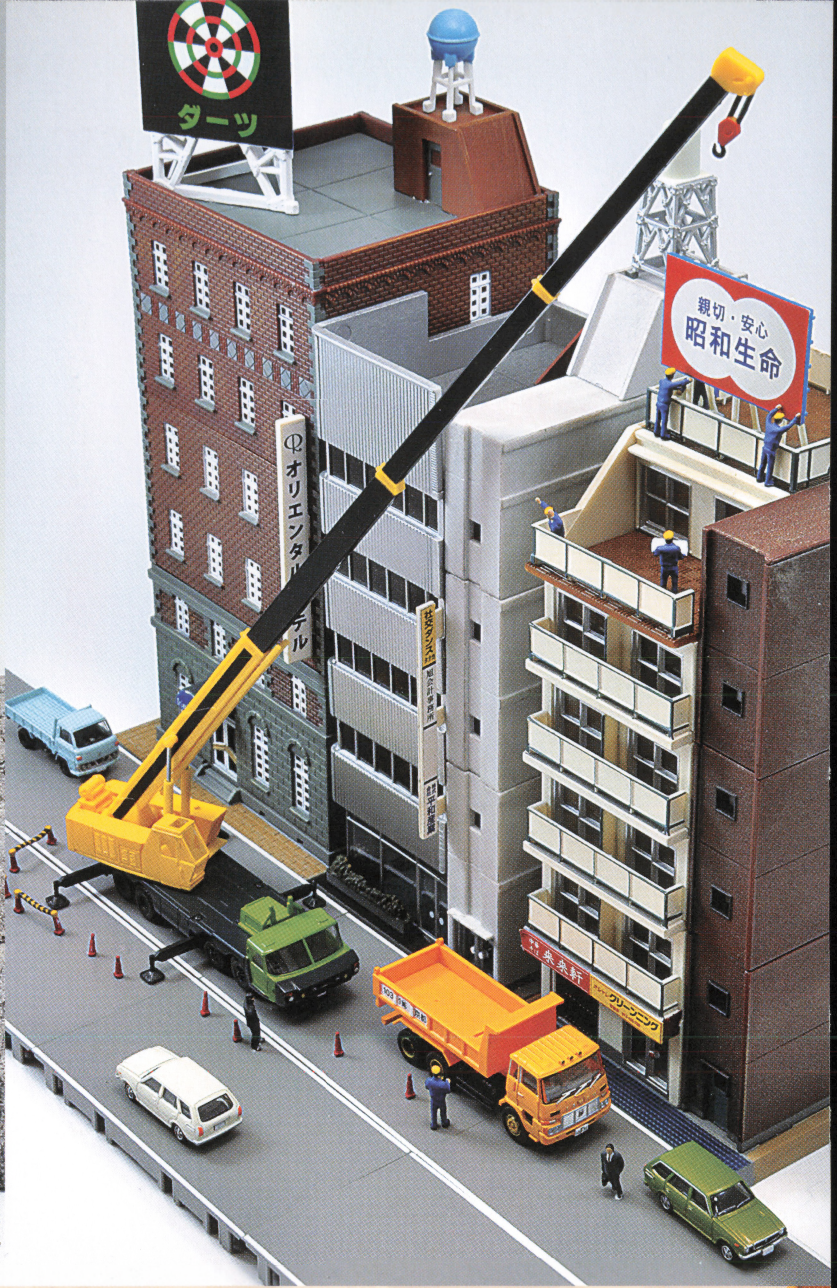
■第60号
ダイハツCO8型　紺色、マツダK360　灰緑色幌付き

■第61号
トヨタ・トヨエース 濃灰／茶色、スバル・サンバー ライトバン 白色

08

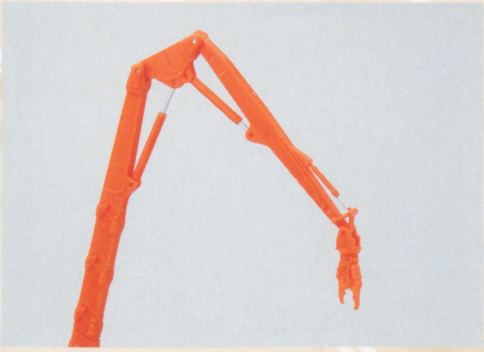
建設機械コレクション

Text：宇佐美健太郎（トラック・バス編集部）、RMM
Photo：青柳 明（RMM）、トミーテック



1:150スケール 建機モデルの本命、登場！

2010年3月、ジオコレシリーズに建設工事現場で活躍する車輌・機械をテーマにした新たなシリーズが登場した。その名も「建設機械コレクション」。Vol.1では現代の比較的大型の建機がテーマになり、20cmを超える作業中のラフテレーンクレーンをラインナップするなど、ダイナミックな展開を見せた。また、その作りは非常に繊細で建機ファンも納得するものであった。建設機械モデルのショップ兼メーカーでお馴染みのKENKRAFTが企画協力していることからも、考証、表現ともブレがなく、まさに1: 150スケール建機モデルの本命。手軽にレイアウト・ジオラマで活きたシーンが表現できるシリーズでもある。



▲日立ZX480LCK-3解体仕様機、ハイリフト仕様機のアーム部分。アームの動きに合わせ油圧シリンダーも動作する。

建設機械コレクション Vol.2

2011年3月発売予定！

待望の建設機械コレクションVol.2が2011年3月に発売予定。Vol.2では、1960年代から70年代にかけて最もよく活躍が見られた油谷ショベルTY45と三菱ふそうローボーイ・クレーン車を新規製作。また、Vol.1で製品化されたアイテムを塗装変更や一部仕様変更のうえラインナップ。ブラインドパッケージ販売で全8種＋シークレット、価格は各735円。

※ Vol.2の写真は試作品のため、実際の製品と異なる場合があります。

レギュラー品

Vol.1

○ブラインドパッケージ販売
○全8種＋シークレット2種
○2010年3月発売：各714円

Vol.1では建設工事現場でお馴染みのブルドーザ、油圧ショベル、ホイールクレーン、解体機を製品化。

■日立ZX480LCK-3解体仕様機
ハイリフト仕様機 カタログ仕様

■日立ZX480LCK-3解体仕様機
ハイリフト仕様機 日立建機レック仕様

■【シークレット】コマツPC300-8油圧ショベル　海外仕様

■【シークレット】コマツD155AX-6ブルドーザ
マルチリッパ装着仕様　コマツレンタル仕様

■コマツPC300-8油圧ショベル　カタログ仕様

■コマツD155AX-6ブルドーザ　カウンターウェイト装着仕様

■コマツPC300-8油圧ショベル　コマツレンタル仕様

■コマツD155AX-6ブルドーザ　マルチリッパ装着仕様

■コベルコPANTHER-X250ホイールクレーン走行仕様

■コベルコPANTHER-X250ホイールクレーン作業仕様

09

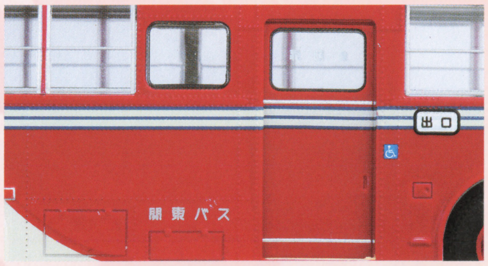
ザ・バスコレクション(ハチマル)80
ザ・カーコレクション(ハチマル)80

Text:宇佐美健太郎(トラック・バス編集部)、羽田 洋、RMM
Photo:青柳 明(RMM)

本格派バスモデル、ここにあり。

「ザ・バスコレクション80(ハチマル)」は1:80スケールで展開するバスモデルシリーズ。1:150スケールでは再現しきれないような内装、車体のリベット(鋲:びょう)や灯火類のレンズまで、余すことなく再現されており、ディスプレイモデルとして愉しむにはうってつけ。当然、日本型HOゲージ(16番)のレイアウト・ジオラマを飾るアクセサリーとしても最適である。

そんなバスコレ80であるが、待望のボンネットバスが製品化された。これは北村製作所製ボディを架装したいすゞBXD50で、1980年代のボンネットバスブームの中、一躍脚光を浴びたため、比較的若い世代にも馴染みがあるだろう。また、人気の高い富士重工業5Eボディを架装した路線バスもバリエーション展開が続いている。事業者やエンジン・シャシーメーカーによる扉の位置、窓割、後部エンジングリルなどの違いを正確に作り分けており、息を呑む。いずれも前輪がステア(操舵)できるので、レイアウト・ジオラマ上に置いた場合、活きたシーンが再現できる。



▲富士重工業5E 関東バスは、まだリベットの多い初期の5Eボディがプロトタイプで、無数のリベットを表現。

ハチマルを味わおう!

「ザ・カーコレクション80(ハチマル)」は、1/80スケールの乗用車、小型トラックをテーマにしたシリーズ。「ザ・カーコレクション80HG」は、その名のとおり、ユーザー取付のミラーパーツなどを別添し、1台、1台をオープンパッケージ販売したハイグレード版。モデルとなる車種は、国鉄時代に見られたような旧めのタイプか、街角で見られる商用車などが多く、いずれも、ディスプレイや16番レイアウト・ジオラマのアクセントとして最適である。窓から覗く、ステアリングホイール(ハンドル)やインパネ(計器板)などが良い雰囲気を醸し出すのも、このスケールならではのものであろう。

▲いすゞBXD50ボンネットバスは千曲バスと西東京バスが製品化されたが、両者で異なる扉の位置も抜かりなく再現されている。

©2010 The Coca-Cola Company.All rights reserved.

▲コレクターズアイテムとしての魅力も併せ持つ、マツダ・ボンゴのコカ・コーラ仕様。このような性格の製品が成立するのも、1:80スケールという手頃な大きさだからであろう。

ザ・バスコレクション80（ハチマル）

○オープンパッケージ販売

Nスケールで大人気のバスコレを、1:80スケールにスケールアップした「バスコレ80」。前輪ステアリング可動、バックミラー付き（ユーザー取付）、室内精密再現などの作り込みがバスファンを満足させる。クリアーケース付きでの販売。

HB007　国鉄バス

○2010年3月発売：3,675円

▲全国各地で見られた国鉄バス。モデルは富士重工業製5Eボディを架装した車両を再現。前中扉車で、中間扉は折戸のタイプ。ヘッドライトは角型。

HB008 いすゞBXD50ボンネットバス 西東京バス

○2010年6月発売：3,675円

▲懐かしいボンネットバスの中から、ロングホイールベースのいすゞBXD50をモデル化。西東京バスでは近年まで季節定期運行されていた。中扉仕様。

HB009 いすゞBXD50ボンネットバス 千曲バス

○2010年4月発売：3,675円

▲こちらは黄色一色のボディがまぶしい千曲バスの動態保存車仕様（実車は既に引退）。前扉仕様。

HB010　富士重工業5E　道北バス

○2010年12月発売：3,675円

▲同シリーズの5Eボディのバスとして4作目となったのは、北海道旭川市などを運行エリアとする道北バス。前中扉、中乗り仕様でヘッドライトは丸型。

HB011　富士重工業5E　関東バス

○2010年12月発売：3,675円

▲東京西部を運行エリアとする関東バスで、ラッシュ時に威力を発揮した3扉車。しかも5E初期型のリベット付きボディを再現。ヘッドライトは丸型。

ザ・カーコレクション80(ハチマル) Vol.6

○ブラインドパッケージ販売
○全12種+シークレット2種
○2009年9月発売：各609円

新旧商用車をテーマとし、新型ではマツダ・ボンゴ、スバル・サンバーを、旧型ではマツダT600と日産キャラバンをラインナップ。

■マツダT600オート三輪 紺色

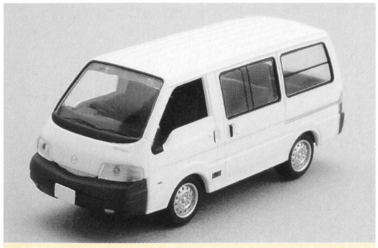
■マツダT600オート三輪 灰緑色

■マツダT600オート三輪 明灰色

■日産キャラバン標準バン 青色

■日産キャラバン標準バン 白色

■日産キャラバン標準バン パトカー(警視庁)


■マツダ・ボンゴ バン 白色

■マツダ・ボンゴ バン 銀色

■マツダ・ボンゴ バン 消防広報車(池田市消防本部)

■スバル・サンバーバン 白色

■スバル・サンバーバン 水色

■スバル・サンバーバン 赤帽

■【シークレット】日産キャラバン標準バン ファイアーチーフ(消防庁)

■【シークレット】スバル・サンバーバン乗用グレード風 金色

ザ・カーコレクション80(ハチマル) HG

○オープンパッケージ販売

レギュラー品のカラーリングや仕様を変更して、オープンパッケージとし、さらにバックミラー等が付属するハイグレード版。

■013 トヨタ・クラウン(GRS182型)パトカー(警視庁) (2009年11月発売:840円)

■014 トヨタ・クラウン(MS60型)消防査察車(千葉市消防局) (2009年11月発売:840円)

■015 スバル・サンバーバン佐川急便 (2010年2月発売:840円)

■016 マツダ・ボンゴ バン JR東日本 (2010年2月発売:840円)

■017 日産キャラバン救急車(渋谷区消防局) (2010年3月発売:840円)

■018 マツダT600オート三輪 ピンク色(ウェザリング仕様) (2010年3月発売:840円)

■019 日産ブルーバード タクシー(都タクシー) (2010年8月発売:945円)

■020 トヨタ・クラウン タクシー(グリーンキャブ) (2010年8月発売:945円)

©The Coca-Cola Company.
All rights reserved.
■021 マツダ・ボンゴ バン コカ・コーラ (2010年10月発売:1,155円)

■022 スバル・サンバーバン(ダスキン) (2010年11月発売:1,050円)

10

鉄道むすめ コンテナコレクション

Text：RMM
Photo：青柳 明（RMM）、羽田洋、トミーテック

「鉄道むすめ」とはトミーテックが展開するオリジナルキャラクターで、実在する交通事業者の制服を着たフィギュアです。これまで数多くの事業者のオリジナルキャラクターが生まれていますが、それをNゲージサイズのコンテナにプリントしたものが『鉄道むすめ コンテナコレクション』です。コンテナはもちろんTOMIXのNゲージコンテナ貨車や、ザ・トレーラーコレクションに積載することも可能となっています。

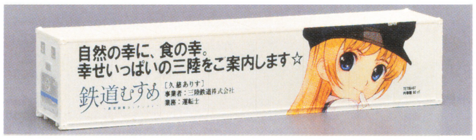
※当製品は「コンテナのみ」の製品です。車輌、台車などは封入されておりません。

Vol.1

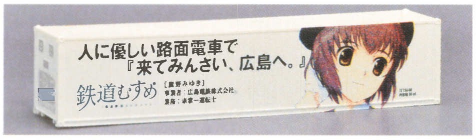
○ブラインドパッケージ販売
（12種＋バリエーション6種＋シークレット2種）
○2009年9月発売：各420円

「鉄道むすめ コンテナコレクション」の先陣を切って発売されたvol.1は、1箱の中に40ftコンテナ1個または20ftコンテナ×2個が封入されるブラインド販売。40ftコンテナには、メッセージがあるものとないものが用意された。

©2005TOMYTEC ／イラスト：みぶなつき／上田電鉄・三陸鉄道・銚子電気鉄道・函館市交通局・広島電鉄、各事業者商品化許諾済



▲「久慈ありす」メッセージ入・40ft



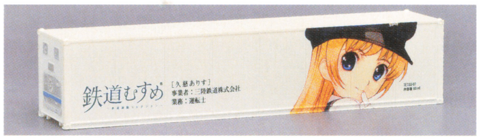
▲「鷹野みゆき」メッセージ入・40ft

▲「柏木ゆの」メッセージ入・40ft

▲「外川つくし」・メッセージ入・40ft

▲「八木沢まい」メッセージ入・40ft

▲「門田さくら」メッセージ入・40ft



▲三陸鉄道／運転士「久慈ありす」・40ft

▲広島電鉄／車掌→運転士「鷹野みゆき」・40ft

▲函館市交通局／箱館ハイカラ號車掌「柏木ゆの」・40ft

▲銚子電気鉄道／駅務係「外川つくし」・40ft

▲上田電鉄／別所温泉駅駅長「八木沢まい」・40ft

▲警視庁／鉄道警察隊「門田さくら」・40ft

▲「久慈ありす」・20ft

▲「鷹野みゆき」・20ft

▲「柏木ゆの」・20ft

▲「外川つくし」・20ft

▲「八木沢まい」・20ft

▲「門田さくら」・20ft

シークレットアイテム

©2009 MATSUDA98/ASCII MEDIA WORKS

Vol.1

▲シークレット・20ft

▲シークレット・40ft

Vol.2

○ブラインドパッケージ販売
(12種+シークレット2種)
○2010年3月発売:各483円

初回の好評を受け、翌年3月にvol.2が発売された。この回では12ftコンテナが初登場、1箱の中に20ftコンテナ2個または12ftコンテナ×3個が封入されるようになった。

©2005TOMYTEC/イラスト:みぶなつき・宙花こより/JR西日本メンテック・鉄道整備・東武商事・東武鉄道・富士急行・和歌山電鐵、各事業者商品化許諾済

▲「大月みーな」・12ft ▲「神前みーこ」・12ft ▲「春日部しあ」・12ft ▲富士急行/駅務係「大月みーな」・20ft ▲和歌山電鐵/運転士「神前みーこ」・20ft ▲東武商事/車内販売員「春日部しあ」・20ft

▲「平泉つばさ」・12ft ▲「米原はるか」・12ft ▲「姫宮なな」・12ft ▲鉄道整備/コメットスーパーバイザー「平泉つばさ」・20ft ▲JR西日本メンテック/アズクルー「米原はるか」・20ft ▲東武鉄道/お客さまセンターオペレーター「姫宮なな」・20ft

Vol.3

○ブラインドパッケージ販売
(12種+シークレット2種)
○2010年8月発売:各483円

快進撃の「鉄道むすめ コンテナコレクション」は1年足らずの間にvol.3まで発売、今度は1箱の中に40ftコンテナ1個または12ftコンテナ×3個とされた。40ftコンテナは今回よりすべてメッセージ付となっている。

©2005TOMYTEC/イラスト:みぶなつき/京成電鉄・埼玉高速鉄道・三和警備保障・西日本鉄道・ゆりかもめ・わたらせ渓谷鐵道、各事業者商品化許諾済

▲「朝倉ちはや」・12ft ▲「中山ゆかり」・12ft ▲「川口みその」・12ft

▲ゆりかもめ/駅務係「青海ゆりか」・12ft ▲「足尾さきえ」・12ft ▲「中野みわ」・12ft

▲西日本鉄道/車掌「朝倉ちはや」・背高40ft ▲京成電鉄/駅務掛「中山ゆかり」・背高40ft

▲埼玉高速鉄道/運転士「川口みその」・背高40ft ▲ゆりかもめ/駅務係「青海ゆりか」・背高40ft

▲わたらせ渓谷鐵道/トロッコ列車車掌「足尾さきえ」・背高40ft ▲三和警備保障/駅構内警備員「中野みわ」・背高40ft

Vol.4

○ブラインドパッケージ販売
(12種+シークレット2種)
○2010年12月発売:各483円

vol.4は、1箱の中に40ftハイキューブ冷蔵コンテナ1個または12ftコンテナ×3個が封入される点はvol.3と同様だが、12ftコンテナを上下に積み重ねた際に絵柄がつながって見えるよう工夫されている。

©2005TOMYTEC/イラスト:みぶなつき・宙花こより/一畑電車・北近畿タンゴ鉄道・三陸鉄道・東急車輛製造・東武鉄道・のと鉄道、各事業者商品化許諾済

▲「栗橋みなみ」・12ft ▲「和倉ななお」・12ft ▲「布崎あいか」・12ft

▲「但馬みえ」・12ft ▲「釜石まな」・12ft ▲「金沢あるみ」・12ft

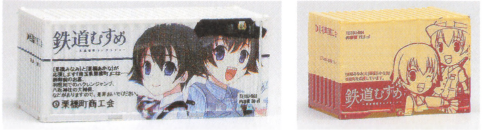
▲東武鉄道/駅務係「栗橋みなみ」・背高40ft ▲のと鉄道/運転士「和倉ななお」・背高40ft

▲一畑電車/電車ガイド「布崎あいか」・背高40ft ▲北近畿タンゴ鉄道/アテンダント「但馬みえ」・背高40ft

▲三陸鉄道/駅務係「釜石まな」・背高40ft ▲東急車輛製造/横浜製作所ぎ装係「金沢あるみ」・背高40ft

シークレットアイテム

Vol.2 イラスト:宙花こより



▲シークレット・20ft ▲シークレット・12ft

Vol.3 イラスト:北原空

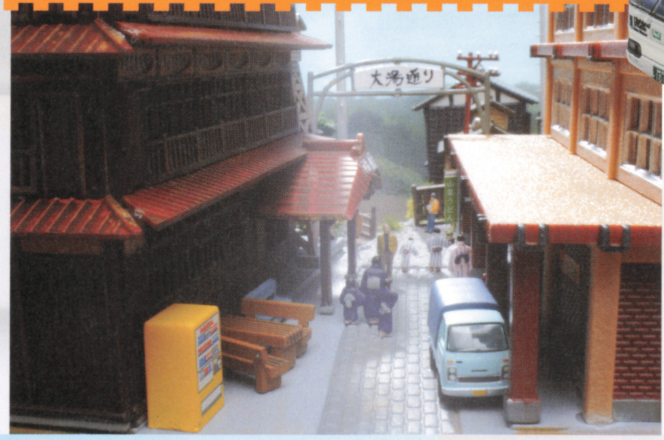
▲シークレット・背高40ft ▲シークレット・12ft

Vol.4 イラスト:宙花こより

▲シークレット・背高40ft ▲シークレット・12ft

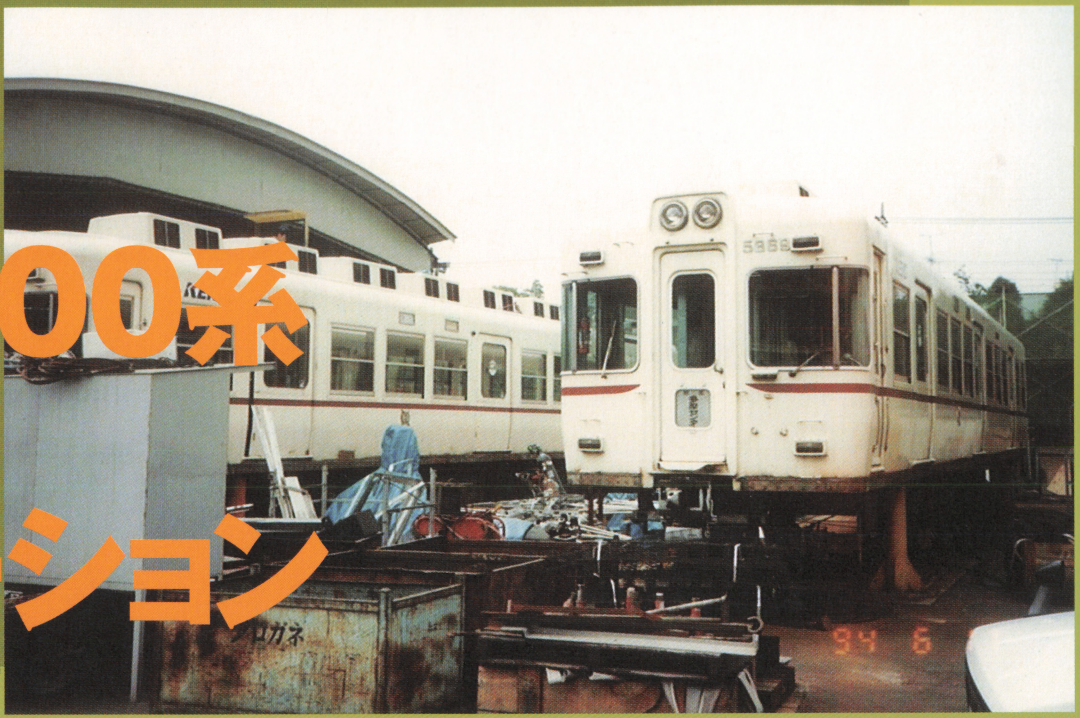
工作！改造!!
ジオコレでEnjoy Craft！

ジオコレシリーズはそのままでも高い完成度を持ち、コレクションするだけでも十分楽しめます。しかし自分なりに手を加え、市販品にないバリエーションを作る楽しみは、一度味わうときっと病みつきになるでしょう。ベースが比較的安価なので、気軽にどんどん手がければ、きっと模型の腕もグングン上達するはず！　今回は、巻頭特集に合わせて、特にバスにまつわる作品を多数お送りしましょう。
（編集部）



簡単に作ろう!
京王5000系譲渡車バリエーション

京王重機北野事業所で、地方私鉄向けの改造を受ける京王5000系。このシーンを実見したことから、筆者の「元京王5000系を訪ね歩き、作り続ける旅」が始まった。写真のデハ5119（写真左）とデハ5869は一畑電鉄デハ2101-デハ2110となり出雲の国へ旅立った。1994.6.1



鉄コレ第11弾でラインナップされた、京王5000系の譲渡車各種。製品だけでもかなりのバリエーションですが、実際にはさらなる形態的バリエーションがあり、加工ファンの食指が動くところです。ここでは、極力簡単にバリエーションを増やすことを楽しんだ作例をご覧に入れましょう。（編集部）

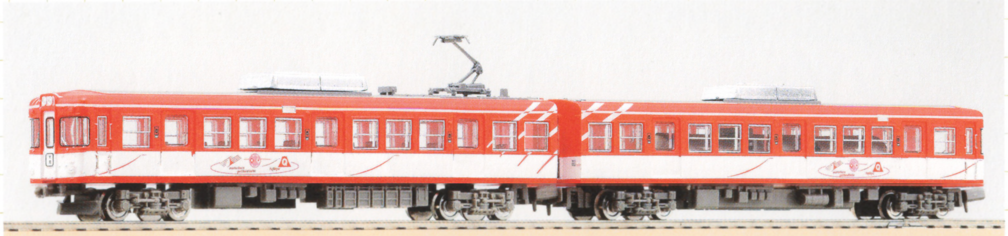
MODELING, PROTOTYPE PHOTO（特記以外）& TEXT：野牛弘幸
PHOTO（模型）：羽田 洋

私が中学生の時のことです。京王重機北野事業所を訪れる機会があり、ちょうど富士急行1200系や銚子電鉄1000形を製造しているのを見学させていただきました。本物の電車の切り継ぎや塗装、屋外で新車並に車輌を整備しているのを目の当たりにして、かなり衝撃を受けました。それ以来、京王重機社製の電車を追っかけしております。

模型でもいずれは全車種制覇したく、ペーパーで作品にしておりましたが、なにぶん手間がかかるゆえ、そう簡単にコレクションを増やすことはままなりませんでした。そんな折、鉄コレの18m級動力に付属していた台車枠から、京王5000系のシリーズは製品になると思って待ちかねていま

マッターホルン号としては2代目に当たる1201-1301編成。
2010.10.24 寿～葭池温泉前

第11弾に含まれていた富士急1208-1308。作例はパンタ・車輪等を交換しただけ。パンタは譲渡当初の菱型としている。



事業者限定品として発売されたマッターホルン号1201-1301。作例はパンタと車輪を交換しただけ。パンタは製品でもシングルアームが付いているが、より繊細で折りたたみ可能なNゲージ用としてある。

同じく事業者限定品として発売された開業80周年記念塗装の1202-1302。富士急の一世代前の旧塗装を再現したもので、1000系自体がこの塗装となったのは初めてのこと。作例はパンタと車輪を交換しただけ。

富士急1000系は塗装バリエーションが豊富。左の茶色系ツートンは1950年代の富士急旧塗装を再現したもので、これは作者が塗り替えたもの。右手3種はすべて製品としてリリース済である。これに富士登山電車が加わればフルラインナップ完成!?

集中型クーラー車の屋上を見る。パンタなし車運転台屋上にはTVアンテナらしき機器が搭載されている(一部編成に装備)。
2005.5.24　十日市場〜東桂

初めて纏う富士急旧塗装が意外にもマッチしている、開業80周年記念塗装の1202-1302編成。
2010.10.24　大月

1307-1207は分散型クーラーのセミクロスシート車。屋根を琴電のものと交換すればOK。

1002-1102は分散型クーラーのロングシート車。屋根と室内を琴電のものと交換すればOK。

実車の1002-1102。富士急では少数派となるロングシート車で、この編成は分散型クーラーを搭載。この組み合わせは1本しか存在しない。　2010.10.24　河口湖

実車の1207-1307。見た目は左の写真と変わらないが、車内はセミクロスシートとなるタイプ。この組み合わせも1本しか存在しない。
2005.5.24　富士吉田

した。ラインナップが発表されたところで、主要な部品は相互に交換できると推測して、実物の形態を整理してみたところ、けっこう簡単にバリエーションを揃えられそうだと判りました（113ページの表参照）。そんな下準備の結果、発売日に、私にとって空前絶後な4ボックス（元京王5000形が32輌）も買ってしまったのです。

1. パーツ交換だけでできるバリエーション

バリエーションを増やすべく、まずは5分あれば完成してしまう、パーツの交換だけで出来るものから手を付けました。

○富士急行1207-1307、1002-1102

富士急行の1000系は形態が4種類に分かれます。クーラーが集中型1個か分散型6個かの2種類、車内がセミクロスシートかロングシートの2種類あり、それぞれの組み合わせで4種類となります。製品の1208-1308は集中クーラーでセミクロスシート、事業者特注品で発売されたマッターホルン号（1201-1301）と、旧塗装仕様（1202-1302）も同じ組み合わせです。

1207-1307(セミクロスシート)、1002-1102（ロングシート）は分散型クーラーの車輌で、ことでんの車輌と部品を交換することで作れます。ありがたいことに製品の屋根がそのまま外せるので、部品をパチンとはめればあっという間に完成です。1207の編成は屋根だけ交換、1002の編成は屋根と室内を交換しています。車輌の番号は、塗装を剥がしてしまうのがもったいないので、元の番号だけヤスリで削り取り、Bトレのシールを貼

りました。室内が違うことがポイントゆえ、動力を入れてしまうと見分けがつかないので、自走させて遊ぶことはできません。

○一畑電車2103-2113

一畑電車の元京王5000系は2100形の3扉と2扉、5000形の3形態に分かれます。2100形は分散型クーラーを8個（パンタ付は7個）搭載していますが、その中で2113だけは分散型クーラー6個です。この車輌も琴電の車輌と屋根を入れ替えれば出来上がりです。

2.ちょっとした加工でできるバリエーション

次に、ちょっとした加工で出来るものを作りました。

○琴電1103-1104

琴電の1100形は８輌すべて分散型クーラー6個ですが、配置が微妙に違っています。京王5000系の中間車から改造された1101～1104は、もともとパンタグラフが載っていた部分のクーラーの間隔が広く、運転台側の１個目と２個目の間隔が狭いです。クーラーの配置が違う部分のパーツを外し、穴を塞いで開け直して、再度クーラーを取り付けています。

ちなみに、製品になっている1105～1108はパンタなしの先頭車から改造された車輌で、1105は1106と同じクーラー配置から、パンタの前寄りの1個を移設した形になっています。製品では5100形（京王の時から先頭車でパンタ付）に合っているので、実物とは避雷器とクーラーの位置が違うのですが、反面前述の富士急行1207-1307などにはそのまま屋根を流用できるのです。

3. 塗り替えが必要なバリエーション

徐々に難易度が上がってきます。車体の加工をせずに塗装でものにできるものです。塗装が苦手ゆえ、前2章のようにできれば楽なのにとも思いますが、避けては通れないので作りました。実物とも製品とも若干色が違っているのは、大目に見てください。

一畑のクーラー個数違いのバリエーション。写真手前が製品の8個仕様で、奥が琴電のものと交換した6個仕様。

実車の2103-2113。元中間扉があったところだけ、窓と窓の間隔が開いていることがわかる。　1996.3.27　一畑口

第11弾に含まれていた一畑電車2104-2114。2扉化改造車で、屋上クーラー 8個（パンタ車となる2104は7個）のタイプ。作例はパンタを交換しただけ。

加工作例の2103-2113。写真右手の2113は屋根板を琴電のものと交換し、屋上クーラーが6個となっている。

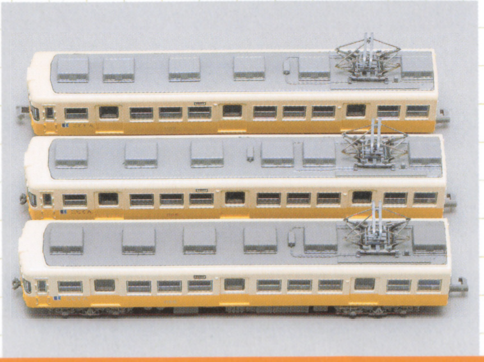
第11弾製品に含まれていた琴電1105-1106。作例は下の屋上写真の通り、一部クーラーとヒューズ箱を移設した作例。

1103-1104編成。クーラー配置が、同じ分散型6個ながら変則配置となるタイプ。元の取付穴を埋め、新たな位置に取り付けたりする加工が必要。

琴電1105-1106。前寄りクーラーの間隔が広いタイプ。元々はパンタなし先頭車だったもの。　2010.4.18　仏生山

琴電1101。前寄りクーラーの間隔が狭いタイプ。元々は中間車から改造されたもの。　2010.4.18　仏生山

琴電の屋上比較。写真手前は製品の1105で、実際にはヒューズ箱とクーラーの位置関係が写真中央のものになる。そして写真奥の1103は前位寄りのクーラー間隔が狭いのが特徴。



2種が登場した富士急行開業80周年塗装。鉄コレで発売された濃淡ブルー以外に、1950年代の塗装を復刻した茶色系ツートンの1001-1101編成がある。幅広貫通路にロングシートなので、琴電を塗り替えて富士急の屋根と組み合わせるとできる。

一畑電車2101-2111。3扉のオリジナル形態を守ったグループで、2本が在籍。琴電の車体を塗り替えるとできる。

左）一畑2101-2111。比較的京王時代の原形を維持した編成。
2005.3.12　松江しんじ湖温泉　P:大森喬志
右）フジサン特急と並ぶ富士急行開業80周年記念塗装（茶色）。　2010.10.24　河口湖

○富士急行1001-1101

集中型クーラーでロングシートゆえ車内だけ取り替えればと思いきや、貫通路が幅広なので車体を加工するか塗装をやり直す必要があります。色を落として、また同じ塗り分けに塗り直すのも悔しい気がしていましたが、実物の色が変わったので、琴電をベースとして茶色の塗り分けに塗り替えた次第です。

○一畑電車2101-2111

3扉でクーラーが一杯載っているタイプです。車体だけ琴電のものに交換して、塗装を直しました。塗り分けが複雑ゆえ、クラフトロボで切り出したマスキングシールを作り、なんとか仕上げることができました。

■

今のところ私が仕上げた車輌は以上です。一畑電鉄の5000形大社号、わたらせのトロッコ、富士登山電車など、実物同様大改造が必要なものも待ち構えていますが、いずれコレクションを揃えたいものです。

■京王5000形譲渡車分類

会社名	車番	形態					鉄コレ改造					備考
		屋上	車体	カラー	車内	台車	屋根	車体	台車	塗り替え	入手手間	
富士急行	1001-1101	集中型	広幅貫通路	旧塗装（茶）	ロング	FS-510	富士急	ことでん	富士急	要	塗り替え	標準から塗り替え
				標準			富士急	○ 貫通路改造 車内:ことでん	○		改造	
	1002-1102	分散型6個	狭幅貫通路	標準			ことでん	車内:ことでん	○		パーツ取替	
	1203-1303 1208-1308	集中型		標準	セミクロス		富士急	富士急	○		製品	
	1206-1306	集中型（換装）		標準	セミクロス		富士急	富士急	○		パーツ取替	クーラー換装
	1207-1307	分散型6個		標準	セミクロス		ことでん	富士急	○		パーツ取替	
	1201-1301	集中型		マッターホルン	セミクロス		富士急	富士急	○		製品（限定）	
	1202-1302	集中型		旧塗装（青）	セミクロス		富士急	富士急	○		製品（限定）	
	1205-1305	集中型	2扉に改造	富士登山電車	クロス		富士急	一畑改造	○	要	大改造	標準⇒マッターホルン⇒富士登山電車
一畑電車	2101-2111 2102-2112	分散型8個	3扉	標準	ロング	FS-510	○	ことでん	○	要	パーツ取替 塗り替え	
	-2113	分散型6個	2扉				ことでん	○	○		パーツ取替	
	2103 2104-2114	分散型8個					○	○	○		製品	
	5009-5109 5010-5110	集約分散	2扉非貫通	大社号	クロス		クーラー 取り替え	一畑改造	○	要	大改造	
琴電	1101-1102 1103-1104	分散型6個 配置変則	3扉	そごう柄 ⇒琴平線色	ロング	TS-310	クーラー 配置変更	○	○		改造	そごう柄はGM塗装済製品あり
	1105-1106 1107-1108	分散型6個					○ 奇数車 エラー有り	○	○		製品	パンタ車クーラーの位置が異なる
伊予鉄道	711-761 712-762 713-763	非冷房 ⇒冷房車	狭幅車体	旧塗装 ⇒現塗装	ロング	FS-340 NA-321 KH-53	○ ※非冷房は 機器取り替え	○	○		製品	FS-340の車のうち、FS-316、FS-321から取り替えた車輌あり。 冷房取付、塗装変更の順、現塗装の非冷房車は存在しない。
	710-770	冷房車					○	○	○			
	721 723	非冷房 ⇒冷房車 SIV付	狭幅車体 貫通路扉付			FS-316	○ ※非冷房は 機器取り替え	○	小田急2200		パーツ取替	
	722					FS-340		○	○		製品（シクレ）	
	724	冷房車、 SIV付				FS-316	○	○	小田急2200		パーツ取替	
	725					FS-340	○	○	○		製品（シクレ）	
	714-764 715-765 716-766 717-767 718-768 719-769	非冷房 ⇒冷房車	広幅車体			FS-340 NA-321 KH-53	○ ※非冷房は 機器取り換え	ことでん	○	要	パーツ取替 塗り替え	
	726 727	冷房車、 SIV付	広幅車体 貫通路扉付			FS-340	○		○		パーツ取替 塗り替え	
わたらせ	5020-5070	なし	トロッコ	標準	クロス	DT-21	すべて取り払い	どうしよう？	豊橋1900	要	大改造	

※○は該当の会社の車輌を使う

ジオコレで作る バスが主役のジオラマ

photo（3点）：ATB MODELS

2003年のザ・バスコレクション発売をきっかけに始まった、トミーテックのコレクションシリーズ。その後1：150スケールでジオラマを「創る」楽しみを提案する「ジオコレ」一大シリーズに成長しました。もはやどんなものでも1：150スケールにしてしまうといっても過言ではないほどの充実ぶりで、鉄道模型のレイアウトシーンではジオコレ製品を数多く見かけるようになりました。

今回は、ジオコレシリーズの嚆矢となったザ・バスコレクションを軸に、他のジオコレシリーズの製品群も活用したジオラマ作例をご紹介します。どれも手軽な工作で、数日で仕上げたものばかりですが、ジオコレ製品を具体的にどう活用するか、そのヒントになれば幸いです。（筆者）

modeling&text：ATB MODELS

ミニシーンの製作・・・手軽に、短時間で楽しむジオラマ製作

東急トランセ代官山線

photo：金盛正樹

このミニシーンは、まさに「バスありき」で製作、さらにプレゼントするために製作したもので、製作期間は僅か1日。ジオコレシリーズの「手軽にジオラマを作る」というコンセプトを地で行く作例になりました。

そもそもこのバスを製作するきっかけになったのが、東急トランセ代官山線を所管する東急トランセ下馬営業所で、この路線を活性化する「代官山線プロジェクトチーム」が結成され、様々な活動をしているという話を伺ったことに始まります。お洒落なミニバスを女性運転士(サービス・プロバイダー)が運転することで話題になった代官山線、早いもので運行開始から13年を迎え、その活性化を図るために活動を始めたそうです。そのチームでクリスマスに向けて車輌の徹底的な美化やお客さまに喜ばれるような装飾をすることになった、とのこと。そこで、このバスの各種標記類のデカールを同好の葉賀氏が製作し、それを分けていただいたことをふと思い出し、「ならばそのバスの模型もぜひ」とお願いしてみたところ、ご快諾いただいたため、バスを突貫工事で完成させました。

しかしバス車内に飾るには、小さな小さな模型だけでは飾り付けができません。そこで展示用ケースが必要になったわけですが、ただぽつんとケースの中にバスがあるだけでは寂しい印象です。そこでどうせなら、と景色をつけてしまったというのがこの作例です。

製作に当たっては、通常のジオラマとは違う制約が多数ありました。「非常に限られた時間」で、「車内に展示できるコンパクトさ」で、「振動にもある程度耐える」ものでなくてはなりません。そこでもジオコレシリーズの建物は、構造が単純かつ組立用のツメ

があるため強度も確保でき、大きな威力を発揮します。

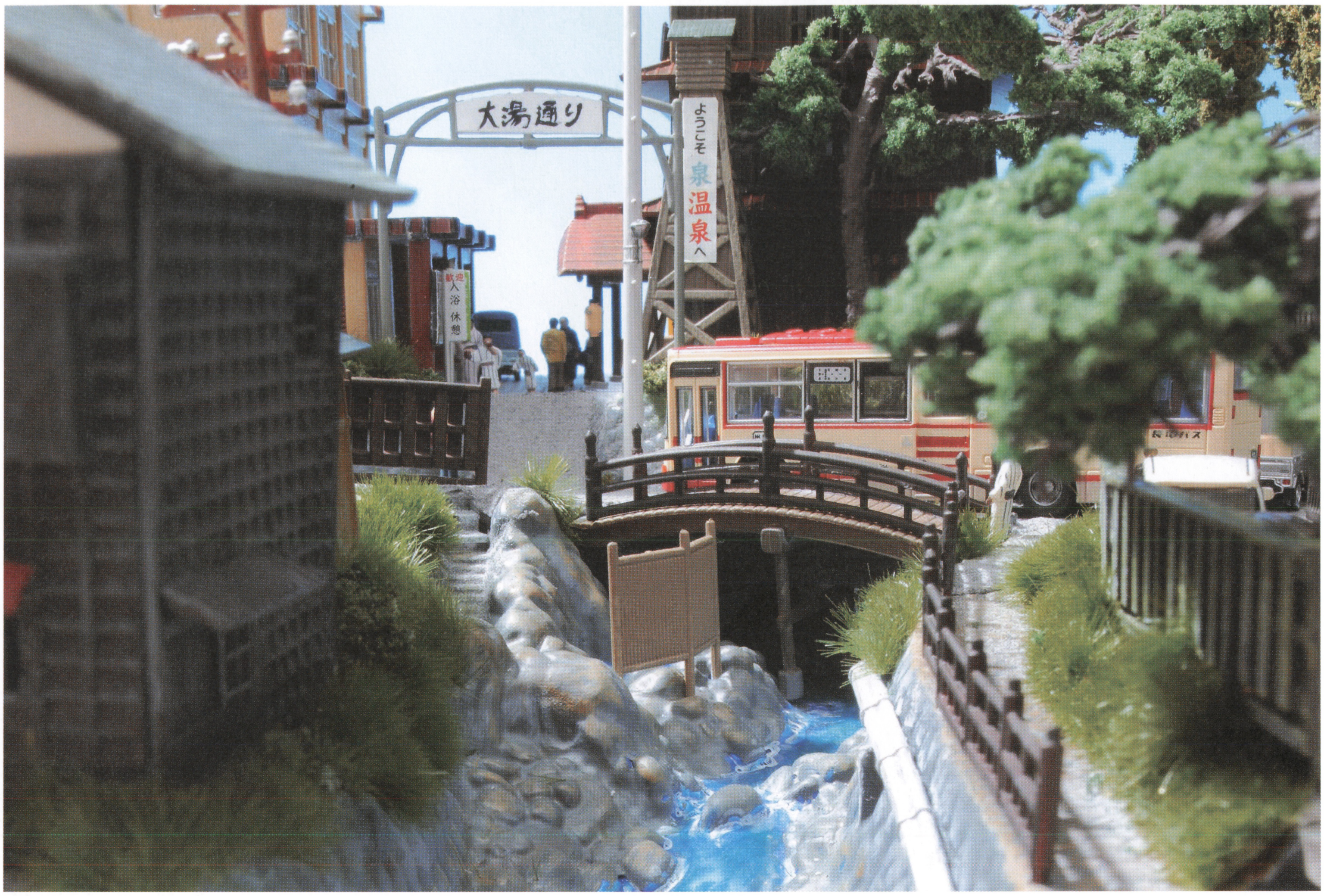
いくら展示用ジオラマといっても、プレゼントとなればいい加減なものは作れません。しかも相手は毎日そのバスを操るその道のプロフェッショナル。そこで実際の経路から、ミニシーンにしやすく特徴のある風景をセレクトし、反映することにしました。

この道路の最大の特徴は桜の並木道ですが、これもジオコレの中にそのものずばり「桜」があるのですぐ解決。季節を考え初冬の風景にすべく、フォーリッジは他の樹木からオレンジ色のものを使いました。また渋谷の真ん中の景色ですから、多くの通行人と車が雰囲気作りに不可欠になります。今回は渋谷界隈の午後の下校時間帯をイメージし、学生の人形などを普段よりはるかに多めにし、駅方向に向けて配置してみました。バス以外の車輌も、カーコレクション各種をフル活用し、小さなスペースに対しかなり多い5台を路上に、2台を駐車場に配置して、ごみごみした感じを再現しています。沿線の建物は実物とはもちろん異なるのですが、桜の木に隠れること、また振動による破損交換も前提に、街並みコレクションの横丁編と駅前歓楽街の製品をそのまま使っています。急な下り坂のため車の速度を落とすために車道が蛇行しているところも再現してみました。

また実際の風景を参考にはしていますが、あくまで「バス」を収めるケースであることから、バスがよく見えるような道路配置にする必要がありました。本当は道路の左右に桜の木があるのですが、手前はすべて省略し、また荷捌き用の駐車スペースも本来は進行方向左側にあるものを、バスが見えるように右側、つまり奥に移動して再現するなど、模型的なアレンジも多分に加えています。

これだけのものをわずか1日で完成できたのは、ジオコレシリーズの「塗装済」製品群のお陰と言っていいでしょう。桜に見える樹木を作り、それらしい建物を用意して・・・それだけで数日かかる作業です。なお、このシーンでもジオコレ製品では手軽に再現できない部分、道路標識などは、手元にあった他社製品を使用しました。

今回が初めてプロジェクトチームとしての活動だったそうで、このジオラマが展示されたバスが実際に運行されたのはごく短い期間でしたが、ジオラマに接点のなかった女性運転士さんを中心に様々な反響をいただけたのは嬉しい限り。ジオラマの面白さは少しですが感じていただけたようです。皆さんどの場所がプロトタイプかすぐにお分かりいただけたようで、「この場所いつも渋滞するから嫌い！」、「駐車帯の位置が実際と逆！」など鋭い突っ込みも。また「セーラー服の女子高生、私も憧れたんですよ～」「桜が満開の景色がいい～」など、思いもよらない視点で見ていただくことができ、新鮮な喜びをいただきました。ジオコレで作るプレゼント、まさに手軽に作る世界で1つだけのプレゼントです。皆さんもぜひ挑戦してみてはいかがでしょうか？　今回は本誌掲載のために一旦お借りして来ましたが、お返しするときには桜の花を満開にしてから・・・と企んでいます！



レディメイドの ジオラマを自分流に…

ジオラマベースを加工、バスが走る温泉街に

photo：金盛正樹

2010年に発売された「ジオラマベース」は、ついにジオラマのベースを丸ごと製品にしてしまった、ジオコレの新機軸とも言える製品です。過去に鉄道模型では、地形をレディメイドにしたレイアウト製品がありましたが、線路のない風景を完全塗装済の製品に、という発想は斬新で、今まで類がなかったものではないかと思います。A4サイズのベースに付属のパーツを取り付け、建物を組み込めば完成…という手軽さは、ジオラマ初心者の方がその楽しみのエッセンスを知るにはまさに好適な製品と言えましょう。

製品を手にしてみると本当によくできていて、自作では意外と手間の掛かる凹凸の大きな地形が一体成型で再現されています。しかしながら今回テーマとする「バスコレを中心に」と考えますと、道路が狭いためバスが走る風景にはなりません。駐車場にバスを置くという手もありますが、やはりバスが風景の中を「走る」景色を再現したいため、今回は多少手を加えて「温泉街の中を走る路線バス」を再現してみました。

このジオラマベースは精密なプラ一体成型で予想以上に硬く、地形の変更が困難であるため、基本的な川と橋の位置は変更せず、道路の拡幅をはじめとして、駐車場スペースをつぶして旅館を移設したほか、元々旅館と外湯を配置する段々になっていた場所を坂道にするなど、温泉街特有の「狭くくねくね曲がった坂道の多い」というイメージを再現してみました。

道路の拡幅ですが、まずは川に架かる橋が自動車の通れなさそうな太鼓橋になっているため、これは幅を詰めて歩行者専用の橋に転用するとし、情景小物の「橋A」を新たに設置しました。橋の下部を軽く削ってベースにはまるようにし、ぎりぎりバスが通行できる幅を確保しています。ただこの橋には柵がないため、手元にあったTOMIXのミニホームセット付属の柵を転用しました。

道路については、1mm厚のスチレンボードをベースに接着し、その表面にアースモデルスシートを貼るという方法で簡単に再現しました。合わせて旅館が2軒並ぶ少し高くなった箇所へと続く石段は坂道とし、温泉街によくある狭い道路に配送用の軽トラックなどが入り込む風景を再現しました。

建物については、このベースと同時に発売された温泉旅館3軒をほぼそのまま配置していますが、3階建ての建物を奥の高い場所に2軒、2階建ての建

物は手前の低い位置に配置することで、ジオラマに立体感を出しています。駐車場の跡地に設置した旅館前の空きスペースは宿泊者用の駐車場と、ジオコレ（情景小物）の日本庭園で庭を造って街コレ第2弾付属の塀で仕切りましたが、松の木を植えたらよく見えなくなってしまいました。

この旅館及びベース付属の外湯には、ジオコレにて発売となった「電飾キット」の試用も兼ねて照明を組み込んでみました。鉄筋コンクリートの旅館1軒に白色タイプ（B）、他は電球色（A）を仕込んでいます。残念なことに、ジオラマベースには照明のコードを逃がす穴が開いておらず、今回は見えない部分ということで、少々強引ですがハンダゴテを使いベースを溶かして穴を開け、コードを逃がしています。もちろん各建物内は、事前に光の透過防止のためにライトユニットに含まれるアルミテープで内側から遮光しています。

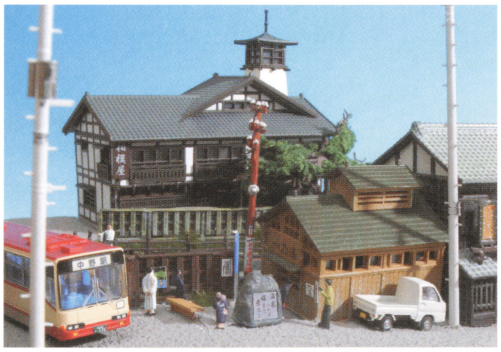
室内照明のほかライトアップ用照明（電飾キットC）も試用してみましたが、室内照明用に比べ大きなライト部分は設置にひと工夫必要でした。今回は外湯の外観をライトアップする照明と、温泉加圧塔をライトアップする照明に使用。外湯は付近の地面に穴を開け設置しましたが、目隠しとしてすぐ脇にこれも付属の石碑を設置。温泉加圧塔の照明はすぐ向かいの旅館の建物の内側に設置しましたが、この白色LEDは電球色に比べ照度が低いようで、思ったよりも光が届いていない印象もあります。

空いたスペースに街コレ第1弾（建物コレクションとして再販）の酒屋を配置し、狭隘な道路を表現しています。温泉街をよく観察すると、実はスペースに余裕はなく、多くの建物がひしめき合うように建っていることがほとんどなことに気付きます。

川沿いに伸びる細い遊歩道の脇、ベースでは茂みなっている部分は、すぐ裏まで迫る山を連想させるような竹やぶにしていますが、温泉街の端が竹やぶで、その背後が山林、と言う風景は甲信越方面で多く見る風景です。

▲セット付属品を中心とした人形の配置も、時間帯やストーリーを想定して行なっている。夕方の温泉街をイメージして、外湯の周辺には湯上りの人を、奥の通りには外湯に向かう人々を配置。

▲旅館街の入口には、街コレ第3弾「横丁編」に付属していた、通りの名称を表示するゲートを設置し、観光地ムードを演出している。階段も坂道とすることで、自動車が入れる道に。



ジオコレシリーズなら夜景もかんたんに再現可能。
2色の灯りが混ざることで実感的な風景に…。

なお、ある程度近代的なバスを置いても馴染むように、電柱は近代的な他社製品を使用しています。「昭和」的なアイテムの多いジオコレシリーズですが、ラインナップにある近代的なバスやクルマに合わせた近代的アイテムも今後必要になってくると思います。

完成したジオラマに似合うバス、ということで同好の葉賀氏が製作した長電バスを配置したところ、どこかで見たことがあるようなバスシーンが展開し、実にベストマッチでした。

そのままでも十分リアルな情景を再現できるジオラマベースですが、そこにある程度特定の地域・時代・そして時間なども意識してストーリーを組み立て、製作を進めてみると、ぐっとリアルな、自分だけのジオラマに進化させることができることを実感しました。ちなみにこのジオラマの製作期間は1日約2時間半程度の作業でおよそ4日間。ベースの製作をイチからするとなればおそらくこの倍以上の期間が掛かったでしょう。手軽にジオラマ製作の醍醐味を味わうことができるこうした製品の続編にも期待したいところ

A4サイズの自作ジオラマ…ジオコレをそのまま使って手軽に

住宅地の中にあるバス折返所

photo：青柳　明（RMM）

こちらもA4サイズですが、写真パネルをベースにし、ジオコレ各製品を活用して製作したジオラマです。神奈川県横浜市などで見られる、住宅地の中にあるバス折返所をモチーフに製作してみました。

このジオラマ、以前から構想だけはあったのですが、なかなか着手せずにいました。その背中をぐっと押してくれた製品、それは何とジオコレの「工事現場シリーズ」に含まれていた「簡易トイレ」でした。

停留所は道路上にあり、バスが折り返すだけの折返所には、ほとんどの場所で運転士用のトイレが設置されています。これは基本的に何も構造物がないことの多い折返所の風景として欠かせないものなのですが、ちょうどよい製品などあるはずもなく、かつ私自身もトイレの模型が作りたくて模型工作をしているわけでもなく！？製作に躊躇していました。ところが驚くべきことに情景小物の工事現場に「簡易トイレ」が含まれていました。これを使わない手はなく、早速着手した次第です。

横浜市の港北エリアにある住宅街をモチーフにする際に、欠かせないと思ったのが「坂」のある風景を再現する点です。丘陵地だったエリアを切り開き宅地造成した場所のため、平らな風景はほとんど見られません。このジオラマでは奥に向かって緩やかな上り坂を作り、その上にジオコレの住宅群を様々に配置してみました。当然道路は坂道になりますが、住宅が並ぶ部分はスロープ状だと建物が傾いてしまいますので、ひな壇状に地形を作り、建物を配置しています。ベースの木製パネルの上にスチレンボードで地面を作り、高くなる箇所には同じくスチレンボードを重ねた下駄を履かせて、高さを上げています。

最近開発された住宅地ではなく、昭和40年代頭には既に開発が始まったエリアを想定し、主要道路側から宅地になって、一部の建物は建て替えが始まって、というストーリーを考えたため、手前側には敷地が広めで古い外観の建物を、奥には敷地が狭く新しい建物を配置してみましたが、これらはすべてジオコレ製品の「狭小住宅」「建売住宅」「現代住宅」「集合住宅」をそのまま使用しています。このうち「現代住宅」については、広い庭がありますが、スペースの都合で庭と駐車場はなくして設置しています。また一番古い集合住宅については、こちらも情景小物の工事現場Cの足場を設置し、建て替え開始の風景を再現しています。

各住宅のベランダには洗濯物などがないことから、時間帯は朝の通勤通学時を想定。人形もバス停がある方向に向かって歩いている設定で配置していますが、折返所の位置からジオラマ内にバス停のポールを設置すると不自然になることから、これはあえて省略しました。

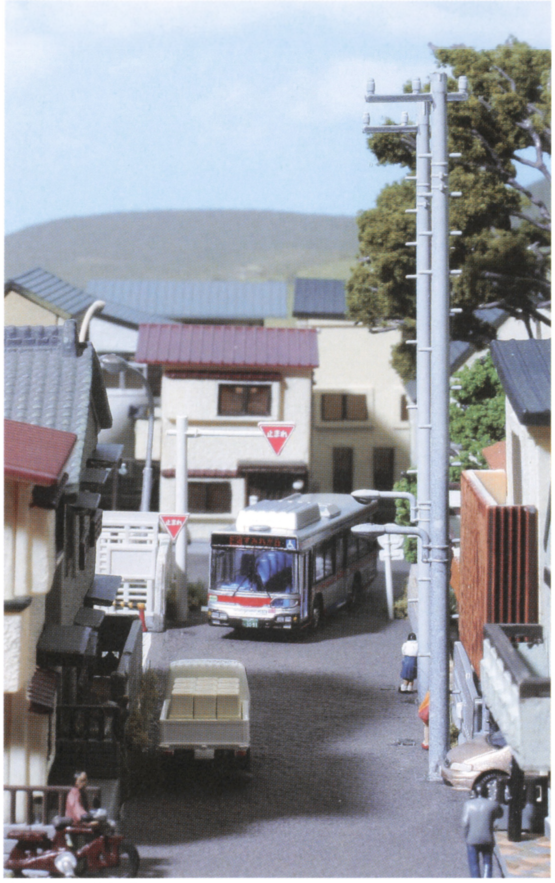
折返所の周囲は、ジオコレの狭小住宅Ｂに含まれていた柵が実感的だったことから、これを転用してフェンスを設置、中には、バスが通行するルートの邪魔にならない位置に簡易トイレを配置。三角コーナーやトラバーもジオコレの工事現場Ｃに含まれていたものですが、この小物は非常に便利です。このパーツだけの分売があればなおありがたいのですが･･･

表通りはケヤキ並木をイメージしていたので、こちらもジオコレの樹木「欅」を使用。これまでジオラマシーンの樹木は「針葉樹」「広葉樹」程度の作り分けだったのが、ジオコレシリーズのお陰で相当具体的に、さまざまな樹木を手軽に再現できるようになったのは非常に大きな進歩でしょう。電柱より大きくなったケヤキを何の苦労もなく再現できるというのは本当にありがたいことです。場所の都合で1本しか植えられなかったのですが、このジオラマに接続する「ケヤキ並木」だけの風景を作ったらもっと奥行きが出ることでしょう。

このジオラマでも、電柱、道路標識、草の再現については他社製品を使用しました。バスが主役のジオラマともなると、道路標識はけっこう重要ですがジオコレ製品では補いきれないのが惜しまれます。今回使用した製品には一方通行出口、ただし「路線バスは除く」と言う標識も含まれていたのですが、まさにこの折返所の入口道路にはこの表示が不可欠でした。

以上で住宅街のバス折返所のジオラマは完成です。今回は比較的直線的な、オーソドックスなスペースの使い方のジオラマですが、傾斜をつけることで単調な印象を少しだけ薄めることができたかな、と思います。鉄道模型レイアウトなどでは、再現すると実はあまり効果が見えず、かつ全体で収拾をつけることが難しい緩やかな傾斜地も、その一部を切り取ったジオラマでは自由に楽しむことができます。

造成された傾斜地は基本的に斜面を段々に切った形になりますので、断面の処理もほとんど発生しないことから、発泡スチロールのカスと格闘することもなく！？手軽に再現ができる斜面ということができましょう。立体的な地面工作の練習にも最適です。



A4サイズの自作ジオラマ…ジオコレの建物を簡単改造でイメージチェンジ

地方の小さなバス営業所

photo：青柳　明（RMM）

こちらは地方の小さなバス営業所をイメージしています。建物が少ないため、ジオコレシリーズの出番は比較的少なめですが、キーになる建物はいずれもジオコレの「中古車屋A　昭和風」を活用しています。建物コレクションシリーズが、ジオラマシーンにもたらした大きな新風、それは街中にある普通の「平屋建て」の建物をラインナップした点でしょう。これまで鉄道模型のストラクチャーといえばなぜか圧倒的に2階建ての建物ばかりで、平屋のものは駅舎か詰所ぐらいしか存在しませんでした。そこに平屋の住宅が登場し、さらにこの中古車店で平屋の事務所が登場しました。

実際地方に行くと、このような木造モルタル作りの平屋の建築は数多く、バスの営業所でもこうした建物は数多いのです。今回の作例では、この平屋の事務所に目をつけ、工作を進めました。確かに運転士詰所などでこの規模の建物はありますが、営業所としては少々小ぶりです。そこで2棟を接合し、一回り大きな建物にしてみました。

接合と言っても、バス車輌のように丁寧な切り継ぎはしておらず、2軒を基本そのままくっつけただけの手軽極まりない!? 工作で、壁面の再塗装もしていません。この建物は壁を4面組み立てるタイプではなく、元から壁面が一体成型になっているため、このような工作をしました。しかし同じ向きに2軒をつなげると、同じ窓配置が繰り返されてしまい不自然な形状になってしまうこと、さらに2軒を背中合わせに接合するだけだと、今度は窓が全くない面が車庫側を向いてしまいます。営業所の建物で、車庫側に窓がなく様子が見えないというのは非常に不自然なので、1軒分の壁面位置を入れ替えた上で接合しています。また屋根は、瓦がひさし状に出ているので、干渉する部分を切断の上つなげていますが、表面の処理などは特段せず、イメージを変えようと塗装のみをスプレーで手軽に行ないました。

また、この中古車屋には、ごく小規模な車輌整備工場も付属しています。これも2棟を連結して活用し、バス1台が入る小規模な整備場にしてみました。基本的な工作は事務所と同じですが、車輌の出入りがで

きるよう入口の開口部を大きくする工作を行なっています。それでもクリアランスはかなりギリギリですが、地方ではバスが非冷房だった時代に合わせ作られた、高さが低い整備工場も多々見受けられます。山に関しては発泡スチロールからジオラマ製作のセオリーどおり製作し、樹木についてはいずれもジオコレ製品を活用してみました。

また、バスの「営業所」とはいうものの、以前バスホビーガイド4号でご紹介した通り、無理やりあれこれ施設を押し込むことはせず、給油設備も洗車設備もない、小さな「車庫」をイメージして製作を進めています。さらに地方の山間にあるバス営業所がモチーフですから、人形もわずかしか配置していませんが、アクセントとして入口付近でバスを撮影するバスファンを配置してみました。ジオラマ単体でみますと少々物足りない感じもあるかもしれませんが、今回ご紹介したジオラマは「バスが主役」がテーマですので、模型のバスを撮影しやすいポジションを最初のイメージ段階から意識して確保するなど、バス車輌の撮影台としては非常に使いやすいジオラマになったかな、と思います。

■まとめ

今回はジオコレシリーズをフル活用して、バスコレをより活き活きと見せるためのジオラマ製作をしてみました。ジオコレシリーズはこれまでのジオラマ製作のセオリーを大きく変えました。これまでは基本の地形を製作し、さらに建物や小物もその多くを自作や塗装するという、大変な下ごしらえが必要でした。ところがジオコレ製品群は建物から人形、樹木はじめ様々な小物までが塗装済で簡単な組立のみで完成するため、地形さえできてしまえば後は配置するだけでジオラマが完成します。

下ごしらえの工作がない分、短い時間で完成するだけでなく、実物をじっくり観察する時間的余裕や、建物や人形の配置をじっくり考え、ジオラマで再現する「ストーリー」構築を楽しむ余裕をも与えてくれるのです。

競作!

バスコレ走行システム付属の未塗装ボディをさっそく改造!

日野ブルーリボンシティ・ハイブリッドバス 改造ガイド

巻頭特集でも紹介した「バスコレ走行システム」。実は画期的な走行システムとは別にバスコレファンが注目しているのが、バスコレ初の製品化となる「日野ブルーリボンシティ・ハイブリッドバス」のボディです。このセットには塗装済の都営バス仕様とは別に、お好みの改造が楽しめる未塗装のボディが付属しています。ここでは、その未塗装ボディを使った改造作例を、ひと足早く紹介します!　(編集部)

東急バス

modeling&text:ATB MODELS　photo:青柳　明

■使用パーツ

●トレジャータウン　出入口標記2(白黒赤)インレタ、細部標記2(緑)インレタ　●ハセガワ　曲面追従シート(ブラックフィニッシュ)

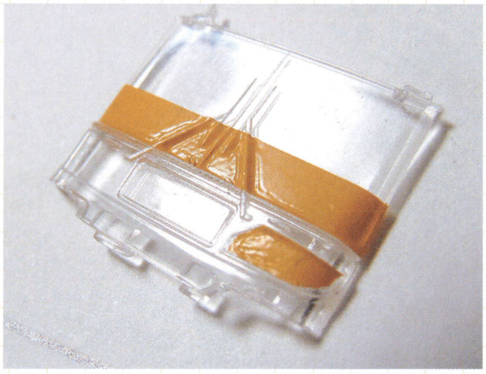
■工作の要点

このセットに含まれる未塗装のハイブリッドバスを塗装する上で一番頭を悩ませるのは、一部ボディと一体表現となった正面ガラスパーツのマスキング作業でしょう。バスコレの車体成型もどんどん繊細になっており、このディテールを活かして塗装を上手く仕上げるのが難しくなってきている印象すら受けます。今回の正面窓パーツも、縁のHゴムなどが恐ろしく繊細で、かつ車体角に曲線輪郭のセーフティウインドウがあり、ここを普通のマスキングテープでマスキングしても、Hゴムの内側を正確に、がっちり押さえるのは困難です。

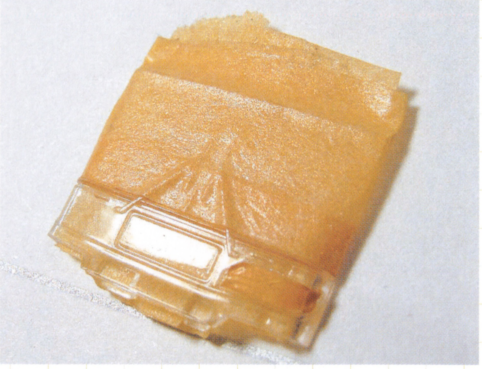
そこで今回は、窓ガラスのブラックアウト部を手軽に再現しようと用意していたハセガワの「曲面追従シート」をマスキングに使用しました。このシートは文字通りシートが伸びて曲面にがっちり追従するのが売りですので、繊細なディテールにもきちんと追従してマスキングができるかな、という算段で使用してみました。

このシートを軽く伸ばしながらパーツに圧着し、セーフティウインドウ周囲に沿って慎重にカッターナイフで不要部分を切除。ワイパーなどのモールドが集中する正面窓下側もこのシートでマスキングして、残りの部分と裏側をマスキングテープで覆い塗装しました。曲面追随シートの結果はご覧の通り。良好な結果が得られました。

続いての難関はHゴムで、極細で非常に色入れしにくいのですが、タミヤモデリングブラシPRO 面相筆NO.000を使用し慎重に進めました。この面相筆は本当に使いやすく、重宝しています。



▲マスキングが困難な正面窓パーツには、ハセガワの「曲面追随シート」を使用した。わずかな段差しかないセーフティウインドウと、繊細な表現のワイパー周辺にシートを密着させる。



▲曲面追随シートの上から既存のマスキングテープで正面窓全体をマスキングする。塗装時に塗料が吹き込むため、パーツ裏面にもしっかりマスキングテープを貼っておく。

■車体の塗装

車体の塗装順序は正面窓部分をマスキングの後、全体をガイアノーツサーフェイサー(グレー)で塗装→全体を雲母堂本舗ビスマスパールで塗装→タイヤアーチ、窓周辺などをクレオスGXウイノーブラックで塗装→デカールなどマーキングをした後、クレオスGXクリアーで塗装といった手順です。

■銀色の塗料について

最近、銀色のバスを塗装する際に、銀色の塗料ではなくこの「ビスマスパール」を使用しています。この塗料は金属感のあるメタリック塗装向けに作られた塗料で、まずは下地に光沢黒を塗装し、上からこのパールを吹くと、金属的なステンレスのような銀を発色します。

パール自体には色があるわけではなく、下地が光沢=平滑で黒だと光が乱反射せず、ギラッとした光沢が出て、黒が透過し銀に見えるという原理なので、下地をサーフェイサーで乱反射するようにすれば、このように若干落ち着いた、しかもほとんど粒子がないような銀を、きれいに出すことができます。

さらに最後のクリアー仕上げの段階で光沢やツヤ消しを選ぶことで、光沢だけでなく輝きもコントロールできます。

このビスマスパールはエアブラシ向けに希釈してあるため、購入してきてボトルを振り、カップに入れるだけで塗装ができるというのは実に手軽でありがたい存在です。今回のブルーリボンシティハイブリッドのように、屋根上に個性的なディテールがある場合は、このビスマスパールによる「ぬるっとした」「ギラッとした」シルバーは非常に効果的だったようです。

京浜急行バス

modeling&text:川瀬修一　photo:青柳　明

2009年から横浜営業所に日野ブルーリボンシティハイブリッドバスが導入されました。2008年にも羽田京急バスに空港連絡バス専用車として導入されましたが、京急バスの一般カラーの車輌はこの横浜営業所の車輌が初めてとなりました。

今回はトミーテックのご厚意で、発売に先立って入手する機会を得ましたので、この待望のハイブリッドバスに着手することになりました。「バスコレ走行システム」で本形式が登場するとのことで真っ先に作りたかったのがこの車輌で、製品予告の段階から実車観察に励みました。実際の営業開始時には車体の一部にラッピングが施されていましたが、試作サンプル到着から余り時間がなかった関係で、ラッピング実施前の姿を再現しました。

製品は都営バスの仕様になっているようなので、屋上の前側の角型ファンを取り外し、穴埋め。新たに丸型ファンを設置しました。今回の製品は前面ガラスパーツの構成が変わっていて、このパーツの塗り分けがポイントになりそうです。セーフティウィンドウ(前面ガラス、向かって右下の小さなガラス)の部分はマスキングゾルを使用して最後に剥がすようにしました。塗装はライト廻りのグレー→バンパー白→車体色のシルバーの順で作業を行ない、帯と標記はデカールで再現しました。前述の通り営業開始時に貼られた環境対策車のラッピングが間に合わなかったのと、屋上バッテリー部分の標記の色の差がはっきりと再現できなかったことについては、いずれ製品版を入手してからじっくり修正をしたいと思います。

この車輌に走行システムを組み込めば、いずれ走り出すのかと思うと、製作意欲もおのずと駆り立てられました。動きのあるバスコレクションは鉄道模型とのコラボも楽しめそうですね。

長野電鉄バス

modeling&text ,making photo:葉賀敏明　photo:青柳　明

バスコレを走らせたい、というのは長年のバスコレファンの夢であったはずです。この夢の第一歩とも言える今回の製品には都営バスが選ばれ、これはこれで良い選択だと思うのですが、注目したいのは未塗装のバスが付属していることです。このハイブリッドバスは長電にも在籍しているので製作してみました。

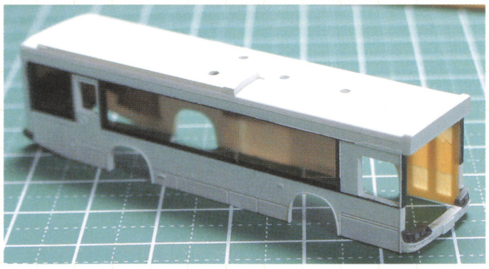
長電バスのハイブリッドは製品より長さが長いタイプと、製品と同じ長さの2種が在籍し、後者は屋根上のクーラーが新型なので、自作したものを載せています(次頁メイキング写真参照)。

細かいところでは側面ウィンカーの位置が変更されているので、プラ片で前輪ホイルアーチ前に移設してあります。

■塗装について

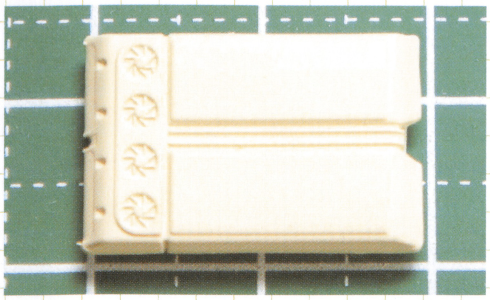
塗装はハイブリッド専用の塗り分けで、斜めラインがダイナミックに入っています。ベージュとアイボリーは三菱車(125頁)と同様にしましたが、赤が通常よりも鮮やかに思えたので、クレオスのガンダム用カラーから、CG02 レッド(1)を選びました。塗装順はベージュ→アイボリー→赤→黒の順です。

窓上の幕板にある細い黒帯は、インレタを使用しようかとも思ったのですが、定着性の問題もあってエアブラシによる塗装です。その他、ロゴ類は自作デカールによるものです(自作デカールについては次頁の川中島バスを参照)。

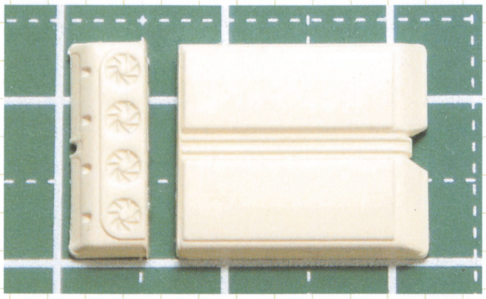


▲車体塗装後に窓枠など黒い部分を塗っている状態。注目していただきたいのは正面窓柱の黒。強度の関係からかガラス側でなく車体側に成型されているため、忘れずに塗っておく。

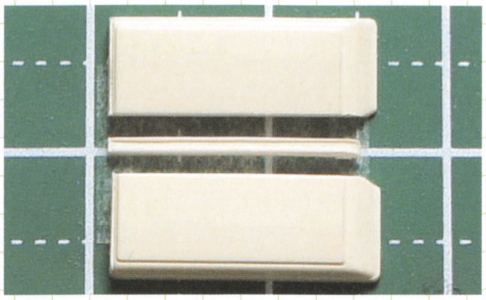
■電動式パッケージクーラーの製作



▲ベースとなるのはエルガや西工96MC 5台セットに装備されているパーツ。

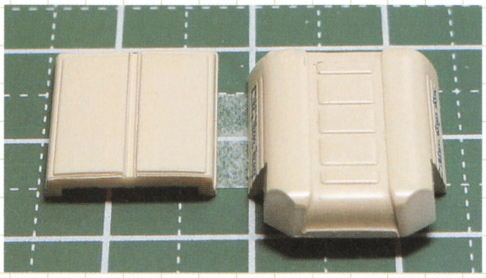


▲前後を切り離す。前部のファンの部分も使用するため、なくさないように。

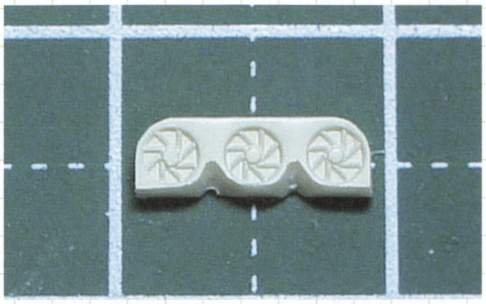


▲後部のエバポレーター部は幅が製品よりも狭いため、エッチングソーで3枚にカット。中心部のディテールを崩さないように。

▲前部のコンデンサー部分は傾斜の角度の一部を使用するため、エルガのCNGタンクを使用した。



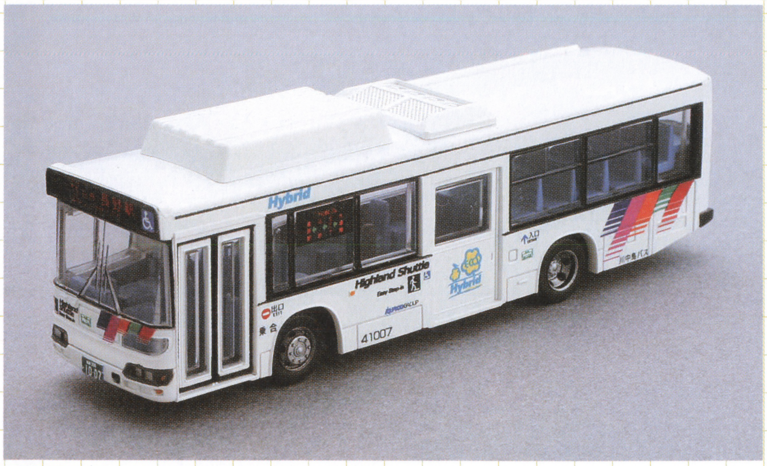
▲パーツの塗装を落とさずに加工したほうが、左右を均等に削るのには都合がよい。この後CNGタンクの加工部を切り落とす。写真左側のエバポレーターもこのままでは少し長いので、写真に見えている部分をカットした。



▲コンデンサー部のファンはベース製品の4連から3連に加工した。これをCNGタンク加工品にはめ込む。クーラーの完成状態は屋根上写真を参照して欲しい。

川中島バス

modeling&text：葉賀敏明　photo：青柳　明



長電バスとは対照的に、明るく現代的なイメージのデザインなのが川中島バスです。松本電鉄グループであるアルピコグループの共通デザインは、東京や大阪などにも高速バスを運行しており、目にしたことのある方も多いと思います。

川中島バスのブルーリボンシティハイブリッドは、残念ながら製品より長さが長いのですが、貴重な未塗装バスに2個イチが必要となる延長加工をしたくなかったことと、走行システム製品に付属する未塗装バスの長さを変えてしまうことで、肝心のシステムに乗らなくなってしまうのは本末転倒のため、製品に対する加工は屋根に2個乗っている通風器を撤去しただけです。

車体加工は以上ですが、塗装は課題があります。ロゴを多用し、カラーリングも5色のダイナミックストライプと呼ばれる塗り分けパターンがあり、模型化にはハードルが高そうな気がします。エアーブラシなどでこれを塗るのは至難の業なので、近年注目されているデジタルモデリングの手法を最大限に使いました。

詳細はRM MODELS 187（2011年3月）号に詳しいので省略しますが、基本的には下地の白と窓廻りの黒、ライト廻りや灯火類などを塗り分けたのち、イラストレーターで作成したデザインを、MDプリンターでデカールに印刷した、それを貼り込んでいきます。私は普段愛用しているMDプリンターを使用しましたが、白を印刷する必要のないこのアルピコグループのデザインは、インクジェットプリンター対応のデカール用紙でも十分作成できる題材です。

画期的なバスコレ走行システムですが、未塗装バスが付属しているのはコレクションのためだけではないはずです。地元のハイブリッドを作るチャレンジャーに期待します。

◀同じ長野市街を走る川中島バス（左）と長電バス（右）。同型ながら、カラーリングで印象が大きく異なる。

コレクションだけじゃもったいない！改造して楽しもう！

実車にこだわった バスコレ改造作品！

全国各地のバス事業者を網羅するバスコレのラインナップ。しかし製品化されていない事業者もまだまだ多く存在します。ここではバスコレでは製品化されていないバス事業者や仕様を、バスコレファンが実車にこだわって製作した作品を紹介します。腕に覚えのある方はぜひ、このような自分だけの「こだわりの一台」を作ってみてはいかが？（編集部）

長野電鉄バス　三菱ふそうエアロバス

modeling&text：葉賀敏明　photo：金盛正樹

第14弾のエアロバスは現行の日野セレガ、いすゞガーラと並び、最もポピュラーな高速／観光バスと言えるでしょう。長野電鉄バス（以下、長電バスと記す）にもエアロバスが導入されており、路線バスと同じ塗装ながら高速バスらしいスピード感のある塗り分けが魅力的です。

ベースにしたのはプラグドアを持ち、サッシのない側面ガラスの名鉄バスです。

セオリー通りIPA（イソプロピルアルコール）で塗装を剥離しますが、このIPAは強燃性の液体なので、充分火気に注意しなければいけません。

車体の加工はドア側の後部屋上にトイレ用の通風器をプラ材から作り接着しただけです。

塗装はGM㉘西武アイボリーを全体に塗った後、GM②赤2号を塗ります。手間はかかりますが、赤くなる部分を一気に塗るのではなく、細部をマスキングし、少しずつエアーブラシで塗装していきました。ロゴはMDプリンターによる自作デカールです。

塗装後に窓ガラスを組み込んで完成させますが、客室部のガラスはスモークになっているので、裏からガイアノーツの046番クリアーブラウンと043番クリアーブラックを混色した色を塗っておきました。

長野電鉄バス　三菱ふそうニューエアロスター

modeling&text：葉賀敏明　photo：金盛正樹

長電バスの路線車は、ほとんどが日野製ですが一部に三菱ふそう製が導入されています。このニューエアロスターも第15弾製品と同じ長さの車輌が1台在籍しますが、長野駅前に出てくるのは貸し切りなど臨時運用をだけのようです。

ベースはクーラー形態(厳密にはファンの数が違う)とガラス形状より、北海道中央バスから改造します。

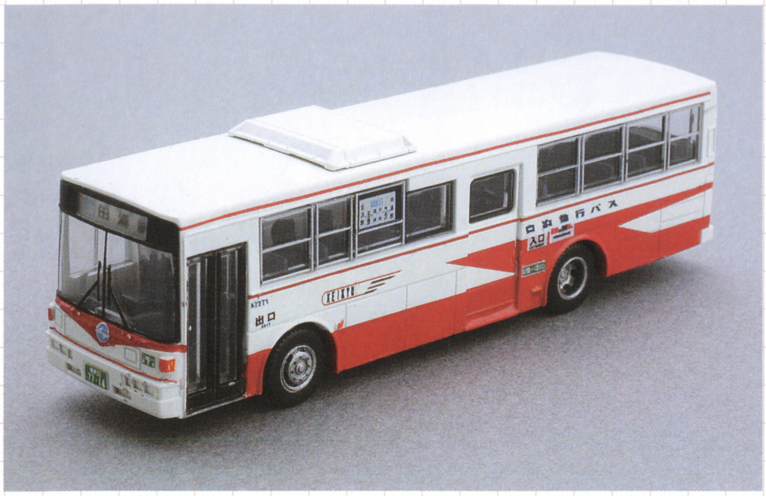
正面ガラスにあるエアロスターの特徴と言える安全確認窓が無く、使用されていない表示パネルがありますので、モールドを削除してデカールで再現します。

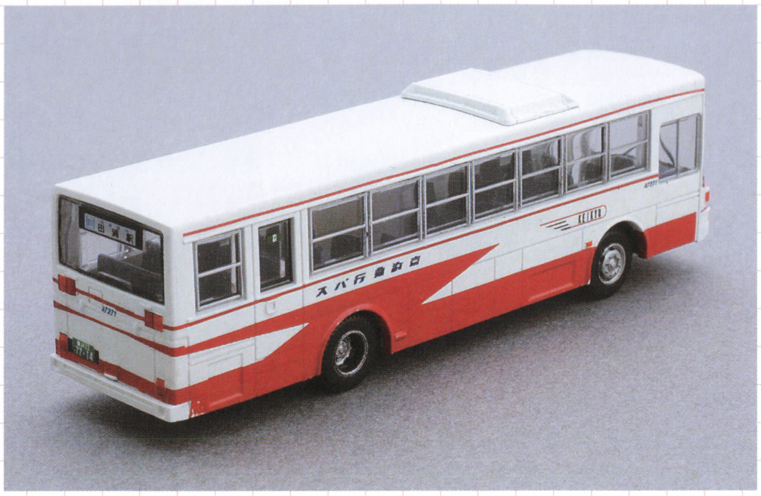
屋根上は通風器が3個乗っているので、同じ第15弾の阪急バスや広島バスから持ってきました。

塗装はエアロバスと同じ2色を使い、裾のベージュはクレオス321黄土色を使用しています。順番はクリーム→赤→ベージュの順番ですが、この塗り分けも扉の細い赤帯が難しく、あまりキレイに塗れませんでした。

京浜急行バス　富士重工7E

modeling&text：川瀬修一　photo：青柳　明





第16弾で発売となった富士重工7Eは、京浜急行バスでは1988年から導入され、マイナーチェンジをされながら富士重工のバス事業撤退の2002年まで導入されました。

今回のバスコレクションのプロトタイプとしては大別して90〜95年のタイプが製品化され、京急バスもラインナップに加わっています。このタイプの中では少数派だった日産ディーゼル（以下UD）のツーステップ低床車が通常製品として再現され、シークレットでは唯一の貸切兼用車（通称：赤バス）のA7271が登場しました。1988年式にも2台の赤バスが存在しましたが、エンジン通風口の形状などが模型のプロトタイプと若干異なります。この他、京急にはいすゞエンジンに富士重工7Eボディを載せたバスも鎌倉エリアだけで見られました。

今回の製品はバス部門の分社化前の姿を再現していたので、前述の赤バスの分社後の姿を製作してみました。同車は2003年秋のバス部門分社化に合わせて標記類が変更され、2005年春には除籍となっているので、晩年のわずかな期間の姿ということになります。他の赤バスが分社に際し、前面の社章が取り外されたのに対して、このA7271は最後まで赤バスならではの水色に塗られたマークが健在でした。

加工は手持ちにゆとりのあった西武バスを活用し、屋上のベンチレーター、丸ファンを撤去、取付穴を埋める加工を行ないました。車体は、白にごく微量の青を加えて調色した白を使用し、赤帯や標記はデカールを作成して貼りました。近年の富士重工のバスの特徴でもあった前面ガラスと一体化された方向幕周辺は製品の機構を活用しますが、方向幕は車体側に貼り、ガラスの裏面の印刷を消して、透けて見えるように磨き出しておきました。

京急バスでは90年代初頭で既に一般路線バスの低床化が推し進められており、この世代の車輌は逆T窓が斬新なワンステップバスが主流になっていた時代です。製品化された車輌は銀色二段サッシの少数派でしたので、いずれ逆T窓を調達してワンステップバスを製作したいところです。また、赤バスは床高さが高い車輌（標準床車）でしたが、製品ではこのタイプが再現されていないので、この辺りの再現も今後の模型化のテーマになりそうです。

京浜急行バス　西工RAノンステップバス

modeling&text：川瀬修一　photo：青柳　明

西日本車体のボディを載せたRAノンスッップバスは2008年から京浜急行バス能見台、追浜営業所に投入されています。一般用途のノンステップバスがいすゞ車に限られた時代を打ち破る新顔で、2004年以来のUD車となりました。

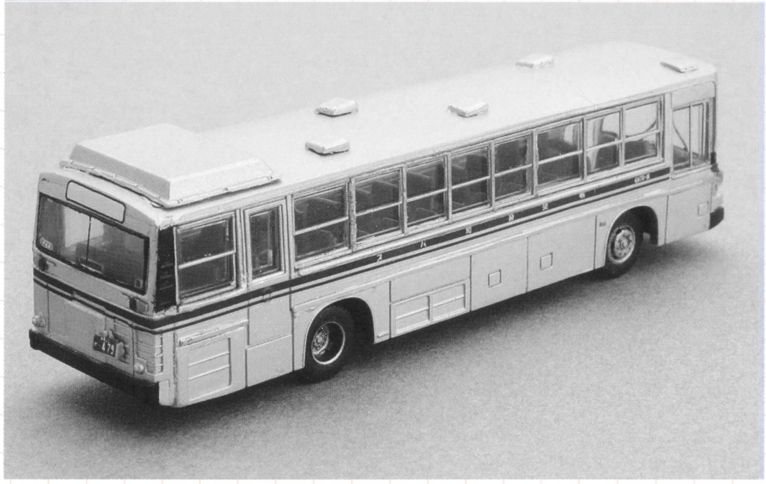
今回は、西日本車体の撤退に前後して発売されたノンステップバス5台セットを活用し、西工RAノンステップバスを製作してみました。京急では視野拡大窓仕様が投入されているため、ベースは川崎市営バスを活用。実車の標準仕様化の影響もあり、加工箇所も極めて少なく、ベンチレーターを京急と同様に配列し直した程度です。余談ですが、京急では80年代中盤の導入車から屋上の通風、換気設備が設置されませんでしたが、2008年頃からメーカー標準化の流れの中で設置されるようになりました。塗装は銀色→バンパー白(白にごく微量の青を混ぜて調色したもの)の順で塗装し、デカールを貼って完成させました。

側面ガラスは佐世保市営バスのものを使用して再現しています。なお、このガラスは客席部分のみが裏側から着色されていますが、これはシンナーで軽く拭くだけで色落としができました。

久々に登場したUDノンステップバスは興味深い存在でしたが、2010年の西日本車体の撤退で以後の増備がなくなってしまったのが惜しまれるところです。

新交貸切バス G479-M（三菱ふそうP-MP118N）

modeling&text：ATB MODELS　photo：青柳　明



■ベース

●バスコレ第13弾　エアロスターK（大阪市交通局、富山地鉄）

■その他使用パーツ

●バスコレ第13弾　エアロスターK　シークレット都営バス（リア、冷房機、運転席窓）、第13弾　エアロスターK　富山地鉄　窓ガラス（2台分）●バスコレ第12弾　日野RC301　ヘッドライト、ウィンカー●トレジャータウンTTP191-01 押込通風機、TTP291-09 バス用パーツ集＃9（各種サボ受け・出入口表示・吸気口）、TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集、TTP281-01-1 汎用グリルパターン、TTL093-03 出入口標記1(汎用白黒銀)、TTL093-07 細部標記1(白青)

■工作の要点

第13弾で製品化された呉羽自動車工業製の車体を架装した「エアロスターK」が登場する直前、いわゆるスケルトンボディの試作的要素の強いボディーを架装したバスが少数登場しました。

その代表例が第13弾のシークレットアイテムで製品化された車輌なのですが、新潟交通にはこの車両とは表情や各部の形状が異なるスケルトンボディーの車輌が導入されました。

シークレットアイテムと、リアエンジンルーム付近の造形がそっくりだったことから製作に着手したのですが、実際工作を進めてみると、予想以上に車体各部の形状が異なっていることに気づきました。それを再現するためにかなりヘビーな工作が続いたのがこの作例です。

製品の形状をそのまま生かせたのは車体断面とドアぐらいで、側面には試作車らしくリムが通り、正面の表情もまるで異なり、リアの方向幕周りの処理も違うなど、複雑怪奇なパズルのような工作を行なっています。とはいえ、フルスクラッチに比べれば原形が存在するだけ実車に近い姿になり、「平目」「はなれ目」などという愛称で呼ばれる所以である特徴的な正面も、何とかそのイメージを再現できたかなと思います。

なお、銀を2回塗装していますが、これは実車が新潟交通時代には屋根が赤塗装だったものが、子会社の新交貸切バス（当時。現在の新潟交通観光バス）に移籍した際に、屋根だけ再度銀色に塗り直されていたため、銀色のニュアンスがはっきりわかるほど異なっていた点を再現しようと、模型もわずかにニュアンスの違う銀を吹いてみたためです。誌面では恐らくそのニュアンスは見えない程度になると思いますが、たまにこうした「自分にはわかるこだわり」を持って製作に取り組むと、完成したときの満足感はいっそう高くなるものです。

新潟交通 G1054-I（いすゞキュービック　P-LV314Q）

modeling&text：ATB MODELS　photo：青柳　明

■ベース

●バスコレ11弾　いすゞキュービック　新潟交通（2台）

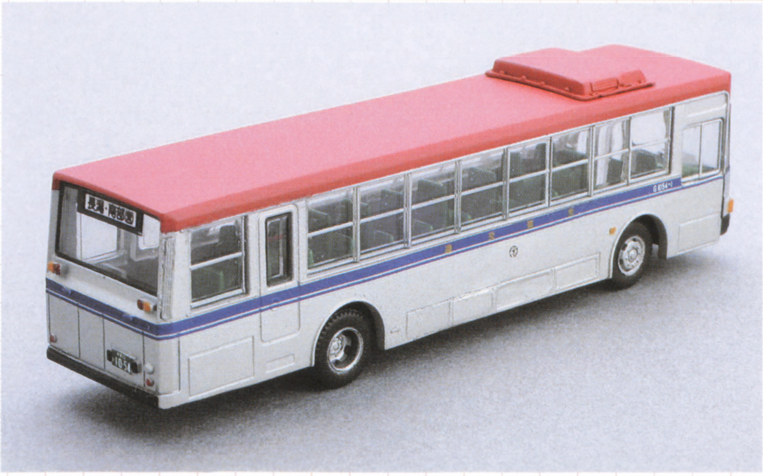
■その他使用パーツ

●トレジャータウン　冷房機＃1(P-LV用・高)、TTP291-09 バス用パーツ集＃9（各種サボ受け・出入口表示・吸気口）、TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集、TTL093-03 出入口標記1(汎用白黒銀)、TTL093-07 細部標記1(白青)

■工作の要点

一瞬「製品で出た車輌のままでは？」という1台ですが、製品化されたのはホイールベース4650ｍｍの短尺車でした。新潟交通では短尺と長尺の車輌を並行導入した時期が非常に長く、このいすゞキュービックでもホイールベース6000ｍｍという巨大なP-LV314Qも所属しています。個人的には、この「長いバス」こそ新潟らしい姿、という思いがあり、製品を切り継いで製作してみました。

切り継ぎ工作ですので車体塗装は剥離して工作を開始しましたが、正面のガラスと窓下が一体になったパーツは、長さに関係なく新潟交通なら同じですので、塗装もそのまま、インレタで「後のり後払い」の標記を加えたほかは未加工で使用しています。いすゞキュービックなどガラスと車体が一体成型のパーツは、マスキング作業に手間がかかり、特にキュービックの場合



三角窓周囲のピラーが非常に細く苦労します。この作業をしなくてよい分、車体工作に集中することができました。
　冷房のキセをトレジャータウンのパーツに交換していますがこの効果も絶大。バスコレのキュービックの冷房のキセは、厚みが薄いタイプと厚いタイプの中間のような寸法になっていますが、トレジャータウンの製品はこの２種を正確に作り分けています。屋根が赤い新潟交通の場合、この厚みが正面から見たときのリアリティを結構左右するため、パーツに交換したことで表情もより実車に近くすることができました。

南越後観光バス　150号車（三菱ふそうU-MP218K）

modeling&text：ATB MODELS　photo：青柳　明

■ベース

●バスコレ13弾　エアロスターＫ　道北バス

■その他使用パーツ

●トレジャータウン　TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集

■工作の要点

　これは非常に手軽な作例で、バスコレ16弾の南越後観光と並べるために製作しました。実車は川崎市交通局から移籍した１台ですが、ベースにしたバスコレ13弾の道北バスの車輌も、同じく川崎市交通局からの移籍車なので、基本仕様はまったく同じ車です。嫁いだ先が違った車輌を製作したということになります。
　この車輌は移籍後に塗装変更されましたが、その際にどうしたことか入口出口の標記もなくなり、側面方向幕も撤去されていたことから、本当にすっきりとした外観になっています。工作をする上では塗装をするだけで、各種標記をデカールなどで処理する手間も少なく、非常に手軽なプロトタイプです。
　なお、リアのテールランプ、実車は作例の角型ではなく、バス協型を装備しています。今回はこの変更を省略したため（実は工作を忘れて塗装してしまったのですが…）、厳密に言えば「タイプ」ということになります。とはいえこれでも十分南越後観光のバスには見えます。
　誌面でご紹介するような作例は、経験者が知るようなテクニックを駆使した精密なものが多数を占めますが、必ずしもそのような工作をしなくてはいけないわけではなく、それこそこのように塗装変更だけでも十分「自分だけのバス」を仕上げることができ、工作の醍醐味を味わえるものです。ぜひ皆さんもこうした手軽な工作から、バスモデル工作の楽しみを味わっていただければと思います。

南越後観光バス　302号車（三菱ふそうU-MP218M）

modeling&text：ATB MODELS　photo：青柳　明

■ベース

●バスコレ9弾　西工58MC　阪急バス

■その他使用パーツ

●バスコレ９弾　西工58MC（阪急バス）の窓ガラス、冷房ユニット●トレジャータウン　TTP191-03 角型通風器、 TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集、TTL093-04 出入口標記2(汎用白黒赤)

■工作の要点

　このモデルも上と同じ動機で製作した１台です。実車もバスコレ同様、阪急バスから南越後観光に嫁いだ車輌ですので、塗装変更が工作のメインとなります。後々調べると、実車と細部が異なる部分もいくつかありましたので、気になる点だけ軽く加工してみました。
　後扉下側の窓は、本来もう少し天地寸法が小さいのですが、今回は適当な窓ガラスパーツが見当たらなかったので、後扉上側の窓と同寸法の穴を開け、他の阪急バスからこの部分のガラスのみを調達しはめ込んでいます。また、側面方向幕が後扉戸袋窓内に幕が設置されているために、少し奥まった位置に幕が来ます。これを再現するために実物同様窓ガラスの内側に方向幕を貼り付けてみました。
　塗装についてはバンパー等の黒部分を２回に分けて塗装しています。これはマスキングのしやすさを考慮してのもので、出っ張っている部分はできるだけ最後に塗装したほうがすっきり仕上げることができます。一見手間かと思えますが、無理のあるマスキングをした結果、あとで吹き出した部分をタッチアップするより、手間をかけてマスキングをして一発で仕上げるほうが、結果手間がかからないと思います。

越後交通 250号車(いすゞ K-CJM600)

modeling&text:ATB MODELS　photo:青柳　明

■ベース

●バスコレ15弾　いすゞ CJM500(北村)岩手県交通・常磐交通

■その他使用パーツ

●トレジャータウンTTP191-01 押込通風器、TTP191-02 丸型通風器、TTP291-05 5E戸袋・方向幕・前後扉パネル、 TTP291-09 バス用パーツ集#9(各種サボ受け・出入口表示・吸気口)、TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集、TTL093-03　出入口標記1(汎用白黒銀)、TTL093-07 細部標記1(白青)

■工作の要点

一見製品とあまり変わらない印象の北村車体のCJMですが、製品は常磐交通の正面大型方向幕の前後扉と、元神奈川中央交通の前中引戸車の2種しかなく、このような正面小型幕の前後扉車はラインナップにありません。今回製作した越後交通の前後扉車は、前扉が通しガラスでしたので、右側面からリア、屋根部および前扉を岩手県交通の製品を使い、正面と左側面を常磐交通のものに交換する工作をしました。その他細部も工作を加え、非常口窓が横引サッシになっているなど越後交通ならではの部分を再現し、実車に近づけていますが、屋根右側後部にあるエンジン吸気口の覆いの形状が異なる点は工作を省略しています。

銀色の塗装は、122頁の東急バスでも使用した「ビスマスパール」を使用しました。指示通りに下地に光沢の黒を吹き、その上からビスマスパールを吹いたところ、ちょっと金属感が出すぎてしまいました。しかしほとんど粒子がないような銀の再現は目を見張るものがあります。ただ、最後のクリアー仕上げの段階で、あえてツヤ消しクリアーを少々荒めに吹いてみたところ、金属感も消え、良い雰囲気に落ち着いてくれました。

越後交通 373号車(いすゞ CJM500)

modeling&text:ATB MODELS　photo:青柳　明

■ベース

●バスコレ15弾　いすゞ CJM500 (北村)東海バス2台、常磐交通　1台

■その他使用パーツ

●バスコレ12弾　日野RC301の窓ガラス　●トレジャータウン　TTP191-01 押込通風器、TTP191-02 丸型通風器、TTP291-05 5E戸袋・方向幕・前後扉パネル、 TTP291-09 バス用パーツ集#9(各種サボ受け・出入口表示・吸気口)、TTP291-03 スピーカー・ワンマンパーツ集、TTL093-04 出入口標記2(汎用白黒赤)、TTL093-07 細部標記1(白青)

■工作の要点

北村車体のバスは、かつては東日本を中心に各地で姿を見ることができましたが、製品化されたいすゞCJMの頃になると導入例が一気に減少し、地元新潟県に圧倒的に多くの車輌が所属していました。

製品では蒲原鉄道の車輌が発売されましたが、新潟交通や越後交通にはホイールベース6000mmを誇るCJM600が多数所属し、圧倒的な存在感を放っていました。今回は越後交通に所属していたCJM600を製作してみました。

まず2台を切り継ぎし、車体を延長する工作を行なってしまい、その後正面窓を常磐交通のものに交換したり、冷房用サブエンジンの通風口位置を移動したり、と言ったディテール工作を進めます。一番やっかいだったのが窓ガラスでしょうか。実車資料を見ると、窓の数が増えるだけでなく、右側面は車輌中央付近の窓自体が明らかに大きいのです。これについては15弾製品にはない窓寸法だったので、天地寸法がほぼ同じだった12弾の日野RC301に含まれていた広い幅の窓を切り出し、接合して組み込みました。

越後交通と言えば、車体側面に書かれている「E.K.K.」の文字が印象的ですが、この時代の車輌は側面広告枠の内側にこれが書かれており、広告が軒並み入っていました。しかしこの車輌については標記が書かれていたのかが不明だったので、今回の作例では広告枠、標記どちらも再現せず、フラットな状態にしてあります。

RM MODELS ARCHIVE

NEKO MOOK 1276

ジオラマコレクション 完全マニュアル vol. 2

ホビダスNo. 51862484

絶賛発売中！

● A4 変形国際判（本誌と同じ）

●全 148 頁･定価：1,200 円〈税込〉

大反響の「ジオラマコレクション完全マニュアル」にシリーズの第 2 弾が誕生しました。本書はトミーテックが 1/150 スケールで展開する人気コレクションアイテム「ジオコレ」を一堂に網羅、2007 年 9 月～ 2009 年 3 月までの間に発売されたアイテムを収録するほか、トミーテックや読者による「ジオコレ」使用作品の数々を写真で綴ります。

特に今回の目玉は「鉄コレ知恵袋」。いまやジオコレの中核とも言える鉄道車輌モデル「鉄コレ」について、実車の生い立ちや模型編成例など「遊び方」を豊富な写真でわかりやすくガイドします（主に第 6 ～ 9 弾の車輌対象）。巻末には事業者限定品も含む歴代ジオコレ全製品のリストも掲載、今回も情報量満載でお届けいたします。

NEKO PUBLISHING CO.,LTD. 株式会社ネコ・パブリッシング 〒152-8545 東京都目黒区碑文谷 4 丁目 21 番 13 号 電話 03-5723-6013（営業部代表） NEKO BOOKS http://www.neko.co.jp/

RM MODELS ARCHIVE

鉄道模型 Nゲージ大図鑑 2011 日本型 N ゲージ新製品オールカタログ

昨年 1 年（2010 年 1 月から 12 月まで）に発売されたほとんどすべての日本型 N ゲージ新製品を網羅した『N ゲージ大図鑑』の最新版が今年も発売されました！毎年ご好評を得ているこの別冊は、『RM MODELS』誌 NEW MODEL 欄に掲載された N ゲージ車輌（完成品・キット）はもちろんのこと、細かなパーツやレイアウト・ジオラマ用品なども含めて徹底して網羅、その資料性の高さは皆様の工作やコレクションに必ずやお役に立つことでしょう。さらに新製品カタログだけでなく、レイアウト作品紹介など読んで楽しい記事も豊富に収録、N ゲージファンには見逃せない一冊となっています。

● A4 変形判（本誌と同じ）196 ページ

定価 1,600 円〈税込〉

ホビダスNo. 52045687

好評発売中！

カテゴリーごとに見やすいカタログページ！

NEKO PUBLISHING CO.,LTD. 株式会社ネコ・パブリッシング 〒152-8545 東京都目黒区碑文谷 4 丁目 21 番 13 号 電話 03-5723-6013（営業部代表） NEKO BOOKS http://www.neko.co.jp/

われら ジオコレ派！

RM MODELS 読者投稿作品集

今回で3冊目となるジオコレマニュアル。前回も好評をいただいた、読者の皆様の思い入れがたっぷり詰まった「ジオコレ作品」たちのご紹介を、今回もさせていただきたいと思います。月刊「RM MODELS」誌上にて事前に募集したもののうちでも、とりわけ情景に力の入った作品たちが、今回の主役です。ジオコレから広がる無限のモデルワールドを実感していただければ、きっと貴方も「心の鉄道」を実現してみたくなることでしょう。

Text&Photo（特記以外）：作者

全国のローカル鉄道を訪ね歩くのが大好きな私、今回は同好のY君と共に、北陸地方の私鉄電車を訪問してきました。その中でも路面軌道線が魅力的だった「新川電鐵」の小さな旅を紹介します。

▲JR新川駅の駅前に立つ古風な駅舎。入線する車輌もシル・ヘッダーやリベットが武骨な戦前型から最新のLRVまで幅広い。

01
絵本「新川電氣鐵道を訪ねて」
大橋誠司

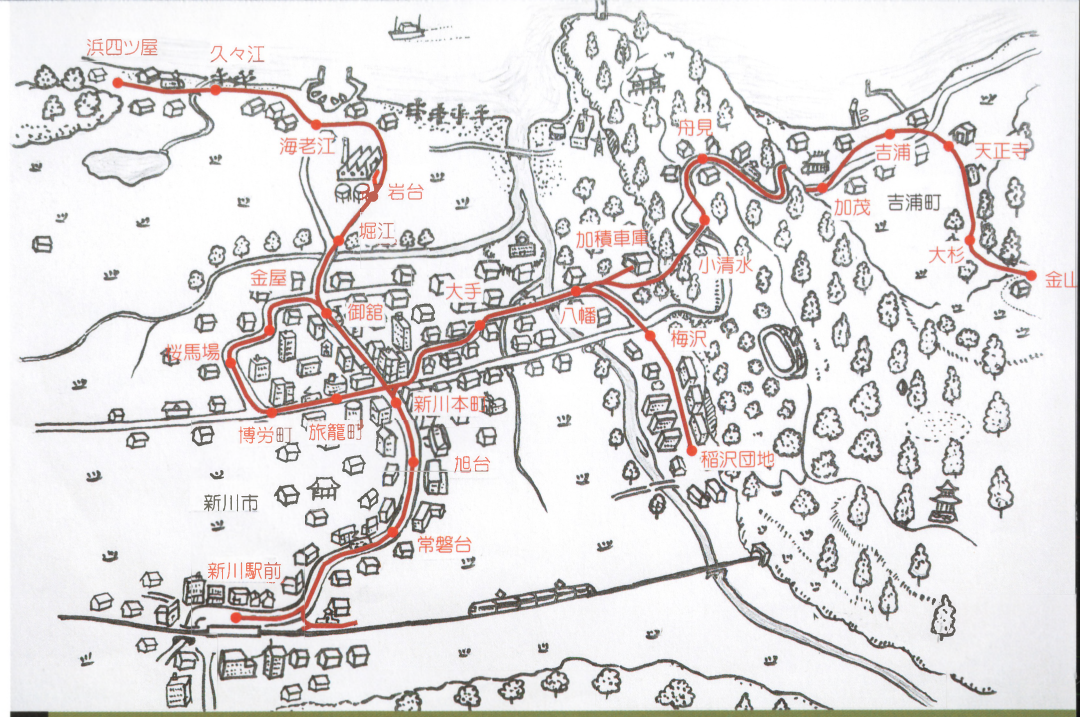
[新川駅前]

■夜行列車から早朝のJR新川駅に降り立ちました。まだ明けきらぬ駅前広場にある、昭和初期の古色を帯びた建物が、新川電鐵の駅舎です。

ホームに立つと、市内環状線を廻り「稲沢団地」へ向かう低床車「αライン」と、本線「吉浦」へ向かう高床車の急行列車が待っています。JRからの乗り換えで中心街へ向かう人々の流れが次第に賑やかになってきました。αラインの電車に乗り込み、朝日が差し始めた早朝の商店街を通ります。

レイルファンがある秋の一日に、初めてのローカル鉄道を訪ねる時の胸のときめき感、あのワクワクするような楽しさを狙いとして、この「絵本　新川電氣鐵道を訪ねて」を構成しました（既刊『ジオコレ完全マニュアル』も参照）。今回新作およびその改修によって、私の予定していた地方私鉄の姿がほぼ出現しました。

各地域には、その経過した歴史、気候、地勢、産業などにより固有の気質、風土があり、地域に密着した鉄道にも、その影響は自然と生じてきます。また会社創業時の濃密な理念、創業者の強烈な個性と目的意識も社風に影響があり、これらが相まって醸し出す、靄とした色あるいは空気を作品で感じていただければ幸いです。



新川電鐵路線図

◀新川市の中枢である新川本町。交差点を十字に線路が行き交う光景は、そのまま町の活況を感じさせてくれる。

[新川本町]

■陽が昇り爽やかな晴天になった頃、新川市の中心地「新川本町」に到着しました。旭台から本町にかけて続く官庁、ビジネス街には、周辺町村からの電車、バス路線が多く集中します。

新川本町交差点からの風景をしばし眺めていると、活気に溢れる街が多くの人々で賑わっています。中央の電車は渡り線を右折して吉浦へ向かい、奥の海老江線列車は新川駅前方面へと発車したところです。線路容量はギリギリといったところで、複線化も必要なのかも知れません。

[八幡]

■稲沢団地行きの電車は新川旧市街に入りました。歴史に詳しいY君によれば、新川市は戦国時代に椎名氏の城塞が置かれ、以来城下町として発展したとのこと。地名は「大手」でも街路は狭く急カーブがあるため慎重に走行します。

路線は途中の「八幡」から、道路上を直進するαラインと専用軌道の本線に分岐します。αラインはそのまま道路上を進み、郊外の稲沢団地へと向かっていきます。

▶本線と軌道線が分岐する、八幡付近の情景。車窓の光景ががらりと変わるこの区間は、ファンにとっては見逃せないポイントである。

［稲沢団地］

■電車は道路を外れて進み、団地内に入ったところがαラインの終点「稲沢団地」です。駅に隣接してフィーダーバスが接続し、利便性を誇っています。この団地は昭和30年代の高度経済成長開始時に造成されたもので、路線はその時に延長されたものです。公園の前には今朝の朝市が終わって一休みする荷車のおじさんおばさんが並んでいます。

稲沢団地も少子高齢化の影響で、若者が減少する課題を抱えているようですが、市の推進するコンパクトシテイ構想によって、乗客数も多く賑やかです。さて再び電車に乗って、八幡へと戻りましょう。

◀団地群の玄関口に設けられた、稲沢団地停留所。車なしで気軽にお出かけができるLRT路線は、住民にとって欠かせない足である。

［加積車庫］

■「八幡」で本線に乗り換えてしばらく、「加積車庫」に到着しました。入口付近には保線区があり、保線用ディーゼル機やトロッコが常駐しています。車庫はピット2線の小さな工場で、隣接して乗務員区、管理区がある建物はかなりの年代物です。

工場脇には「加積車庫」駅があり、ここにも入線してくる新型低床電車に備えた駅ホームの改築が行なわれたことで、以前よりも雰囲気が明るくなったと評判になっています。

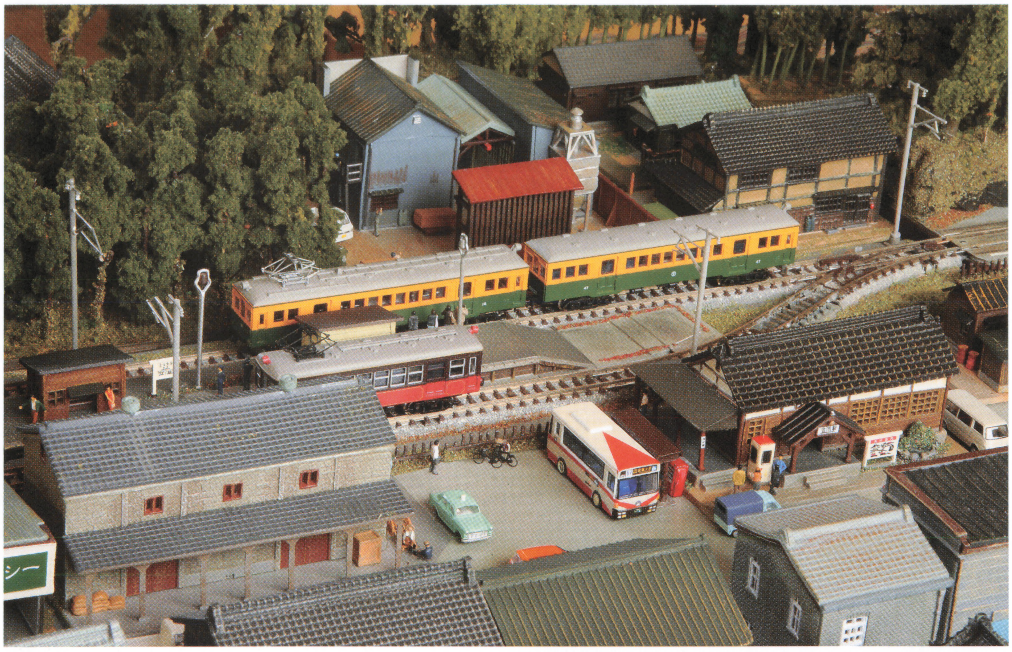
▶山の中に佇む加積車庫。小規模な施設ながら、吊掛車からLRVまで多様に整備する能力を持っている、同社の心臓部である。

［舟見］

■加積車庫を過ぎると、再び電車は旧北国街道の上を通り、舟見丘陵を越える急勾配に挑みます。曲がりくねった急坂の旧街道は拡幅改良されていますが、両側に続く家並みが旧道の面影を残しています。

そして電車は舟見丘陵の峠である「舟見」に到着しました。ここの名物は健康増進の薬膳料理と薬酒です。リーズナブルなものから高級料亭まで各店舗毎に得意メニューがあり、新川市の観光客はたいがい立ち寄るそうです。近くの古刹寺院境内から眺める日本海の夕焼けが美しいとのこと。

◀旧い街並みの中の街道に設けられた、舟見駅のホーム。排障器を付けた高床車輌が道の真中を走る光景は、この街の長年の風景の中に溶け込んでいる。



［吉浦］

■丘を越えた電車は、いよいよ本線の終点である「吉浦」に到着しました。金山谷行き単行やフイーダーバスが待っています。Y君の話によれば、この町の奥山にはかつて金山があり、金堀人足や商人らの集落があったとのことです。

吉浦町はホタルイカ漁を主力とする漁業者や家庭配置薬の薬売り屋さんが多く住んでいる静かな町ですが、大正中期には米価高騰に反対する米騒動の起点になり、さらにその9年後には電気料金値上げに反対する電氣争議を引き起こしたという熱い過去を秘めているそうです。

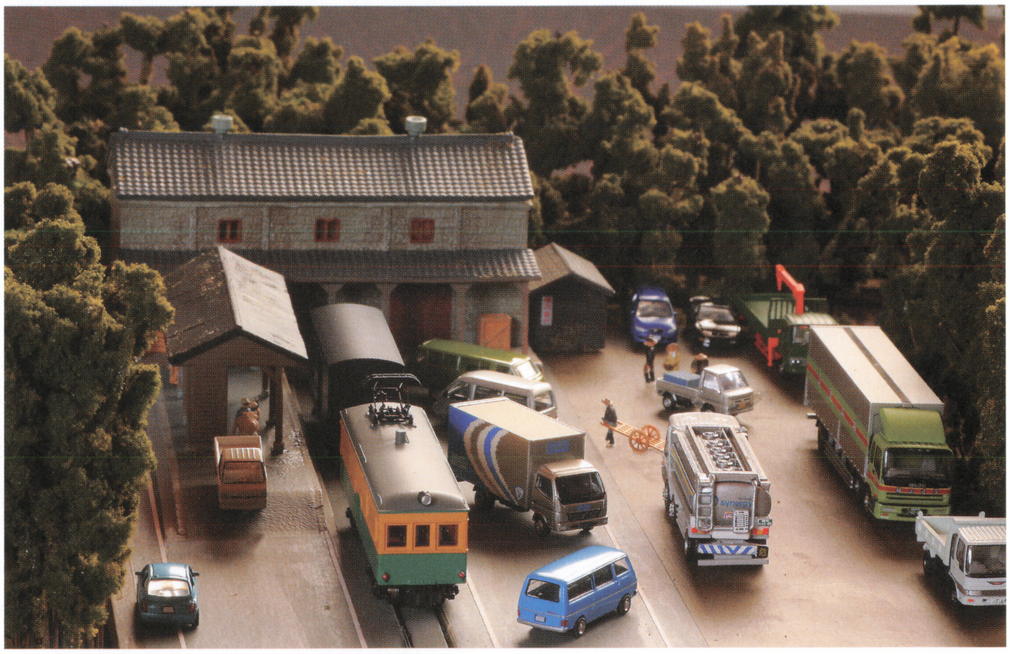
◀かつて賑わった街の中心的存在である吉浦駅。小規模ながら歴史を感じさせる建築物が多く残り、建築ファンにも注目の街だ。

［金山谷］

■吉浦からさらに奥へ向かう金山谷線に乗り換え、終点へ向かいます。吉浦から先は昭和初期にモリブデンを含有する輝水鉛鉱山開発と輸送のため県営鉄道が敷設した区間を譲渡された区間です。

深い森の中を進むとやがて、終着駅「金山谷」に到着しました。停車ホームの奥に貨車と荷物電車が留置されています。駅構内はかつての貨物輸送のために広く、今は採掘はされていませんが、山里の倉庫は米、里芋、ジャガイモ、大豆など秋の農作物収受のため、しばしの賑わいを見せています。

▶山間の終着駅・金山谷の貨物ホーム。ごく小規模ながら残る貨物輸送が、この路線を盛り立ててくれている。



［加茂］

■穏やかな一日が暮れようとしています。大変に疲れましたが、それ以上に新川電鐵の多くの表情を見ることができ、大変に満足しました。今宵は満月。帰り道に寄った加茂地区では折しも秋祭りが行なわれており、たくさんの御輿が並んで賑わっています。月見のおわら踊りも舞手が揃い、哀愁ある胡弓の調べが車内に流れてきました。

◀夕暮れの街では、地元に代々伝わる伝統のお祭りが行なわれている。街と共に歩んだ歴史のある神輿や山車が、人々の郷愁を誘う。

02
(有)千樹製材所 専用軌道線

河本勝成

ジオラマコレクションの「町工場A 木工製材所」を手に取った時、真っ先に思いついたのが、「深い森の中の製材所に、森の奥から軌道が入ってくる…」というイメージでした。このストラクチャーを主役にし、さらに宮崎アニメのような「幻想」を感じさせるよう、大きな大木を真ん中に、その周囲で共存する人間と自然を表現してみたいと思い、今回の作品は生まれました。

土台は本物の製材所でいただいた半径23cmの丸太で、メインとなる大木は枯れ枝にKATOのフォーリッジ（明緑色）を使用しました。線路はバンダイBトレ用線路を一周させ、土の表現には木粉ねんどを用い、その他のアクセサリー類もジオコレ製品などでまとめています。製材所はホーロー看板などでイメージアップし、切り出した材木はマッチ棒などを使用。実在しそうなイメージと工場の活気を表現し、どの方角からでも見せ場を楽しめるように工夫をしました。

車輌はアオシマ製木曽C4形にTOMIXの貨車を牽かせていますが、鉄コレ車輌も15m級以内ならば走行可能です。ジオコレ製品には、発想と工夫で様々なレイアウトを再現できる可能性が溢れています。次回はヨーロッパイメージのレイアウトなどにも挑戦したいです。

▲天を突くような大木の根元にある製材所。日本的な光景ながらもファンタジックな気分にもさせてくれる。

▲製材所正面。土ぼこりの多い雰囲気の中に、運材機関車がよく似合う。

▲製材所裏手には草むした光景が広がる。少しサビた感じのホーロー看板も良いアクセント。

▲休む暇を惜しんで働く人々。男たちの息遣いを感じられる光景。

▲全体をすっぽり覆うケースも製作して、ホコリ対策も万全。

03

ミニ・レイアウト4点

西川マサカズ

これらのミニ・レイアウト4点は、いずれも2、3年ほど前に製作したものです。保管場所の関係であまり大きなものは作れないので、A4サイズほどの面積にできるだけ多くの建物を詰め込んで、いろいろな角度から見て楽しめるものにすることを目指しています。

[終着駅の情景]

■鉄道模型のレイアウトを作るのはこれが初めての経験でした。そこで「とにかく完成させること」を目標として、できるだけ手間とお金をかけずに進めることを心がけました。建物は街コレ製品を軽いウェザリングなどの他はそのまま用い、各建物の配置は、宮下洋一さんの「岩倉町駅」セクションを参考に（というより、そのまま真似）させていただきました。

▶200mm×300mmのサイズに収まった終着駅と駅前の情景。建物が隙間なく並ぶ間にある狭い道には、住民たちが会話をする光景をあちらこちらに見ることができる。

▲いつものように道の真ん中で小突きあう、鈴木オートのおやじと茶川商店の主人。その隙に子供たちが駄菓子屋の商品に手を伸ばしている光景。

[夕日町、夏]

■これと次の「秋」は、映画『続・三丁目の夕日』のNサイズ食玩フィギュアが発売されたのを機に製作したものです。ふたつのレイアウトを合わせると、路面電車のエンドレス軌道が完成する仕組みです。

「夏」は路地の両側に家々が軒を連ねる下町をイメージして構成しています。ストラクチャーは街コレと共に「三丁目」フィギュアの鈴木オートと茶川商店を使い、「三丁目」の世界をそれとなく再現してみました。

▲客引きのお兄さん、電車を待つおばあさんと孫、客と店内に消えていくホステス、常連を出迎えるマダムなどなど。表通りでは様々なドラマが展開されていく。

[夕日町、秋]

■一方の「秋」は、商業ビルの立ち並ぶ表通りの繁華街をイメージしてみました。小さめのビル群の中を、単線の路面軌道が通り抜ける構成で、街コレのビル群と共に、「三丁目」付属のフィギュアを配置して、雰囲気を盛り上げています。

[夕日町の夏～秋]

■ふたつのレイアウトを組み合わせ、「夕日町」の全景を構成してみました。左側が「夏」、右側が「秋」となり、合計すると500×370mmの大きさとなります。

最近の「ジオコレ」のストラクチャー群の充実には驚かされるばかりですが、やはり大型の建物や特殊な建造物が中心になっている気がします。どこか懐かしいありふれた「昭和の町並み」を再現するには、もう少し小型でごく普通な家や商店のバリエーションをさらに増やしていただければとも思っています。

［旧街道の午後］

■こちらでは街コレの「甲州街道編」を使って、旧街道の家並みと駅を再現してみました。ただし前作と同じく、実際の風景というよりは見た目で楽しい情景を目指して製作しています。

旧街道の家並みでの建物は直線的に並べるより、道を少しカーブさせて曲線的に配置した方が立体的な視覚効果が得られるように思います。ただしこのレイアウトでは各建物の配置に凝りすぎて、少々道が狭くなってしまいました。

◀旧街道を左に見ながら、小さなホームを望む。電柱には電線が張られるなど、旧い町並みながらも現代風の生活の息吹を感じさせられる。

04 かえりみち（帰路）

大谷博孝

仕事を終え、家路に就くサラリーマン。しかしその帰路には誘惑も多い。ついつい脱線して一杯飲んで…。そんなサラリーマンたちの「かえりみち」を主題に、直径わずか80mmのビールジョッキの中に小さなジオラマの世界を描いてみました。

都心から少し離れた地下鉄「夢路町」駅。多くの乗客が下車して改札へ向かい、地上へと足早に歩いて行きます。一方地上の交差点横には、マンション建設予定の空き地が存在し、その空き地を利用して屋台のおでん屋さんが店を開けています。時間は早いものの、すでに数人の客が屋台を囲み、店主と談笑しつつ一杯始めている…。そんなサラリーマンの、小さな小さなドラマです。

製作にあたっては、まずビールジョッキの内径を計り、上から下へのテーパーを見ながら上部で直径約80mm、下部約70mmというデータを測定。地下鉄の路盤下となる底部、天井部分になる中部、地上の路面になる上部の3箇所をバルサ材から切り出しました。

地下鉄駅はTOMIX製のスラブ軌道線路とミニホームセットの一部を使用、地上部にはジオコレの屋台セットを各種用い、フィギュアと共に配置して夜の屋台の賑わいを演出してみました。

▲ビールジョッキにジオラマがあったっていいじゃないか！どこにもあるような地下鉄駅とその地上風景を、大胆に縦に切り取ってビールジョッキの中に再現。

▲出入口脇に展開されたおでん屋台には、帰宅の足をちょっと止めたサラリーマンたちが憩い、とりとめのない話に花を咲かせる…。どこか懐かしくもある、日本の夜の風景の原点が此処にある。

▲柱が立ち並び、少し狭いホームが雰囲気な地下駅。多くの人たちが改札に向かう姿には、昔も今も変わらない活気が感じられる。

05

昭和40年代のローカル私鉄終着駅

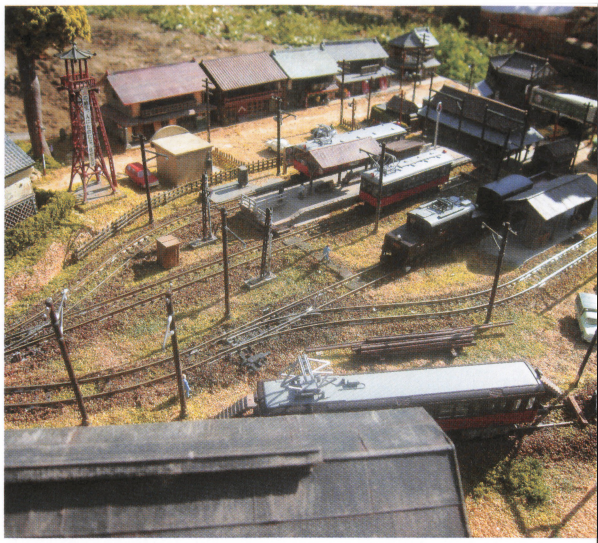
TAKAYA

私は銚子電鉄が大好きで、今まで集めた鉄コレの銚電車輌が似合う場として、この終着駅を製作しました。ただし実際の銚子電鉄とは全く関係ない、架空の宿場町にある私鉄駅としてまとめてみました。作品コンセプトは「昭和40年代の初夏」のイメージで、900×450mmのサイズにまとめてみました。

私は平面のジオラマというものがあまり好みではないので、作品を作る際には必ず高低差を付けるようにしています。宿場町を貫く街道部分を坂道とすることで、見た目にちょっとした変化を出せたかなと思います。またウェザリングにも力を入れ、古いひなびた宿場町の雰囲気を求めています。

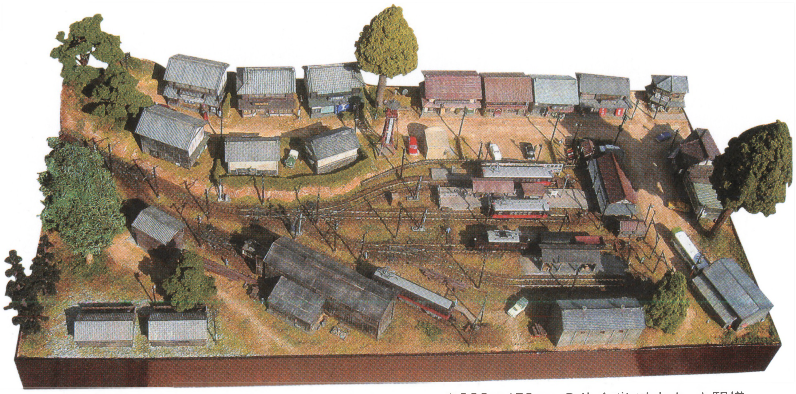
ストラクチャーや樹木などは、ジオコレをはじめ各社の製品を混用していますが、一部の樹木や石垣、看板などは自分の好みに合うよう自作したパーツを用いています。

約1年半前に作った作品ですが、その時の持てる技術をすべてつぎ込み、かなり細かいところまで作り込んだ、私の最も代表的な作品です。



▲小型車輌の集まる構内。1面2線のホームに、土地を上手に利用した引込線が並んで雰囲気を盛り上げてくれる。

◀街には古風な商店や蔵が並び、かつての栄華を思わせてくれる。線路よりも少し高台にあることで、視点に立体感が生まれる。



▲900×450mmのサイズにまとまった駅構内。運転スペースを取らずにまとめたことで、小規模ながらゆったりした構内を演出できる。

▲木造家屋の商店にはポスターや看板が貼られ、地道ながらも街の一部として活動する生気を感じさせてくれる。

▲駅前の本通りは広く取られ、建物も音もゆったりと配置されている。いつかどこかで訪れたような、懐かしい光景。

▲駅の裏手にはタクシー営業所やバス停が並び、さらにこの奥への道筋を案内してくれる。

PROTO TYPE GUIDE

プロトタイプガイド

PHOTO：写真キャプション参照
TEXT：川瀬修一

「ザ・バスコレクション」のモデルとなった車輌たちが大集合！！ バスはメーカーや車種、カラーリングの違いだけでなく、ドアや窓の形状、方向幕の位置や屋上の機器の配列も様々です。全国各地のザ・バスコレクションのモデルになった車輌や同タイプのバスを集めてみました。

【第 14 弾】 東京空港交通

都心部と羽田空港や成田空港をダイレクトに結ぶ東京空港交通の車輌。同社の事業は空港アクセスに特化していることから、車体下部に大型のトランクスペースが設けられ、冷房装置を屋上に設置しているのが特徴だ。モデルは2003年導入の車輌。
2009.10　P：ATB MODELS

【第 14 弾】 名古屋鉄道

名古屋を中心に路線網を広げる名鉄バスに導入されたエアロバス。模型化された車輌は2005年に導入された2537号車がモデルで、プラグドアと固定側窓が特徴の都市間高速車。
2006.8　P：ATB MODELS

【第 14 弾】 北海道中央バス

1980年代から幾多の改良を続けながら量産された三菱エアロバスのうち、北海道中央バスとして模型化されたのは1992～1994年頃に導入された車輌。貸切バスのほか都市間高速バスでも多く採用され、道内各地へ路線を延ばす同社の路線網の大半で見ることができた。
2008.10　P：ATB MODELS

【第 15 弾】 関東バス

東京都西部、JR中央線のエリアを拠点に路線網を広げる関東バスの三菱ワンステップバスで、2009年に導入された車輌。これまでの関東バスの特徴であったツーステップの3扉車は激減し、同車のような前中扉の低床車輌が主流になってきている。
2009.10　P：猪股知十

【第 15 弾】 広島バス

広島市を中心に路線網を伸ばす事業者で、ニッサンディーゼル車と三菱車が多く在籍する。モデルの車輌は一般的な前中扉のワンステップバスであるが、側面方向幕が中ドアの後ろの部分に設置されており、中ドア下部にも窓が設置されているのが特徴的だ。
2010.3　P：猪股知十

【第 15 弾】 東急バス

東京都および神奈川県に路線網を伸ばす東急バスの三菱ワンステップバスで2007年式の車輌。模型化されたNJ8794号車は中扉の4枚折り戸が特徴で、このスタイルの車輌は唯一の存在。川崎市内の虹が丘営業所の所属で、東急田園都市線の沿線で活躍している。 2010.3 P:ATB MODELS

【第 15 弾】

岩手県交通

岩手県下に路線網を広げる岩手県交通で使用された北村製作所製の車体をもつ1982年製のいすゞ車で、神奈川中央交通からの移籍車輌。前面窓の右下と側面のドア付近にある小窓が特徴で、運賃支払い方式や出入口等の表示内容が容易に変更できる仕組みになっていた。

2005.4 P:川瀬修一

【第 16 弾】 南越後観光バス

新潟県の魚沼地域を中心に路線を伸ばす南越後観光バスの車輌で、越後交通の分社。模型化された車輌は富士重工の通称7Eボディを持つ日野車で、多摩バスからの移籍車でもある。前中扉の車輌であるが、側面方向幕が中ドアの直後に設置されているのが特徴。

2010.2 P:ATB MODELS

【第 15 弾】 新常磐交通

福島県の太平洋側に路線を伸ばす常磐交通の車輌。北村製作所製のボディをもつ前後ドアのいすゞ車で、前面に大型方向幕を装備しているのが特徴的。1983年製の車輌。同社は2006年から経営改善のため新体制となり「新常磐交通」になっている。

2005.3 P:猪股知十

【第 16 弾】

小湊鉄道

千葉県の小湊鉄道は富士重工製ボディの車輌を多く取り入れている事業者として有名。模型化されたのも富士重工製ボディを持つ日野車で、前中扉を採用し、側面方向幕は中扉の直後に設置されている。日野車以外にも富士重工ボディの車輌が多く在籍した。
2008.11　P:川瀬修一

【第 16 弾】　遠州鉄道

遠州鉄道は新浜松を起点に鉄道事業を展開し、バス部門は静岡県の西部地域に路線網を広げている。製品化されたバスは富士重工ボディを持つ日野車で、中扉に4枚折り戸、側窓は黒色の引き違い窓を採用しているのが特徴的だ。
2007.9　P:ATB MODELS

【第 16 弾】　京浜急行

東京都及び神奈川県を走る京浜急行バスの車輌で、1990年代初頭のニッサンディーゼル車。二段サッシのツーステップ車で、2003年以前のバス事業分離前の姿が再現されている。写真は分社後で、カラーリングに変更はないが社名標記が製品との相違点である。
2004.8　P:川瀬修一

【第 16 弾】

京都バス

京都バスは京都市内に路線網を展開し、関西で富士重工ボディを多く採用している事業者。模型化されたのは日野車で、前後ドアを採用し、逆T字型の側窓が印象的だ。側面最後部の窓下のエンジン通風口の右上が斜めに切られているのが日野車らしい特徴。
2008.12　P:川瀬修一

【第 16 弾】

西日本 JR バス

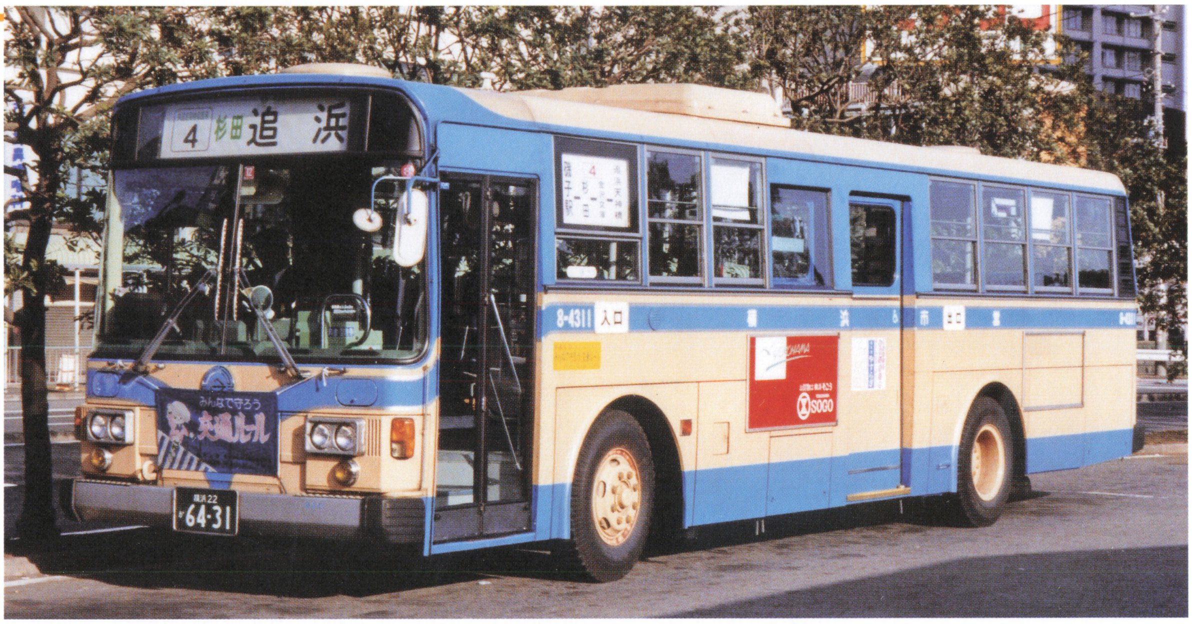
製品化されたバスは西日本ジェイアールバス金沢営業所の538-5412号車で、前後ドアのニッサンディーゼル車。後ろのドアも折り戸の仕様で、黒色の二段サッシが特徴的な車輌になっている。

2010.1　P:猪股知十

富士重工業 5E

5 台セット A

横浜市交通局



横浜市交通局の1988年式ニッサンディーゼル車が再現され、前中扉、二段サッシの標準尺車。写真はモデルと同タイプの磯子営業所の車輌。方向幕にある４系統は横須賀市内へ乗り入れる共同運行路線で、現在は京浜急行バスに完全に路線移譲されている。

1991.12　P:市岡秀基

松本電鉄

オリジナルバスセット

アルピコグループの松本電鉄は松本から上高地方面の鉄道線と松本市内からのバス路線を展開する。模型化された10331号車は前後ドアのいすゞ車で、山陽電気鉄道からの移籍車輌でもある。キュービックバス独特の前面ガラスや側面の逆Ｔ字窓が特徴的な車輌だ。

2010.6　P:川瀬修一

富士重工業 5E　5台セットA
京都バス

京都バスに在籍した富士重工製ボディの日野車で、1987年製の101号車がモデル。前後ドアの2段サッシが特徴で、側面方向幕の位置が興味深い。座席定員が多いことから、晩年は比叡山方面への観光路線や短距離の貸切等で活躍し、2009年に除籍された。　2008.12　P:川瀬修一

富士重工業 5E　5台セットA　広島バス

広島バスのニッサンディーゼル車の101号車がモデル。中扉は四枚折戸を採用し、屋上には角型の通風装置が4基搭載されている。側窓の最後部の空気取り入れ口の形状が一般路線バスタイプと異なり、観光バス等で見られたタイプを装着しているのが特徴的だ。　2007.8　P:猪股知十

富士重工業 5E　5台セットA
琉球バス交通

琉球バスに1987年に導入された富士重工ボディの日野車。前ドアのみ、逆T字窓、二人掛けシートの豪華仕様で沖縄本島の長距離路線を中心に現在も使用されている。写真は新体制の琉球バス交通に移行する前の姿で、前面の社章や側面の社名標記が製品と異なる。　2006.1　P:川瀬修一

西日本車体工業 96MC　5台セットA　東京都交通局

東京都交通局江東営業所のL-P455がモデルで、2006年製の車輌。実車の標準仕様化が進められているが、屋上の角型ファンは東京都交通局の車輌の大きな特徴でもある。側面方向幕はこれまでの前扉直後から、戸袋の前に設置されている。　2009.8　P:猪股知十

西日本車体工業 96MC　5台セットA　川崎市交通局

川崎市交通局上平間営業所のH-4469号車がモデルで、2006年製の車輌。川崎市営バスや川崎鶴見臨港バスで見られるカマボコ型の通風器が屋上に3基設置され、側面方向幕は前扉直後、前面窓(向かって)右側が下方に拡大されているスタイルが特徴的だ。　2010.10　P:猪股知十

富士重工業 5E
京都バス 55 号車

京都バスに1984年に導入されたニッサンディーゼル車で、晩年は短距離の貸切で活躍した555号車がモデル。2009年春に引退したが、トミーテックに譲渡され、登場時の55号車に復元された。前後ドア車であるが、晩年は後ろドアを締め切っていた。
2009.8 P:川瀬修一

呉市営オリジナルバスセット

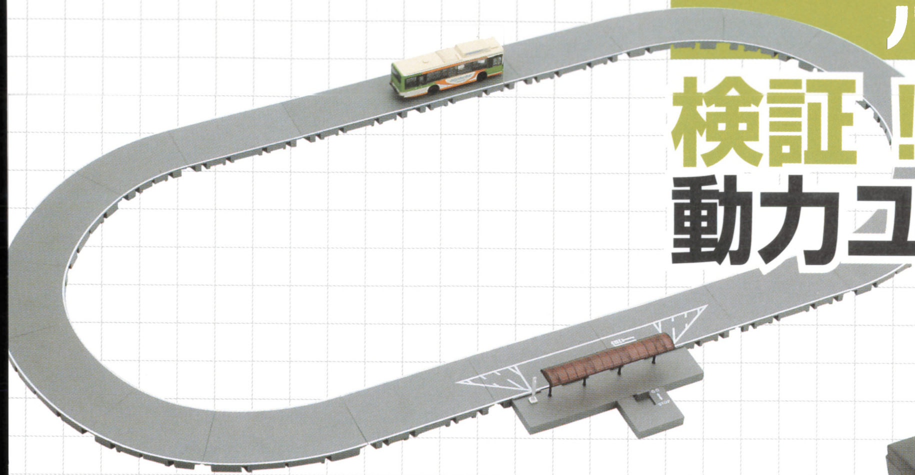
呉市交通局は呉市を中心に路線を延ばす地方公営企業で、2012年4月から民間移譲が予定されている。今回のオリジナル製品はいすゞCNG車の阿賀南営業所の1081号車をプロトタイプとしている。実車は2008年の導入車。
2009.9 P:ATB MODELS

京浜急行バスオリジナルセット 2

京急リムジンバスの主力である三菱エアロバス。プロトタイプは2001年製、横浜営業所のY6107で、折戸の車輌。写真は同車の羽田営業所所属時代の姿。京急リムジンバスは貸切色をベースにアレンジされた専用塗色で、羽田空港、成田空港から各地へ路線を展開中。
2008.1 P:川瀬修一

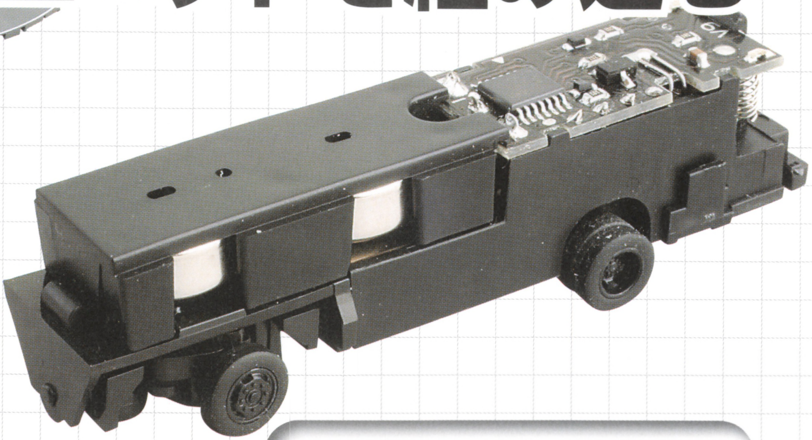
京浜急行バスオリジナルセット 2

京浜急行バスに2003年に導入された西日本車体のニッサンディーゼル車。富士重工製ボディの生産終了を受け西日本車体の車輌が導入された。前中扉の標準的なノンステップバスであるが、前面窓は視野拡大仕様を採用し、屋上は冷房装置のみ設置されている。
2010.7 P:川瀬修一



バスコレ走行システム

検証！既存バスコレに動力ユニットを組み込む



バスコレ走行システム基本セットAに封入される動力ユニットは軸距（ホイールベース）が32mm。付属のブルーリボンシティの他、第7弾エルガや第9弾新7Eなど、過去に発売された製品にも同じ軸距のモデルは多数あります。

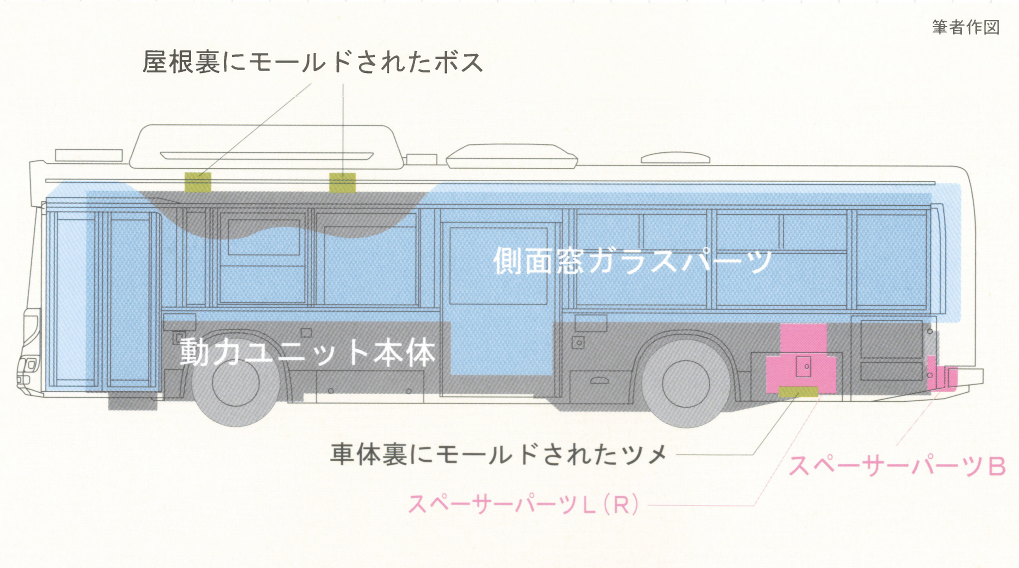
そこで、これら過去の製品に組み込む場合にどのような加工が必要になるのか、まずは動力ユニット本体に加工を施さずに済むもの＝軸距が同じものを実際に組み込んで検証してみました。　P：青柳　明（タイトルカット2点）

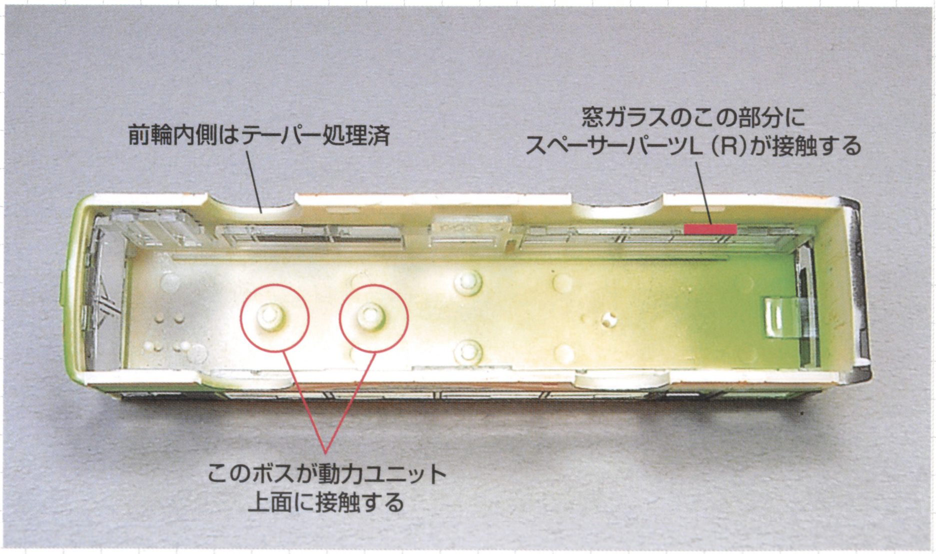
modeling, text & photo：田部哲弘

動力ユニットがどのように組み込まれているのか

付属のブルーリボンシティのような、室内高さに余裕のあるものは、動力ユニット側面に取り付けられたスペーサーパーツL/Rと側面窓ガラスが接触することと、屋根裏にモールドされたボスが動力ユニット上部に接触することにより高さ方向（車高）が決定され、スペーサーパーツBによって前後方向の位置を（後ろ寄せで）決定しているようです。室内高さに余裕の無いものは、動力ユニット上面及び肩部が屋根にモールドされた窓押さえや屋根上機器取り付け用のボスに接触して位置決めされます。一部のモノコック車では、窓ガラスパーツがスペーサーの役割を果たすものもあります。

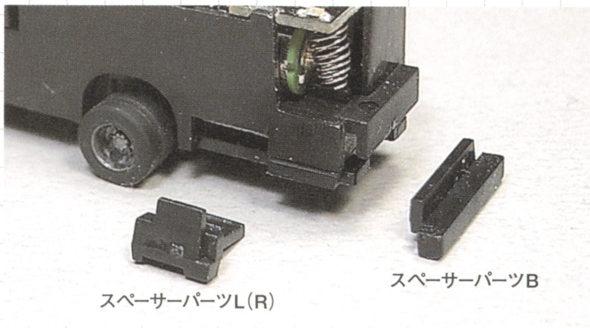
既存の製品に組み込む場合は、各車体に対して適したスペーサーパーツや補助的に挟み込むプラ片（車高調整用ボスの代用）が必要であるのと、干渉する部位を確認しながら車体に小加工を施す事になります。

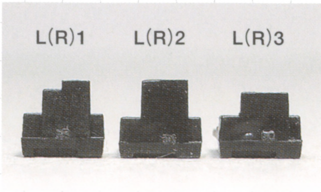


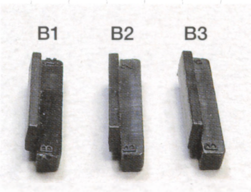


▲付属のブルーリボンシティ車体裏面

室内高さに余裕のある車体は、屋根のボスが動力ユニット上面に、側面窓ガラスパーツが動力ユニット（スペーサーパーツL/R）に接触することで車高が決まる。既存の製品には屋根裏に位置決め用のボスがないため、それぞれに適した厚みのプラ片を取り付けて代用する。動力ユニットには電池ケース上に幾つか穴が開いており、将来的にはここに何かパーツを取り付けることを想定しているのかもしれない。



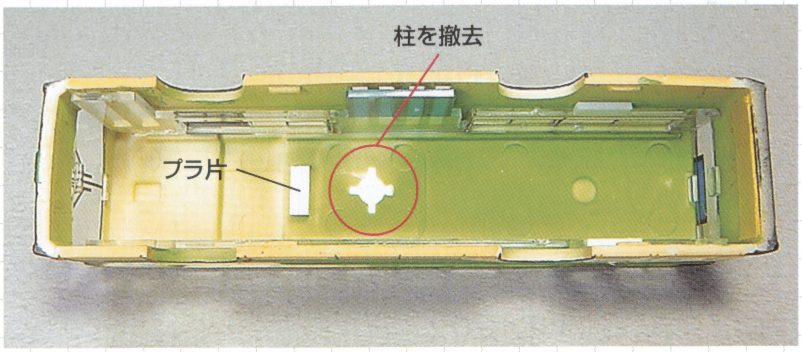




▲動力ユニットに付属するスペーサーパーツ

L1/R1とL3/R3は機能的にはどちらを使っても同じ。このパーツが窓パーツに接触することにより後半分の車高が決まる。今回の製品はノンステップ車用を意識しているのか、ツーステップ車に組み込む場合、いずれのパーツも長さが不足する。B1～B3については普通紙1枚程度の差しかない。ここでは便宜的に全てB2を使用するが、個体差がある場合は必要に応じて適宜交換する。

第2弾他　日野HT/HU製品(短尺仕様)

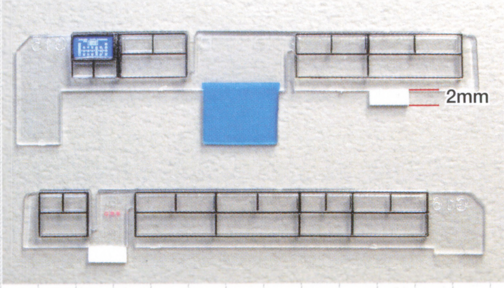


まずは車体中央の柱を切り取ります。切り取った柱の直前辺りにt2.0のプラ片を取り付けます(加工例では2.0×2.0mmプラ棒を使用)。また、柱を屋根から2mm残して切断しても良いでしょう。

次に、側面窓ガラスパーツの画像の位置にt0.75のプラ片を2.0×5.0mm程度の大きさにしたものを接着します。

また、加工例のように窓ガラスにプラ片を接着する方法のほか、スペーサーパーツL/R側にプラ片を足しても可能です。この他にもスペーサーパーツそのものを自作したり、ボディ裏や動力ユニット本体に引っ掛かるものを貼り付けてもできるので、それぞれ都合の良い方法で加工すると良いでしょう。

以上の準備ができたら車体を組み立て、動力ユニットに付属のスペーサーパーツL4/R4・B2を取り付けて車体に組み込みます。



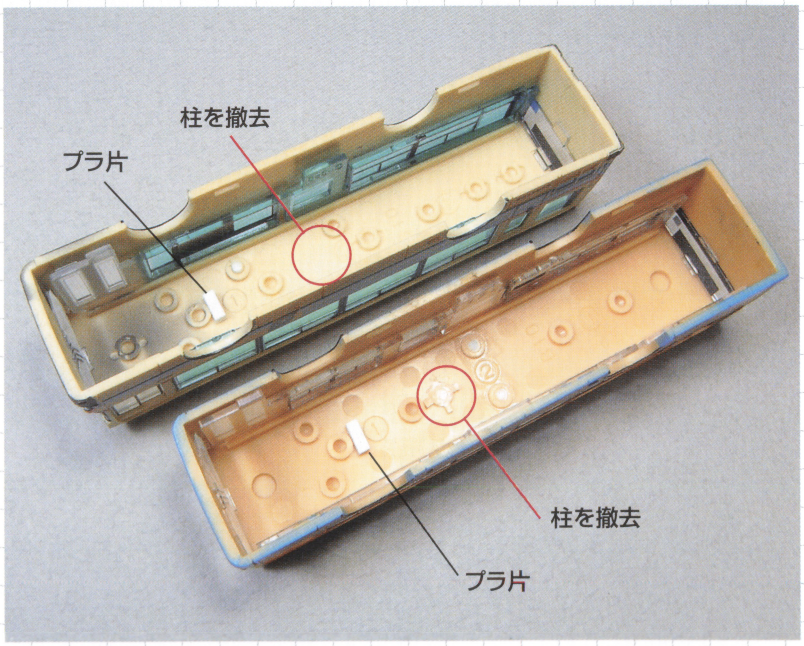
第5弾他 BU04

BU04は無加工で取り付けることができます。この車体は一体窓ガラスパーツに動力ユニットがはまることで、無加工で車高が決まります。

車体裏のツメとは微妙に噛み合わないため、スペーサーパーツL/Rは取り外してしまって構いません。ただし、その場合は車体から動力ユニットが外れやすくなるので、少量の両面テープ等で各所を軽く固定することで改善されます。

動力ユニットは後方のスペーサーＢも取り外し、前寄せで組み込むことで軸位置が揃います。

第5弾他 96MCノンステップ(前期型)・5台セット 96MCノンステップ(後期型)

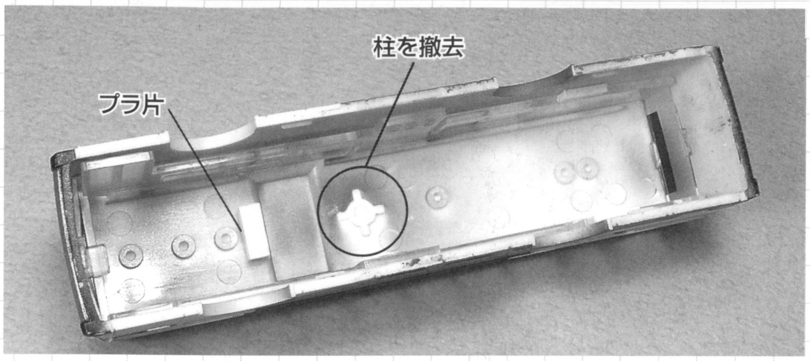


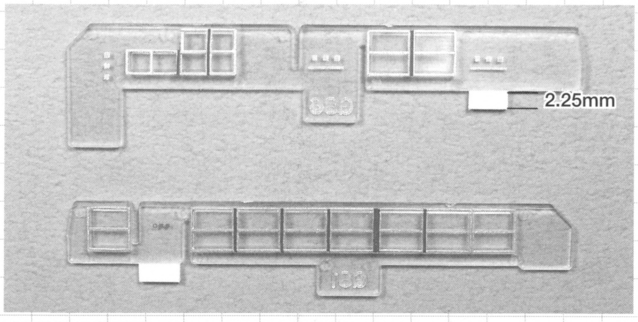
第5弾の製品は、車体中央にある柱を切り取ります(最近発売された5台セットの後期型は元々柱がないのでそのままでＯＫです)。

前方屋根裏に1.5mmのプラ片を取り付けます(加工例は1.5×1.5mmのプラ棒を使用)。前輪のタイヤハウス内側には、わずかにテーパー処理(次頁参照)を施しておくと万全です。

動力ユニットにはスペーサーパーツL3/R3・B2を取り付けて、車体へ組み込みます。

第6弾他 5E（短尺タイプ）



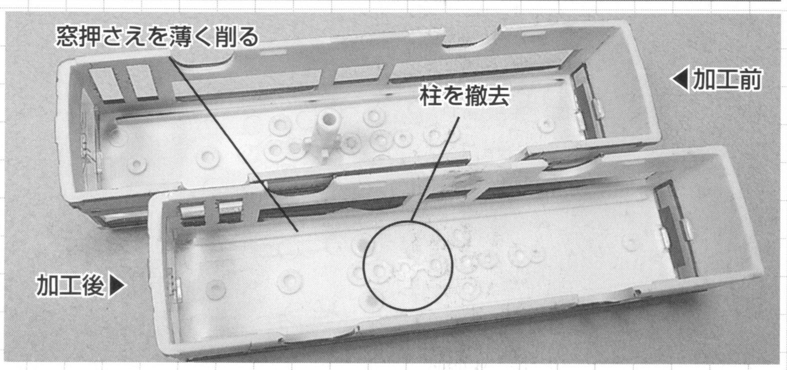


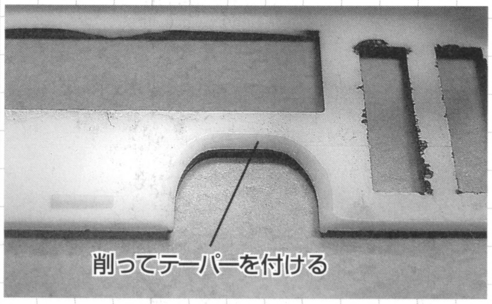
基本的な加工はHT/HU（短尺仕様）製品と同様です。車体中央の柱を切り取り、クーラーの凹みを避ける位置にt2.25のプラ片を取り付けます（加工例は2.0×2.0mmプラ棒に0.25mmのプラ素材を積層したものを使用）。

側面窓ガラスパーツには写真の示す位置にt0.75のプラ片を2.25×5.0mm程度の大きさにしたものを接着します。

動力ユニットには付属のスペーサーパーツL4/R4・B2を取り付けて車体に組み込みます。

第7弾他 エルガノンステップ





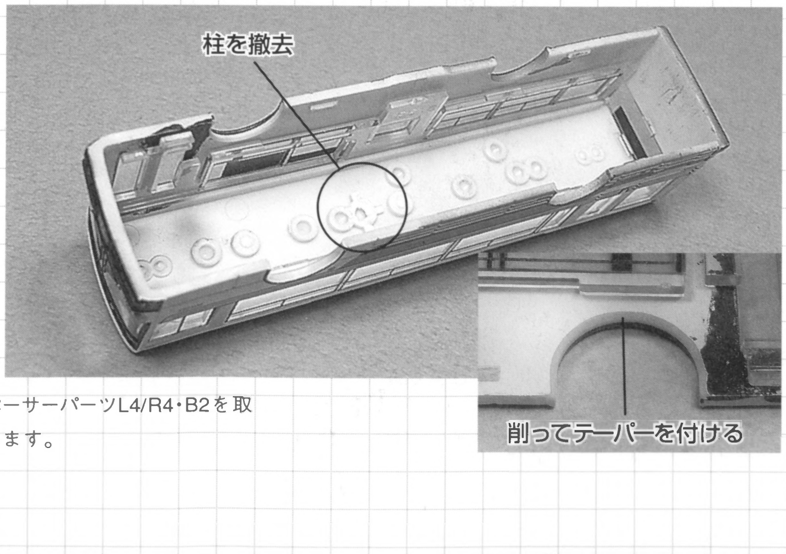
これまでと同様に車体中央の柱を屋根裏に多数あるボスより出っ張らないように丁寧に切り取ります。このまま組み込みたいところですが、残念ながら動力ユニットとボディ屋根裏にある窓押さえが干渉してそのままでは上手く収まりません。従って見栄え良く取り付けるにはこの窓押さえを薄く削る必要があります。

作例ではタガネや平彫刻刀を立ててスライドさせるように削る方法で加工してみました。これでも上手く収まらない場合は、屋根裏に多数あるボス（特にクーラーパーツの足）が動力ユニットに当たっていますので、これらを僅かに削ると解消します。

さらに、エルガはタイヤハウスが小さいため、前輪の動きに干渉しないようタイヤハウス内側にテーパー処理を施します。アートナイフやカッターの刃を立てて横にスライドさせる感じで削ってみました。

以上の準備が出来たらスペーサーパーツL4/R4・B2を取り付けて車体に組み込みます。

第9弾他 新7Eノンステップ type-G

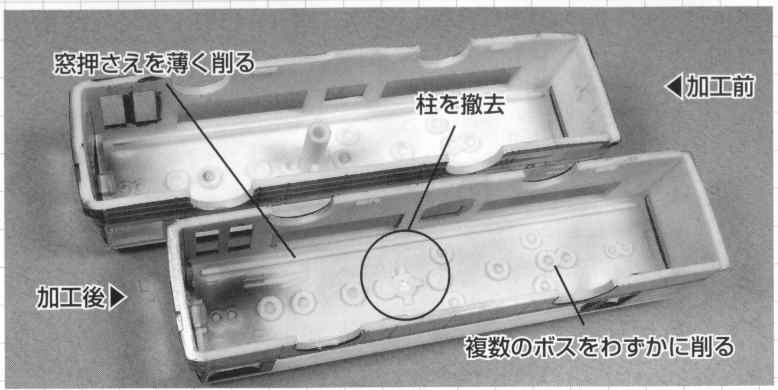


車体中央の柱を屋根裏に多数あるボスより出っ張らないように丁寧に切り取ります。

前輪内側にはエルガほど大きく削る必要はないものの、軽くテーパー加工を施しておけば万全です。

動力ユニットにはスペーサーパーツL4/R4・B2を取り付けて車体に組み込みます。

第9弾他 新7Eノンステップ type-F

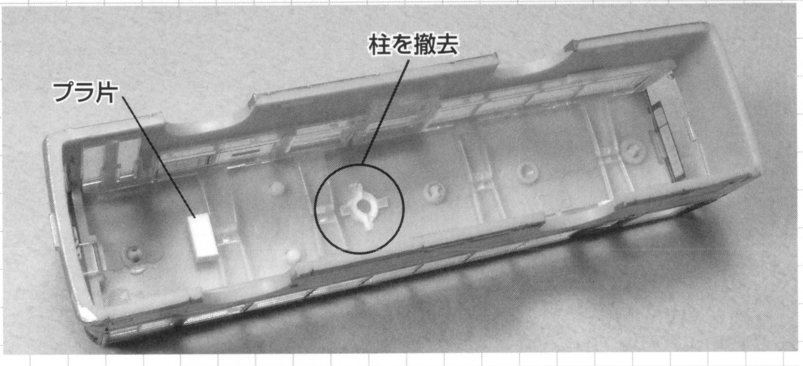


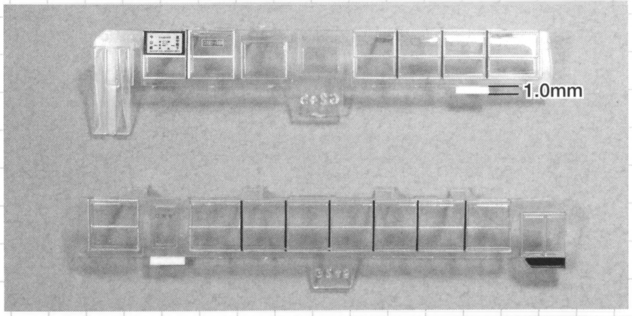
これまでと同様に車体中央の柱を切り取ることで、簡単に動力ユニットが組み込めますが、こちらは前頁の新7E type-Gよりも若干タイヤハウスが深いため、そのまま組み込むとタイヤハウスに隙間ができ、見栄えが良くありません。プロポーションが気になる場合は、こちらもエルガと同様、窓押さえを薄く削り、さらに屋根裏に複数あるボスを削って低くします。

こちらも前輪内側には軽くテーパー加工を施しておくと万全です。

動力ユニットにはスペーサーパーツL4/R4・B2を取り付けて車体に組み込みます。

第13弾他 エアロスターK/スケルトン





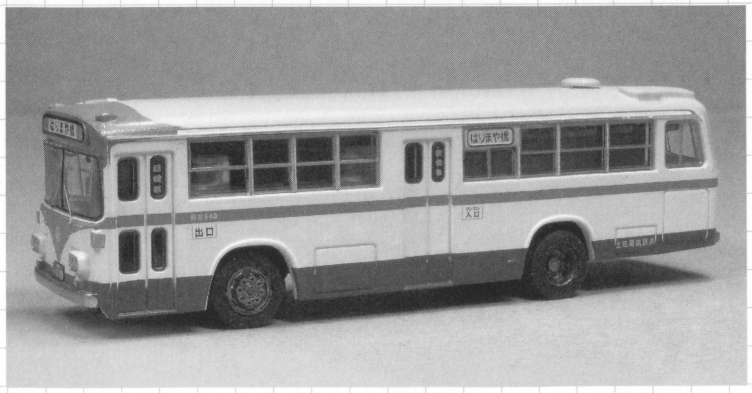
こちらも同様に車体中央の柱を切り取り、屋根裏前方にt2.0のプラ片を取り付けます(加工例は2.0×2.0mmプラ棒を使用)。

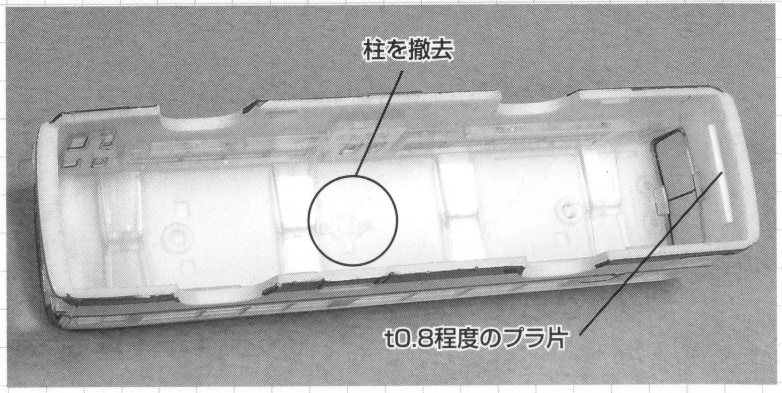
側面窓ガラスパーツには、写真の示す位置にt0.75のプラ片を1.0×5.0mm程度の大きさにしたものを接着します。

動力ユニットには付属のスペーサーパーツL3/R3・B2を取り付けて車体に組み込みます。

なお、前後扉で後部が折戸の場合は、スペーサーパーツLが窓パーツと干渉するので若干加工が必要になります。

第13弾他 MP107





こちらも車体中央の柱を切り取ります。車高はスペーサーを入れなくても、天井裏に延びる窓パーツの構造物に当たり、ここで位置が決まります。しかし前後方向を固定するものがないので、車体後方裏にt0.8mm程度のプラ片を取り付けます。動力ユニットはスペーサー Bを取り外し、後部に寄せるように組み込むと軸位置が揃います。

スペーサーパーツL(R)は、車体裏のツメと噛み合わず、構造上なくても問題なさそうなので取り外します。なお、各所少量の両面テープで固定しておくと、より扱い易いでしょう。

最後に

今回は検証できませんでしたが、第3弾のRE100も軸距は同じです。その場合、側面一体窓パーツを使う場合は車体前端のすぼまり(窓パーツも車体に合わせて前すぼまりになっている)に合わせて動力ユニット前端の一部を削る必要があります。

動力ユニットに手を加えたくない場合は、製品の窓ガラスパーツをGMキットの窓セルや、透明プラ板などに置き換えることで組み込めそうです。同様の加工をすれば、軸距がわずかに異なる第2弾の富士重工4Rにも組み込めるかもしれません。

その他の製品については軸距が異なり、現状では動力ユニット本体に加工が必要です。メーカーとしても今後軸距が違う動力ユニットや扁平率が違うタイヤなども検討中とのことなので、ここで無理に改造はせず、今後の製品展開を待つのが得策と言えます。

現状のフロントアクスルの構造ではフロントオーバーハングにある程度余裕のある車体にしか組み込めず、BD34やボンネットバス、トラックへの組み込みは困難です。将来的にはこれらの車輌にも対応する動力ユニットにも期待したいですね。

動力ユニット対応車種一覧

2011年2月現在

製品	車型	対応する製品の品番	加工内容	使用するスペーサーパーツ	
				側面	後面
第2弾他	日野HT/HU（短尺タイプ）	019～024 S03 N006～N010 E005 E015 K001 K004 K007 K010 K022 K037	柱カット・屋根裏に2mm、窓に2mmプラ片を取付	L4/R4	B2
第5弾他	いすゞBU04	049～055 S08 K016～K020	無加工	どれでも良い又は取り外す	取り外す
	西工96MCノンステップ	056～060 S09 E014 K005 K032 K057	柱カット・屋根裏に1.5mmプラ片を取り付け・前輪内側へ軽くテーパー処理	L3/R3	B2
第6弾他	富士重工5E（短尺タイプ）	061～066 S11 K036	柱カット・屋根裏に2.25mm、窓に2.25mmプラ片を取付	L4/R4	B2
第7弾他	いすゞエルガノンステップ	073～080 S13 K012 K013 K025 K027 K029 K033 K047 K049 K053 K063	柱カット・窓押さえを削る・前輪内側へテーパー処理	L4/R4	B2
第9弾他	富士重工新7Eノンステップ type-G	098 100 101 S17	柱カット・前輪内側へ軽くテーパー処理	L4/R4	B2
	富士重工新7Eノンステップ type-F	097 099 102 K027 K046	柱カット・窓押さえ/屋根裏ボスを僅かに削る・前輪内側へ軽くテーパー処理	L4/R4	B2
第13弾他	新呉羽エアロスターK	145～152 S021 K065	柱カット・屋根裏に2mm、窓に1mmプラ片を取付	L3/R3	B2
	呉羽MP107	153～156 K064	柱カット・車体後方裏に厚さ0.8mmプラ片を取付	どれでも良い又は取り外す	取り外す
セット品	西工96MCノンステップ（新型）	N021～N025	屋根裏に1.5mmプラ片を取り付け・前輪内側へ軽くテーパー処理	L3/R3	B2

巻末企画

ジオコレ追加リスト 2009.4〜2010.12

制作：RM MODELS編集部

このリストでは、前号となる『ジオコレ完全マニュアル2』巻末に掲載した、2003年5月〜2009年3月末までの「歴代ジオラマコレクション総リスト」の続編として、本号に掲載対象となっている2009年4月〜2010年12月までの商品について一覧表としてまとめたものです。

先の6年足らずはもちろんのこと、本書に掲載される1年半だけを取ってみても、実に多くの「ジオコレ」アイテムが発売されています。従来アイテムのパワーアップはもちろん、新企画による製品も数多く発売され、その世界の広がりはとどまるところを知りません。

なお本表は、前号（2巻）のものと合わせることによりジオコレの長年の製品履歴を振り返り、またお手持ちの製品について整理するための台帳として制作されたもので、この表がすなわち現在でも入手可能な製品リストというわけではありませんのであらかじめご了承願います。最新の情報はトミーテック・ニューホビーのホームページ（URL：http：//www.tomytec.co.jp/hobby/）や月刊鉄道模型誌『RM MODELS』など模型雑誌、模型店店頭の情報などでご確認下さい。場合によっては町の片隅の模型店で人知れず眠っている商品もあるかもしれないので、それを訪ね歩いてみるのも一興かもしれません。

※価格・商品やその仕様は発売当時のもので、現在でも同一条件で入手できない可能性がありますことをご了承願います。
※チェック欄はあなたのお持ちのジオコレや欲しい商品をチェックするなど、さまざまな用途にご使用下さい。
※2011年1月以降の発売品・発売予定品は末尾にまとめて記載します。予定につきまして内容に変更の可能性があることをご了承願います。
※本表の内容に対するトミーテックへの問い合わせはご遠慮下さい。
※★印はシークレットアイテムを示します。

鉄道コレクション

鉄道コレクション　レギュラー品

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
鉄道コレクション第10弾 全10種+シークレット （ブラインドパッケージ）	114	東武鉄道　キハ2002	動力：TM-11（16m用C）	2009年7月	1輌630円	
	115	鹿島鉄道　キハ431	動力：TM-11（16m用C）			
	116	羽後交通　キハ3	動力：TM-11（16m用C）			
	117	国鉄　キハ04	動力：TM-11（16m用C）			
	118	遠州鉄道　キハ802	動力：TM-11（16m用C）			
	119	関東鉄道　キハ411	動力：TM-11（16m用C）			
	120	北陸鉄道　キハ5201	動力：TM-11（16m用C）			
	121	同和鉱業片上鉄道　キハ302	動力：TM-11（16m用C）			
	122	新潟交通　クハ37	動力化非対応			
	123	蒲原鉄道　クハ10	動力：TM-11（16m用C）			
	S010	★鹿島鉄道　キハ432	動力：TM-11（16m用C）			
鉄道コレクション第11弾 全10種+シークレット （ブラインドパッケージ）	142	富士急行　モハ1208	動力：TM-06（18m用A）	2010年1月	1輌630円	
	143	富士急行　モハ1308	動力：TM-06（18m用A）			
	144	高松琴平電気鉄道　1105	動力：TM-06（18m用A）			
	145	高松琴平電気鉄道　1106	動力：TM-06（18m用A）			
	146	伊予鉄道　712	動力：TM-06（18m用A）			
	147	伊予鉄道　762	動力：TM-06（18m用A）			
	148	一畑電車　2104	動力：TM-06（18m用A）			
	149	一畑電車　2114	動力：TM-06（18m用A）			
	150	豊橋鉄道　モ1903	動力：TM-12（19m用A）			
	151	豊橋鉄道　モ1953	動力：TM-12（19m用A）			
	S011	★伊予鉄道　722	動力：TM-06（18m用A）			
鉄道コレクション第12弾 全10種+シークレット （ブラインドパッケージ）	191	銚子電鉄 デハ701	動力：TM-04（15m級A）	2010年9月	1輌735円	
	192	近江鉄道 モハ51	動力：TM-04（15m級A）			
	193	上田交通 モハ4257	動力：TM-04（15m級A）			
	194	叡山電鉄 デオ600	動力：TM-10（16m級A）			
	195	一畑電車 デハ3	動力：TM-10（16m級A）			
	196	一畑電車 デハニ52	動力：TM-10（16m級A）			
	197	銚子電鉄 デハ801	動力：TM-10（16m級A）			
	198	伊予鉄道 モハ106	動力：TM-10（16m級A）			
	199	高松琴平電気鉄道600形（パンタ付）	動力：TM-10（16m級A）			
	200	高松琴平電気鉄道600形（パンタ無）	動力：TM-10（16m級A）			
	S012	★銚子電鉄 デハ702	動力：TM-04（15m級A）			

鉄道コレクション　セット品

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
愛知環状鉄道100・200形2輌セット	112	愛知環状鉄道 100形101	動力：TM-08（20m級A）	2009年4月	1,890円	
	113	愛知環状鉄道 200形201	動力：TM-08（20m級A）			
銚子電気鉄道デハ1001（桃太郎電鉄）	C001	銚子電気鉄道 デハ1001「桃太郎電鉄」	動力：TM-10（16m用A）	2009年4月	1,365円	
西武351系 3輌セット	124	西武鉄道 クモハ351	動力：TM-07（17m級B）	2009年9月	2,835円	
	125	西武鉄道 サハ1314	動力：TM-07（17m級B）			
	126	西武鉄道 クモハ352	動力：TM-07（17m級B）			
国鉄70系電車 中央東線4輌セット	127	国鉄 クハ76063	動力：TM-09（20m級B）	2009年12月	3,780円	
	128	国鉄 モハ71009	動力：TM-09（20m級B）			
	129	国鉄 モハ72852	動力：TM-09（20m級B）			
	130	国鉄 クハ76036	動力：TM-09（20m級B）			
国鉄70系電車 上越線4輌セット	131	国鉄 クハ76029	動力：TM-09（20m級B）	2009年12月	3,780円	
	132	国鉄 モハ70025	動力：TM-09（20m級B）			
	133	国鉄 モハ70097	動力：TM-09（20m級B）			
	134	国鉄 クハ75006	動力：TM-09（20m級B）			
国鉄101系中央線4輌セット	135	国鉄 クモハ100-102	動力：TM-08（20m級A）	2010年2月	3,780円	
	136	国鉄 モハ101-59	動力：TM-08（20m級A）			
	137	国鉄 サハ101-219	動力：TM-08（20m級A）			
	138	国鉄 クハ101-67	動力：TM-08（20m級A）			
秩父鉄道1000系リバイバル3輌セット	139	秩父鉄道 デハ1002	動力：TM-08（20m級A）	2010年2月	2,835円	
	140	秩父鉄道 デハ1102	動力：TM-08（20m級A）			
	141	秩父鉄道 クハ1202	動力：TM-08（20m級A）			
西武鉄道571系 2輌セット	152	西武鉄道 クモハ571	動力：TM-09（20m級B）	2010年2月	1,890円	
	153	西武鉄道 クハ1571	動力：TM-09（20m級B）			
三岐鉄道601系 2輌セット	154	三岐鉄道 クモハ607	動力：TM-09（20m級B）	2010年2月	1,890円	
	155	三岐鉄道 クハ1608	動力：TM-09（20m級B）			

名鉄3730系2輌セット(スカーレット)	156	名鉄 モ3762 スカーレット	動力:TM-05(17m級)	2010年3月	1,890円	
	157	名鉄 ク2762 スカーレット	動力:TM-05(17m級)			
名鉄3730系2輌セット(旧塗装)	158	名鉄 モ3733 旧塗装	動力:TM-05(17m級)	2010年3月	1,890円	
	159	名鉄 ク2733 旧塗装	動力:TM-05(17m級)			
秩父鉄道7000系3輌セット	160	秩父鉄道7000系デハ7001	動力:TM-08(20m級A)	2010年4月	2,835円	
	161	秩父鉄道7000系サハ7101	動力:TM-08(20m級A)			
	162	秩父鉄道7000系デハ7201	動力:TM-08(20m級A)			
長野電鉄8500系3輌セット	163	長野電鉄8500系デハ8503	動力:TM-08(20m級A)	2010年4月	2,835円	
	164	長野電鉄8500系サハ8553	動力:TM-08(20m級A)			
	165	長野電鉄8500系デハ8513	動力:TM-08(20m級A)			
能勢電1000系 4輌セットA(引退時カラー)	166	能勢電鉄1001	動力:TM-12(19m級A)	2010年5月	3,780円	
	167	能勢電鉄1081	動力:TM-12(19m級A)			
	168	能勢電鉄1031	動力:TM-12(19m級A)			
	169	能勢電鉄1051	動力:TM-12(19m級A)			
能勢電1000系 4輌セットB(登場時カラー)	170	能勢電鉄1000	動力:TM-12(19m級A)	2010年5月	3,780円	
	171	能勢電鉄1080	動力:TM-12(19m級A)			
	172	能勢電鉄1030	動力:TM-12(19m級A)			
	173	能勢電鉄1050	動力:TM-12(19m級A)			
名鉄5200系 2輌セット(スカーレット)	174	名鉄モ5210 スカーレット	動力:TM-13(19m級B)	2010年4月	1,890円	
	175	名鉄モ5209 スカーレット	動力:TM-13(19m級B)			
国鉄62系4輌セット	183	クハ66000	動力:TM-09(20m級B)	2010年6月	3,780円	
	184	モハ62000	動力:TM-09(20m級B)			
	185	モハ62001	動力:TM-09(20m級B)			
	186	クハ66301	動力:TM-09(20m級B)			
富士急行5000系(オリジナルカラー)2輌セット	187	富士急 5001	動力:TM-08(20m級A)	2010年6月	1,890円	
	188	富士急 5002	動力:TM-08(20m級A)			
富士急行5000系(トーマスランドラッピング)2輌セット	189	富士急(トーマスランドラッピング)5001	動力:TM-08(20m級A)	2010年6月	2,730円	
	190	富士急(トーマスランドラッピング)5002	動力:TM-08(20m級A)			
国鉄70系電車 中央西線4輌セット	201	国鉄 クハ76300	動力:TM-09(20m級B)	2010年10月	3,780円	
	202	国鉄 モハ70078	動力:TM-09(20m級B)			
	203	国鉄 モハ70310	動力:TM-09(20m級B)			
	204	国鉄 クハ76043	動力:TM-09(20m級B)			
国鉄70系電車 阪和快速4輌セット	205	国鉄 クハ76315	動力:TM-09(20m級B)	2010年10月	3,780円	
	206	国鉄 モハ70318	動力:TM-09(20m級B)			
	207	国鉄 モハ70319	動力:TM-09(20m級B)			
	208	国鉄 クハ76314	動力:TM-09(20m級B)			
和歌山電鐵いちご電車2270系2輌セット	209	和歌山電鐵2701(いちご電車)	動力:TM-05(17m級A)	2010年10月	2,730円	
	210	和歌山電鐵2271(いちご電車)	動力:TM-05(17m級A)			
和歌山電鐵たま電車2270系2輌セット	211	和歌山電鐵2705(たま電車)	動力:TM-05(17m級A)	2010年10月	2,730円	
	212	和歌山電鐵2275(たま電車)	動力:TM-05(17m級A)			

鉄道コレクション　ライトレール

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
富山ライトレールTLR0601	TR001	赤	動力:TM-LRT01	2009年8月	1,470円	
富山ライトレールTLR0604	TR002	黄緑	動力:TM-LRT01	2009年8月	1,470円	
富山ライトレールTLR0607	TR003	紫	動力:TM-LRT01	2009年8月	1,470円	
富山ライトレールTLR0602	TR004	橙	動力:TM-LRT01	2009年11月	1,470円	
富山ライトレールTLR0603	TR005	黄色	動力:TM-LRT01	2009年11月	1,470円	
富山ライトレールTLR0605	TR006	緑	動力:TM-LRT01	2009年11月	1,470円	
富山ライトレールTLR0606	TR007	青	動力:TM-LRT01	2009年11月	1,470円	
岡山電気軌道9200形MOMO	TR008		動力:TM-LRT01	2010年4月	1,470円	
熊本市交通局0800形	TR009		動力:TM-LRT01	2010年4月	1,470円	
万葉線MLRV1000形アイトラム	TR010		動力:TM-LRT01	2010年4月	1,470円	
セントラム9000形ホワイト	TR011	9001	動力:TM-LRT01	2010年6月	1,680円	
セントラム9000形シルバー	TR012	9002	動力:TM-LRT01	2010年6月	1,680円	
セントラム9000形ブラック	TR013	9003	動力:TM-LRT01	2010年6月	1,680円	

鉄道コレクション　発売場所限定品

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
名鉄5200系 2輌セット(旧塗装)	E005	名鉄 モ5202 旧塗装	動力:TM-13(19m級B)	2010年4月	1,890円	
	E006	名鉄 モ5201 旧塗装	動力:TM-13(19m級B)			

鉄道コレクション　メディア付録

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
講談社『鉄道模型少年時代』付録	KD02-01	里山交通キハ1001(フリー)		2009年8月	商品付録	
松竹ビデオ『Railways』付録	K065	一畑電車デハニ52		2010年10月	商品付録	
	K066	一畑電車デハニ53				

鉄道コレクション　事業者特注品

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
東急3600系2輌セット	K042	東急デハ3601		2009年6月	2,100円	
	K043	東急クハ3671				
阪急1300系冷房車2輌セット	K044	阪急 1301		2009年8月	2,200円	
	K045	阪急 1352				
阪神5201形5203~2輌セット	K046	阪神5203~奇数		2009年8月	2,000円	
	K047	阪神5204~偶数				
南海22000系2輌セット	K048	南海22001		2009年9月	2,000円	
	K049	南海22002				
大阪市交通局30系2輌セット	K050	大阪市 3000形		2009年10月	2,000円	
	K051	大阪市 3300形				
近鉄1200系2輌セット	K052	近鉄モ1200形		2009年10月	2,000円	
	K053	近鉄ク1300形				
富士急1000系 開業80周年記念塗装2輌セット	K054	富士急モハ1202		2009年10月	2,200円	
	K055	富士急モハ1302				
東武鉄道5700系2輌セット	K056	東武クハ700		2009年11月	2,000円	
	K057	東武モハ5700				
京阪1900系2輌セット	K058	京阪 1900形 テレビカー		2010年4月	2,000円	
	K059	京阪 1900形				
東急8500系3輌セット	K060	東急 デハ8606		2010年9月	3,300円	
	K061	東急 デハ8706				
	K062	東急 サハ8923				
阪急電鉄開業100周年記念・ 阪急2000系(非冷房車)2輌セット	K063	阪急 2000形(2050)		2010年10月	2,600円	
	K064	阪急 2000形(2000)				
阪神3501形2輌セット	K067	3501形奇数車(パンタ付)		2010年10月	2,200円	
	K068	3501形偶数車(パンタなし)				

富士急1000系 マッターホルン号塗装2輌セット	K069	富士急モハ1201		2010年10月	2,200円	
	K070	富士急モハ1301				
東武7300系(旧塗装)2輌セット	K071	東武モハ7320		2010年12月	2,000円	
	K072	東武クハ320				
京浜急行電鉄1000形2輌セット	K073	京急デハ1000形(先頭車)		2010年12月	2,300円	
	K074	京急デハ1000形(中間車)				

鉄道コレクション動力・関連パーツ

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
動力ユニット16m級用C	TM-11	軸距約12mm 台車間距離約70mm		2009年7月	2,940円	
動力ユニット19m級用A	TM-12	軸距約14mm・台車間距離約84mm		2010年1月	2,940円	
動力ユニット19m級用B	TM-13	軸距約16mm・台車間距離約84mm		2010年4月	2,940円	
動力ユニットLRT用	TM-LRT01			2009年8月	3,465円	

鉄コレ式制御器

商品名称	番号	形式・仕様	備考	発売開始	価格	チェック
国鉄101系運転台フルセット				2010年7月	17,430円	
国鉄101系マスコン・ブレーキセット				2010年7月	9,240円	
国鉄101系メーター・ドア開閉器セット				2010年7月	8,190円	

ザ・バスコレクション

ザ・バスコレクション レギュラー品

名称	番号	型式・仕様	事業者名	発売開始	価格	チェック
ザ・バスコレクション第14弾 12種+シークレット (ブラインドパッケージ)	157	三菱ふそう ニューエアロバス	北海道中央バス	2009年9月	各525円	
	158		JRバス関東			
	159		東京空港交通			
	160		京王電鉄バス			
	161		帝産観光バス			
	162		名鉄バス			
	163		西日本JRバス			
	164		神姫バス			
	165		ことでんバス			
	166		九州産交バス			
	S022		★神姫バス 神戸市内定期観光バス K-Queen			
	167	三菱ふそう MS615「パノラマデッカー」	北陸鉄道			
	168		両備バス			
ザ・バスコレクション第15弾 12種+シークレット (ブラインドパッケージ)	169	三菱ふそうエアロスターMP35UM (ワンステップバス)	北海道中央バス	2010年3月	各525円	
	170		関東バス			
	171		東急バス			
	172		名鉄バス			
	173		京阪バス			
	174		阪急バス			
	175		神姫バス			
	176		広島バス			
	177	いすゞCJM500北村ボディ	岩手県交通			
	178		新常磐交通			
	179		蒲原鉄道			
	180		東海自動車			
	S023	いすゞBU10北村ボディ	★関東バス			
ザ・バスコレクション第16弾 12種+シークレット (ブラインドパッケージ)	181	富士重工業7E	南越後観光バス	2010年11月	各630円	
	182		小湊鉄道			
	183		関東バス			
	184		西武バス			
	185		西東京バス			
	186		京浜急行バス			
	187		遠州鉄道			
	188		京都バス			
	189		西日本JRバス			
	S024		★京浜急行バス 赤バス(貸切専用車)			
	190	西日本車体工業42MC	京成バス			
	191		大阪市交通局			
	192		西日本鉄道			

ザ・バスコレクション セット品

名称	番号	型式・仕様	事業者名	発売開始	価格	チェック
富士重工5E5台セットA	N016	富士重工5E(標準尺)	西東京バス	2010年7月	3,150円	
	N017		横浜市交通局			
	N018		京都バス			
	N019		広島バス			
	N020		琉球バス交通			
西日本車体工業96MC/ ノンステップバス5台セットA	N021	西日本車体工業96MC	東京都交通局	2010年8月	3,675円	
	N022		川崎市交通局			
	N023		京都市交通局			
	N024		大阪市交通局			
	N025		佐世保市交通局			

ザ・バスコレクション イベント限定

名称	番号	型式・仕様	事業者名	発売開始	価格	チェック
富士重工業5E 京都バス55号車	E017	富士重工業5E(前後扉)	京都バス55号車	2010年6月	600円	

ザ・バスコレクション 事業者限定品

名称	番号	型式・仕様	仕様	発売開始	価格	チェック
京浜急行バス オリジナル バス2台セット	K048	日野セレガR		2009年5月	1,200円	
	K049	いすゞエルガ				
大阪市交通局オリジナル バスセット第3弾(2台セット)	K050	西日本車体工業58MC		2009年9月	1,200円	
	K051	日野RC320P				
呉市営バスオリジナル バス2台セット(2台セット)	K052	いすゞBDX30		2009年9月	1,200円	
	K053	いすゞエルガCNGノンステップ				
名古屋市交通局オリジナル バスセット(2台セット)	K054	いすゞBX-352		2010年3月	1,200円	
	K055	三菱ふそう KC-MP717M				
京浜急行オリジナル バスセットⅡ(2台セット)	K056	ニューエアロバス		2010年5月	1,200円	
	K057	西工ノンステップ(96MC)				

松本電鉄オリジナル バスセット（2台セット）	K058	いすゞBU10K	旧塗装	2010年6月	1,200円	
	K059	いすゞU-LV218L	新（アルピコ）塗装			
小田急オリジナル バスセット（2台セット）	K062	いすゞボンネットバス		2010年11月	1,200円	
	K063	いすゞエルガノンステップバス				
大阪市交通局オリジナル バスセット第4弾（2台セット）	K064	三菱ふそうMP107K		2010年12月	1,200円	
	K065	三菱ふそうMP218K				

ザ・バスコレクション 商品付録

名称	番号	型式・仕様	事業者名	発売開始	価格	チェック
講談社『鉄道模型 少年時代』付録	KD2-06	バス（里山交通）	自由型	2009年10月	雑誌付録	

ザ・カーコレクション

ザ・カーコレクション　レギュラー品

名称	番号	型式	備考（色など）	発売開始	価格	チェック
ザ・カーコレクションVol.7 商用車今昔編 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		日産 キャラバン長尺バン	救急車・青・白・★白＋水色	2009年6月発売	1箱504円	
		Honda TN-7トラック	白・グリーン・青・★黄色			
		マツダ ボンゴバン	銀・白・パトカー・★消防広報車			
		スバル サンバートラック	赤帽・銀・白・★東京23区清掃事業			
ザ・カーコレクションVol.8 ミニバン編 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		Honda オデッセイ	赤・紺・金色・★白	2009年10月発売	1箱504円	
		日産 エルグランド	黒・白/銀・消防指令車・★警察車輌			
		トヨタ エスティマ	ベージュ・パトカー・金色・★ファイヤーチーフ			
		トヨタ アルフォード	白・銀・黒・★個人タクシー			
ザ・カーコレクションVol.9 いにしえの商用車編 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		マツダK360	ブルー・ピンク・グレー・★マツダオート愛媛	2010年2月発売	1箱504円	
		スバルサンバーライトバン	ブルー・グレー・グリーン・★青			
		ダイハツCO8型オート3輪	グリーン・ブルー・オレンジ・★ダイハツロゴ			
		トヨエース	ベージュ・ブルー・茶色・★水色			
ザ・カーコレクションVol.10 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		日産グロリア	銀・薄青・黒・★パトカー	2010年5月発売	1箱525円	
		日産セドリック	白・黒・パトカー・★道路パトカー			
		日産ティアナ	パトカー・白/グレー・青/グレー・★覆面パトカー			
		トヨタクラウン	覆面車・パトカー・銀・★パトカー（散光灯昇降）			
ザ・カーコレクションVol.11 あの日の街角編 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		ダイハツミゼットMP	薄緑・薄茶・青・★赤	2010年8月発売	1箱609円	
		スバル360	水色・ベージュ・薄緑・★ピンク			
		トヨペットマスターライン	茶・ピンク・救急車・★青緑色			
		トヨペットクラウン	パトカー・黒・構内タクシー・★ファイヤーチーフ			
ザ・カーコレクションVol.12 現代の街角編 12種＋シークレット4種 （ブラインドパッケージ・同一車種色違い2台入）		トヨタプリウス	銀・白・赤メタ・★自主防犯車	2010年11月発売	1箱609円	
		トヨタクラウンセダン	日本交通タクシー2種・紺メタ・★個人タクシー			
		日産AD	白・銀・紺・★東京都下水道局			
		日産パラメディック	松戸市・大阪府・東京都・★消防指揮車			

ザ・カーコレクション　基本セット

名称	番号	型式	備考（色など）	発売開始	価格	チェック
ザ・カーコレクション基本セットA2 オープンパッケージ 4台入		日産セドリック	覆面パトカー	2009年12月発売	1,344円	
		プリンスグロリア	黒/白屋根			
		トヨペットコロナ	JAFサービスカー			
		ダットサンブルーバード	赤/白屋根			
ザ・カーコレクション基本セットA3 オープンパッケージ 4台入		日産セドリックタクシー	薄緑	2010年1月発売	1,344円	
		プリンスグロリア	構内タクシー			
		トヨペットコロナタクシー	茶/白			
		ダットサンブルーバードタクシー	青			
ザ・カーコレクション基本セットB2 オープンパッケージ 4台入		トヨタセリカXX	白／黒	2010年7月発売	1,344円	
		日産スカイラインR30	赤／黒			
		トヨタマークII	青／銀			
		日産セドリックパトカー	長野県警			
ザ・カーコレクション基本セットC2 オープンパッケージ 4台入		トヨペットクラウンパトロールカー	大阪府警	2009年12月発売	1,344円	
		プリンススカイラインGT	白/黒屋根			
		ダットサン1200トラック	日産サービスカー			
		トヨペットクラウンバン	JAFサービスカー			
ザ・カーコレクション基本セットD2 オープンパッケージ 4台入		フェアレディZ432初代	緑	2010年7月発売	1,344円	
		フェアレディ240ZG初代	黄色			
		フェアレディ300ZXパトカー4代目	警視庁			
		フェアレディZ5代目	マルーン			
ザ・カーコレクション基本セットE2 オープンパッケージ 4台入		いすゞエルフ清掃車	グリーン	2010年1月発売	1,344円	
		トヨタハイエース救急車	杉並区消防局			
		三菱ふそうキャンター	ヤマザキパン			
		トヨタダイナ	青（材木付）			
ザ・カーコレクション基本セットF1 オープンパッケージ 4台入		マツダデミオ	パトロールカー	2009年9月発売	1,344円	
		Hondaフィット	ピンク			
		日産マーチ	自主防犯車			
		トヨタヴィッツ	セブンイレブン			
ザ・カーコレクション基本セットF2 オープンパッケージ 4台入		マツダデミオ	ファミリーマート	2009年9月発売	1,344円	
		Hondaフィット	自主防犯車			
		日産マーチ	消防仕様			
		トヨタヴィッツ	ブルー			
ザ・カーコレクション基本セットG1 オープンパッケージ 4台入		日産 キャラバン	移動交番	2010年9月発売	1,344円	
		Honda TN-7トラック	濃緑			
		日産バネットバン	日産部品仕様			
		スバル サンバートラック	消防仕様			
ザ・カーコレクション基本セットH1 オープンパッケージ 4台入		Hondaオデッセイ	個人タクシー	2010年10月発売	1,344円	
		日産 エルグランド	ガンメタリック			
		トヨタ エスティマ	パールホワイト			
		トヨタ アルフォード	消防仕様			

ザ・カーコレクション 商品付録

名称	番号	型式	備考（色など）	発売開始	価格	チェック
講談社『鉄道模型 少年時代』第60号付録		ダイハツCO8型	紺色	2010年11月	雑誌付録	
		マツダK360	灰緑色			

講談社『鉄道模型 少年時代』第61号付録		トヨタ・トヨエース	濃灰色	2010年11月	雑誌付録	
		スバル・サンバーライトバン	白色			

ザ・トラックコレクション

ザ・トラックコレクション レギュラー品

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・トラックコレクション第6弾 12種+シークレット (ブラインドパッケージ)	061	日野TC	14klタンクローリー 出光興産 (旧カラー)	2009年11月	各525円	
	062	日産ディーゼルC800後期型	16klタンクローリー 出光興産 (新カラー)			
	063	日産ディーゼルC800前期型	14klタンクローリー 日本石油			
	064	日産ディーゼルC800後期型	16klタンクローリー ENEOS (新日本石油)			
	065	日産ディーゼルC800前期型	14klタンクローリー 共同石油			
	066	日産ディーゼルC800後期型	16klタンクローリー JOMO (ジャパンエナジー)			
	067	三菱ふそうスーパーグレート	LPGローリー 大陽日酸			
	068	三菱ふそうスーパーグレート	LPGローリー 岩谷産業			
	069	日産ディーゼルC800後期型	化成品輸送車			
	070	日産ディーゼルC800前期型	牛乳輸送車(ミルクローリー)			
	071	日野プロフィア	消防水槽車			
	072	日産ディーゼルC800後期型	活魚輸送車			
	S06	★日産ディーゼルC800前期型	14klタンクローリー 日本石油 (旧カラー)			
ザ・トラックコレクション第7弾 12種+シークレット (ブラインドパッケージ)	073	いすゞギガ	冷蔵パネルバン ランテック	2010年7月	各630円	
	074	いすゞギガ	冷蔵パネルバン 福岡運輸			
	075	いすゞギガ	冷蔵パネルバン キューソー便			
	076	いすゞギガ	冷蔵パネルバン 一般営業車			
	077	いすゞニューパワー	旧型パネルバン 一般営業車			
	078	いすゞニューパワー	幌付平荷台 一般営業車			
	079	日産ディーゼル・クオン	31ft冷蔵コンテナ ランテック			
	080	いすゞギガ(最初期モデル)	31ft冷蔵コンテナ 福岡運輸			
	081	いすゞギガ	31ft冷蔵コンテナ ヤンマー			
	082	いすゞギガ	31ft冷蔵コンテナ 日本石油輸送			
	083	いすゞギガ	31ft冷蔵コンテナ 日本通運			
	084	いすゞギガ	31ft冷蔵コンテナ 西久大運輸倉庫			
	S07	★日産ディーゼル・ビッグサム	31ft冷蔵コンテナ 九州牛乳輸送			

ザ・トラックコレクション 事業者特注品

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
日本フレートライナー トラック・コンテナセット	K004	UDトラックス・クオン	UV54Aコンテナ	2010年10月	1,500円	
	K005	日野プロフィア	UV54Aコンテナ			

ザ・トレーラーコレクション

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・トレーラーコレクション第3弾 10種+シークレット (ブラインドパッケージ)	021	日本高速輸送 日産ディーゼルビッグサム	川崎汽船 40ft背高コンテナ	2009年6月	各630円	
	022	日本コンテナ輸送 日産ディーゼルビッグサム	日本郵船 40ft背高コンテナ			
	023	国際コンテナ輸送 日産ディーゼルビッグサム	商船三井 40ft背高コンテナ			
	024	日産ディーゼルビッグサム	ワンハイ 40ft背高コンテナ			
	025	日産ディーゼルビッグサム	コスコ 40ft背高コンテナ			
	026	日産ディーゼルビッグサム	マースク 40ft背高コンテナ			
	027	日産ディーゼルビッグサム	サミットシッピング 40ft背高コンテナ			
	028	日産ディーゼルビッグサム	フリー 40ft背高コンテナ			
	029	三菱ふそうFV	日本通運ポールトレーラー			
	030	日立物流 日産ディーゼルビッグサム	ポールトレーラー			
	S03	国際コンテナ輸送 日産ディーゼルビッグサム	商船三井40ft背高コンテナ			
ザ・トレーラーコレクション第4弾 10種+シークレット (ブラインドパッケージ)	031	日本高速輸送三菱ふそうスーパーグレート	川崎汽船　40ft背高冷蔵コンテナ	2010年3月	各630円	
	032	日本コンテナ輸送三菱ふそう 新型スーパーグレート	日本郵船　40ft背高冷蔵コンテナ			
	033	国際コンテナ輸送日産ディーゼルC800	商船三井　40ft背高冷蔵コンテナ			
	034	三菱ふそう新型スーパーグレート	OOCL　40ftドライコンテナ			
	035	三菱ふそう新型スーパーグレート	APL　40ftドライコンテナ			
	036	三菱ふそう新型スーパーグレート	韓進海運　40ftドライコンテナ			
	037	三菱ふそうスーパーグレート	SITC　40ftドライコンテナ			
	038	日産ディーゼルC800	サフマリン40ftドライコンテナ			
	039	三菱ふそうスーパーグレートハイキャブ仕様	重トレーラーA			
	040	三菱ふそうW250型ボンネットトラック	重トレーラーB			
	S04	三菱ふそう新型スーパーグレート	APL 20ftドライコンテナ			
ザ・トレーラーコレクション第5弾 10種+シークレット1種 (ブラインドパッケージ)	041	国際コンテナ輸送 日産ディーゼルビッグサム中期型	商船三井フラットラック	2010年12月	各735円	
	042	日本コンテナ輸送 日野スーパードルフィン角目	日本郵船フラットラック			
	043	日野スーパードルフィン丸目	フリー フラットラック			
	044	日野プロフィア	日本通運31ftドライコンテナ			
	045	日野スーパードルフィン角目	全国通運31ftドライコンテナ			
	046	日野ＨＥ	日本通運アルミバントレーラー			
	047	日野プロフィア	西濃運輸アルミバントレーラー			
	048	日野プロフィア	フリー ウイングバントレーラー			
	049	日野スーパードルフィン丸目	南星海運40ft背高コンテナ			
	050	日野スーパードルフィン角目	グランドチャイナシッピング 40ft背高コンテナ			
	S05	日野スーパードルフィン角目	西濃運輸アルミバントレーラー			

建設機械コレクション

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
建設機械コレクションVol.1 全8種＋シークレット2種		コマツD155AX-6 ブルドーザー	カウンターウェイト装着／マルチリッパー装着／★マルチリッパ装着コマツレンタル仕様	2010年3月	各714円	
		コマツPC300-8 油圧ショベル	カタログ仕様／コマツレンタル仕様／★海外仕様			
		コベルコPANTHER-X 250 ホイールクレーン	走行仕様／作業仕様			
		日立ZX480LCK-3 解体仕様機 ハイリフトフロント仕様	カタログ仕様／日立建機レック仕様			

80（ハチマル）コレクション

ザ・バスコレクション80

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
国鉄バス	HB007	富士重工業5E		2010年3月	3,675円	
西東京バス（ボンネットバス）	HB008	いすゞBXD50		2010年6月	3,675円	
千曲バス（ボンネットバス）	HB009	いすゞBXD50		2010年4月	3,675円	
道北バス	HB010	富士重工業5E		2010年12月	3,675円	
関東バス	HB011	富士重工業5E		2010年12月	3,675円	

ザ・カーコレクション80

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・カーコレクション80　Vol.6 12種＋シークレット2種 （ブラインドパッケージ）		マツダ T600	紺色・灰緑色・明灰色	2009年9月	609円	
		日産キャラバン 標準バン	白・青・パトカー・★ファイヤーチーフ			
		マツダ ボンゴバン	白・銀色・消防広報車			
		スバル サンバーバン	白・水色・赤帽・★金色			

ザ・カーコレクション80HG

名称	番号	仕様	備考	発売開始	価格	チェック
HG-013 クラウンパトカー		警視庁		2009年11月	840円	
HG-014 クラウン消防査察車		千葉市消防局		2009年11月	840円	
HG-015 スバル サンバー バン		佐川急便		2010年2月	840円	
HG-016 マツダ ボンゴ バン		ＪＲ東日本		2010年2月	840円	
HG-017 日産キャラバン救急車		渋谷区消防局		2010年3月	840円	
HG-018 マツダT600		ピンク／白	ウェザリング仕様	2010年3月	840円	
HG-019 日産 ブルーバードタクシー		都タクシー		2010年8月	945円	
HG-020 トヨタ クラウンタクシー		グリーンキャブ		2010年8月	945円	
HG-021 マツダ ボンゴ バン		コカ・コーラ		2010年10月	1,155円	
HG-022 スバル サンバー バン		ダスキン		2010年11月	1,050円	

収納ケース

名称	番号	型式	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
鉄道コレクション第10弾専用ケース		無塗装車1輌付		2009年7月	2,100円	
鉄道コレクション第11弾専用ケース		無塗装車1輌付		2010年1月	2,100円	
鉄道コレクション第12弾専用ケース		無塗装車1輌付		2010年9月	2,100円	
鉄道コレクション第13弾専用ケース		無塗装車1輌付		2011年3月予定	2,100円	
鉄道コレクション LRT専用ケース		無塗装車1輌付		2009年8月	2,310円	
ザ・バスコレクション第14弾専用ケース		無塗装車1台付		2009年9月	2,100円	
ザ・バスコレクション第15弾専用ケース		無塗装車1台付		2010年3月	2,100円	
ザ・バスコレクション第16弾専用ケース		無塗装車1台付		2010年11月	2,100円	
ザ・トラックコレクション第6弾 専用ケース		無塗装車1台付		2009年11月	2,100円	
ザ・トラックコレクション第7弾 専用ケース		無塗装車1台付		2010年7月	2,100円	
ザ・トレーラーコレクション第3弾　専用ケース		無塗装車1台付		2009年6月	2,100円	
ザ・トレーラーコレクション第4弾　専用ケース		無塗装車1台付		2010年3月	2,100円	
ザ・トレーラーコレクション第5弾　専用ケース		無塗装車1台付		2010年12月	2,100円	

ジオラマセット

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ジオラマセットA	駅前と商店街	2010年2月	78,750円	
ジオラマセットB	お寺と門前町	2010年2月	89,250円	
ジオラマセットC	海のある風景	2010年2月	68,250円	
ジオラマベースA	温泉街の情景	2010年11月	7,140円	

建物コレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
004-2　農家D2	農家Dのリニューアル	2009年4月	1,155円	
005-2　農家E2	農家Eのリニューアル	2009年4月	1,155円	
008-2　町工場B2	町工場Bのリニューアル	2009年4月	1,155円	
009-2　町工場C2	町工場Cのリニューアル	2009年4月	1,155円	
016-2　狭小住宅A2	狭小住宅Aのリニューアル	2010年2月	1,029円	
017-2　狭小住宅B2	狭小住宅Bのリニューアル	2010年2月	1,029円	
026-2　バス営業所A2		2010年1月	1,260円	
027-2　バス営業所B2		2010年1月	1,260円	
032　集合住宅B	モルタルアパート	2009年4月	1,575円	
033　集合住宅C	木造長屋	2009年4月	1,575円	
034　銭湯	街コレ5のリニューアル	2009年4月	1,029円	
035　銀行	街コレ5のリニューアル	2009年4月	1,029円	
036　消防署	街コレ5のリニューアル	2009年4月	1,029円	
037　駅前旅館	街コレ5のリニューアル	2009年5月	1,029円	
038　劇場	街コレ5のリニューアル	2009年5月	1,029円	
039　円筒形ビル	街コレ5のリニューアル	2009年5月	1,029円	
040　建売住宅A	2軒入	2009年6月	1,155円	
041　建売住宅B	2軒入	2009年6月	1,155円	
042　中古車屋A	昭和風	2009年8月	1,575円	
043　中古車屋B	現代風	2009年8月	1,575円	
044　郵便局・薬局1	街コレ1のリニューアル	2009年9月	840円	
044-2　郵便局・薬局2	街コレ1のリニューアル	2009年9月	840円	
048　ガソリンスタンドB	昭和40年代風、小物付	2009年10月	1,680円	
049　初詣セット	神社＋お正月セット	2009年11月	6,090円	
050　教会A	レンガ造りの教会	2009年12月	1,890円	
051　教会B	白い塔の教会	2009年12月	1,890円	
052　教会C	ハーフティンバーの教会	2009年12月	1,890円	
053　建機レンタル屋	建機別売、現代風	2010年2月	1,260円	
054　商店長屋A		2010年3月	1,365円	
055　商店長屋B		2010年3月	1,365円	
056　醤油屋・蔵1	街コレ6のリニューアル	2010年4月	1,155円	
056-2　醤油屋・蔵2	街コレ6のリニューアル	2010年4月	1,155円	
057　蕎麦屋・茶屋1	街コレ6のリニューアル	2010年4月	1,155円	
057-2　蕎麦屋・茶屋2	街コレ6のリニューアル	2010年4月	1,155円	
058　旅籠1	街コレ6のリニューアル	2010年5月	1,155円	
058-2　旅籠2	街コレ6のリニューアル	2010年5月	1,155円	
059　駅D（カーブホーム）	C317の外周	2010年5月	2,205円	
060　駅E（カーブホーム）	C280の内周	2010年5月	2,205円	
061 昭和のビルA	オフィス	2010年9月	2,100円	
062 昭和のビルB	マンション	2010年9月	2,100円	
063 昭和のビルC	ホテル	2010年9月	2,310円	
064 病院A（木造）	4分割構造、渡り廊下付	2010年9月	2,625円	
065 病院B（鉄筋コンクリート）	縦・横方向に拡張可能	2010年9月	2,625円	
066 温泉宿A	望桜のある温泉宿	2010年11月	1,575円	

045 時計店・酒屋1	街コレ1のリニューアル	2009年9月	840円	
045-2 時計店・酒屋2	街コレ1のリニューアル	2009年9月	840円	
046 理髪店・写真館1	街コレ1のリニューアル	2009年10月	840円	
046-2 理髪店・写真館2	街コレ1のリニューアル	2009年10月	840円	
047 ガソリンスタンドA	昭和30年代風、小物付	2009年10月	1,680円	
067 温泉宿B	鉄筋造りの温泉宿	2010年11月	1,575円	
068 温泉宿C	木造三階造りの温泉宿	2010年11月	1,575円	
069 トラックターミナル		2010年12月	1,029円	
070 プレハブ事務所	3棟入	2010年12月	1,029円	

情景コレクション

情景小物

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
007-2 バス停A2	片持ち屋根	2010年11月	714円	
008-2 バス停B2	待合室タイプ	2010年11月	714円	
012-2 駅前・公園A2	Aのリニューアル	2010年11月	819円	
013-2 駅前・公園B2	Bのリニューアル	2010年11月	819円	
014-2 駅前・公園C2	Cのリニューアル	2010年11月	819円	
027 トンネルポータルA	切り石模様	2009年7月	819円	
028 トンネルポータルB	レンガ模様	2009年7月	819円	
029 電柱	変圧器付3本、なし9本	2009年7月	819円	
030 祭の櫓	フィギュア14体入	2009年7月	1,575円	
031 柵	木製の鉄路柵	2009年8月	609円	
032 塀	コンクリート塀	2009年8月	609円	
033 橋A	石橋2個入	2009年9月	609円	
034 石垣A	3枚入・平積み	2009年9月	609円	
035 石垣B	3枚入・乱積み	2009年9月	609円	
036 石垣C	3枚入・レンガ	2009年9月	609円	
037 架線柱C	木製単線架線柱6本	2009年9月	609円	
038 柵・石畳	柵7個・石畳9個	2009年9月	609円	
039 海辺の情景セット		2009年9月	1,155円	
040 お正月セット		2009年11月	1,365円	
041 日本庭園セット		2009年12月	819円	
042 橋B	レンガの橋	2009年12月	1,575円	
043 橋C	鋼鉄の橋	2009年12月	1,575円	
044 橋D	木製、コンクリート製の橋	2009年12月	1,260円	
045 歩道橋	2セット入	2010年1月	1,260円	
046 火の見櫓・消防団車庫		2010年1月	1,260円	
047 交番	赤色LED付属	2010年1月	819円	
048 消波ブロックA	25個入	2010年2月	819円	
049 消波ブロックB	25個入	2010年2月	819円	
050 消波ブロックC	30個入	2010年2月	819円	
051 工事現場A	現場事務所と小物	2010年3月	819円	
052 工事現場B	ゲートと塀	2010年3月	819円	
053 工事現場C	作業足場	2010年3月	819円	
054 踏切B		2010年4月	819円	
055 アーケードA	高屋根(1セット入)	2010年5月	1,029円	
056 アーケードB	歩道用直線屋根	2010年5月	819円	
057 アーケードC	歩道用角屋根×2セット	2010年5月	819円	
058 野立て看板	4種×2セット入	2010年6月	819円	
059 テント	テント×4個ほか	2010年9月	819円	
060 海の家A	土間式、各種小物付	2010年7月	1,029円	
061 海の家B	桟敷式、各種小物付	2010年7月	1,029円	
062 タグボート1	船底赤、小物付	2010年9月	1,029円	
063 タグボート2	船底青他色替、小物付	2010年9月	1,029円	
064 運材船	牽引ロープ、積荷付	2010年9月	1,029円	
065 ビニールハウス	大・中×1個、小×2個	2010年11月	819円	
066 アドバルーン	アドバルーン×3個入	2010年11月	819円	
067 屋上看板	立方体看板・三角柱看板×各1	2010年11月	819円	
069 荷物A		2010年12月	819円	

ザ・樹木

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
015 ココヤシ	3本入	2009年9月	714円	
016 ソテツ	5本入	2009年9月	714円	
017 カナリーヤシ	3本入	2009年9月	714円	
018 サクラB	4本入	2010年2月	609円	

ザ・人間

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
032 盆踊りの人々	12体入	2009年7月	525円	
033 盆踊りの人々	12体入、032の色違い品	2009年7月	525円	
034 盆踊りの人々	12体入、032の色違い品	2009年7月	525円	
035 漁港の人々	12体入	2009年8月	525円	
036 漁港の人々	12体入、035の色違い品	2009年8月	525円	
037 漁港の人々	12体入、035の色違い品	2009年8月	525円	
038 結婚式の人々	12体入	2009年12月	525円	
039 結婚式の人々	12体入、038の色違い品	2009年12月	525円	
040 結婚式の人々	12体入、038の色違い品	2009年12月	525円	
041 昭和の人々(A)	12体入	2010年1月	525円	
042 昭和の人々(B)	12体入	2010年1月	525円	
043 現場の人々	12体入	2010年3月	525円	
044 現場の人々	12体入、043の色違い品	2010年3月	525円	
045 現場の人々	12体入、043の色違い品	2010年3月	525円	
046 海水浴の人々	12体入	2010年7月	525円	
047 海水浴の人々	12体入、046の色違い品	2010年7月	525円	
048 海水浴の人々	12体入、046の色違い品	2010年7月	525円	

ザ・動物

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
001 馬	6頭入	2009年5月	525円	
002 牛(A)	6頭入	2010年5月	525円	
003 牛(B)	6頭入	2010年5月	525円	
004 豚	8頭入	2010年6月	525円	

その他

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
電飾キットA	白熱灯の色	2009年6月	1,050円	
電飾キットB	白色蛍光灯の色	2009年12月	1,260円	
電飾キットC	ライトアップ用照明	2010年8月	1,365円	
ジオラママットA	春の水田	2010年9月	609円	
ジオラママットB	秋の畑	2010年9月	609円	

2011年以降発売品・予定品

鉄道コレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
国鉄201系中央線試作車5輌セットA		2011年1月発売	4,725円	
国鉄201系中央線試作車5輌セットB		2011年1月発売	4,725円	
JR201系中央線H7最終編成5輌セットA		2011年1月発売	4,725円	
JR201系中央線H7最終編成5輌セットB		2011年1月発売	4,725円	
長野電鉄2000系A編成3輌セット	マルーン色リバイバルカラー	2011年2月予定	2,835円	
鉄道コレクション第13弾 全10種+シークレット (ブラインドパッケージ)	留萌鉄道 キハ1000形/茨城交通 キハ1000形/島原鉄道 キハ4500形/ 雄別鉄道 キハ49200Y形/津軽鉄道 キハ24000形/同和鉱業小坂鉄道 キハ2100形/ 鹿島臨海鉄道 キハ2000形/茨城交通 キハ20形/小湊鉄道 キハ200形/関東鉄道 キハ751形	2011年3月予定	各735円	
国鉄101系 中央線試作冷房車5両セットA		2011年3月予定	4,725円	
国鉄101系 中央線試作冷房車5両セットB		2011年3月予定	4,725円	
国鉄101系 鶴見線3両セット		2011年3月予定	2,835円	
福島交通7200系2輌セット	7101+7202	2011年3月予定	1,890円	
北陸鉄道7000系2輌セット	7201+7211	2011年3月予定	1,890円	
長野電鉄2000系D編成3輌セット	りんご色リバイバルカラー	2011年予定	2,835円	
JR201系 四季彩 旧塗装		2011年5月予定	5,040円	
JR201系 四季彩 新塗装		2011年5月予定	5,040円	
熊本市交通局9700型1次車(9701)	9701A +9701B	2011年4月予定	1,680円	
熊本市交通局9700型3次車(9704)	9704A +9704B	2011年4月予定	1,680円	
伊予鉄道2000形		2011年4月予定	1,470円	
京都市交通局2000形	ワンマンカラー	2011年4月予定	1,470円	

鉄道コレクション動力

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
TM-14 動力ユニット20m級用A2		2011年1月発売	2,940円	
TM-15 動力ユニット20m級用A3		2011年3月予定	2,940円	
TM-16 動力ユニット20.5m級用A		2011年3月予定	2,940円	
TM-TR01 鉄コレ動力 路面電車用	台車中心間隔3段階調整可能	2011年4月予定	3,150円	

建物コレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
073 駅前セット	街コレ第4弾の塗色・販売方法変更品	2011年1月発売	1,680円	
074 駅前バス待合所	街コレ第4弾の塗色・販売方法変更品	2011年1月発売	819円	
075 駅前タクシー営業所	街コレ第4弾の塗色・販売方法変更品	2011年1月発売	819円	
076 駅前ビル	街コレ第4弾の塗色・販売方法変更品	2011年1月発売	819円	
071 建築中の建物A ~木造~		2011年3月予定	1,365円	
072 建築中の建物B ~鉄骨造~		2011年3月予定	1,365円	
077 タクシー営業所		2011年3月予定	1,785円	
078 建機レンタル屋B		2011年2月予定	1,260円	
079 建売住宅C~木造~	色違い2軒入	2010年4月予定	1,575円	
080 建売住宅D~鉄筋~	色違い2軒入	2010年4月予定	1,575円	
081 小学校		2010年4月予定	1,575円	

情景コレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
情景小物068 自販機A ~現代風~		2011年1月発売	819円	
情景小物051-2 工事現場A2	現場事務所と小物	2011年2月予定	819円	
情景小物052-2 工事現場B2	ゲートと塀	2011年2月予定	819円	
情景小物053-2 工事現場C2	作業足場	2011年2月予定	819円	
情景小物070 農機小屋と農機A		2011年3月予定	1,260円	
情景小物071 農機小屋と農機B		2011年3月予定	1,260円	
情景小物072 コンビナートA 蒸留塔		2011年5月予定	1,680円	
情景小物073 コンビナートB 冷却塔		2011年5月予定	1,680円	
情景小物074 コンビナートC ガスホルダー		2011年5月予定	2,625円	
情景小物075 コンビナートD 積み出し所		2011年5月予定	1,680円	
情景小物076 コンビナートE 守衛所・ゲート		2011年5月予定	924円	
情景小物077 コンビナートF パイプセット		2011年5月予定	1,680円	
情景小物078 コンビナートセット	A~F各1セット+追加のパイプ	2011年5月予定	15,540円	
ザ・人間049 撮る人々		2011年1月発売	525円	
ザ・人間050 撮る人々	049の色違い品	2011年1月発売	525円	
ザ・人間051 撮る人々	049の色違い品	2011年1月発売	525円	
ザ・人間052 住宅街の人々		2010年4月予定	609円	
ザ・人間053 住宅街の人々	052の色違い品	2010年4月予定	609円	
ザ・人間054 住宅街の人々	052の色違い品	2010年4月予定	609円	
ザ・人間055 小学生と先生		2010年4月予定	609円	
ザ・人間056 小学生と先生	055の色違い品	2010年4月予定	609円	
ザ・人間057 小学生と先生	055の色違い品	2010年4月予定	609円	

情景その他

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
サウンドユニットA	コントローラー、専用スピーカー(警笛、ジョイント音、虫の音、踏切、ATS音など)	2011年3月予定	1,980円	

ザ・バスコレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
西日本鉄道高速バス 5台セット	ネオロイヤルSD-II(スーパーハイデッカー)	2011年2月予定	3,675円	
バスコレ走行システム基本セットA	東京都交通局仕様	2011年3月予定	8,190円	
バスコレ2台セットA	いすゞBX352・BA741(自由型塗装)	2011年3月予定	1,470円	
バスコレ2台セットB	日野BH15・BD33(自由型塗装)	2011年3月予定	1,470円	

ザ・カーコレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・カーコレクションVol.13/12種+シークレット4種(ブラインドパッケージ/同一車種色違い2台入)	トヨタカローラ30バン(緑・茶・白)/トヨタランドクルーザー(茶/白・緑/白・道路公団)/トヨタダイナ(平荷台青・平荷台黄・レッカー青)/三菱ふそうキャンター(薄緑・薄青・薄黄幌付)	2011年2月予定	1箱630円	
カーコレ基本セットF3	マツダデミオ(黒)/Hondaフィット(パールホワイト)/日産マーチ(道路公団車)/トヨタヴィッツ(自主防犯車)	2011年1月発売	1,344円	

ザ・トラックコレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・トラックコレクション2台セットA	日野スーパードルフィン(ダンプカー・ミキサー車)	2011年2月予定	1,470円	
ザ・トラックコレクション2台セットB	いすゞニューパワー(ダンプカー・ミキサー車)	2011年2月予定	1,470円	
ザ・トラックコレクション2台セットC	いすゞTXポンプ車・日野TCはしご車	2011年5月予定	1,470円	
ザ・トラックコレクション2台セットD	いすゞギガ・日野プロフィア(ガスタンクローリー)	2011年5月予定	1,470円	

ザ・トレーラーコレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
ザ・トレーラーコレクション2台セット	日本郵船(40ftドライコンテナ+40ft冷蔵コンテナ)	2011年3月予定	1,680円	
ザ・トレーラーコレクション2台セット	商船三井(40ftドライコンテナ+40ft冷蔵コンテナ)	2011年3月予定	1,680円	
ザ・トレーラーコレクション2台セット	川崎汽船(40ftドライコンテナ+40ft冷蔵コンテナ)	2011年3月予定	1,680円	

建設機械コレクション

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
建設機械コレクションVol.2	全8種+シークレット	2011年3月予定	各714円	

コレクションアクセサリー

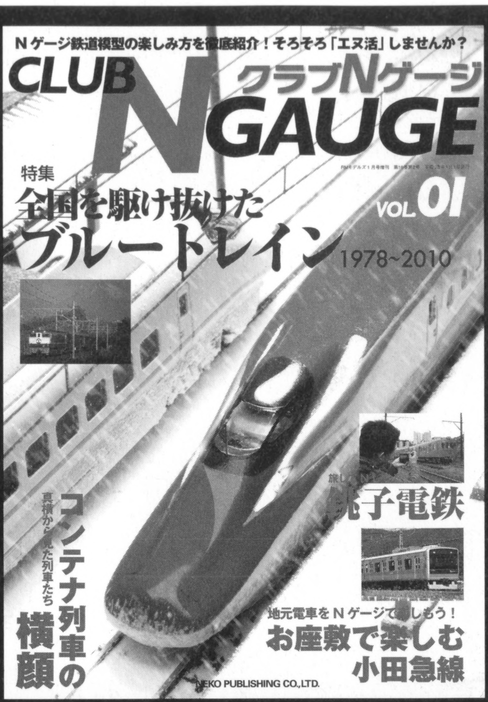
名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
TCM トップリフター FD430A	カタログ仕様 1台入・40ft背高コンテナ付属	2011年4月予定	1,575円	
TCM トップリフター FD430B	NYTT仕様 1台入・40ft背高コンテナ付属	2011年4月予定	1,575円	

収納ケース

名称	仕様・備考	発売開始	価格	チェック
鉄道コレクション第13弾専用ケース	無塗装車1輌付	2011年3月予定	2,100円	

CLUB N GAUGE クラブNゲージ VOL.01

鉄道模型の総合誌 RM MODELS が、総力を持って新たにお送りする新シリーズ「クラブＮゲージ」。Ｎゲージに的を絞り、コレクション、走行、レイアウトなどでのさまざまな遊び方をご紹介していきます。初心者ユーザーの方も意識し、専門用語などは極力注釈を付けていますし、ごく一般的な普通のＮゲージャーの方にとって有益な読み物記事満載です！



クラブＮゲージ　Vol.01
● A4 判 116 ページ・オールカラー
980 円　好評発売中！
ホビダスNo. 52039598

NEKO PUBLISHING CO.,LTD.　株式会社ネコ・パブリッシング　〒152-8545　東京都目黒区碑文谷４丁目21番13号
電話 03-5723-6013（営業部代表）　NEKO BOOKS http://www.neko.co.jp/

【特集】中型バス
LR333ララバイ

バス BUS GRAPHIC グラフィック Vol.9
好評発売中!

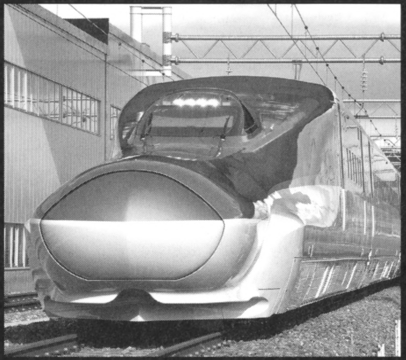
CONTENTS
■いすゞキュービック開発記
■都内運行事業者「キュービック最終章」
■シンガポール「ガーデンシティの5E」
■北国のバス 青函連絡船廃止の年
■1980 年代前半「北海度青春バス紀行」
※巻末折込ポスター　小田急バス 60 周年記念復刻ラッピング車 4 面ショット!
定価 **1,500**円(税込)
ホビダスNo. 52042299

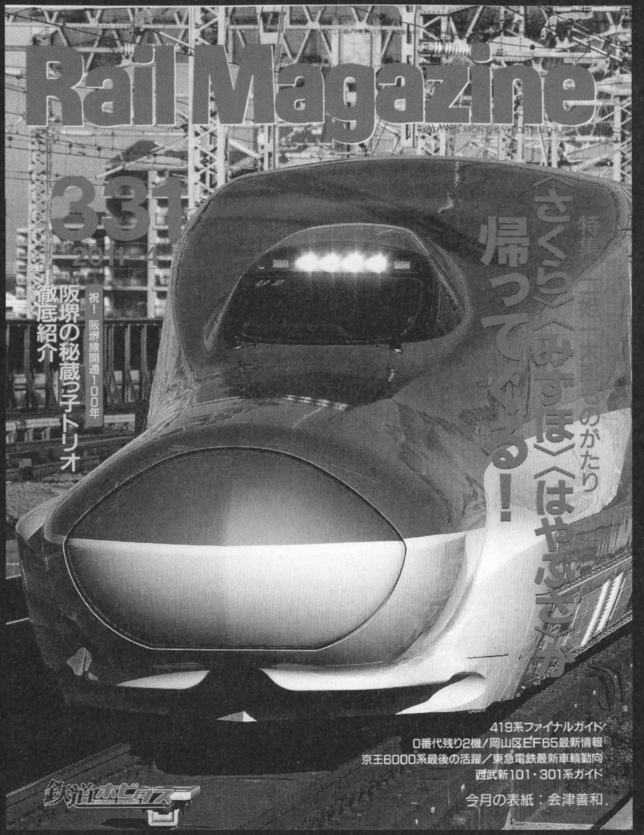
株式会社ネコ・パブリッシング　〒152-8545 東京都目黒区碑文谷 4-21-13　TEL：03-5723-6013（営業部）　http://www.neko.co.jp

あなたの鉄道趣味をプッシュ・プル！
ネコ・パブリッシングの鉄道月刊誌

アクティブ・レイルファンのための
鉄道専門誌

Rail Magazine



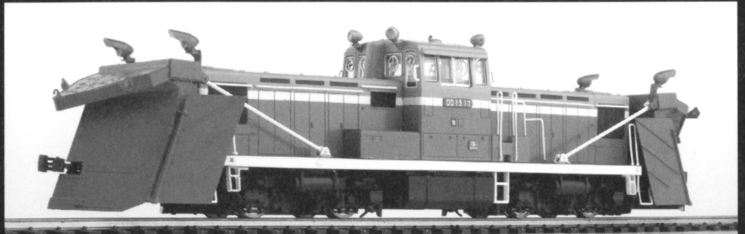


大判サイズを活かした美しいグラフページ
充実の新車情報ページ「NEW COMMER」
実践的な撮影地ガイド
「SL 甲組の肖像」「ガイドブック最盛期の国鉄車輌」
好評連載中！

A4 判変形　定価 1,200 円（税込）毎月21日発売

ビギナーからベテランまで
幅広く楽しめる模型鉄道の専門誌

RM MODELS



他の追随を許さない圧倒的な情報量を誇る新製品情報
「NEW MODEL」
さらにその新製品の深部に切り込む
「New Model PREMIUM」
レイアウト、ジオラマの製作記事、車輌加工記事など模型鉄道のあらゆる情報を満載！
「N ゲージ建築施工入門」「片野正巳の懐かし車輌展示館」
「新・鉄道模型考古学 N」「団地回覧板」…
個性的な名物連載多数…！

A4 判変形　定価 1,100 円（税込）毎月21日発売

NEKO PUBLISHING CO.,LTD.　株式会社ネコ・パブリッシング　〒152-8545　東京都目黒区碑文谷4丁目21番13号
電話 03-5723-6013（営業部代表）　NEKO BOOKS http://www.neko.co.jp/

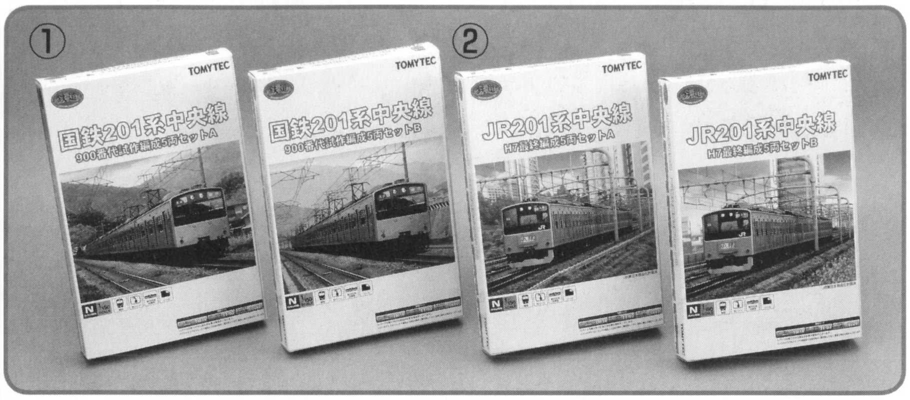
ジオコレ ジオラマコレクション Scale Model DIORAMA COLLECTION 完全マニュアル vol.3 読者プレゼント

とじ込みハガキで奮ってご応募ください！ 商品提供：トミーテック

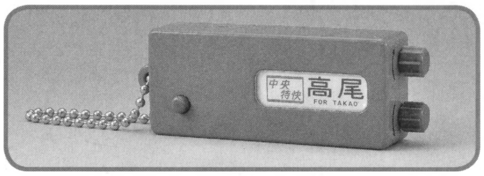
本書『ジオコレ完全マニュアル 3』をご購読いただき、ありがとうございました。感謝の気持ちを込めて、大読者プレゼントを展開いたします。また、この際、編集部及び株式会社トミーテックでは、読者の皆様からのアンケートを募り、今後の企画に役立てたいと思っています。ぜひ、奮ってご応募いただき、皆様の「生のご意見」をお聞かせください。

なお、ご応募は原則的に巻末とじ込みハガキをご使用いただきますが、アンケート項目の内容を準拠していれば、官製ハガキでのご応募も OK です（ただしお一人様一通に限らせていただきます）。

締切：2011 年 4 月 20 日（水）消印有効

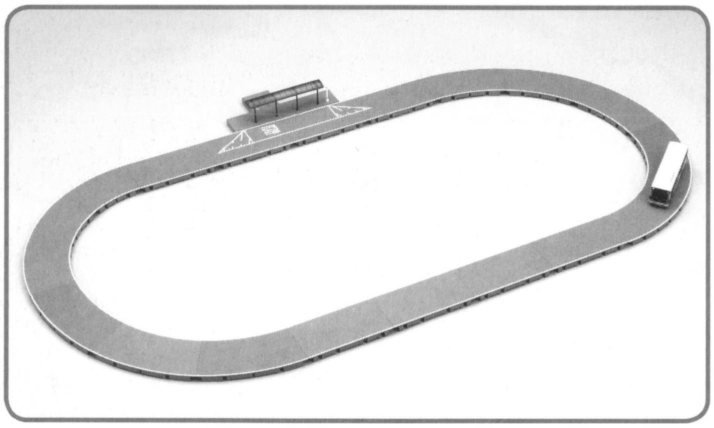


① 鉄道コレクション 国鉄 201 系中央線試作 5 両セット A ＋ B　1 名様
② 鉄道コレクション ＪＲ 201 系中央線最終 5 両セット A ＋ B　1 名様



⑧ 方向幕キーチェーン
201 系中央線
3 名様

⑨ 方向幕キーチェーン
103 系京浜東北線
3 名様

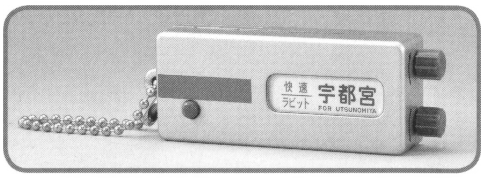


③ バスコレ走行
システム基本セット A
1 名様

⑩ 方向幕キーチェーン
113 系東海道線（東京地区）　3 名様

④ 建物コレクション　温泉宿 A　1 名様

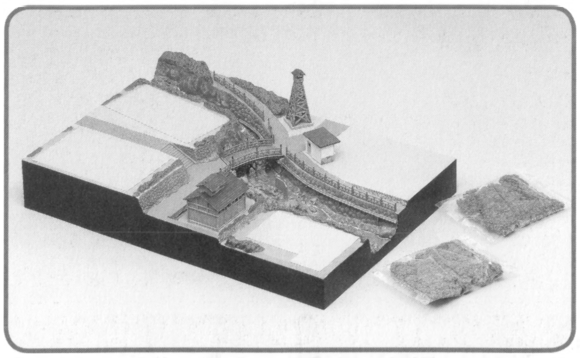
⑤ 建物コレクション　温泉宿 B　1 名様



⑪ 方向幕キーチェーン
211 系東北・高崎線　3 名様

⑫ 方向幕キーチェーン
113 系東海道線（中京地区）　3 名様

⑥ 建物コレクション
温泉宿 C　1 名様



⑦ ジオラマベース A ～温泉街の情景～　1 名様

⑬ 方向幕キーチェーン
103 系関西線　3 名様

読者プレゼント

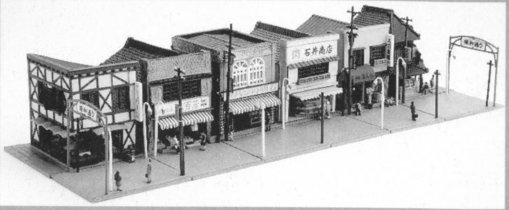
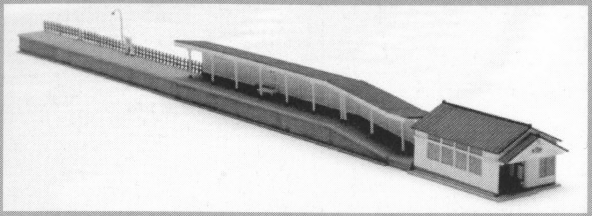
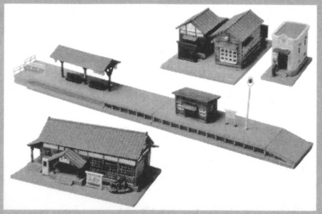
鉄道模型・鉄道グッズの通信販売店

鉄ホビ・ダイレクト www.tetsuhobi-d.com

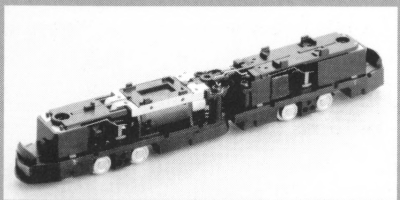
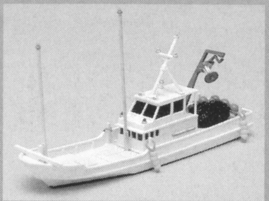
鉄道模型をはじめるなら日本最大級の品揃えを誇る当店で！

鉄ホビ・ダイレクトは「RailMagazine」「RM MODELS」でおなじみ、そして今ご覧の「ジオコレ完全マニュアル 3」の出版社「ネコ・パブリッシング」のお店です。ジオコレ関連製品はもちろんのこと、鉄道模型の入門セットや車輌セット・単品、線路、建物、各種パーツ類を豊富にご用意！　あなたの情景作り、模型ライフをサポートします。さらに最新商品やお買い得品、当店限定特製品などご用意しています。皆様のご来店をお待ちしております。

ジオコレを使って情景を創ってみませんか？

住宅・商店・駅など豊富なラインナップのジオコレで簡単にあなただけの街を再現してください。

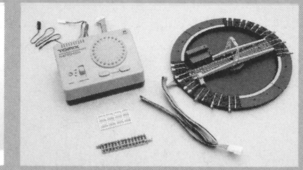
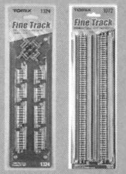



車輌・人間・パーツなど情景を彩る小物たちも豊富に取り揃えております！

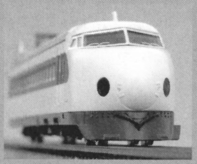
ジオコレから鉄道模型への発展も思いのまま・・・

ジオコレの情景の中に鉄道を走らせて見ませんか？　トミックスの鉄道模型はジオコレとの相性抜群！

車輌・レール・制御器、必要なものがすべて揃っているセットで簡単にスタートできます！

単品の線路・制御器などを組み合わせて駅や操車場など複雑な配線を再現できます！



なつかしの車輌から最新鋭の車輌までお好みに合わせてセレクトしてください。

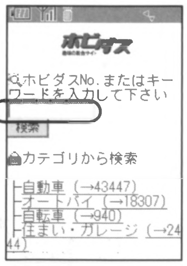
鉄ホビ・ダイレクトはあなたの鉄道模型ライフを応援します！

■商品のご注文方法■

●パソコンでアクセス
鉄ホビ・ダイレクト
www.tetsuhobi-d.com
にアクセスして検索窓にホビダスナンバーを入力、検索ボタンをクリックすれば商品ページへジャンプします。画面の指示に従って、必要な情報を入力、注文してください。

●携帯電話でアクセス
右のQRコードを携帯で読み取るか、
http://shopping.hobidas.com/m/
を直打ちして、携帯のホビダスサイトへアクセス。検索窓にホビダスナンバーを入力、検索ボタンをクリックすれば商品ページへジャンプします。画面の指示に従って、必要な情報を入力、注文してください。

ココにホビダス
No.を入力！
（携帯からではご利用になれないナンバーもございます）



★お電話でのご注文も可能です★
0120-958-220（平日10時～18時）

株式会社　ネコ・パブリッシング　鉄ホビ・ダイレクト
〒152-8545　東京都目黒区碑文谷4-21-13
電話：03-6844-8730（平日：10:00～18:00）
e-mail:raildirect@neko.co.jp

ジオコレ ジオラマコレクション Scale Model DIORAMA COLLECTION 完全マニュアル vol.3

★編集後記★

ジオコレを語る際、つい「2003年にブラインドパッケージで発売されたザ・バスコレクションが…」という常套句を使ってしまいます。その理由としては、あまりにその誕生が当時のモデラーにとって衝撃的だったことと、その後の展開がさらに想像の枠を超えた飛躍的なものであったこと、その両方のせいでしょう。8年足らずというさして長くもない時間の流れながら、さも太古の昔を振り返るような感慨を覚えるような製品群は、他になかなか例がないのではないかと思います。今後もいかにもジオコレらしい、意表を突く展開を大いに期待したいところです。

最後に本書を制作するにあたり、株式会社トミーテックの皆様には大変にお世話になりました。ここにお礼申し上げます。

（水野宏史）

制作協力：株式会社トミーテック

STAFF
編集進行：水野宏史
編集スタッフ：羽山 健
：瀧口宜慎
：宇佐美健太郎
（トラック・バス編集部）
協力ライター：鈴木重幸
：佐藤哲朗
写真：青柳 明
：羽田 洋
：金盛正樹
デザイン：畑 文恵（JAPS）
：杉原陽子（JAPS）
：塩田浩章（JAPS）
：山本正浩（JAPS）
：遠藤鳥旺
：根本貴史
：高橋 隆
広告スタッフ：佐々木基博
：林由希美
営業スタッフ：粟津彰治
：高野光郎
：村川卓司
：菊田智博
：飛鳥孝徳
：戸羽康輔
：大渕俊輔
：松岡由香里（JAPS）

POST CARD

お手数ですが
50円切手を
お貼りください。

152－8545

東京都目黒区碑文谷4-21-13
株式会社ネコ・パブリッシング

RM MODELS 編集部
『ジオコレ完全マニュアル3』
読者プレゼント係 行

ご記入欄（太枠内は必ずご記入ください）	
ふりがな	希望プレゼント記号
名前	
お届け先住所 〒 □□□－□□□□	
お電話番号 （　　）	年齢　歳 / 性別 男・女

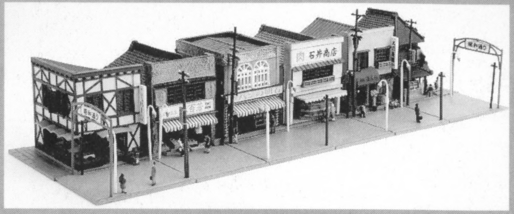
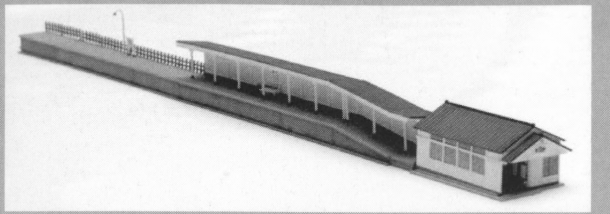
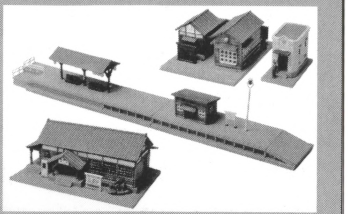
鉄道模型・鉄道グッズの通信販売店

鉄ホビ・ダイレクト www.tetsuhobi-d.com

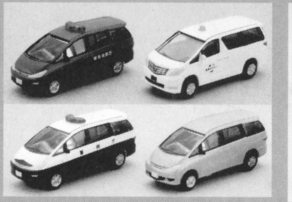
鉄道模型をはじめるなら日本最大級の品揃えを誇る当店で！

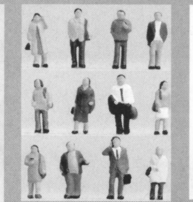
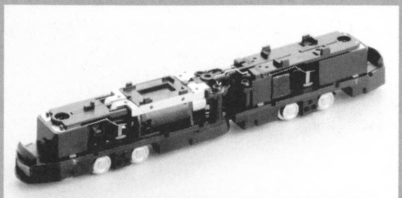
鉄ホビ・ダイレクトは「RailMagazine」「RM MODELS」でおなじみ、そして今ご覧の「ジオコレ完全マニュアル 3」の出版社「ネコ・パブリッシング」のお店です。ジオコレ関連製品はもちろんのこと、鉄道模型の入門セットや車輌セット・単品、線路、建物、各種パーツ類を豊富にご用意！　あなたの情景作り、模型ライフをサポートします。さらに最新商品やお買い得品、当店限定特製品などご用意しています。皆様のご来店をお待ちしております。

ジオコレを使って情景を創ってみませんか？

住宅・商店・駅など豊富なラインナップのジオコレで簡単にあなただけの街を再現してください。



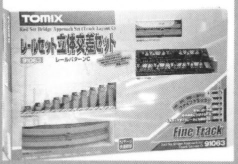



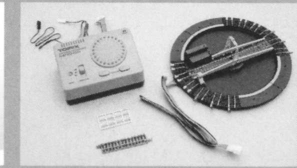
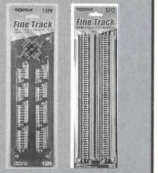
車輌・人間・パーツなど情景を彩る小物たちも豊富に取り揃えております!

ジオコレから鉄道模型への発展も思いのまま・・・

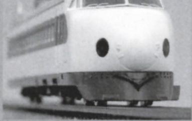
ジオコレの情景の中に鉄道を走らせて見ませんか？　トミックスの鉄道模型はジオコレとの相性抜群!

車輌・レール・制御器、必要なものがすべて揃っているセットで簡単にスタートできます!



単品の線路・制御器などを組み合わせて駅や操車場など複雑な配線を再現できます!



なつかしの車輌から最新鋭の車輌までお好みに合わせてセレクトしてください。

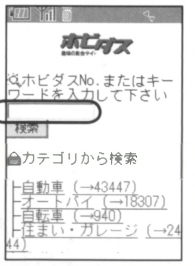
鉄ホビ・ダイレクトはあなたの鉄道模型ライフを応援します！

■商品のご注文方法■

●パソコンでアクセス
鉄ホビ・ダイレクト
www.tetsuhobi-d.com
にアクセスして検索窓にホビダスナンバーを入力、検索ボタンをクリックすれば商品ページへジャンプします。画面の指示に従って、必要な情報を入力、注文してください。

●携帯電話でアクセス
右のQR コードを携帯で読み取るか、
http://shopping.hobidas.com/m/
を直打ちして、携帯のホビダスサイトへアクセス。検索窓にホビダスナンバーを入力、検索ボタンをクリックすれば商品ページへジャンプします。画面の指示に従って、必要な情報を入力、注文してください。

ココにホビダス No.を入力！
(携帯からではご利用になれないナンバーもございます)



★お電話でのご注文も可能です★
0120 0120-958-220 (平日10時～18時)

株式会社　ネコ・パブリッシング　鉄ホビ・ダイレクト
〒152-8545　東京都目黒区碑文谷4-21-13
電話：03-6844-8730(平日：10:00～18:00)
e-mail:raildirect@neko.co.jp

ジオコレ ジオラマコレクション Scale Model DIORAMA COLLECTION 完全マニュアル vol.3

★編集後記★

ジオコレを語る際、つい「2003年にブラインドパッケージで発売されたザ・バスコレクションが…」という常套句を使ってしまいます。その理由としては、あまりにその誕生が当時のモデラーにとって衝撃的だったことと、その後の展開がさらに想像の枠を超えた飛躍的なものであったこと、その両方のせいでしょう。8年足らずというさして長くもない時間の流れながら、さも太古の昔を振り返るような感慨を覚えるような製品群は、他になかなか例がないのではないかと思います。今後もいかにもジオコレらしい、意表を突く展開を大いに期待したいところです。

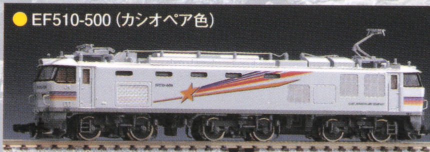
最後に本書を制作するにあたり、株式会社トミーテックの皆様には大変にお世話になりました。ここにお礼申し上げます。

（水野宏史）

制作協力：株式会社トミーテック

STAFF
編集進行：水野宏史
編集スタッフ：羽山 健
：瀧口宜慎
：宇佐美健太郎
（トラック・バス編集部）
協力ライター：鈴木重幸
：佐藤哲朗
写真：青柳 明
：羽田 洋
：金盛正樹
デザイン：畑 文恵（JAPS）
：杉原陽子（JAPS）
：塩田浩章（JAPS）
：山本正浩（JAPS）
：遠藤鳥旺
：根本貫史
：高橋 隆
広告スタッフ：佐々木基博
：林由希美
営業スタッフ：粟津彰治
：高野光郎
：村川卓司
：菊田智博
：飛鳥孝徳
：戸羽康輔
：大渕俊輔
：松岡由香里（JAPS）

RM MODELS ARCHIVE　NEKO MOOK　1609
ジオラマコレクション完全マニュアル 3
発行人：中西一雄
ファウンダー：笹本健次
編集人：牧窪真一
発行所：株式会社ネコ・パブリッシング
〒152-8545　東京都目黒区碑文谷 4-21-13
TEL：03-5723-6013（営業部）／03-5723-6012（広告部）／03-5723-6066（編集部）
FAX：03-5723-6023（営業部）／03-5723-6022（広告部）／03-5723-6015（編集部）
印刷：株式会社廣済堂
©2011 NEKO PUBLISHING CO.,LTD.　Printed in Japan
日本最大の鉄道専門サイト「鉄道ホビダス」http://rail.hobidas.com
趣味の総合ポータルサイト「ホビダス」　http://www.hobidas.com
本誌掲載の記事・写真等の無断転載・転写を禁じます。



2010年夏より運用を開始した、EF510-500を新発売いたします。製品はブルーの塗色に流れ星の入る北斗星色、また銀の塗色にカシオペアカラーの流れ星の入るカシオペア色をラインナップ。車体、屋根、導体線や碍子を新規に製作、前面の手すりや解放テコを別パーツ化し、フライホイール付き動力ユニットを搭載、常点灯仕様のヘッドライトを装備、専用TNカプラーも付属いたします。24系25形北斗星混成編成やE26系寝台客車と共にお楽しみください。

EF510 500形
電気機関車

■ JR EF510 500形電気機関車(北斗星色)
<9108>(予)¥7,140(本体価格¥6,800)
3月 発売予定

■ JR EF510 500形電気機関車(カシオペア色)
<9109>(予)¥7,140(本体価格¥6,800)
3月 発売予定

※写真は1次および2次試作品を使用しており、量産品とは異なる部分があります。
JR東日本商品化許諾申請中

JR北海道・JR東日本編成による、現在の「北斗星」を新たに発売。

■ JR 24系25形特急寝台客車
(北斗星・混成編成)5両基本セット
<92397>¥13,020(本体価格¥12,400)

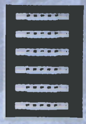
■ JR 24系25形特急寝台客車
(北斗星・混成編成)7両増結セット
<92398>¥15,540(本体価格¥14,800)

JR北海道・JR東日本商品化許諾済 好評発売中

寝台客車E26系カシオペア、発売中。

■ JR EF81
寝台特急カシオペア
3両基本セット
<92251>
¥10,290
(本体価格¥9,800)

■ JR E26系
(寝台特急カシオペア)
4両増結セットI
<92252>
¥10,395
(本体価格¥9,900)



■ JR E26系
(寝台特急カシオペア)
6両増結セットII
<92253>
¥13,125
(本体価格¥12,500)

JR東日本商品化許諾済 好評発売中

トミックス製品情報はトミーテックホームページで…
http://www.tomytec.co.jp/tomix/

タカラトミーグループ
株式会社トミーテック

〒124-8511 東京都葛飾区立石 7-9-10
(株)トミーテック
お客様相談室トミックス係
TEL.03-3695-3161(代)
※月~金曜10~12・13~17時/祝・祭・休日を除く

ジオコレ Scale Model
DIORAMA COLLECTION

TOMYTEC

今日から始めるジオコレの世界。

集める

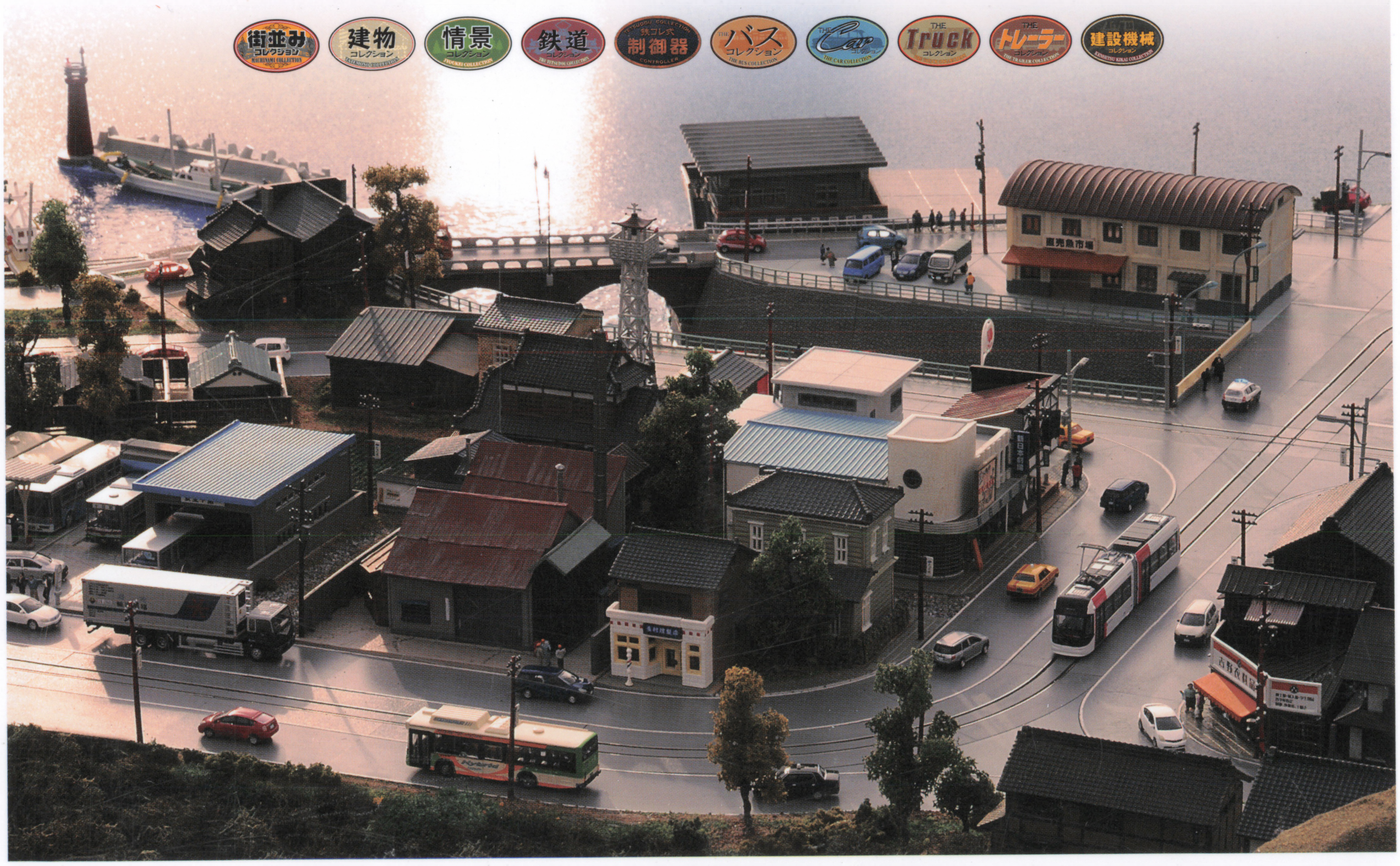
購入したその日から、気軽な
趣味の世界を楽しむことができます。

創る

建物から街並みまで、あなたの
イメージに合うアイテムが揃っています。

走らせる

動力ユニットを組み込めば、
電車やバスを走らせることができます。



"ジオコレ"とはジオラマコレクションの略称で、バス・トラック・クルマ・電車・機関車・建物・樹木などを、1/150※の統一スケールサイズで、忠実に再現したシリーズです。
幅広いテーマ設定と買いやすさで、手軽にコレクションできるので、簡単にジオラマ製作を楽しむことができます。

N GAUGE 1/150 SCALE

※一部1/80スケールの製品もあります。

ニューホビー製品情報はトミーテックホームページでご覧下さい。
http://www.tomytec.co.jp/

タカラトミーグループ　株式会社トミーテック
〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10
トミーテックお客様相談室 ニューホビー係 TEL 03(3695)3161(代)
電話受付 月～金曜日(祝・祭・休日を除く) 10～12時 13～17時

※写真は試作品です。製品とは異なる場合があります。※商品仕様は予告無く変更の場合がございます。予めご了承下さい。※掲載の内容は、2011年2月現在の情報です。

9784777011094
1929476012388

ISBN978-4-7770-1109-4
C9476 ¥1238E

RM MODELS ARCHIVE
ジオラマコレクション完全マニュアル 3
発行人／中西一雄　編集人／牧窪真一
発行所　〒152-8545　東京都目黒区碑文谷 4-21-13
株式会社ネコ・パブリッシング　TEL.03-5723-6013　営業部
発行日　2011 年 2 月 26 日　TEL.03-5723-6012　広告部
定価 1300 円　本体1,238 円
雑誌 67317-09
Printed in Japan

POST CARD

お手数ですが
50円切手を
お貼りください。

152－8545

東京都目黒区碑文谷4-21-13
株式会社ネコ・パブリッシング

RM MODELS 編集部
『ジオコレ完全マニュアル3』
読者プレゼント係 行

ご記入欄（太枠内は必ずご記入ください）

ふりがな 名前	希望プレゼント記号
お届け先住所 〒 □□□－□□□□	

お電話番号	年齢	性別
（　　　）	歳	男・女

ジオコレ完全マニュアル3
読者プレゼント応募ハガキ

下記のアンケートにご協力お願いします。

□内の該当するところに
✓印を入れてください。

Q1：本書をどこで知りましたか？
□書店　□模型店　□インターネット　□その他（　　　　　　　　）

Q2：本書で気に入った記事があれば教えてください。
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
理由：（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

Q3：建コレや鉄コレ等、各ジオコレシリーズは合計でどれくらいお持ちですか？
□1～10個　□10個以上　□30個以上　□50個以上
□100個以上　□200個以上　□持っていない

Q4：鉄道模型を持っていますか？
□持っている　□持っていない

Q5：鉄道模型歴はどれくらいですか？
□1年未満　□1～3年　□3～5年　□5～10年　□10～20年
□20年以上　□これから始めたいと思っている

Q6：ジオコレ商品の使用目的をお聞かせください。
□単品で飾ったり集めたりしている
□鉄道模型の走行やジオラマに使用している
□鉄道模型を使わないジオラマに使っている

Q7：ジオコレシリーズの最も良い所はどれですか？
□価格が安い　□リアルに出来ている　□簡単に作れる　□種類が豊富

Q8：ジオコレシリーズに関するご要望がありましたらお書きください。
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ご協力ありがとうございました。